2026 Study Guide

スタディガイド

[学校教育教員養成課程]

令和８年度入学生用

東京学芸大学

スタディガイドとは？

「2026 スタディガイド[学校教育教員養成課程]」は，入学時に定められている授業の履修方法及び履修基準等が記載されており，４年間の学修を総合的にサポートするためのものです。また，教育職員免許状・資格及び受験資格取得に必要な事項についても記載されています。

「スタディガイド」は，入学時のみ配布され，４年間使用するものです。卒業するまで大切に保管してください。

なお，授業科目名や開設時期等に変更が生じた場合は，掲示板や学芸ポータル等でお知らせします。各自ご確認ください。

授業ガイドとは？

授業ガイドは，スタディガイドに掲載されている授業科目が「いつ・どこで・誰が・どのように」実施しているかを，ウェブ上で確認することができます。

東京学芸大学ウェブサイトの「教育学部」のページから，シラバス「授業ガイド(シラバス検索)」の閲覧が可能です。特に，シラバスには，授業の目標やスケジュール等の記載がありますので，履修登録の際は必ずご確認ください。

目　　次

1 東京学芸大学の概要 …… 1
2 カリキュラム用語集 …… 3
3 専攻及び授業科目区分の略称 …… 4
4 カリキュラムの特色 …… 5
5 東京学芸大学の科目ナンバリング …… 9
6 教育組織 …… 12
7 学群・教室一覧 …… 13
8 授業時間割及び履修上の注意事項 …… 14
9 GPA(グレード・ポイント・アヴェレージ)による成績評価 …… 18
10 自律型カリキュラムデザイン …… 19
11 教育実習とインターンシップ,多摩地区国立5大学単位互換制度 …… 21
12 介護等体験について …… 25
13 教員養成高度化プロジェクトについて …… 26
14 特別支援教育特別専攻科(特別支援教育専攻)について …… 26
15 指導教員制度と指導体制 …… 27
16 オフィスアワーについて …… 27
17 学生による授業アンケート …… 28
18 履修基準 …… 29
19 卒業要件 …… 33
20 開設授業科目一覧の見方 …… 34
21 教養科目 …… 35
① 総合学芸領域 (CA) …… 42
② 健康・スポーツ領域 (CH) …… 46
③ 語学領域 (CL) …… 47
22 教育創成科目 …… 51
23 教育基礎科目 …… 55
① 教育の基礎的理解に関する科目(EB) …… 55
② 道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導,教育相談等に関する科目(EM) 56
③ 教育実践に関する科目(EP) …… 57
④ 教職に関する科目〔選択〕 …… 58
24 専攻科目 …… 63
① 小学校の教科に関する専門的事項(SP) …… 63
② 各教科(保育内容)の指導法(ST) …… 64

初等教育専攻（A類）
中等教育専攻（B類）
③ 国語 （A・B類） …… 67
④ 社会 （A・B類） …… 71
⑤ 数学 （A・B類） …… 81
⑥ 理科 （A・B類） …… 85
⑦ 音楽 （A・B類） …… 91
⑧ 美術 （A・B類） …… 96
⑨ 保健体育 （A・B類） …… 100
⑩ 家庭 （A・B類） …… 104
⑪ 英語 （A・B類） …… 108
⑫ 現代教育実践 （A類） …… 112
⑬ ものづくり技術 （A類） …… 116
⑭ 幼児教育 （A類） …… 118
⑮ 技術 （B類） …… 120
⑯ 書道 （B類） …… 122
⑰ 情報 （B類） …… 124
特別支援教育専攻 （C類）
⑱ 特別支援教育 （C類） …… 126
養護教育専攻 （D類）
⑲ 養護教育 （D類） …… 128

25 学校教育教員養成課程学生のための教員免許状の取得方法

(1)幼稚園教論の普通免許状を取得する場合の履修方法 …… 132
(2)小学校教論の普通免許状を取得する場合の履修方法 …… 133
(3)中学校教論の普通免許状を取得する場合の履修方法 …… 136
(4)高等学校教論の普通免許状を取得する場合の履修方法 …… 137
(5)中学校・高等学校教論各種免許状取得に必要な「教科に関する専門的事項」,
「各教科の指導法」の履修方法(教科別) …… 138
(6)各種免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目」について …… 163
(7)特別支援学校教論免許状取得に必要な「特別支援教育に関する科目」の履修方法 …… 167
(8)養護教論一種免許状の取得に必要な授業科目の履修方法 …… 168

26 資格又は受験資格取得に必要な単位及び履修方法(諸資格)

1. 司書教論 …… 169
2. 保育士 …… 169
3. 司書 …… 170
4. 学校司書 …… 171
5. 社会教育主事(社会教育士) …… 172
6. 学芸員 …… 173
7. スポーツ指導者関連資格 …… 174
8. 登録日本語教員 …… 177

27 学校教育教員養成課程 コースガイド …… 179

1　東京学芸大学の概要

ー　教育への情熱　知の創造　ー

東京学芸大学は，日本の教育系大学の中心に位置し，優れた人材を社会に送り出してきました。この標語は，教育と文化の世紀といわれる21世紀において教育と知の創造者であり，開拓者であろうとする本学の姿勢を端的に表現したものです。

【大学の目的】

東京学芸大学は，人権を尊重し，すべての人々が共生する社会の建設と世界平和の実現に寄与するため，豊かな人間性と科学的精神に立脚した学芸諸般の教育研究活動を通して，高い知識と教養を備えた創造力・実践力に富む有為の教育者を養成することを目的とする。（「東京学芸大学学則」第１条より）

【ディプロマ・ポリシー】（卒業認定・学位授与の方針）

本学は，知識基盤社会を支える有為の教育者を養成し，教育を通して社会変革を主導する拠点的な大学として，個人の幸福と世界の持続的発展に貢献し，それらを自律的かつ主体的に実現することができるコンピテンシー等を，未来を切り拓く重要な力として育成し，有為の教育者を養成することを使命としている。

この使命のもと，教育学部においては，①豊かな教養と広い視野により，②児童生徒をはじめとする人間の発達についての深い理解を得るとともに，③それぞれの専門的な学識・技能を身につけ，④それらを基に社会の様々な場における教育的な実践を行える優れた人材を育成することを目標としている。

この目標に基づき，それぞれの課程・専攻・コース所定の単位を修得し，学士課程全体を通じて体得した幅広い学識や研究手法などを基に，今後の社会において生じうる様々な課題に対して柔軟に対応できる発展性と，自己成長力を身に付けるとともに，立場を異にする者との連携・協働により，こうした課題解決に取り組むことができると認められる者に学士（教育）の学位を授与する。

４つの目標に関して，身に付ける具体的な資質・能力は課程ごとに下記のとおりとする。

1　豊かな教養と広い視野

現代社会の諸事象（個々の人間存在・社会の構成・自然界の状況等）を主体的に捉え，多様な視野と方法をもって分析する力を身に付ける。

母語や文化を異にする多種多様な人々の思考を知り，相互に尊重し合い，円滑なコミュニケーションを図ることができる。

2　教育課題及び人間発達（特に学齢期）に関する理解

学齢期の児童・生徒を中心に，誕生から死に至る人間の発達の全体像と，それぞれの時期における課題の具体的なありようについて深く理解し，変化が激しく予測困難な時代へ対応できる力と新たな価値を創造することができる力を子供に育成することができる。

時代や社会の状況に応じて変化する多様な教育課題を把握し，学校や社会をより良く変革することに自律的・主体的に取り組むことができるとともに，それぞれの時点での人間の知識・技能の個々の課題に応じて，発達を援助する実践につなげることができる。

3　専門的な学識・技能

学校教育で扱う各教科に連なる諸学問や，人間の発達や教育課題を解析する諸学問等について専門的な学識を持つとともに，そうした学識を基に研究的な発信をすることができる。

4　教育的な実践力

学校において生じる様々な教育課題について，児童生徒等の当事者の置かれている状況に即して適切に対応し，成長・発達を支援することができる。

立場を異にする様々な他者と連携・協働し，その時々に解決の迫られている諸課題の解決策を導くことができる。

2 カリキュラム用語集

1 必修科目　卒業するために必ず履修し単位を修得しなければならない科目です。

2 選択科目　指定された科目群の中から科目を選択し，所定の単位数を修得する必要のある科目です。

3 自由選択　自由選択は，幅広い知識や技術を身に付けるため，自分の課程・専攻・コース・プログラムの分野を超えて，他の課程や専攻・コース・プログラムで開設している授業科目を履修できるようにしたものです。

（自由選択の単位となる例）

1）他の課程・専攻・コース・プログラムでのみ開設している授業科目の単位を修得した場合

2）教養科目について，履修基準で定めている 22 単位を超えた単位

3）教育創成科目について，履修基準で定めている 11 単位を超えた単位

4）自コース・プログラムの専攻科目の履修基準を超えて修得した単位

5）多摩地区国立5大学単位互換協定により他大学で履修した単位

※原則どの科目も授業担当教員の許可が得られれば履修可能ですが，特定の授業科目は履修制限を行っているため注意してください。

4 卒業研究　卒業研究は，大学生活を締めくくる最後の授業科目です。卒業年次に指導教員の指導を受けながら研究を行います。

5 年　次　入学してからの年数のことです。

6 学　期　学期とは，学年を春学期と秋学期の2期に分けたものです。更に，各学期を前半及び後半に分けたものをタームと呼び，春学期の前半が第1ターム，後半が第2ターム，秋学期の前半が第3ターム，後半が第4タームとなります。

7 標準開設学期　標準開設学期は授業科目が標準に開設される年次・学期を示しており，Ⅰ期（1年次春学期）～Ⅷ期（4年次秋学期）まであります。タームは“前”，“後”で記載し，例えば，1年の第1タームに開設される場合は“Ⅰ前”期，1年の第3，4タームに開設される場合は“Ⅱ前後”期となります。

授業科目は，標準開設学期において履修することが原則です。

8 集中授業　授業を一定期間にまとめて行う授業形態のことです。

9 単　位　本学においては，各授業科目の単位数を 45 時間の学修を必要とする内容をもって 1 単位とし，次のとおり単位を計算しています。

1　講義及び演習については，14 時限分又は 28 時限分の授業をもって 2 単位とする。

2　実験・実習及び実技については，28 時限分又は 42 時限分の授業をもって 2 単位とする。ただし，特定の授業科目，芸術等の分野における個人指導による実技の授業については，別に定める時間の授業をもって 1 単位とする。

10 シラバス　授業科目のねらいや到達目標，学修内容，テキスト，参考文献，成績評価の方法，授業スケジュール（展開計画），受講制限等を記したものです。

11 CAP制　学期及び年間の履修登録単位数を制限する制度です。それぞれの授業科目について，自学自習（予習・復習）時間を確保し，学びを深めることを目的としています。

3 専攻及び授業科目区分の略称

1 専攻の略称

本学では教育組織（専攻）は，以下の略称を一般的に使用しています。

A類＝ 学校教育教員養成課程初等教育専攻

B類＝ 学校教育教員養成課程中等教育専攻

C類＝ 学校教育教員養成課程特別支援教育専攻

D類＝ 学校教育教員養成課程養護教育専攻

E類＝ 教育支援課程教育支援専攻

2 授業科目区分及び略称

授業科目区分について，本学では略称を用いることがあります。

○教養科目

・**CA**＝総合学芸領域

・**CH**＝健康・スポーツ領域

・**CL**＝語学領域

○教育創成科目

・**EC**

○教育基礎科目（学校教育教員養成課程のみ）

・**EB**＝教育の基礎的理解に関する科目

・**EM**＝道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目

・**EP**＝教育実践に関する科目

○専攻科目

・**SS**＝課程共通科目（教育支援課程のみ）

・**SP**＝小学校の教科に関する専門的事項(A類(幼児教育を除く)・C 類のみ)

・**SK**＝幼稚園の領域に関する専門的事項（A類幼児教育のみ）

・**ST**＝教科（保育内容）の指導法（学校教育教員養成課程のみ）

・**SE**＝教育内容科目（学校教育教員養成課程のみ）

・**S** ＝必修科目

・**SA**＝選択科目Ａ

・**SB**＝選択科目Ｂ(他コースの開設科目)

・**SC**＝課程共通選択科目（教育支援課程のみ）

・**SZ**＝卒業研究

4 カリキュラムの特色

【カリキュラム・ポリシー】（教育課程編成・実施の方針）

東京学芸大学は，教員養成を主目的とした学校教育教員養成課程と，学校現場と協働して様々な現代的教育課題の解決を支援できる人材を養成する教育支援課程の２つの課程で構成されており，大学全体として，次のようなカリキュラムを編成，実施するものとします。

《教育課程の編成及び教育の内容》

本学においては以下，４つの科目区分を体系的に編成し，卒業認定・学位授与の方針に掲げる４つの目標と授業科目との関係について，カリキュラムマップ，ナンバリングを通して可視化します。

なお，「教養科目」や「教育創成科目」に一部開設する留学生との共修科目により，国際的視野の獲得を目指します。

「教養科目」

人権を尊重し，国際的視野を基盤とした共生社会の実現に貢献できるよう，深い教養と豊かな知性を身につけることを目的に，１，２年生を対象に，「総合学芸領域」，「健康・スポーツ領域」，「語学領域」の３つの領域にわたって学修します。「総合学芸領域」は学士課程での学びの基礎を固めるとともに，多様な学問の視角や方法を体得することを通じて，現代的諸課題を自ら把握し主体的に探究する姿勢を養うことを目的に，（A）「学びの基本」となる科目群，（B）人間の存在や営みについて深めるタイプの科目群，（C）社会の多様性や広がりを知るタイプの科目群，（D）世界の様々な事象を科学的に解明するタイプの科目群，の４つの科目群で構成されます。

特に本学は，人権教育を重視しており，「人権教育」を全学必修科目に加えています。

「教育創成科目」

子供・教師・学校が社会とともにより良い未来を創造していく教育の実現に向けて，伸ばすべき５つの資質能力①「探究力，創造力，他者・社会と協働できる力」を育成する力②子供が置かれている多様な環境への対応力③学び続けるために自己をマネジメントする力④学校教育のより良い変革に資する基盤となる探究力，創造力⑤学校内での協働・社会との連携をマネジメントする力，に対応した科目で構成され，教育という営みの様々な課題について先端的な内容を学ぶ未来志向の内容です。学生は，自らの目指す教師の在り方・課題に基づいて主体的に授業科目を選択することで，自らの学びをデザインします。

１年生から３年生を対象に，主に学校教育にフォーカスしたもの（Ⅰ群）と学校内外での様々な教育課題に関わるもの（Ⅱ群）に区分され，学校教育教員養成課程と教育支援課程の学生が共通に学ぶ横断的な科目群となっています。

「教育基礎科目」

教育職員免許法を踏まえ，教育の基本的概念や基礎的な知識，教職の在り方及び児童生徒の発育等に対する理解を修得する「教育の基礎的理解に関する科目」（１，２年生対象）と，実践的な教育方法や指導法等を扱う「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」（２，３年生対象）により，学校教育にかかる基礎的な内容を学ぶ科目です。更に，１，２年生を対象とした「自己創造のための教育体験活動」にて学校現場での体験活動を主体的にデザインすることで自らの課題認識形成の端緒とし，３，４年生で履修する教育実習や教職実践演習等の「教育実践に関する科目」により，「教育の基礎的理解に関する科目」や「道徳，総合的な学習の時間等

の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」で学んだ内容を実践につなげます。
※学校教育教員養成課程のみで開設される科目です。

「専攻科目」

コース・プログラムで学ぶ教科等の専門的な学びを深める１～４年生を対象とした科目群です。保育における各領域や小学校，中学校，高等学校の各教科の指導をするために必要な内容を学ぶ「教科（保育内容）の指導法」や，教科等の専門性と学習指導の融合・架橋を図る「教育内容科目」を含みます。「卒業研究」は４年間の学びの集大成に位置づけ，全学必修科目とします。

また，「専攻科目」には初年次向け専門基礎科目（入門セミナー）を設け，新入生の大学における学修に加え，各コースの専門的な内容を円滑・効果的に進めるためのカリキュラムを編成しています。

《教育方法》

・各授業科目のシラバスにおいて，ねらいと目標，内容，テキスト，参考文献，成績評価方法，授業スケジュール，授業時間外における学習方法，授業実施方法を周知します。
・各授業科目は講義，演習，実験，実習など，教育内容の特質にあわせた授業形態で実施します。また，実習科目の中には教育実習等，講義等で得た知識を現場で実践する方法について学ぶ科目を含みます。
・アクティブ・ラーニングを授業科目の中に積極的に取り入れることで，主体的な学習を促進します。
・履修カルテや，教職実践ポートフォリオ等により，学生が自身の学習を振り返ることで，自らの課題に基づいた主体的な学習計画を作成することを促します。
・学生の主体的で計画的な学習（それぞれの授業科目の予習・復習の時間を含む）を促すため，履修登録単位数に制限を設けるCAP制を導入しています。
・ICT活用指導力修得のための科目群を体系的に開設し，本学独自のチェックリスト等を通して学びの体系性を可視化します。

《学修成果の評価》

・学修成果の評価にあたっては，客観性，厳格性を確保するため，シラバスにより，学生に対し評価基準をあらかじめ明示し，その基準に従って適切に行います。
・学生自身が学年の初めに１年間の学修計画を十分に立て，自分の学修目標をしっかり定めたうえで，履修する授業科目を選択させることを目的に，GPAによる成績評価制度を導入しています。GPAは指導教員にも通知され，学習指導や助言等の参考にすることにより履修指導の促進も図ります。

卒業認定・学位授与の方針に掲げる４つの目標を達成するため，課程ごとに，以下のカリキュラムを編成，実施します。

［学校教育教員養成課程］

本課程は，教員養成課程であることから，教育職員免許法に定める小学校教諭や幼稚園教諭一種免許状，中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状取得要件，特別支援学校教諭一種免許状（聴覚障害者，知的障害者，肢体不自由者，病弱者の４つの領域），養護教諭一種免許状等の取得要件を基盤に，「高度な専門性と優れた実践力を兼ね備えた有為の教育者」の養成を目的とし，4年間の学修で理論と実践を体系的に学べるカリキュラム構成となっています。

1　豊かな教養と広い視野

現代社会の諸事象（個々の人間存在・社会の構成・自然界の状況等）を主体的に捉え，多様な視野と方法をもって分析する力を身につけるとともに，母語や文化を異にする多種多様な人々の思考を知り，相互に尊重し合い，円滑なコミュニケーションを図ることを目的に，「教養科目」において，「総合学芸領域」，「健康・スポーツ領域」，「語学領域」の３つの領域にわたって学修します。

2　教育課題及び人間発達（特に学齢期）に関する理解

学齢期の児童・生徒を中心に，誕生から死に至る人間の発達の全体像と，それぞれの時期における課題の具体的なありようについて深く理解し，変化が激しく予測困難な時代へ対応できる力と新たな価値を創造することができる力を子供に育成することと，時代や社会の状況に応じて変化する多様な教育課題を把握し，学校や社会をより良く変革することに自律的・主体的に取り組むことができるとともに，それぞれの時点での人間の知識・技能の個々の課題に応じて，発達を援助する実践につなげることを目的に，「教育基礎科目」及び「教育創成科目」において，学校教育にかかる理論と方法や学校内外の教育課題について学修します。

3　専門的な学識・技能

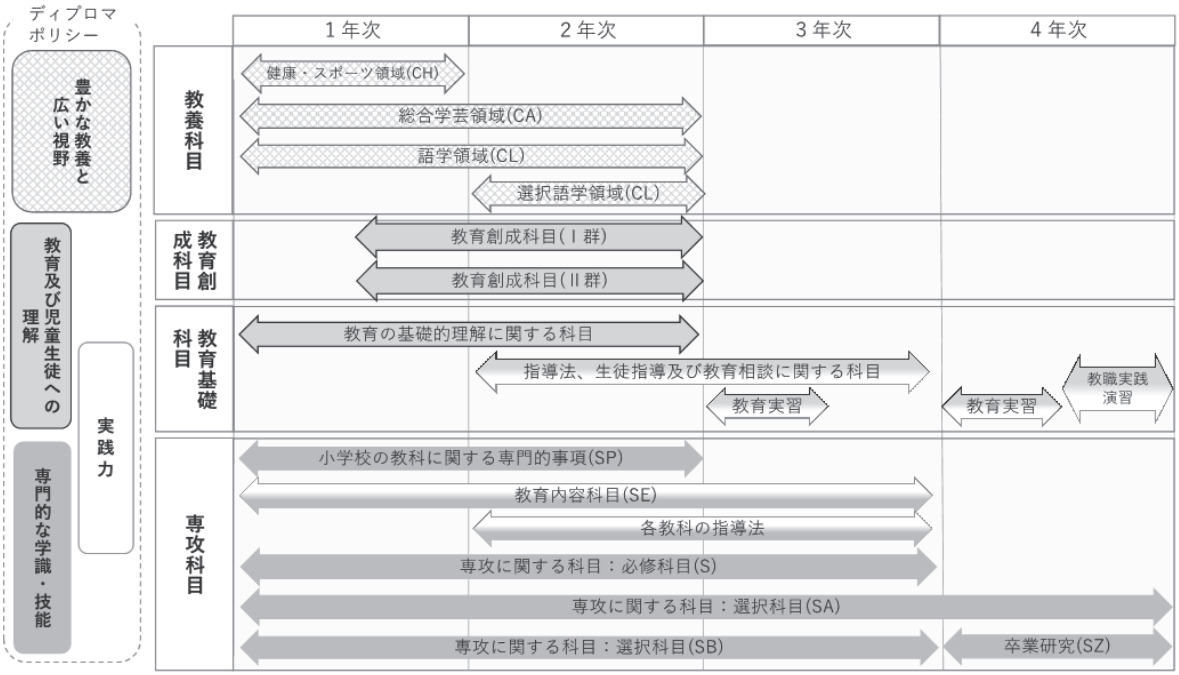
学校教育で扱う各教科に連なる諸学問や，人間の発達や教育課題を解析する諸学問等について専門的な学識を持つとともに，そうした学識を基に研究的な発信をすることを目的に，「専攻科目」において，小学校，中学校，高等学校の各教科，特別支援教育の各領域及び養護に関する専門的な内容を学修します。

4　教育的な実践力

学校において生じる様々な教育課題について，児童生徒等の当事者の置かれている状況に即して適切に対応し，成長・発達を支援することができるとともに，立場を異にする様々な他者と連携・協働し，その時々に解決の迫られている諸課題の解決策を導くことを目的に，「教育基礎科目」における「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」や「教育実践に関する科目」に分類される科目群に加え，「専攻科目」における教科等の専門性と学習指導の融合・架橋を図る「教育内容科目」，保育における各領域や小学校，中学校，高等学校の「教科（保育内容）の指導法」において，学校現場で活用できる実践力を学修します。

また，情報通信技術の活用においては，指導法としての利用にとどまらず，探究ツールとしての利用等についても触れることで，各教科等の主体的，対話的で深い学びによる実践力の養成につなげます。

【学校教育教員養成課程　カリキュラムマップ】



５ 東京学芸大学の科目ナンバリング

科目ナンバリングは，東京学芸大学で開講している教育学部，大学院教育学研究科（修士課程），大学院教育学研究科（教職大学院の課程），特別支援教育特別専攻科の科目に付けられたナンバーのことで，その科目のカリキュラム上の科目区分，水準・順次性，授業開設講座・教室等，授業形態を表しています。なお，ナンバリングは毎年付番するものではなく，授業科目に固定したものですが，変更が生じた際は再付番を行います。

１．科目ナンバリングの形式

1	2	3	0 4	5
①	②	③	④	⑤

２．コードの意味（教育学部抜粋）

① 学位対象プログラム（１桁）

教育学部，大学院教育学研究科（修士課程），大学院教育学研究科（教職大学院の課程），特別支援教育特別専攻科の別を表しています。

分類	コード
教育学部	1

② 科目区分（１桁）

教育学部のカリキュラムは「教養科目」「教育基礎科目」「専攻科目」「教育創成科目」の科目区分からなっています。

科目区分	コード
教育学部　教養科目	1
教育学部　教育基礎科目	2
教育学部　専攻科目	3
教育学部　教育創成科目	4

③ 標準修学段階（１桁）

本学の学生が学習する内容において，当該科目を履修することが概ね相応しい学年（標準開設学期）やカリキュラムにおける履修の順次性を表しています。

配当年次	コード
１年生	1
２年生	2
３年生	3
４年生	4

配当年次	コード
１年生又は２年生	5
２年生又は３年生	6
３年生又は４年生	7

④ 授業開設講座・教室・分野等（２桁）

授業科目を開講する講座・教室・分野等を英数字２文字で表しています。

講座・教室等名	コード
学校教育	03
学校心理	05
幼児教育	07
特別支援教育	09
家庭科	10
国語科	12
英語科	13
社会科	14
社会科教育学	15
地理学	16
歴史学	17
哲学	18
法学・政治学	19
経済学	20
社会学	21
数学科	24
理科	25
理科教育学	26
物理学	27
化学	28
生物学	29
地学	30
技術科	31
情報科	32
音楽科	34
美術科	35
書道科	36
保健体育科	37
養護教育	38
国際教育（A類）	39
環境教育（A類）	47

講座・教室等名	コード
情報教育授業運営部会	90
先端教育人材育成推進機構	92
留学生センター	94
複数教室／複数分野	97
カリキュラム改革推進本部	98
その他	99
生涯学習・文化遺産教育	E1
カウンセリング（E 類）	E2
ソーシャルワーク	E3
多文化共生教育	E4
情報教育（E 類）	E5
表現教育	E6
生涯スポーツ（E 類）	E7

⑤ 授業形態（１桁）

「講義」「演習」「実験」等の授業形態を表しています。

授業形態	コード
講義	1
演習	2
実技，実験又は実習	3
講義と演習	4
講義と実習	5
演習及び実技，実験又は実習	6
講義及び実技，実験又は実習	7
卒業研究等	8

◆ナンバリングの例

科目名称　音楽と文化

① 学位対象プログラム：　教育学部
② 科目区分：　教養科目
③ 標準修学段階：　２年生
④ 授業開設講座・教室・分野等：　音楽科
⑤ 授業形態：　講義

1	1	2	3 4	1
①	②	③	④	⑤

6 教 育 組 織

1 学校教育教員養成課程

学校教育教員養成課程は，次の専攻，コース，プログラムから構成されています。

初等教育専攻（A類）

国語コース	
社会コース	
数学コース	
理科コース	
音楽コース	
美術コース	
保健体育コース	
家庭コース	
英語コース	
現代教育実践コース	学校教育プログラム
	学校心理プログラム
	国際教育プログラム
	環境教育プログラム
ものづくり技術コース	
幼児教育コース	

中等教育専攻（B類）

国語コース	社会コース	数学コース
理科コース	音楽コース	美術コース
保健体育コース	家庭コース	技術コース
英語コース	書道コース	情報コース

特別支援教育専攻（C類）

聴覚障害・言語障害系コース	発達障害・学習障害系コース

養護教育専攻（D類）

養護教育コース

2 教育支援課程

教育支援課程は，次の専攻・コースから構成されています。

教育支援専攻（E類）

生涯学習・文化遺産教育コース	カウンセリングコース	ソーシャルワークコース
多文化共生教育コース	情報教育コース	表現教育コース
生涯スポーツコース		

7 学群・教室一覧

本学では，教育研究を円滑に運営するために学部を,課程及び専攻・コース・プログラム別に,**4つの学群（総合教育科学群，人文社会科学群，自然科学群，芸術・スポーツ科学群）**に分けています。学生は各自のコース・プログラムにより，この4つの群のいずれかに所属します。

群	学校教育教員養成課程			教育支援課程	
	教　　室		学生が所属する専攻（類）・コース・プログラム	教　　室	学生が所属する専攻（類）・コース
総合教育科学群	学校教育		A類　現代教育実践コース 学校教育プログラム	生涯学習	E類　生涯学習・文化遺産教育コース
	学校心理		A類　現代教育実践コース 学校心理プログラム	カウンセリング	E類　カウンセリングコース
	幼児教育		A類　幼児教育コース		
	特別支援教育		C類　聴覚障害・言語障害系コース，発達障害・学習障害系コース		
	家庭科		A・B類　家庭コース		
	国際教育		A類　現代教育実践コース 国際教育プログラム		
	環境教育		A類　現代教育実践コース 環境教育プログラム		
人文社会科学群	国語科		A・B類　国語コース	ソーシャルワーク	E類　ソーシャルワークコース
	英語科		A・B類　英語コース	多文化共生教育	E類　多文化共生教育コース
	社会科	社会科教育学	A・B類　社会コース		
		地理学			
		歴史学			
		哲学			
		法学・政治学			
		経済学			
		社会学			
自然科学群	数学科		A・B類　数学コース	情報教育	E類　情報教育コース
	理科	理科教育学	A・B類　理科コース		
		物理学			
		化学			
		生物学			
		地学			
	技術科		A類　ものづくり技術コース B類　技術コース		
	情報科		B類　情報コース		
芸術・スポーツ科学群	音楽科		A・B類　音楽コース	表現教育	E類　表現教育コース
	美術科		A・B類　美術コース	生涯スポーツ	E類　生涯スポーツコース
	書道科		B類　書道コース		
	保健体育科		A・B類　保健体育コース		
	養護教育		D類　養護教育コース		

8 授業時間割及び履修上の注意事項

1 授業時間

授業時間は，次のとおりです。(春・秋学期共通)

第１時限　　８：３０～１０：１０
第２時限　１０：２０～１２：００
第３時限　１２：５０～１４：３０
第４時限　１４：４０～１６：２０
第５時限　１６：３０～１８：１０

2 時間割編成上の区分

時間割は，原則として課程，コース・プログラムごとに編成されています。

3 履修上の注意

履修にあたっては，春学期開始時に授業の時間割やシラバスが公開されますが，カリキュラムには定められた規則があるので，これに十分注意して履修しなければなりません。特に必要な項目を抜粋して次に掲げておきます。また，履修上いろいろな制限があるので，卒業に支障のないよう，十分に注意してください。

1)単位の認定

単位は，当該授業科目の単位数全体について認定するものとし，授業科目の単位数の一部を認定することはできません。ただし，学則第２５条の規定により交換留学する学生が履修する通年科目については，分割して認定される場合があります。必ず事前に学務課まで照会ください。

2)出席時数

学生は，公欠を含め授業の３分の２以上出席しなければなりません。(カリキュラム実施細則第６条)

3)公欠制度

次の各号の事由によりやむを得ず履修中の講義（ただし集中講義を除く。）を欠席する場合は，これを公欠として取扱い，単位認定要件に係る欠席扱いとしないこととなります。

（１）感染症に罹患，あるいは罹患している疑いやおそれがあることにより，出席停止の措置を受けた場合
（２）親族（第３親等まで）が死亡した場合
（３）国，地方公共団体又は全国規模の団体からの要請により，行事等に大学が学生を派遣する場合
（４）大学が指定する事業（教育実習，介護等体験など）に参加する場合
（５）その他学長が必要と認める場合

（手続きには期限があります。公欠の具体的な基準及び手続きについては，学芸ポータル等で確認してください。）

4)履修手続

（１）学生は，当該年度に履修しようとする授業科目を，年度初めの指定された期間内に所定の手続により登録しなければなりません。
（２）履修登録は，春学期において年間（春・秋学期）登録を行うことが望ましいです。
なお，秋学期（第３，第４ターム）開設授業科目については，秋学期開始時に修正可能です。
（３）**履修登録をしていない授業科目については，単位は与えられません。**
（４）学年ごとに履修登録の締切日を指定する場合があるので，その際は指示に従ってください。

5)修得単位の取消し

既に修得した単位は，取り消すことができません。ただし，授業料若しくは入学料の未納を理由として除籍された場合又は試験における不正行為により懲戒処分を受けた場合は，この限りではありません。

6)履修方法

（1）学生は，所属する課程，専攻・コース・プログラムに開設された授業科目を履修しなければなりません。ただし，履修上必要と認められた科目については，この限りではありません。

（2）**授業科目は，標準開設学期において履修することが原則です。**

（3）同一のターム・曜日・時限において２つの授業科目を履修することはできません。

（4）自由選択として履修する場合，教養科目，教育創成科目，教育基礎科目及び専攻科目（「卒業研究」を除く。）の授業科目から履修することができます。ただし，他の課程，専攻・コース・プログラムに開設された授業科目を履修する場合は，授業担当教員の承諾を得なければなりません。

7)標準開設学期以外の履修

(1) 授業科目は，標準開設学期において履修することを原則としていますが，**授業担当教員の承諾を得て**，１年次上位の標準開設学期に開設されている授業科目を履修することができます。

8)履修登録単位数の上限(CAP 制)

本学では学生の主体的で計画的な学習(それぞれの授業科目の予習･復習の時間を含む。)を促すため，**CAP制**を導入しています。

１～3年次は，各学期における履修登録単位数は 28 単位，年間では 52 単位(C類は 56 単位)が上限となります。

ただし，以下の科目についてはＣＡＰ制の対象外とし，履修登録単位数の上限を計算する際は，単位数に含まれないものとします。

(1) 集中授業（ただし，「スタディガイド」の「標準開設学期」で集中授業として定められている科目のみ。）

(2) 教育実践に関する科目（ＥＰ）「a　教育実習・養護実習」

(3) 再履修科目（前学期以前の成績が「Ｆ」もしくは「失」の科目）

(4) 諸資格科目のうち，以下の諸資格取得に必要な科目

司書教諭，司書，社会教育主事（社会教育士），学芸員

※上記以外の諸資格取得のための科目は，ＣＡＰ制の対象外とはなりません。

(5) 語学技能検定（p. 40 参照）や留学等による認定科目

また，**４年次は，全ての授業科目をＣＡＰ制の対象外（履修登録単位数の制限無し）とします。**

9）受講条件がある授業科目

・「教育実習Ⅰ」,「教育実習Ⅱ」を履修するための受講条件

詳しくは p.59 ～ を参照。

・「教職実践演習」の受講条件

詳しくは p.58 を参照。

・卒業研究の受講条件

当該教室が指定した授業科目の単位修得を受講条件とする場合があります。コースガイドも併せて確認してください。

10）履修制限

授業の教育効果を高めるために，以下の授業科目については，履修制限を行う場合があります。

（1）標準履修年次での履修が望ましい授業科目

（2）教室の収容人数等により履修制限が必要な授業科目

（3）履修クラスが指定されている授業科目

11）試験等

（1）試験は，授業科目毎の授業期間内で次のとおり行うものとします。

① 学期毎に終了する授業科目にあっては，学期末とします。

② ターム毎に終了する授業科目にあっては，各ターム末とします。

③ 通年編成の授業科目にあっては，学年末とします。

（2）上記（1）にかかわらず，論文，作品等を課し，学年末又は学期末試験に代えることがあります。

12）追試験

（1）傷病，災害等やむを得ない事情のために試験等を欠いた者で，出席時数を充足している者に限り，願い出により追試験を行うことができます。

（2）上記（1）により追試験を受けようとする者は，所定の追試験願に診断書等必要な証明書を添付し，授業終了後１週間以内に学務課を経て，授業担当教員の承認を得なければなりません。

（3）追試験は，次学期開始後１ヵ月以内に実施するものとします。ただし，傷病，災害等やむを得ない事情が次学期開始後まで継続した場合は，その事情解消後１ヵ月以内に行います。

（4）上記（3）にかかわらず，卒業年次の追試験の期間はその都度定めます。

13）再試験

不合格の認定を受けた授業科目の再試験は行いません。

14）成績評価の方法

（1）成績評価は，学期末に行うことを基本とし，通年編成の授業科目にあっては学年末に行うこととします。ただし，国際課で「留学」の許可を受けて海外の大学等に留学する学生が履修する通年編成の授業科目の成績評価については，学期末に行います。

（2）教育実習（A～C類向け副免用の小・中学校教育実習及び選択科目は除く。）の成績評価（以下「総合評価」という。）は，学期ごとに行う評価（以下「中間評価」という。）を総合して行います。

（3）中間評価に不合格があった場合，総合評価を合格とすることはできません。ただし，当該不合格の部分を履修し合格した場合は，総合評価を合格とします。

（4）上記（1）による学生が履修する，通年編成の授業科目の成績評価は，上記（3）を準用します。

15)成績通知

学生への成績通知は，次学期開始までに行われます。

16)評語及び配点基準

成績に関する評語及び配点基準は，次表のとおりとなります。

評　語	区　分	内　　容
S･A･B･C 合	**合　格**	高得点順にS･A･B･Cに区分する。 合は，自己創造のための教育体験活動及び総合インターンシップ科目について適用する。
F 否	**不 合 格**	試験等の成績が不合格と判定されたもの 否は，自己創造のための教育体験活動及び総合インターンシップ科目について適用する。
失	**失　格**	出席時数が3分の2に満たない者又は中途で授業を放棄した者(試験の無断欠席を含む。)試験における不正行為により懲戒処分を受けた者
追	**追 試 験**	出席時数が3分の2以上で，傷病，災害等やむを得ない事情のために学期末又は学年末試験等を欠き、願い出た者
N(R)	**認　定**	学則第25条の規定による留学生の認定単位
N(G)		学則第6条の規定による既修得単位の認定
N(K)		学則第7条の規定による既修得単位の認定
N(T)		学則第23条の規定による既修得単位の認定

評　　価	配点基準（１００点満点）	基　　準
S	１００～９０	到達目標を充分に達成し，きわめて優秀な成果を収めている。
A	８９～８０	到達目標を充分に達成している。
B	７９～７０	到達目標を達成している。
C	６９～６０	到達目標を最低限達成している。
F	５９以下	到達目標を達成していない。

17)学芸ポータルおよび学生情報トータルシステム

本学では，学生の皆さんに学内の情報を発信するために，「学芸ポータル」というポータルサイトを用意しています。大学の行事，スケジュール，学務課や授業担当教員からのお知らせは，学芸ポータルを使用してお伝えします。(メールを使用する場合もあります。)

(URL https://gportal.u-gakugei.ac.jp/portal/home)

また，皆さんの修学を支援するために「学生情報トータルシステム」を用意しています。学生情報トータルシステムには，履修登録，成績確認・印刷，教育実習，オフィスアワー，シラバス，休講情報の閲覧等の機能が搭載されています。

(URL https://tgulc.u-gakugei.ac.jp)

９ GPA(グレード・ポイント・アヴェレージ)による成績評価

学生自身が学年の初めに１年間の学習計画を十分に立て，自分の学習目標をしっかり定めたうえで，履修する授業科目を選択させることを目的に，平成 15 年度からＧＰＡ（グレード・ポイント・アヴェレージ）による成績評価制度を導入しています。

ＧＰ（グレード・ポイント）とは，授業科目の成績（Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ）に与えられた点数（４・３・２・１・０）を意味し（表１を参照），ＧＰＡとは，ＧＰの単位当たりの平均値です。

ＧＰＡの算出方法は，各科目のＧＰにその科目の単位数を乗じた数の合計を，履修登録した科目の総単位数で割ります。

履修した結果，「不合格（Ｆ)」あるいは履修登録した科目数が多すぎて途中で授業を放棄した結果，「失格（失)」となった科目が多いなど，成績評価が低ければ，ＧＰＡの値も低くなります。

ＧＰＡの値が４.０に近ければ，学習の到達度が高いと評価され，反対に０.０に近ければ，学習の到達度は低いと評価されます。

従って，学年の初めに学習計画を十分に立て，自分の学習目標をしっかりと定めたうえで履修する科目を選択してください。

なお，Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ・失の評価を行わない科目は，ＧＰＡの対象としません。

ＧＰＡは，各学期終了後に通知する成績通知書に記載されます。

ＧＰＡは指導教員にも通知され，学習の到達度が低いと判断された学生に対しては，学習指導や助言等を行ないます。

表１：ＧＰ（グレード・ポイント）

評価（グレード）	ＧＰ
Ｓ	４．０
Ａ	３．０
Ｂ	２．０
Ｃ	１．０
Ｆ	０．０
失	０．０

4.0・・3.0・・2.0・・1.0・・0.0
←高い　＜学習到達度＞　低い→

【ＧＰＡ（グレード・ポイント・アヴェレージ）の算出例】

算出方法：各科目のＧＰに，その科目の単位数を乗じた数の合計を，履修登録した科目の総単位で割ります。

（例）

日本国憲法＝Ｓ（4.0×２単位）　人権教育＝Ａ（3.0×２単位）　情報処理＝Ｂ（2.0×２単位）
教育心理学＝Ｂ（2.0×２単位）　社会学　＝Ｃ（1.0×２単位）　生物学　＝Ｆ（0.0×２単位）
英語学　　＝失（0.0×２単位）

※履修登録単位数は，14 単位
※取得単位数は，10 単位
※ＧＰの総和（24）÷（14 単位）＝1.714
※ＧＰＡは，1.71（四捨五入）

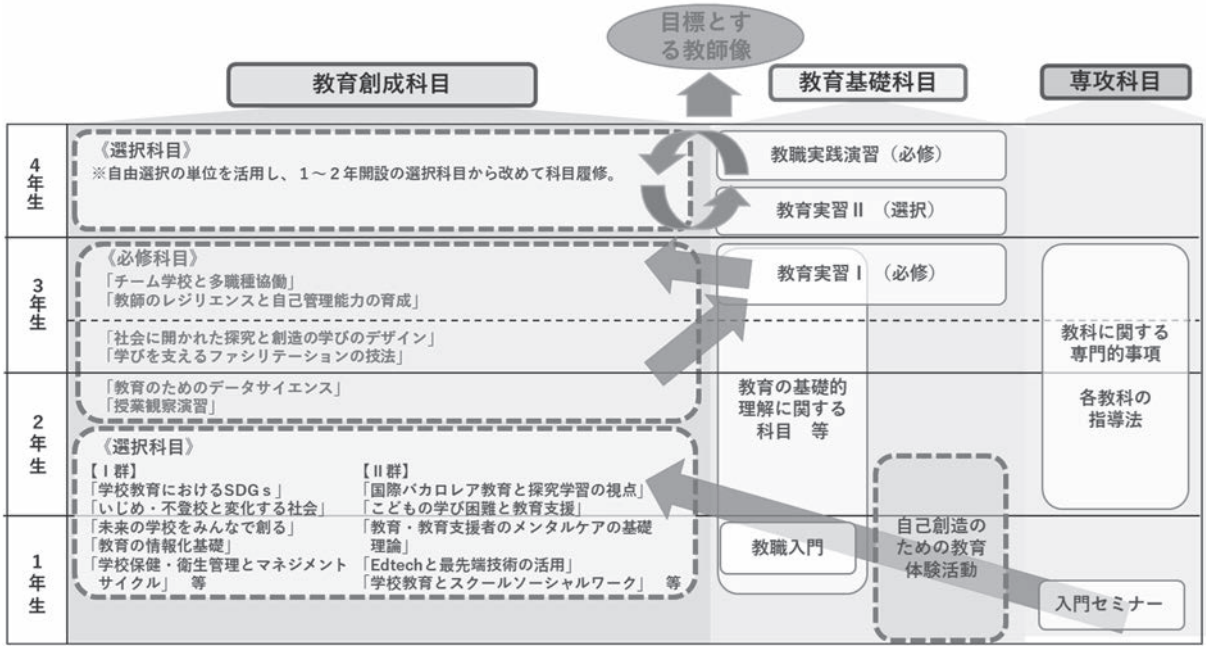
10　自律型カリキュラムデザイン

目標とする教師像をイメージしながら皆さんが各自の学びのテーマを設定し，そのテーマに基づいた履修計画をデザインする仕組みです。教育の様々な課題について先端的な内容を学ぶ教育創成科目（科目の詳細はP. 51～を参照）を中心に各自の履修計画を立ててください。

【自律型カリキュラムデザインにかかるスケジュール】

１年次に開設される「全学共通入門セミナー」，「コース別入門セミナー」，「自己創造のための教育体験活動」や「教職入門」等の履修を経て，自らの課題を発見していきます。その当初の課題認識に基づき，１，２年次の教育創成科目の履修計画を自らデザインすることになります。２年次に実施する学年別オリエンテーションの際に，自律型カリキュラムデザインガイダンスも開催します。自身の１年間の学びを振り返り，課題の再認識，再設定を行う機会になります。また，３，４年次の教育実習における現場経験等により，自らの課題を見つめ直し，新たな課題に対応するための教育創成科目等の履修計画を立てていきます。このように自らの課題と履修計画を絶えず見直していくことで，目標とする教師像に近づいていくことを想定しています。

●自律型カリキュラムデザイン



自律型カリキュラムデザインにかかる主要な授業科目等は次の通りです。

① 入門セミナー(「全学共通入門セミナー」,「コース別入門セミナー」)

1年生春学期に開講される全学必修科目で,本学で学ぶことの意味や大学生活の過ごし方を学びます。この授業のなかで,自律型カリキュラムデザインにかかる内容を扱う授業回があります。

② 自己創造のための教育体験活動

3年次の教育実習に参加する前に,学校現場等で一定期間の体験活動を行う科目です。教職の意義や魅力を体感したり,その課題に気づいたりすることを目的としており,自律型カリキュラムデザインのテーマ設定のきっかけや,振り返りの機会となることが期待されます。早期に学校現場等での実践を知る貴重な科目ですので,積極的に履修するようにしましょう。

※当該科目の履修にあたっては,定期的に開催されるオリエンテーションへの参加が必須です。事前の履修登録は不要です。

③ 教職入門

教職の意義,教師の役割・職務内容等,教職の基礎・基本について学ぶ科目です。教師とは何か,教職とは何かについて理解することを目的とします。

④ 教育創成科目

自律型カリキュラムデザインの中核となる科目(科目の詳細はP.51～を参照)。自らのテーマ設定に基づき,選択科目の履修計画をたててください。

⑤ 教育実習

学校現場での教育実習により,教育の実践について学ぶ科目です。3年次の必修科目「教育実習Ⅰ」,4年次の選択科目「教育実習Ⅱ」などがあります。実際に教壇に立つことで分かること,初めて感じることもあると思いますので,自らのテーマ設定や履修計画を見直す機会にしてください。

⑥ 教職実践演習

4年生の秋学期に開設される集大成の科目です。これまでの学びを振り返り,その成果と課題を確認し,課題克服のために不足している知識等を補うことを目的とします。

※①「全学共通入門セミナー」,③,⑥については、学校教育教員養成課程の全専攻・コース・プログラムの学生が一堂に会して授業を受けます。クラス分け等についてはランパスを各自ご確認ください。

１１ 教育実習とインターンシップ，多摩地区国立5大学単位互換制度

大学での学びは学内にとどまるものではありません。特に今日では，学内で自分の専門を深く追究するとともに，学外に出て，実践的な力を身につけることが強く求められています。ここで取り上げる教育実習とインターンシップはその代表的な機会です。

Ⅰ 教育実習

教員免許を取得するためには，教育実習を履修することが必要です。教育実習は，大学での学びをもとに，学校現場で子どもたちを目の前にして，実際に授業をする貴重な機会です。

1. 教育実習と関連科目～4年間にわたる「学校現場での学び」

教育実習とそれに関連する授業科目は，次のように４年間にわたって配置されています。これは，「大学での学び」と「学校現場での学び」を有機的に結びつけることをねらいとしているためです。

〇教育実習・養護実習と関連する科目

	授業科目名		履修形態		単位数	開設学期	備考
1	自己創造のための教育体験活動			選択	1単位	1年次（Ⅰ期）～2年次（Ⅲ期）	学校現場等での体験活動
2	教職入門		必修		2単位	1年次（Ⅱ期）	
3	授業観察演習		必修		1単位	2年次（Ⅲ前後）	
4	教育実習Ⅰ，養護実習Ⅰ	事前・事後の指導	必修		1単位	3年次（Ⅴ期）	課程ごとの詳細は次ページの表を参照
		教育実地研究	必修		4単位（A・B・C類） 4単位（D類：養護実習）	3年次（Ⅴ期）	
	特別支援学校教育実習（C類）	事前・事後の指導	必修		1単位（C類のみ）	3年次（Ⅴ期）	
		特別支援学校実習	必修		3単位（C類のみ）	3年次（Ⅵ期）	
5	教育実習Ⅱ，養護実習Ⅱ	教育実地研究		選択	2単位（A・B・D類）	4年次（Ⅶ期）	教職志望者向け
6	教職実践演習		必修		2単位	4年次（Ⅷ期）	講義＋演習＋確認

「教職入門」「教育実習Ⅰ／養護実習Ⅰ」「教職実践演習」は，教員免許を取得するための必修科目で，この順序で履修することが必要です。

2. 教育実習の構成

次のように，課程・専攻・コースにより，教育実習の構成が異なりますので十分に注意してください。以下の教育実習は必修です。

なお，**教育実習・養護実習を履修するには一定条件を満たす必要があります。詳細は，p. 59 を参照**してください。

（A類）

「教育実習Ⅰ（A類）」 5単位

「事前・事後の指導」（1単位）＋「教育実地研究」（附属幼稚園又は附属小学校）（4単位）

（B類）：「教育実習Ⅰ（B類）」 5単位

「事前・事後の指導」（1単位）＋「教育実地研究」（附属中・高・中等教育学校）（4単位）

（C類）

「教育実習Ⅰ（C類）」 5単位 ＋ 「特別支援学校教育実習（C類）」 4単位

「教育実習Ⅰ（C類）」＝「事前・事後の指導」（1単位）＋「教育実地研究」（附属小学校）（4単位）

「特別支援学校教育実習（C類）」＝「事前・事後の指導」（1単位）＋「特別支援学校教育実習」（特別支援・ろう学校）（3単位）

(D類):「養護実習Ⅰ」 5単位

「事前・事後の指導」(1単位)＋「教育実地研究」(附属小・中・高・中等教育学校)(4単位)

なお, **養護実習はD類生のみ対象です。他の学生は履修できません。**

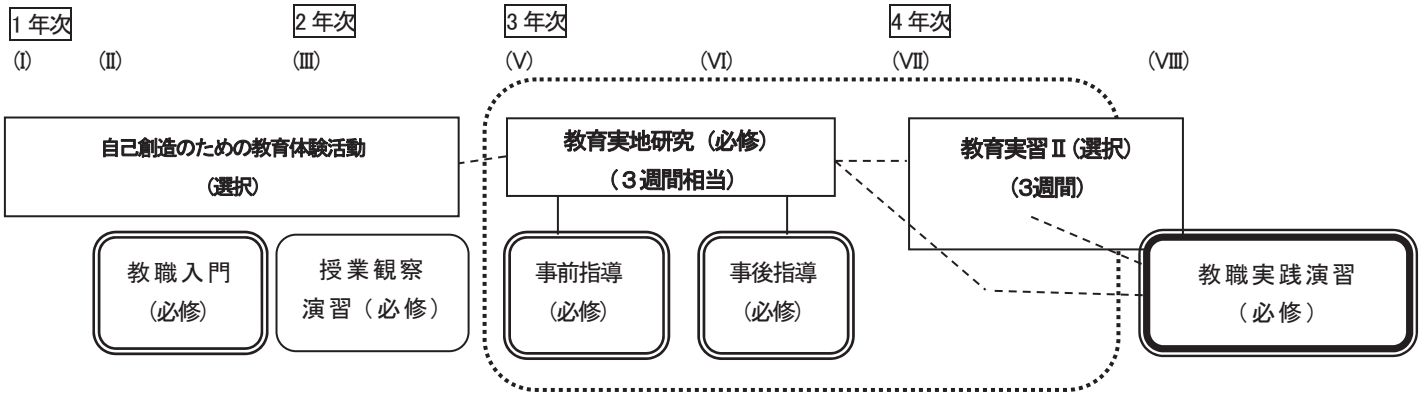
○必修の教育実習・養護実習の構成

	専攻	区分	単位数	単位構成			
学校教育教員養成課程	A類（小）	教育実習	5単位	事前・事後の指導（1単位）	教育実地研究（附属小学校）（4単位）		
	A類（幼）				教育実地研究（附属幼稚園）（4単位）		
	B類				教育実地研究（附属中・高・中等教育学校）（4単位）		
	C類		9単位		教育実地研究（附属小学校）（4単位）	事前・事後の指導（1単位）	特別支援学校実習（特別支援・ろう学校）（3単位）
	D類	養護実習	5単位		教育実地研究（附属小・中・高・中等教育学校）（4単位）		

＊事前・事後の指導は，教育実地研究及び特別支援学校実習をはさんでその前後に行われるもので，教育実地研究及び特別支援学校実習と同一年度に履修することが必要です。

＊教育実習Ⅱ／養護実習Ⅱは教職志望者向けの教育実習です。
附属学校で行われる教育実習Ⅰ／養護実習Ⅰでの省察に基づいた課題に対して，実践的な探究をするために協力学校・園において教育実習を行います。

＊学校教育教員養成課程の学生は副免許取得ができます。
Ⅵ期からⅧ期の間に，副免許取得に必要な選択の教育実習を別途履修することになります。



3. 注意事項(書類提出, オリエンテーション, 連絡掲示について)

・教育実習は対外的な責任を伴う授業科目ですので,「教育実習学生調査票」や「情報管理・守秘義務等に関する誓約書」など多くの書類を事前に提出する必要があります。それらの手続の方法や教育実習の概要・心得などについては,**「オリエンテーション」を２年次より段階的に実施し説明を行います**ので, 必ず参加してください。オリエンテーションの無断欠席者や必要書類の未提出者は, 教育実習を行うことができませんので, 十分注意をしてください。

・**オリエンテーションの開催連絡（日程，会場，対象者等），書類の配布・提出の連絡，実習配当校の発表などは学芸ポータル等で行いますので，日常的にチェック**する習慣を必ず身につけてください。

・教育実習と授業が重なる学生は，公欠の手続きをしてください。※ p. 14　3)公欠制度　参照

・教育実習の実施に際しては，事前に賠償責任保険「学生教育研究災害傷害保険と学研災付帯賠償責任保険」の加入が必要です。（入学手続きの際に加入をお願いしています。）

Ⅱ　インターンシップ

インターンシップとは, 学生の皆さんが実際の職業現場に出向き, そこで職業活動を体験することをいいます。大学では，将来の就業への円滑な移行を支援するために，大学教育に資する学生の学外活動を単位化し，皆さんの積極的な参加を呼びかけています。

なお, インターンシップの単位化を希望する学生は, 毎年開催されるインターンシップに関するガイダンスに必ず参加してください。

1. インターンシップの対象となる活動

対象となる活動は次の３種類のインターンシップです。

①官公庁が実施するインターンシップ

②美術館，博物館，公共ホールなど公的機関，あるいは非営利団体によるインターンシップ

③企業によるインターンシップ

※　単位取得のための要件があります。詳しくは, ガイダンスで配付する履修ガイドを参照すること。

2. インターンシップ科目の配置・単位認定

1)授業科目名・科目数

「総合インターンシップＡ・Ｂ」の２科目（各２単位）

2)履修条件

・履修時に３年生以上の学生であること。

・この科目の単位が修得できないと卒業要件が満たせないという状況ではないこと。

・大学が実施する「インターンシップガイダンス」を受講していること。

・大学の授業に支障がないこと。

3)単位認定と成績評価

・修得した単位は「自由選択」になります。

・「単位」修得には，１つの企業・公（共）的機関で 60 時間以上のインターンシップを行う必要があります。

・活動計画, 活動報告, インターンシップ先の発行する活動証明書を総合的に判断して, 合否を決定します。

3. 単位認定手続きの注意事項

1)「総合インターンシップA・B」

実施年度：大学経由，若しくは個人で企業等へ応募→選考等ののち受け入れ確定→
大学へ受け入れ確定及び単位修得意思を報告→大学と受け入れ先で覚書の取り交わし
→大学へ活動計画書提出→インターンシップ→評価書の作成・提出→単位認定

2)活動計画・活動記録・活動報告

履修者は，事前に活動計画を作成提出し，活動中は活動記録をとり，事後には活動報告を提出することになります。

3)活動期間

インターンシップは，大学の授業に支障を来たさないように，空き時間（長期休暇中も含め）に行います。インターンシップの期間は，春～秋学期にわたってもよいですが，年度を超えることはできません。単位認定の関係で，当該年度の１月末日までに６０時間以上のインターンシップを終了しなければなりません。

Ⅲ　多摩地区国立5大学単位互換制度

本制度は，多摩地区国立５大学単位互換に関する協定に基づき，大学間の相互の交流と教育課程の充実を図ることを目的としています。この制度は，在学中に参加大学で授業科目を履修し，修得した単位を本学の単位として認定します。

（参加大学）　東京外国語大学，東京農工大学，一橋大学，電気通信大学，東京学芸大学

1. 出願資格

派遣時に２年生以上の学部学生（ただし，卒業年次の学生は，卒業予定月を含む学期の授業科目（通年科目を含む）に係る出願はできない。）

2. 派遣スケジュール

	春学期派遣	秋学期派遣
案内	１月中旬	６月中旬
申請期間	１月下旬	６月下旬
決定通知送付	３月下旬	９月下旬
派遣期間	各大学の授業暦による	同左
成績反映	１０月ごろ	４月ごろ

※　派遣スケジュールは，都合により変更になる場合があります。
掲示等を必ず確認するようにしてください。

3. 留意事項

・出願にあたっては，学芸ポータルお知らせや各大学の募集要項を確認してください。
・受講希望者が多い授業科目は，順位を付して推薦します。
・修得した単位は，本学において修得した単位（自由選択）として認定されます。
・協定に基づき，検定料・入学料・授業料は徴収しません。
・秋学期に履修した科目は翌年度４月頃に単位が認定されるため，４年次の秋学期は履修できません。

１２　介護等体験について

１　制度の概要

教育職員免許状の取得には，卒業に必要な単位及び当該免許取得に必要な単位を修得するほかに，「介護等体験特例法」により，介護等の体験＜７日間＞及び介護等体験証明書が必要です。

令和８年度入学の学生は，２年次に社会福祉施設で７日間の体験に参加します。

２　対象

学校教育教員養成課程の学生（A類幼児教育コース及びC類を除く）

３　主な日程

・ 体験先及び日程は，学生の個別の希望は受け付けません。
・ 事前オリエンテーションを欠席した学生には，体験参加を認めません。必ず出席してください。

社会福祉施設７日間　　＊申し込みが必要です。

体験の申し込み	：２年次の４月中旬
体験先と体験時期の通知	：２年次の６月下旬
事前オリエンテーション	：２年次の７月中旬～下旬
実施時期	：８月中旬～翌年３月末日までに実施

その他　注意事項（保険，費用について）

・ 介護等体験に関する案内は，学芸ポータル及び掲示を通じて行ないます。
・ 介護等体験実施に際しては，事前に賠償責任保険「学生教育研究災害傷害保険と学研災付帯賠償責任保険」の加入が必要です。（入学手続きの際に加入をお願いしています。）
・ 「麻疹（はしか）に対する免疫の確認書」の提出がない場合，介護等体験ができません。（「確認書」は入学手続きの際に提出することになっています。）
・ 体験で生じる交通費や昼食費等の実費は，全て学生本人の負担となります。
・ **社会福祉施設での体験には，体験費用及び資料代として１２，１００円が必要です**。体験費用等は，体験の申し込み時に大学が徴収します。
・ 体験は，授業期間中に配当されることがあります。授業と重なる学生は，公欠の手続きをしてください。介護等体験に伴う公欠届は事前申請が原則です。事後申請は受け付けません。
※ P.14　3)公欠制度　参照
・ 対象年次で体験に参加できなかった場合には，速やかに学務課窓口に申し出てください。

１３　教員養成高度化プロジェクトについて

本学では，教員養成の高度化を進めるため，教職大学院に接続する以下の２コースがあります。本コースに登録を希望される方は，登録説明会にぜひご参加ください。
※説明会等の詳細は学芸ポータルのお知らせや掲示で周知します。

１）次世代学校リーダー養成コース（ステップアッププログラム）

強い教員志望と優れた適性を有する学生を対象に，学部３年次から教職大学院２年次までの４年間を通して高度専門職業人としての準備教育を施し，次世代の学校システムのリーダーとなりうる教員を育成するために設けられた登録制のコースです。学部３年次秋学期の「内部選考」に合格した者は，学部４年次に教職大学院入学者選抜試験を「特別選抜」区分で受験できます。

希望者は，学部２年次秋学期に登録申請を行います。

なお，幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校のいずれかの教諭の免許状又は養護教諭の免許状を学部卒業時に取得することが条件です。

２）教員養成高度化大学間連携コース（スタートパスプログラム）

連携協定を結んでいる大学あるいは本学から推薦された強い教員志望と優れた適性を有する学生を対象に，学部４年次に高度専門職業人としての準備教育を施し，学部生の資質向上と教職大学院への効果的な接続を図るために設けられた登録制のコースです。学部４年次に教職大学院入学者選抜試験を「特別選抜」区分で受験できます。

希望者は，学部３年次秋学期に登録申請を行います。

なお，幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校のいずれかの教諭の免許状又は養護教諭の免許状を学部卒業時に取得することが条件です。

１４　特別支援教育特別専攻科（特別支援教育専攻）について

本専攻科は，特別支援教育に関する優れた知識と技能を修め，21 世紀の共生社会を担う「有為の教育者」を養成することを目的としています。幼稚園・小学校・中学校又は高等学校のいずれかの教諭普通免許状を有する者（取得見込みの者を含む）に出願資格があり，修了年限は１年間です。

一種免コースでは，特別支援学校教諭取得のための講義と，特別支援学校での教育実習を行い，特別支援学校教諭（知的障害者，肢体不自由者，病弱者）一種免許状を取得します。また，聴覚障害者の領域についても，必要な授業単位を選択すれば免許状に含めることができます。

専修免コースは，特別支援学校教諭一種免許状を有する者を対象としており，特別支援教育について，より専門的な内容を扱う講義・演習を履修することで，特別支援学校教諭専修免許状を取得します。

大学卒業後に学習を継続し，特別支援教育に係る学校教員を目指す学生を多く受け入れています。様々な大学出身の学生が学んでいることは本学特別専攻科の特色の一つとなっています。

15 指導教員制度と指導体制

本学では，学生が在学期間中学習目標を持ち健全な学生生活を送ることができるよう，入学時から各学生に指導教員を定め，修学，進路，学生生活全般にわたり指導・助言を行うことになっています。

指導教員は，学生の所属する課程・専攻・コース・プログラムを所管する教室の教員があたり，適切な機会を設定して定期的に指導学生との面談等を通じて指導・助言を行います。

また，指導教員は担当する学生が，休学・復学・退学など学生の身分異動が生じる場合や奨学金などの申請を行う場合，教育実習を申し込む場合など学生から事情を聞いて学長に具申するなどの仕事も受け持つなど，皆さんの学生生活に密接に関係しています。

※指導教員は，学生の所属する教室によって定め方が異なります。

（指導教員の主な役割）

指導教員は，担当する学生の修学，進路等学生生活全般にわたり指導・助言を行うものとし，次の役割を担います。

1. 適切な機会（オフィスアワー，教室による学生面談週間等）を設定し，定期的に学生と面談する。
2. 学生の単位の修得や成績などの修学状況を把握し，学生の進路希望等に応じて適切に指導・助言を行う。
3. 学生からの相談に応じ，必要な指導・助言を行う。
4. 学生の身分異動，各種奨学金の申込み，教育実習の申請等に際して，公正な意見書を作成し学長に具申する。
5. 担当する学生に不測の事態が発生した場合は，必要な対応を行う。

16 オフィスアワーについて

本学では，学生が本学において快適な生活を送り，学習・研究に専念できるよう，教員が学生からの授業や修学に関する質問・相談を受け付け，支援するための時間帯を設定したオフィスアワー制度を実施しています。

詳しいオフィスアワーの時間帯については，学生情報トータルシステムを通じて掲載します。

17 学生による授業アンケート

本学では各授業科目について，「学生による授業アンケート調査」を実施しています。

学生が授業内容を理解し，知識や技能を習得したか，そして授業の内容や方法が学生にとって適切であったかをアンケート調査し，教員が今後の授業の内容や方法を改善していくためのものです。

アンケート調査の全体の集計結果は全学に公表されます。これらの結果は今後のカリキュラムの検討資料としても利用されます。アンケート調査は全学的には学期末に実施されますが，授業によっては学期の途中で実施することもあります。

アンケートでは記載者が個人的に特定されないように配慮されています。

「学生による授業アンケート調査」は，教員の授業能力を評価するものではありません。授業改善に直接かかわりの無い記載は，集計から除外される場合もあります。

授業アンケートの内容（Q16は教員の自由設定）

Q1 ：シラバス等により，授業開始時に適切に示された項目を全て選択してください。
Q2 ：授業の目標に応じた知識や能力が身についた。
Q3 ：毎回の授業の目標は明確だった。
Q4 ：（自由記述）その理由を具体的に下の欄に記載してください。
Q5 ：授業の進む速さや内容の量は適切だった。
Q6 ：（自由記述）その理由を具体的に下の欄に記載してください。
Q7 ：話し方や資料の提示方法など授業の実施方法は適切だった。
Q8 ：（自由記述）その理由を具体的に下の欄に記載してください。
Q9 ：授業理解を助ける工夫となっていたものは何ですか。（複数回答可）
Q10：（自由記述）Q9 に関連して授業に取り入れて欲しい工夫を具体的に下の欄に記載してください。
Q11：教室の広さ，機材，空調設備等に問題は無かった。また，遠隔授業を受講するにあたって，Webclass，Stream，Teams 等のツールの利用等に問題は無かった。
Q12：（自由記述）Q11に関連してあなたが問題だと思った点を具体的に下の欄に記載してください。
Q13：予習・復習・レポート等に充てた時間は，1回の授業に対して，平均してどの程度でしたか。最後の授業が終わるまでの学習時間を含めて回答してください。（教員から指示を受けた課題作成への対応や，リアクションペーパー作成，試験準備等を含む。）
Q14：この授業内容についてみずから学習する意欲が高まった。
Q15：（自由記述）その理由を具体的に下の欄に記載してください。
Q16：自由設定（選択式（5択））

※令和7年度（秋）授業アンケート

18 履修基準

初等教育専攻（A類）

科目等＼コース		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	家庭	英語	現代教育実践	ものづくり技術	幼児教育
教養科目	総合学芸領域 （CA）	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
	健康・スポーツ領域 （CH）	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	語学領域（CL）（英語2＋初習語学4）	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
教育創成科目		11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
教育基礎科目	教育の基礎的理解に関する科目(EB)	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目(EM)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	6
	教育実践に関する科目(EP)	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	計	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	25
専攻科目	小学校の教科に関する専門的事項(SP)（幼児教育は領域に関する専門的事項(SK)）	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6
	教科の指導法(ST)（幼児教育は保育内容の指導法）	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	12
	教育内容科目(SE)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	必修科目（S）	14	11	10	14	14	14	14	12	14	6	11	14
	選択科目A （SA）	8	11	12	8	8	8	8	10	8	16	11	22
	選択科目B （SB）												
	卒業研究 （SZ）	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	計	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	62
自由選択 ※ p.3 参照		9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	6
合計		126	126	126	126	126	126	126	126	126	126	126	126

中等教育専攻(B類)

科目等 ＼ コース		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	家庭	技術	英語	書道	情報
教養科目	総合学芸領域 (CA)	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
	健康・スポーツ領域 (CH)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	語学領域(CL)(英語2＋初習語学4)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
教育創成科目		11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
教育基礎科目	教育の基礎的理解に関する科目(EB)	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
	道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目(EM)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	教育実践に関する科目(EP)	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	計	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
専攻科目	教科の指導法(ST)	8	8	8	8	8	8	8	8	12	8	12	12
	教育内容科目(SE)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	必修科目(S)	22	22	20	22	19	24	22	24	26	22	32	32
	選択科目A (SA)	20	20	22	20	23	18	20	18	16	20	14	14
	選択科目B (SB)												
	卒業研究 (SZ)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	計	58	58	58	58	58	58	58	58	62	58	66	66
自由選択 ※ p.3 参照		8	8	8	8	8	8	8	8	4	8	0	0
合計		128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128

特別支援教育専攻(C類)

科目等 ＼ コース		言語障害系・聴覚障害系・	学習障害系・発達障害系・
教養科目	総合学芸領域 (CA)	14	14
	健康・スポーツ領域 (CH)	2	2
	語学領域 (CL) (英語2＋初習語学4)	6	6
	計	22	22
教育創成科目		11	11
教育基礎科目	教育の基礎的理解に関する科目(EB)	12	12
	道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目(EM)	10	10
	教育実践に関する科目(EP)	11	11
	計	33	33
専攻科目	小学校の教科に関する専門的事項(SP)	5	5
	教科の指導法(ST)	20	20
	教育内容科目(SE)	2	2
	必修科目(S)	30	30
	選択科目A (SA)	8	8
	選択科目B (SB)		
	卒業研究 (SZ)	4	4
	計	69	69
自由選択 ※ p.3 参照		1	1
合計		136	136

養護教育専攻(D類)

科目等 ＼ コース		養護教育
教養科目	総合学芸領域 (CA)	14
	健康・スポーツ領域 (CH)	2
	語学領域 (CL) (英語2＋初習語学4)	6
	計	22
教育創成科目		11
教育基礎科目	教育の基礎的理解に関する科目(EB)	12
	道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目(EM)	10
	教育実践に関する科目(EP)	7
	計	29
専攻科目	教育内容科目(SE)	4
	必修科目(S)	41
	選択科目A (SA)	8
	選択科目B (SB)	
	卒業研究 (SZ)	4
	計	57
自由選択 ※ p.3 参照		7
合計		126

19 卒業要件

本学に4年以上在学し，コース・プログラムごとに定める履修基準により所定の単位を修得した者について，教授会の議を経て，卒業を認定します。

学校教育教員養成課程については，更に各専攻の卒業要件として，次に掲げる教育職員免許状の取得要件を満たす必要があります。

学校教育教員養成課程の卒業要件として指定されている教育職員免許状

専攻	コース・プログラム	取得を要する免許状
初等教育	国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，家庭，英語，現代教育実践（学校教育，学校心理，国際教育，環境教育），ものづくり技術	小学校教諭一種免許状
	幼児教育	幼稚園教諭一種免許状
中等教育	国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，家庭，英語，技術，書道，情報	各コース教科に対応する中学校教諭及び高等学校教諭一種免許状 ただし，社会コースの高等学校は地理歴史又は公民のいずれか一種類とする。 技術コースの高等学校は工業とする。 書道コースの中学校は国語とする。 情報コースの中学校は数学とする。
特別支援教育	聴覚障害・言語障害系	特別支援学校教諭一種免許状（聴覚障害者）（知的障害者）（肢体不自由者）（病弱者）の4領域及び小学校教諭一種免許状
	発達障害・学習障害系	
養護教育	養護教育	養護教諭一種免許状

教育職員免許状を取得するには，教育職員免許法第5条に定める基礎資格と単位修得を要するが単位の修得方法については，さらに同法施行規則で細かく規定されている。

20 開設授業科目一覧の見方

1 開設授業科目一覧の見方

開設授業科目記載例

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考
人権教育	2	講	Ⅰ・Ⅱ			必修
中国古典文基礎	2	講	Ⅰ	漢文学		
卒業研究	④		ⅦⅧ			
ラグビー	1	実	Ⅳ【偶】	体育実技		
文字文化と書写指導	1	演	Ⅲ前後	大学独自（幼，小，中，高，養）		
医学概論	2	講	Ⅱ		社会福祉士	

2 「授業科目」欄

授業科目の正式名が記載されている。

3 「単位数」欄

授業を履修し，修得できる単位数が記載されており，「1」は半期（春学期又は秋学期）またはターム（第1～第4ターム）で1単位修得できることを示し，「④」は通年（1年間）で4単位修得できることを示す。

4 「講演実」欄

授業の形態が記載されており，「講」は講義を，「演」は演習を，「実」は実技，実験又は実習を示す。

5 「標準開設学期」欄

ア 「Ⅰ」は，1年春学期を，「Ⅱ」は1年秋学期を・・・・・「Ⅶ」は4年春学期を，「Ⅷ」は4年秋学期を示す。

イ 「Ⅰ」は，1年春学期に開設することを示す。

ウ 「Ⅰ Ⅱ」は，1年春学期から1年秋学期にかけて通年で開設することを示す。

エ 「Ⅰ・Ⅱ」は，1年春学期と1年秋学期にそれぞれ開設することを示す。

オ 「Ⅰ前」は，1年の第1ターム（春学期の前半）に開設することを示し，「Ⅱ前後」は1年の第3，4ターム（秋学期の前後半）にそれぞれ開設することを示す。

カ 「奇」は，奇数年度に開設されることを示し，「偶」は，偶数年度に開設されることを示す。

キ 「集中」は，通常の授業時間枠以外の特定時期に，集中して授業を行う科目であることを示す。

ク **授業科目は標準開設学期において履修することを原則とする。**

6 「免許法上の科目」欄

授業科目が教育職員免許法上，どの科目に該当するかが記載されている。

7 「諸資格」欄

授業科目がどの資格の取得に必要な科目かが記載されている。

8 「備考」欄

授業科目の履修上の注意等が記載されている。特定の科目区分内で必修と選択必修が混在している場合，必修科目に「●」などの記号を付して区別している。また，選択必修の中で更に詳細な選択必修を設定している場合は，「○，□，△」などの記号を付して区別している。

21
教養科目

教　養　科　目

教養科目は，教育や教科の基礎となる概念や学習技術を幅広い視点から学ぶとともに，大学生として，そして社会の中に生きる人間として，必要な教養を身につけるための科目群です。これらは，「総合学芸領域」（ＣＡ），「健康・スポーツ領域」（ＣＨ），「語学領域」（ＣＬ）の３つの領域からなり，それぞれの領域において定められた単位を修得しなければなりません。

総合学芸領域　（ＣＡ）

４つの分野

「総合学芸領域」は，後述の**必修科目**のほか，**(A)教養総合科目，(B)心理学，哲学，思想，文学，芸術，(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生，(D)自然科学・環境・情報**の４つの科目群（分野と呼びます）から構成されます。履修方法は，42ページの上段に記載されています。

総合学芸領域の科目履修

「総合学芸領域」の科目については，必ず修得しなければならない単位数は14単位（７科目）ですが，みなさんの興味と関心に従って，これ以上の単位を履修し，修得することも可能です。ただし，学校教育教員養成課程および教育支援課程いずれの場合も，「日本国憲法」（２単位），「人権教育」（２単位），「ＡＩ時代の情報」（２単位）は必修科目です。以下に記された分野ごとの解説をよく読み，履修してください。

必修科目

「日本国憲法」

我が国の憲法を学び，法の総体を知ることによって，国家と市民を理解するための科目です。

「人権教育」

人権を学び，他との違いを理解し，その権利を認め合うことを学ぶ科目です。

「ＡＩ時代の情報」

教育職員免許法上の必修科目「情報機器の操作」に対応し，教員および教育支援者として必要な情報機器の操作を題材とした実習を含んだ授業形態をとります。ただし，ワードプロセッサや表計算等のアプリケーションソフトウェアの具体的な使用方法を教授する授業ではなく，情報科学や情報技術にまつわる概念や原理を説明し，それらを履修者が深く理解したり適切かつ効果的に活用したりすることができるようになるための実習を行う科目です。

分野別科目案内

■（Ａ）教養総合科目：学びの基本を体得する

この分野には特に，大学での学びの基本的な姿勢や方法を身につけることを目的とした科目群を配しています。「学びの主体」としての自分自身やアイデンティティのあり方，学問分野を超えた「学びの技法」，みなさんの属する大学という「学びの場」の拡がり，さらにはこれからのキャリアを形成していく上での「学びの戦略」を立てて実践するための，四領域の基本的な科目群です。これらの履修を通じて，それぞれが大学での学びの足場を固めることが期待されています。

■（B）心理学，哲学，思想，文学，芸術：人間存在の根源を探究する

この分野には主に心理学・哲学・思想・文学・芸術といった，人間の存在や営みについて深めるタイプの科目群を配しています。「人とは何か」「人の知的営為はどうなされるのか」「言語と思考様式はどのように関わるか」「人は何故に美を感じるのか」「文学はどのように世界と関わるのか」等々，みずみずしい感性を持つ学生時代に，これらの科目の履修を通して，自分なりの人間観・世界観を育んでいくことが期待されています。

■（C）生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生：社会構造・原理を探究する

この分野には主にいわゆる社会科学系の諸科目に加え，生活文化や歴史，地域文化，多文化共生等に関わる，社会の多様性や広がりを知るタイプの科目群を配しています。国際化の進展が著しい現在は，多様な言語・社会・文化を有する人間の相互理解が求められています。多様で多彩な社会・文化を構造的に理解することは，幅広い世界観・人生観を育むことにつながります。そうしたものの見方を基に，身の回りの生活に関することがらを捉え直すことが，これらの科目の履修を通して期待されています。

■（D）自然科学・環境・情報：自然界の原理を探究する

この分野には，狭義の自然科学にとどまらず，環境や情報といった広領域の分野も含め，世界の様々な事象を科学的に解明するタイプの科目群を配しています。われわれの生きる地球や，それを取り巻く環境，そこにある様々な物質はどのような組成を持ち，どのように相互に関連しているのか。そしてそれらをどのように情報として捉え，分析していくのか。こうしたものの見方を身につけ，今後の持続可能な目標をともに考えていく基礎を養うことが，これらの科目の履修を通して期待されています。

外国人留学生短期プログラム科目（英語による授業について）

本学では，短期で来日する留学生のために英語による科目が開設されています（Global Japan Studies = GJS）。その中のいくつかの授業がこの「総合学芸領域」として，日本人の学部生との共修科目に設定されています。同じトピックに対しても見方・考え方の異なる留学生たちと一緒の授業の中で学ぶことを通して，単なる交流や語学力の伸張だけでなく，グローバルな視野を身につける機会として積極的に活用してください。

健康・スポーツ領域　（ＣＨ）

「健康・スポーツ領域」とは

健康・スポーツ領域は，知性，感性，身体性の統合的な教育によって教養を深めようとする「共通科目」の理念を実現するために設けられました。「健康・スポーツ領域」の授業を履修することによって，身体にかかわる教養と技能を身につけ，現在の大学生活の充実を図ることができます。この身体的教養と技能とは，次のようなことを意味しています。

・スポーツ文化に対する深い認識

・生活の場で積極的に運動やスポーツに取り組む態度

・良好な人間関係を作り出す能力

・大学生として必要な自己健康管理能力

・生涯にわたる健康つくりや管理に関する知識と技能

このような教養や技能を培うことによって有為な社会人，さらに教育者・指導者として基礎的な素養を身につけることをこの領域の大きなねらいとしています。

「健康・スポーツ領域」のねらいと性格

基礎的な「生涯スポーツ」の理論と実践の場を提供する授業です。これらの授業を通じて，基礎的な体力の向上や運動・スポーツ技術の学習，また体力科学を中心とした幅広いスポーツ，身体についての基礎知識を身につけることを主な目的としています。

このため，これらの授業は学校教育教員養成課程の学生だけではなく，教育支援課程の学生に対しても必修として位置づけられています。教員免許の取得希望の有無にかかわらず，全学生は必ず指定された学期にこれらの科目を履修してください。このコースは履修学生の定員と施設を考慮して開設してありますので，やむを得ず再履修をしなければいけない学生を除いて，指定された学期以外での履修はできません。

このコースには原則として実技である「スポーツ・フィットネス実習」，理論である「ウェルネス概論」がそれぞれ開設されています。

「スポーツ・フィットネス実習」

「スポーツ・フィットネス実習」は，半期の定期コースと集中コースから構成されています。クラスに指定された標準的な科目の中から，自分の希望する内容の実習を自由に選択することができます。（受講希望者の人数によっては調整することもあります。）

受講希望の抽選は最初のオリエンテーション時に行いますので，必ず出席してください。

心身に何らかの障害がある場合や，病気や怪我のため，「スポーツ・フィットネス実習」を他の学生と同じプログラムで参加が困難な学生には，特別なプログラムを用意しています。

「ウェルネス概論」

「ウェルネス概論」では，「ウェルネス」という考え方，すなわち「各人がそのライフスタイルを自己変容することにより効率的で，生産性の高い生活を営むことを不断に目指すこと」を理論的に理解し，実践できることをねらいとしています。具体的には，個人のライフスタイルに影響を与える構成要素である運動，食生活，休養，ストレス等とライフスタイルとの関係を明らかにするとともに，健全なライフスタイルの形成に向けて身体的，知的，情緒的，精神的，社会的な側面で積極的に取り組むための方法や知識の講義が行われます。

「ウェルネス概論」においても「スポーツ・フィットネス実習」同様に，指定された時間枠内で異なった内容の講義が開講されていますので，自分の希望に合った内容の講義を選択し履修します。「スポーツ・フィットネス実習」とは異なり全体でのオリエンテーションは行いませんので，直接希望する教室に最初の授業から参加してください。

語学領域 （ＣＬ）

必修科目

英語コミュニケーション

「英語コミュニケーションA」

「英文を音読して，訳して終わり」では本当に英語を使ったことにはなりません。この科目では英語で読んだり聞いたりして得た情報について簡単な英語で口頭発表できるようになることを目指します。コミュニケーションの重要さが叫ばれる昨今ですが，まず英語で情報を得るということが大切です。いきなり英語で口頭発表となると日本語から訳してしまいがちです。情報を得たら，それをまとめて英語で発表，簡単なスピーチをすることが大切です。

「英語コミュニケーションB」

この科目では英語で得た情報をもとにクラスメートとの意見の交換を行えるようにします。まず英語で情報を得ることで始まる点は「英語コミュニケーションA」と変わりませんが，この科目では，一方的に口頭発表するだけではなく，クラスメートの発表を聞いてどう思うかなどの意見交換をします。

初習語学

今日の多言語多文化社会において，世界のさまざまな国の人々と互いに理解し合うためには，「ことば」がとても重要なアイテムとなります。また，いろいろな国から来られた多くの留学生も本学で学んでいます。本学では，英語はもちろんのこと，英語以外の外国語教育にも力を入れています。皆さんは，初めて学ぶ英語以外の外国語（初習語学）として，**ドイツ語，フランス語，中国語，コリア語，イタリア語，スペイン語**を１年次で履修することができます。「ことば」の力を大いに活用して，大学生活，研究活動，そして就職へとつなげていくことを期待します。

「〇〇語基礎Ⅰ」
主に発音から学び，初級文法や簡単な会話を学びます。
「〇〇語基礎Ⅱ」
「聞く・話す・読む・書く」ための基礎的な力を総合的に養います。
「〇〇語基礎Ⅲ」
基礎Ⅰ・基礎Ⅱをベースとして，中級レベルの文法や会話などを学びます。
「〇〇語基礎Ⅳ」
「聞く・話す・読む・書く」ための総合的なレベルアップを行います。

選択科目

英語

■トピック別科目
「メディア英語Ａ・Ｂ」
新聞，ニュース誌，テレビ，インターネット，テレビドラマ，映画などを用いて，メディアで使われる英語表現を習得します。

■技能別科目
「英語リーディングＡ・Ｂ」
さまざまな題材を用い，英語リーディング能力を養います。
「英語リスニング&スピーキングＡ・Ｂ」
リスニング，スピーキングを中心に，英語の実践的コミュニケーション能力を養います。
「上級英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」
ディベートを含むオーラルコミュニケーション能力を高めます。
「上級英語ライティングⅠ・Ⅱ」
高度な英語の文章や英語の論文を書く訓練を行います。

■集中演習
「英語集中演習Ａ・Ｂ・Ｃ」
文法や和訳はさんざん学んだけれど，英語を実際にある期間集中して使ってみる機会がない，使ってみたくてうずうずしている。そんな人いますよね。そういう人たちに最適なのがこの科目です。１年分の演習を夏や秋の休暇中，１週間から10日間集中して行います。授業は少人数制で，内容は，英語の歌あり，ゲームあり，ディベート，ディスカッションあり，と盛りだくさんです。集中的に英語にどっぷり浸って，いつの間にか英語に慣れてしまいましょう。文法や発音の間違いなんか気にする必要はちっともありません。言いたいことを片言の英語でいいから相手に伝えましょう。このコースの後には充実した達成感と心地よい疲労感があるはずです。「英語集中演習Ａ」は上級レベル，「英語集中演習Ｂ・Ｃ」は中級レベルです。

選択外国語

初習語学を履修したのち，語学力のブラッシュアップのために，２年次に以下の科目を履修することができます。ただし，ドイツ語・フランス語・中国語・コリア語のみの開設となりますので，ご注意下さい。

■ドイツ語･フランス語･中国語･コリア語

「○○語コミュニケーションＡⅠ・ＡⅡ・ＢⅠ・ＢⅡ」

日常的な会話や表現を学びます。

「○○語表現」

高度な会話能力や表現能力を養います。

「○○語プレゼンテーション」

高度なプレゼンテーション能力を養います。

○語学技能検定に関する単位の認定について

大学以外の教育施設等における学修において一定以上の級・スコアを有している者は，**所定の手続き（単位認定申請）により，**本学の授業科目の単位として認定することができる。
申請希望者は，下記の申請期間内に申請してください。

申請期間：　春学期　　４月１日～　４月末日
　　秋学期　１０月１日～１０月末日

【注意事項】
・申請期間及び申請方法は学芸ポータルで周知します。期限を過ぎたものは一切受付けないので注意してください。
・休学期間中は，申請および認定を受けることはできません。

<table>
<tr><th colspan="3">大学以外の教育施設等における学修の種類及び級・資格等</th><th>履修したとみなす授業科目
及び認定する単位数</th></tr>
<tr><td colspan="2">実用英語技能検定（(公財)日本英語検定協会）</td><td>2級以上</td><td rowspan="5">以下科目の1単位まで
・英語コミュニケーションA
または
・英語コミュニケーションB</td></tr>
<tr><td rowspan="3">TOEFL
（Educational Testing Service）</td><td>Paper-Based Test</td><td>480点以上</td></tr>
<tr><td>Computer-Based Test</td><td>157点以上</td></tr>
<tr><td>Internet-Based Test</td><td>54点以上</td></tr>
<tr><td>TOEIC
（Educational Testing Service）</td><td>Listening & Reading Test</td><td>600点以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">IELTS</td><td>5.0以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">実用英語技能検定（(公財)日本英語検定協会）</td><td>準1級
1次試験
合格以上</td><td rowspan="6">以下科目の2単位まで
・英語コミュニケーションA
・英語コミュニケーションB
及び以下科目の2単位まで
・メディア英語A
・メディア英語B
・英語リーディングA
・英語リーディングB
・英語ﾘｽﾆﾝｸﾞ&ｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞA
・英語ﾘｽﾆﾝｸﾞ&ｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞB
・英語集中演習A
・英語集中演習B
・英語集中演習C
・上級英語コミュニケーションⅠ
・上級英語コミュニケーションⅡ
・上級英語ライティングⅠ
・上級英語ライティングⅡ
の合計4単位まで</td></tr>
<tr><td>TOEFL
（Educational Testing Service）</td><td>Internet-Based Test（IBT）</td><td>80点以上</td></tr>
<tr><td>TOEIC
（Educational Testing Service）</td><td>Listening & Reading Test</td><td>730点以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">IELTS</td><td>6.0以上</td></tr>
</table>

大学以外の教育施設等における学修の種類及び級・資格等		履修したとみなす授業科目 及び認定する単位数
漢語水平考試（HSK） ((一社)日本青少年育成協会　HSK日本実施委員会)	5級 (195点) 以上	中国語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 4単位まで
中国語検定 ((一財)日本中国語検定協会)	2級以上	
韓国語能力試験 ((公財)韓国教育財団)	TOPIK Ⅰ (初級)の 2級以上	コリア語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 4単位まで
ハングル能力検定試験 (NPO法人ハングル能力検定協会)	4級以上	
ドイツ語技能検定試験 ((公財)ドイツ語学文学振興会)	2級以上	ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 4単位まで
Goethe-Zertifikat (ゲーテ・インスティトゥート ドイツ語検定試験)	B1以上	
ÖSD: Das Österreichische Sprachdiplom Deutsch オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験	B1以上	
実用フランス語技能検定試験 ((公財)フランス語教育振興協会)	2級以上	フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 4単位まで
DELF：Diplôme d' Etudes en Langue Française (フランス国民教育省フランス語学力資格試験) （アンスティチュ・フランセ日本）	B1以上	
TEF：Test d' Evaluation de Français (パリ商工会議所フランス語能力認定試験) ((株) 日仏文化協会)	レベル3 以上	
TCF：Test de Connaissance du Français (フランス国民教育省フランス語学力試験) （アンスティチュ・フランセ日本）	レベル3 以上	

21 教養科目

教養科目は，各領域で定められた修得単位数を含め，学校教育教員養成課程，教育支援課程共に合計で**22単位以上**を履修する。

① 総合学芸領域（CA）

①下記の授業科目から，**日本国憲法2単位，人権教育2単位，AI時代の情報2単位の計6単位**を含め，更に(A)～(D)までの各分野2単位，計8単位を含めて**14単位以上**修得する。
②留学生は，総合学芸領域の全ての授業科目の中から，**日本国憲法2単位，人権教育2単位，AI時代の情報2単位の計6単位**を含めて**14単位以上**修得する。
③外国人留学生短期プログラム科目（短プロ）は，英語で授業が行われる。

（総合学芸領域）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	分野等	備考
日本国憲法	2	講	Ⅰ・Ⅱ	日本国憲法		**必修**
人権教育	2	講	Ⅰ・Ⅱ			**必修**
AI時代の情報	2	講	Ⅰ	情報機器の操作		**必修**
学芸フロンティア科目A	2	講	Ⅰ		(A)教養総合科目	
学芸フロンティア科目B	2	講	Ⅰ		(A)教養総合科目	
学芸フロンティア科目C	2	講演	Ⅰ(集中)		(A)教養総合科目	
学芸フロンティア科目D	2	講	Ⅱ		(A)教養総合科目	
学芸フロンティア科目E	2	講演	Ⅰ(集中)		(A)教養総合科目	
学芸フロンティア科目F	2	講演	Ⅱ		(A)教養総合科目	
学芸フロンティア科目G	2	講	Ⅱ		(A)教養総合科目	
学芸フロンティア科目H	2	講	Ⅱ		(A)教養総合科目	
学芸フロンティア科目I	2	講	Ⅰ		(A)教養総合科目	
学芸フロンティア科目J	2	演	Ⅱ(集中)		(A)教養総合科目	
学芸フロンティア科目K	2	講	Ⅱ		(A)教養総合科目	
学芸フロンティア科目L	2	講	Ⅰ		(A)教養総合科目	
学芸フロンティア科目M	2	講	Ⅱ		(A)教養総合科目	
学芸フロンティア科目N	2	講演	Ⅰ		(A)教養総合科目	
学芸フロンティア科目O	2	講演	Ⅰ		(A)教養総合科目	
学芸フロンティア科目P	2	講演	Ⅱ		(A)教養総合科目	
学芸フロンティア科目Q	2	講演	Ⅰ		(A)教養総合科目	

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	分野等	備考
多文化共修科目A	2	演	I		(A)教養総合科目	
Cross-cultural Communication through Expressive Arts	2	演	I		(A)教養総合科目	短プロ
心と科学	2	講	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
発達と障害の心理	2	講	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
ことばと社会	2	講	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
近代文学	2	講	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
古典文学	2	講	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
中国文化	2	講	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
哲学入門	2	講	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
ワークショップの技法	2	演	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
合唱の楽しみ(管弦楽と共に)	2	演	II		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
管弦楽の楽しみ(合唱と共に)	2	演	II		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
クラシック音楽の諸相	2	講	III		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
視覚芸術と社会	2	演	III		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
宗教と社会	2	講	II		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
心と健康	2	講	II		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
多文化共修科目B	2	講	II		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
Japanese Arts and Crafts	2	演	IV		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	短プロ
Psychology of the Japanese	2	講	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	短プロ
Introduction to Psychology	2	講演	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	短プロ
Traditional Performing Arts of Japan	2	講演	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	短プロ
Japanese Literature	2	講	II		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	短プロ
ボランティアとNPO・NGO	2	講	II		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	
ジェンダーと日本社会	2	講	I		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	
地域・文化・環境から読む世界	2	講	I		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	
歴史と社会・文化	2	講	I		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	分野等	備考
国際関係論入門	2	演	Ⅰ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	
現代の経済	2	講	Ⅰ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	
現代社会の諸問題	2	講	Ⅱ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	
コマーシャルを考える	2	演	Ⅲ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	
生活習慣病予防と運動・スポーツ	2	講	Ⅰ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	
女性のための保健概論	2	講	Ⅱ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	
民俗学	2	講	Ⅲ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	
日本文化論と社会	2	講	Ⅰ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	
人間と文化	2	講	Ⅳ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	
子どもの権利と現代社会	2	講	Ⅲ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	
多文化共修科目C	2	演	Ⅰ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	
多文化共修科目D	2	演	Ⅱ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	
多文化共修科目E	2	演	Ⅰ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	
多文化共修科目F	2	演	Ⅱ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	
Cultural Studies A	2	演	Ⅰ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	短プロ
Cultural Studies B	2	演	Ⅱ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	短プロ
Sports in Japan	2	講	Ⅱ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	短プロ
Cultural Diversity of Japan A	2	演	Ⅲ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	短プロ
Cultural Diversity of Japan B	2	演	Ⅳ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	短プロ
Contemporary Society in Japan	2	講	Ⅰ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	短プロ
Multicultural Education in Japan	2	講	Ⅳ		(C)生活・地域文化，歴史，社会，多文化共生	短プロ
学校園の基礎と展開	2	講	Ⅳ		(D)自然科学・環境・情報	
気候変動と社会	2	講	Ⅱ		(D)自然科学・環境・情報	
自然と数理A	2	講	Ⅰ		(D)自然科学・環境・情報	
自然と数理B	2	講	Ⅱ		(D)自然科学・環境・情報	
数理の世界A	2	講	Ⅰ		(D)自然科学・環境・情報	
数理の世界B	2	講	Ⅱ		(D)自然科学・環境・情報	

授 業 科 目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	分野等	備考
物質とエネルギーの物理法則	2	講	Ⅰ		(D)自然科学・環境・情報	
身近な現象と化学	2	講	Ⅱ		(D)自然科学・環境・情報	
生物学へのいざない	2	講	Ⅱ		(D)自然科学・環境・情報	
宇宙と地球と人間	2	講	Ⅰ		(D)自然科学・環境・情報	
コンピュータ・ネットワーク	2	演	Ⅱ		(D)自然科学・環境・情報	
コンピュータ・アート	2	演	Ⅲ		(D)自然科学・環境・情報	
コンピュータ・プログラミング	2	講演	Ⅱ		(D)自然科学・環境・情報	
メディアリテラシー	2	演	Ⅲ		(D)自然科学・環境・情報	
Webコンピューティング	2	講演	Ⅳ		(D)自然科学・環境・情報	
Webパブリッシング	2	講演	Ⅱ		(D)自然科学・環境・情報	
科学技術と環境	2	講	Ⅱ		(D)自然科学・環境・情報	
Traditional Japanese Practices	2	講	Ⅳ		(D)自然科学・環境・情報	短プロ
Issues of Global Environment	2	講	Ⅰ（集中）		(D)自然科学・環境・情報	短プロ

② 健康・スポーツ領域（CH）

下記の授業科目は必修なので，2単位を必ず修得する。

（健康・スポーツ領域）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考
ウェルネス概論	1	講	Ⅰ	体育	**必修**
スポーツ・フィットネス実習	1	実	Ⅰ・Ⅱ	体育	**必修**

③ 語学領域（CL）

「英語コミュニケーションA・B」の2単位及び初習語学「○○語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（同一言語）の4単位の計6単位を必ず修得する。
留学生は，すべての語学領域から「英語コミュニケーションA・B」の2単位を含め6単位以上を修得する。
日本語を母語としない留学生は，初習語学（○○語基礎）の履修について，自身にとっての「外国語」に限るものとし，自身の母語及び自身が受けてきた高等学校までの学校教育における教授言語を履修することは認めない。

（語学領域）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	履修区分
英語コミュニケーションA	1	演	Ⅰ・Ⅱ	外国語コミュニケーション	**必修**
英語コミュニケーションB	1	演	Ⅰ・Ⅱ	外国語コミュニケーション	**必修**
ドイツ語基礎Ⅰ	1	演	Ⅰ		初習語学
ドイツ語基礎Ⅱ	1	演	Ⅱ		初習語学
ドイツ語基礎Ⅲ	1	演	Ⅲ		初習語学
ドイツ語基礎Ⅳ	1	演	Ⅳ		初習語学
フランス語基礎Ⅰ	1	演	Ⅰ		初習語学
フランス語基礎Ⅱ	1	演	Ⅱ		初習語学
フランス語基礎Ⅲ	1	演	Ⅲ		初習語学
フランス語基礎Ⅳ	1	演	Ⅳ		初習語学
中国語基礎Ⅰ	1	演	Ⅰ		初習語学
中国語基礎Ⅱ	1	演	Ⅱ		初習語学
中国語基礎Ⅲ	1	演	Ⅲ		初習語学
中国語基礎Ⅳ	1	演	Ⅳ		初習語学
コリア語基礎Ⅰ	1	演	Ⅰ		初習語学
コリア語基礎Ⅱ	1	演	Ⅱ		初習語学
コリア語基礎Ⅲ	1	演	Ⅲ		初習語学
コリア語基礎Ⅳ	1	演	Ⅳ		初習語学
イタリア語基礎Ⅰ	1	演	Ⅰ		初習語学
イタリア語基礎Ⅱ	1	演	Ⅱ		初習語学
イタリア語基礎Ⅲ	1	演	Ⅲ		初習語学
イタリア語基礎Ⅳ	1	演	Ⅳ		初習語学
スペイン語基礎Ⅰ	1	演	Ⅰ		初習語学
スペイン語基礎Ⅱ	1	演	Ⅱ		初習語学
スペイン語基礎Ⅲ	1	演	Ⅲ		初習語学
スペイン語基礎Ⅳ	1	演	Ⅳ		初習語学

（選択外国語）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	履修区分
メディア英語A	1	演	Ⅰ		選択
メディア英語B	1	演	Ⅱ		選択
英語リーディングA	1	演	Ⅰ		選択
英語リーディングB	1	演	Ⅱ		選択
英語リスニング＆スピーキングA	1	演	Ⅰ		選択
英語リスニング＆スピーキングB	1	演	Ⅱ		選択
上級英語コミュニケーションⅠ	1	演	Ⅲ		選択
上級英語コミュニケーションⅡ	1	演	Ⅳ		選択
上級英語ライティングⅠ	1	演	Ⅲ		選択
上級英語ライティングⅡ	1	演	Ⅳ		選択
英語集中演習A	2	演	Ⅰ(集中)		選択
英語集中演習B	2	演	Ⅰ(集中)		選択
英語集中演習C	2	演	Ⅰ(集中)		選択
ドイツ語コミュニケーションAⅠ	1	演	Ⅲ奇		選択
ドイツ語コミュニケーションAⅡ	1	演	Ⅳ奇		選択
ドイツ語コミュニケーションBⅠ	1	演	Ⅲ偶		選択
ドイツ語コミュニケーションBⅡ	1	演	Ⅳ偶		選択
ドイツ語表現	1	演	Ⅳ		選択
ドイツ語プレゼンテーション	1	演	Ⅲ		選択
フランス語コミュニケーションAⅠ	1	演	Ⅲ奇		選択
フランス語コミュニケーションAⅡ	1	演	Ⅳ奇		選択
フランス語コミュニケーションBⅠ	1	演	Ⅲ偶		選択
フランス語コミュニケーションBⅡ	1	演	Ⅳ偶		選択
フランス語表現	1	演	Ⅳ		選択
フランス語プレゼンテーション	1	演	Ⅲ		選択
中国語コミュニケーションAⅠ	1	演	Ⅲ奇		選択
中国語コミュニケーションAⅡ	1	演	Ⅳ奇		選択
中国語コミュニケーションBⅠ	1	演	Ⅲ偶		選択
中国語コミュニケーションBⅡ	1	演	Ⅳ偶		選択
中国語表現	1	演	Ⅳ		選択
中国語プレゼンテーション	1	演	Ⅲ		選択
コリア語コミュニケーションAⅠ	1	演	Ⅲ奇		選択
コリア語コミュニケーションAⅡ	1	演	Ⅳ奇		選択
コリア語コミュニケーションBⅠ	1	演	Ⅲ偶		選択
コリア語コミュニケーションBⅡ	1	演	Ⅳ偶		選択
コリア語表現	1	演	Ⅳ		選択
コリア語プレゼンテーション	1	演	Ⅲ		選択

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	履修区分
多言語多文化A	2	講	Ⅲ		選択
多言語多文化B	2	講	Ⅲ		選択
多言語多文化C	2	講	Ⅳ		選択
多言語多文化D	2	講	Ⅳ		選択

22
教育創成科目

教　育　創　成　科　目

教育創成科目は、教育の様々な課題について先端的な内容を学ぶ科目です。本科目は学校教育教員養成課程と教育支援課程を横断し、学校教育にフォーカスしたⅠ群と学校内外の教育課題に関わるⅡ群からなります。学校教育教員養成課程、教育支援課程のいずれの学生もⅠ群、Ⅱ群から科目を履修することにより（学校教育教員養成課程においては必修科目６単位に加えて、**Ⅰ群:3単位、Ⅱ群:2単位**の修得が必要です)、２つの課程を橋渡しします。

また、教育創成科目は本学が設定した、目標とする「人材像」と、それに紐づくこれからの教師に必要な５つの「資質能力」に分類されています（以下の表を参照)。「自律型カリキュラムデザイン（P. 19～20 を参照)」により、各自の履修計画をたてる際には各科目が対応する資質能力を参考にしてください。なお、**資質能力別に修得が必要な単位数の定めはなく、①～⑤の資質能力の科目を満遍なく履修することも、特定の資質能力の科目を重点的に履修することも可能です。**

《本学が設定する２つの「人材像」と、５つの「資質能力」に対応する教育創成科目一覧》

目標		変化が激しく予測困難な時代へ対応できる力と新たな価値を創造できる力を子供に育成することができる教育者		学校や社会をより良くするために教育者自身がどのような力を身に付けるべきか		
資質能力		**①「探究力、創造力、他者・社会と協働できる力」を育成する力**	**②子供が置かれている多様な環境への対応力**	**③学び続けるために自己をマネジメントする力**	**④学校教育のより良い変革に資する基盤となる探究力、創造力**	**⑤学校内での協働・社会との連携をマネジメントする力**
キーワード		・(子供の)探究力 ・(子供の)創造力 ・主体性 ・STEAM 教育	・外国人児童生徒 ・障害者への支援 ・適応力 ・いじめ、不登校 ・教育の機会均等	・教師の働き方 ・自己マネジメント ・学び続ける教師 ・学校、学級経営	・(教師の)探究力 ・(教師の)創造力 ・ICT ・最先端技術 ・世界の教育	・地域連携 ・チーム学校 ・学校安全 ・教育支援
教育創成科目	必修科目	★社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン ★学びを支えるファシリテーションの技法	★チーム学校と多職種協働（貧困や虐待など、子供の現状）	★教師のレジリエンスと自己管理能力の育成	★教育のためのデータサイエンス	★チーム学校と多職種協働(連携のための効果的なマネジメント)
	選択科目（点線で区切られた上段がⅠ群、下段がⅡ群）	・学校教育における SDGs ・教育評価の理論と実践 ・環境と教育実践 ・エコスクール論 ・地域の環境観測とその実践 ・子どもの遊びと生活 ・板書指導と手書き文字 ・学校におけるプログラミング教育 ・遊びと発育・発達 ・学校図書館で深める主体的な学びのデザイン ・ Lesson Study in Japan --- ・国際バカロレア教育と探究学習の視点 ・自然体験学習論	・いじめ・不登校と変化する社会 ・現代の学校と外国人児童・生徒 ・外国人児童生徒への日本語教育 ・文字文化と書写指導 ・不平等と教育 ・特別ニーズと教育 ・インクルーシブ教育とユニバーサルデザイン --- ・こどもの学び困難と教育支援 ・子ども社会学 ・国際理解教育論 ・文化間移動と子どもの学び ・Education for Multicultural Children	・未来の学校をみんなで創る ・現代の学校をめぐる諸課題と教育行政 A、B ・教師の省察的実践のための教育思想 ・現代学校論 ・教室集団の人間関係 ・学級経営論 ・学校経営のための教育経営・教育政策 ・Education in Japan（A)、(B) --- ・教員・教育支援者のメンタルケアの基礎理論	・教育の情報化基礎 --- ・Edtech と最先端技術の活用 ・教育のための情報セキュリティ ・教育のための情報倫理・法 ・教育のための紙面編集 ・教育のための映像編集 ・教育開発と教育協力 ・世界の教育多様性 ・外国の教育（A)、(B)	・学校保健・衛生管理とマネジメントサイクル ・教職基礎としての子供の安全 ・学校教育と地域連携 --- ・学校教育とスクールソーシャルワーク ・学社連携と児童・生徒 ・現代の教育課題と文化遺産 ・教育支援とカウンセリング ・地域スポーツと部活動 ・子供の学びを支えるエコシステム

22 教育創成科目(EC)

①「備考」欄に記載された必修6単位を必ず履修し,「区分」欄の「Ⅰ群」から3単位以上,「Ⅱ群」から2単位以上, 合計11単位以上履修すること。(必修, Ⅰ群, Ⅱ群以外の科目を履修した場合, 自由選択の単位となるため注意。)
②外国人留学生短期プログラム科目(「備考」欄に"短プロ"と記載)は, 英語で授業が行われる。

(教育創成科目)

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	区分	備考
授業観察演習	1	演	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自		必修
社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン	1	講	Ⅴ前後	(幼*, 小*, 中*, 高*, 養) 大学独自		必修
学びを支えるファシリテーションの技法	1	講演	Ⅴ前後	(幼*, 小*, 中*, 高*, 養) 大学独自		必修
チーム学校と多職種協働	1	講	Ⅵ前後	(幼*, 小*, 中*, 高*, 養) 大学独自		必修
教師のレジリエンスと自己管理能力の育成	1	講	Ⅵ前後	(幼*, 小*, 中*, 高*, 養) 大学独自		必修
教育のためのデータサイエンス	1	講	Ⅲ前後	(幼*, 小*, 中*, 高*, 養) 大学独自		必修
学校教育における SDGs	1	講	Ⅳ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
教育評価の理論と実践	1	講	Ⅴ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
環境と教育実践	1	講演	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
エコスクール論	1	講	Ⅳ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
地域の環境観測とその実践	1	講	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
子どもの遊びと生活	1	講	Ⅱ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
板書指導と手書き文字	1	演	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
学校におけるプログラミング教育	1	講	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
遊びと発育・発達	1	講	Ⅱ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
学校図書館で深める主体的な学びのデザイン	1	講	Ⅱ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
Lesson Study in Japan	2	講演	Ⅴ	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	短プロ
いじめ・不登校と変化する社会	1	講	Ⅳ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
現代の学校と外国人児童・生徒	1	講	Ⅱ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
外国人児童生徒への日本語教育	1	講演	Ⅱ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
文字文化と書写指導	1	演	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
不平等と教育	1	講演	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
特別ニーズと教育	1	講	Ⅱ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
インクルーシブ教育とユニバーサルデザイン	1	講	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
未来の学校をみんなで創る	1	講	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
現代の学校をめぐる諸課題と教育行政A	1	講	Ⅱ前	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
現代の学校をめぐる諸課題と教育行政B	1	講	Ⅱ後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	

*…「授業観察演習」を除く必修科目5科目については,他の教育創成科目と幼稚園・小学校・中学校・高等学校における免許法上の取扱いが異なる。詳細はp.163参照。

（教育創成科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	区分	備考
教師の省察的実践のための教育思想	1	講	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
現代学校論	1	講	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
教室集団の人間関係	1	講	Ⅳ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
学級経営論	1	講	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
学校経営のための教育経営・教育政策	1	講	Ⅳ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
Education in Japan (A)	2	講	Ⅵ	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	短プロ
Education in Japan (B)	2	講	Ⅳ	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	短プロ
教育の情報化基礎	1	講	Ⅱ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
学校保健・衛生管理とマネジメントサイクル	1	講	Ⅳ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
教職基礎としての子供の安全	1	講	Ⅱ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
学校教育と地域連携	1	講	Ⅳ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
国際バカロレア教育と探究学習の視点	1	講演	Ⅳ前後		Ⅱ群	
自然体験学習論	1	講	Ⅳ前後		Ⅱ群	
こどもの学び困難と教育支援	1	講	Ⅱ前後		Ⅱ群	
子ども社会学	1	講	Ⅲ前後		Ⅱ群	
国際理解教育論	1	講	Ⅳ前後		Ⅱ群	
文化間移動と子どもの学び	1	講	Ⅲ前後		Ⅱ群	
Education for Multicultural Children	2	講	Ⅲ		Ⅱ群	短プロ
教員・教育支援者のメンタルケアの基礎理論	1	講	Ⅴ前後		Ⅱ群	
Edtech と最先端技術の活用	1	講	Ⅳ前後		Ⅱ群	
教育のための情報セキュリティ	1	講	Ⅳ前後【偶】		Ⅱ群	
教育のための情報倫理・法	1	講	Ⅳ前後【奇】		Ⅱ群	
教育のための紙面編集	1	講実	Ⅲ前後【偶】		Ⅱ群	
教育のための映像編集	1	講実	Ⅲ前後【奇】		Ⅱ群	
教育開発と教育協力	1	講	Ⅲ前後		Ⅱ群	
世界の教育と多様性	1	講	Ⅱ前後		Ⅱ群	
外国の教育（A）	1	講	Ⅳ前後		Ⅱ群	
外国の教育（B）	1	講	Ⅲ前後		Ⅱ群	
学校教育とスクールソーシャルワーク	1	講	Ⅱ前後		Ⅱ群	

（教育創成科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	区分	備考
学社連携と児童・生徒	1	講	Ⅲ前後			Ⅱ群	
現代の教育課題と文化遺産	1	講	Ⅱ前後			Ⅱ群	
教育支援とカウンセリング	1	講	Ⅳ前後			Ⅱ群	
地域スポーツと部活動	1	講	Ⅱ前後			Ⅱ群	
子どもの学びを支えるエコシステム	1	講	Ⅲ前後			Ⅱ群	
博物館と展示の活用	2	講演	Ⅳ		学芸員		※
学校経営と学校図書館	2	講	Ⅴ	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	司書教諭 学校司書		※
学校図書館メディアの構成	2	講	Ⅴ	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	司書教諭		※
読書と豊かな人間性	2	講	Ⅴ	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	司書教諭 学校司書		※
学習指導と学校図書館	2	講	Ⅵ	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	司書教諭 学校司書		※
情報メディアの活用	2	講	Ⅵ	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	司書教諭		※

※必修，Ⅰ群，Ⅱ群のいずれにも属さない科目を履修した場合，自由選択の単位となるため注意。

23
教育基礎科目

①教育の基礎的理解に関する科目(EB)
②道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目(EM)
③教育実践に関する科目(EP)
④教職に関する科目〔選択〕

23 教育基礎科目

① 教育の基礎的理解に関する科目（EB）

a 教職の意義及び教員の役割・職務内容

下記の授業科目は必修なので，A・B・C・D類の学生は2単位を必ず修得する。

（教育基礎科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
教職入門	2	講	Ⅱ	教職の意義及び教員の役割・職務内容	スクールソーシャルワーカー	A・B・C・D類対象

b 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

下記の授業科目は必修なので，A・B・C・D類の学生は2単位を必ず修得する。

（教育基礎科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
教育の理念と歴史	2	講	Ⅰ・Ⅱ	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	学校司書	A・B・C・D類対象

c 教育に関する社会的，制度的又は経営的事項

下記の授業科目は必修なので，A・B・C・D類の学生は2単位を必ず修得する。

（教育基礎科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
教育組織論	2	講	Ⅰ・Ⅱ	教育に関する社会的，制度的又は経営的事項	スクールソーシャルワーカー	A・B・C・D類対象

d 幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

下記の授業科目は必修なので，A・B・C・D類の学生は2単位を必ず修得する。

（教育基礎科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
教育心理学	2	講	Ⅲ	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	学校司書 スクールソーシャルワーカー	A・B・C・D類対象

e 特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解

下記の授業科目は必修なので，対象により2単位を必ず修得する。

（教育基礎科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
特別支援教育の理解	2	講	Ⅰ・Ⅱ	特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解	学校司書 スクールソーシャルワーカー	A・B・D類対象
特別な教育的ニーズの理解と支援	2	講	Ⅴ	特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解	学校司書 スクールソーシャルワーカー	C類対象

f 教育課程の意義及び編成の方法

下記の授業科目は必修なので，対象により2単位を必ず修得する。

（教育基礎科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
保育・幼児教育課程総論	2	講	Ⅴ	教育課程の意義及び編成の方法		A類幼対象
教育課程の理論と実践	2	講	Ⅳ	教育課程の意義及び編成の方法	学校司書	A・B・C・D類対象 （A類幼除く）

② 道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目（EM）

a 道徳の理論及び指導法

下記の授業科目はA（幼児教育コースを除く）・B・C・D類の必修なので，2単位を必ず修得する。

（教育基礎科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
道徳教育の指導法	2	講	Ⅲ・Ⅳ	道徳の理論及び指導法（小・中・養） 大学が独自に設定する科目（幼・高）		A・B・C・D類対象 （A類幼除く）

b 特別活動の指導法，総合的な学習の時間の指導法

下記の授業科目はA（幼児教育コースを除く）・B・C・D類の必修なので，2単位を必ず修得する。

（教育基礎科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	特別活動の指導法，総合的な学習の時間の指導法		A・B・C・D類対象 （A類幼除く）

c 教育の方法及び技術並びに情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

下記の授業科目は必修なので，A・B・C・D類の学生は2単位を必ず修得する。

（教育基礎科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
教育の方法とＩＣＴ	2	講	Ⅳ	教育の方法及び技術並びに情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		A・B・C・D類対象

d 教育相談の理論及び方法

下記の授業科目は必修なので，A・B・C・D類の学生は2単位を必ず修得する。

（教育基礎科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
教育相談の理論と方法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	教育相談の理論及び方法	スクールソーシャルワーカー	A・B・C・D類対象

e 生徒指導の理論及び方法，進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

下記の授業科目はA（幼児教育コースを除く）・B・C・D類の必修なので，2単位を必ず修得する。

（教育基礎科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
生徒指導・進路指導の理論と方法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	生徒指導の理論及び方法，進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	スクールソーシャルワーカー	A・B・C・D類対象 （A類幼除く）

f 幼児理解の理論及び方法

下記の授業科目はA類幼児教育コースの必修科目なので，2単位を必ず修得する。

（教育基礎科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
幼児理解の理論と方法（ａ）	2	演	Ⅲ	幼児理解の理論及び方法		A類幼対象
幼児理解の理論と方法（ｂ）	2	演	Ⅲ	幼児理解の理論及び方法		※選択科目 A・B・C・D類対象 （A類幼除く）

③ 教育実践に関する科目（EP）

a 教育実習・養護実習

下記の表により，該当する専攻（コース・プログラム）に必要な教育実習の単位を修得する。

※「自己創造のための教育体験活動」は学校ボランティア等における教育体験活動を大学の単位として認定するものです。（事前事後の活動含む。）
必修ではありませんが，教育現場や子どもの現状を知る貴重な機会となるため，可能な限り履修してください。

対象		授業科目	総合単位	授業内容	期間	単位数	講演実	開設学期
学校体験（選択）	全コース対象	自己創造のための教育体験活動A	1	協力校での学校体験活動等	30時間以上	1	実	Ⅰ～Ⅲ
		自己創造のための教育体験活動B	1		30時間以上	1	実	Ⅰ～Ⅲ
		自己創造のための教育体験活動C	1		30時間以上	1	実	Ⅰ～Ⅲ
卒業要件（主免許）	A類	教育実習Ⅰ（A類）	5	事前・事後の指導（A類）	－	1	演	Ⅴ
				A：附属幼稚園・小学校での教育実地研究	3週間相当	4	実	Ⅴ
	B類	教育実習Ⅰ（B類）	5	事前・事後の指導（B類）	－	1	演	Ⅴ
				B：附属中・高・中等教育学校での教育実地研究	3週間相当	4	実	Ⅴ
	C類	教育実習Ⅰ（C類）	5	事前・事後の指導（C類）	－	1	演	Ⅴ
				C：附属小学校での教育実地研究	3週間相当	4	実	Ⅴ
		特別支援学校教育実習（C類）	4	事前・事後の指導（C特）	－	1	演	Ⅴ
				C：特別支援・ろう学校での教育実地研究	3週間	3	実	Ⅵ・Ⅶ
	D類	養護実習Ⅰ	5	事前・事後の指導（D養）	－	1	演	Ⅴ
				D養：附属小・中・高・中等教育学校での教育実地研究	3週間相当	4	実	Ⅴ
副免許等取得希望者	B類	教育実習（選択・初等）	2	附属小学校での教育実地研究	2週間	2	実	Ⅵ
	A類・C類	教育実習（選択・中等）	2	附属中・高・中等教育学校での教育実地研究	2週間	2	実	Ⅶ
	A類・B類	特別支援学校教育実習（選択）	3	事前・事後の指導（選択・特）	－	1	演	Ⅶ
				特別支援学校での教育実地研究	2週間	2	実	Ⅶ・Ⅷ
	D類	教育実習（選択・D類）	5	事前・事後の指導（D中）	－	1	演	Ⅶ
				協力中・高・中等教育学校での教育実地研究	3週間相当	4	実	Ⅶ・Ⅷ
選択科目	A類	教育実習Ⅱ（A類）	2	A：協力幼稚園・小学校での教育実地研究	3週間	2	実	Ⅶ
	B類	教育実習Ⅱ（B類）	2	B：協力中・高・中等教育学校での教育実地研究	3週間	2	実	Ⅶ
	B類	教育実習（選択・小中）	2	B：協力中学校での教育実地研究	3週間	2	実	Ⅶ
	D類	養護実習Ⅱ	2	D養：協力小・中・高・中等教育学校での教育実地研究（養護）	3週間	2	実	Ⅶ
	D類	養護実地研究	2	附属学校又は協力学校での教育実地研究	2週間	2	実	Ⅶ
	A，B，C，D類全コース対象	研究実習	2	附属学校・協力学校での研究的実習	2週間相当	2	実	Ⅷ

＊選択科目の「自己創造のための教育体験活動A～C」及び「研究実習」は，教育職員免許法で定められた教育実習の単位とはなりません。

b 教職実践演習

下記の授業科目は必修なので，対象により2単位を必ず修得する。

（教育基礎科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
保育・教職実践演習（幼稚園）	2	演	Ⅷ	教職実践演習		A類幼
教職実践演習	2	演	Ⅷ	教職実践演習		A･B･C類（A類幼除く）
教職実践演習（養護教諭）	2	演	Ⅷ	教職実践演習		D類

【注意】

「教職実践演習」は，本学の教員養成の仕上げをする科目として位置付くものです。大学での4年間の学修を通して，教員として必要な知識・技能及び教員養成フラッグシップ大学である本学で伸ばすことが期待される資質・能力を修得したことを確認し，教員生活を円滑に始められるようにすることをねらいとしています。そのため，学校現場を実際に想定した授業内容で，学生自身の到達点と課題を具体的・明示的に確認します。

【履修にあたっての受講条件】

「教職実践演習」を履修する前年度末において，次の①②を満たしていること。

①「教育実習Ⅰ」を修得。

②①を含み99単位以上を修得。

④ 教職に関する科目〔選択〕

下記の授業科目から，必要な科目を選択履修する。（自由選択として履修します。）

（教育基礎科目：選択）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
教職コミュニケーション論	2	講	Ⅶ（集中）			次世代学校リーダー養成コース指定科目
教職教養（法規・時事）	2	講	Ⅳ			
総合インターンシップA	2	実	Ⅴ･Ⅵ			
総合インターンシップB	2	実	Ⅴ･Ⅵ			

◎教育実習の履修方法

○自己創造のための教育体験活動について

オリエンテーション→教育体験活動→報告書の作成・提出，交流会参加→単位認定 といった流れで実施します。詳細はオリエンテーションにて確認してください。オリエンテーションの日程については，学芸ポータル等でお知らせします。

○書類提出，オリエンテーション，連絡掲示について

教育実習は対外的な責任を伴う授業科目ですので，「教育実習学生調査票」や「情報管理・守秘義務等に関する誓約書」など多くの書類を事前に提出する必要があります。それらの手続の方法や教育実習の概要・心得などについては，**「オリエンテーション」を２年次より段階的に実施し説明を行います**ので，必ず参加してください。オリエンテーションの無断欠席者や必要書類の未提出者は，教育実習を行うことができませんので，十分注意をしてください。

なお，**オリエンテーションの開催連絡（日程，会場，対象者等），書類の配布・提出の連絡，実習配当校の発表などは学芸ポータル等で行いますので，日常的にチェック**する習慣を必ず身につけてください。

○「事前・事後の指導」について

「事前・事後の指導」は，「教育実地研究」，「特別支援学校実習」の前に行う「事前の指導」と，当該教育実習終了後に行う「事後の指導」からなります。

・「事前の指導」

学校現場において教育実習（養護実習）を行うための準備として行われ，学校教育の諸相や教育実習の心得，授業観察，授業設計の基礎等を指導します。

・「事後の指導」

教育実習（養護実習）を終えてからの各々の課題の整理と展開について指導します。

※注意事項

単位認定は，「事前」・「事後」併せて行います。例えば，「事後の指導」を受講しなかった場合，単位は認定されません。

「教育実地研究」，「特別支援学校実習」と同一年度に履修しなければなりません。また，「教育実地研究」，「特別支援学校実習」の単位を修得できなければ，「事前・事後の指導」の単位は認定されません。（「事前・事後の指導」の単位を修得できなければ，「教育実地研究」，「特別支援学校実習」の単位は認定されません。）

○「教育実習Ⅰ（A 類）」，「教育実習Ⅰ（B 類）」，「教育実習Ⅰ（C 類）」，「特別支援学校教育実習（C 類）」，「養護実習Ⅰ」の受講資格

１．上記実習を履修する前年度末（３月末）において 62 単位以上修得していること。

２．１．の 62 単位のうちに，以下に指定された科目・単位を含むこと。

＜初等教育専攻，中等教育専攻，特別支援教育専攻，養護教育専攻　共通＞

・授業科目「教職入門」「教育の理念と歴史」「教育組織論」の３科目６単位

＜初等教育専攻（幼児教育コースを除く），特別支援教育専攻＞

・授業科目「初等各教科教育法」の中から２科目４単位以上

＜初等教育専攻（幼児教育コース）＞

・授業科目「保育内容」の中から２科目４単位以上

＜中等教育専攻＞

・授業科目「中等各教科教育法（自専攻科目）」及び「教育の方法と ICT」の中から１科目２単位以上

※実習を行う教科が「英語」の場合は，上記に加え，以下のⅠまたはⅡの判定が必要となる。

Ⅰ：【修得済み授業科目による英語力の判定】

「教育実習Ⅰ（B類)」を履修する前年度末（3月末）までに，以下のＣＬ選択外国語の中から4単位以上修得

（「メディア英語A」「メディア英語B」「英語リーディングA」「英語リーディングB」
「英語リスニング＆スピーキングA」「英語リスニング＆スピーキングB」
「英語集中演習A」「英語集中演習B」「英語集中演習C」
「上級英語コミュニケーションⅠ」「上級英語コミュニケーションⅡ」
「上級英語ライティングⅠ」「上級英語ライティングⅡ」）

Ⅱ：【外部資格・検定試験のスコアによる英語力の判定】

「教育実習Ⅰ（B類)」を履修する前年度末（3月末）までに，下記いずれかの資格・検定試験のスコア・証明書の提出が必要。

・実用英語技能検定　　準1級1次試験合格
・ＴＯＥＩＣ　Ｌ&Ｒ　　７３０点
・ＴＯＥＦＬ　iBT　　８０点
・ＩＥＬＴＳ　　６．０

＜養護教育専攻＞

・授業科目「養護概論」及び「教育の方法と ICT」の中から1科目2単位以上

3．実習校での教育実習を行うにあたっては「事前の指導」の仮合格を得ること。

※「特別支援学校教育実習（C類)」を履修するためには、上記の条件に加え、「教育実習Ⅰ（C類)」の単位を修得していることが必要。

○「教育実習Ⅱ（A類)」,「教育実習Ⅱ（B類)」,「養護実習Ⅱ」の受講資格

1．上記実習を履修する前年度春学期終了時において 78 単位以上を修得していること。
（ただし,「教育実習Ⅰ（A類)」,「教育実習Ⅰ（B類)」,「養護実習Ⅰ」の単位は，この中に含めない。）

2．「教育実習Ⅰ（A類)」,「教育実習Ⅰ（B類)」,「養護実習Ⅰ」いずれかの5単位を修得していること。
（ただし，上記教育実習の「教育実地研究」について,「B」以上の評価を得ることが必要。）

3．教員採用試験を受験予定であること。(学校種は問わない。)

4．1．の 78 単位のうちに，以下に指定された科目・単位を含むこと。

＜初等教育専攻（幼児教育コースを除く）＞

・授業科目「初等各教科教育法」の中から4科目8単位以上

＜初等教育専攻（幼児教育コース）＞

・授業科目「保育内容」の中から3科目6単位以上

＜中等教育専攻＞

・授業科目「中等各教科教育法（自専攻科目)」及び「教育の方法と ICT」の中から2科目4単位以上

＜養護教育専攻＞

・指定なし

○「教育実習（選択・小中)」の受講資格

1．「教育実習Ⅱ（B類)」の履修を希望する者のうち、協力中学校・義務教育学校（後期)・中等教育学校（前期）において教育実地研究を行う者。

2．上記実習を履修する前年度春学期終了時において 78 単位以上を修得していること。
（ただし,「教育実習Ⅰ（B類)」の単位は，この中に含めない。）

3．「教育実習Ⅰ（B類)」の5単位を修得していること。
（ただし，上記教育実習の「教育実地研究」について,「B」以上の評価を得ることが必要。）

4．教員採用試験を受験予定であること。(学校種は問わない。)

5．2．の 78 単位のうちに，以下に指定された科目・単位を含むこと。

・「中等各教科教育法（自専攻科目)」及び「教育の方法と ICT」の中から2科目4単位以上

・「初等各教科教育法」または「初等各教科指導法」から２科目２単位以上

○「教育実習（選択・初等)」,「教育実習（選択・中等)」,「特別支援学校教育実習（選択)」,「教育実習（選択・D類)」の受講資格

（※履修科目によって，１．２．３．又は１．２．４．のいずれか３つの事項を満たすことが必要）

１．「教育実習Ⅰ（A類)」,「教育実習Ⅰ（B類)」,「教育実習Ⅰ（C類)」,「養護実習Ⅰ」いずれかの５単位を修得していること。
（ただし，上記教育実習の「教育実地研究」について,「B」以上の評価を得ることが必要。）
２．教員採用試験を受験予定であること。(学校種は問わない。)
３．当該教育実習を履修する前学期終了時までに修得した科目・単位の中に，以下に指定された科目・単位を含むこと。

＜「教育実習（選択・中等)」,「教育実習（選択・D類)」の受講条件＞
実習を行う教科の「中等各教科教育法」の中から２科目４単位以上を修得していること。
※実習を行う教科については、P.62 を参照。
※実習を行う教科が「英語」の場合は，上記に加え，以下のⅠまたはⅡの判定が必要となる。
Ⅰ:【修得済み授業科目による英語力の判定】
当該教育実習を履修する前年度末（３月末）までに，以下のＣＬ選択外国語の中から４単位以上修得。
（「メディア英語A」「メディア英語B」「英語リーディングA」「英語リーディングB」
「英語リスニング＆スピーキングA」「英語リスニング＆スピーキングB」
「英語集中演習A」「英語集中演習B」「英語集中演習C」
「上級英語コミュニケーションⅠ」「上級英語コミュニケーションⅡ」
「上級英語ライティングⅠ」「上級英語ライティングⅡ」）
Ⅱ:【外部資格・検定試験のスコアによる英語力の判定】
当該教育実習を履修する前年度末（３月末）までに，下記いずれかの資格・検定試験のスコア・証明書の提出が必要。
・実用英語技能検定　　準１級１次試験合格
・ＴＯＥＩＣ　Ｌ＆Ｒ　　７３０点
・ＴＯＥＦＬ　iBT　　８０点
・ＩＥＬＴＳ　　６．０
＜「教育実習（選択・初等)」の受講条件＞
「初等各教科教育法」３科目６単位以上を修得していること。
４．当該教育実習を履修する前年度終了時までに修得した科目・単位の中に，以下に指定された科目・単位を含むこと。
＜「特別支援学校教育実習（選択)」の受講条件＞
①「特別支援教育概論」「聴覚言語障害の指導法A」の２科目４単位を修得していること。(ろう学校実習希望者)
②「特別支援教育概論」「知的障害の指導法」の２科目４単位を修得していること。(特別支援学校実習希望者)

「教育実習（選択・中等)」「教育実習（選択・Ｄ類)」
実習を行う教科について

前述（p.61）のとおり，「教育実習（選択・中等)」及び「教育実習（選択・Ｄ類)」の受講条件には，「実習を行う教科の『中等各教科教育法』の中から２科目４単位以上を修得していること」が定められており，教科の専門性を身に着けた上で中等教育の場で教育実習を行うことが求められています。

当該選択実習を行う予定の学生は，下表により自身が実習を行う教科を確認し，該当する教科の教科教育法を修得してください。

	コース	実習を行う教科
Ａ類生 教科系 コース	国語コース	国語
	社会コース	社会
	数学コース	数学
	理科コース	理科
	音楽コース	音楽
	美術コース	美術
	保健体育コース	保健体育
	家庭コース	家庭
	英語コース	英語
Ａ類生 非教科系 コース 及び Ｃ類生	現代教育実践コース（学校教育プログラム、学校心理プログラム、国際教育プログラム、環境教育プログラム)、ものづくり技術コース、幼児教育コース	自身が希望し、教科教育法を２科目４単位以上修得している教科
Ｄ類生	養護教育コース	保健

※選択実習に関して不明な点は学務課教育実習係にお問合せください。

24
専攻科目

24 専攻科目

A類（幼児教育コースを除く）・C類対象科目

① 小学校の教科に関する専門的事項（SP）

言語系（国語，英語）から1単位，理系（算数，理科）から1単位，実技系（音楽，図画工作，体育）から2単位，社会・生活系（社会，生活，家庭）から1単位の計5単位を修得する。

※自コースの教科以外の教科から選択し，計5単位修得すること。

※自コースの教科を選択した場合，卒業要件のSPの単位とはならず，自由選択の単位となるため注意。

（小教）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	対象	備考
国語科研究	1	講	Ⅴ前後・Ⅵ前後	国語（書写を含む）	A類国語 以外	言語系（1科目選択）
英語科研究	1	演	Ⅴ前後・Ⅵ前後	外国語	A類英語 以外	
算数科研究	1	講	Ⅴ前後・Ⅵ前後	算数	A類数学 以外	理系（1科目選択）
理科研究	1	講	Ⅴ前後・Ⅵ前後	理科	A類理科 以外	
音楽科研究	1	実	Ⅴ	音楽	A類音楽 以外	実技系（2科目選択）
図画工作科研究	1	演	Ⅴ	図画工作	A類美術 以外	
体育科研究	1	演	Ⅵ	体育	A類保健体育 以外	
社会科研究	1	講	Ⅴ前後・Ⅵ前後	社会	A類社会 以外	社会・生活系（1科目選択）
生活科研究	1	講演	Ⅴ前後・Ⅵ前後	生活		
家庭科研究	1	講	Ⅴ前後・Ⅵ前後	家庭	A類家庭 以外	

② 各教科（保育内容）の指導法（ST）

a 小学校各教科の指導法

A類（幼児教育コースを除く）・B類・C類対象

下記の「初等〇〇科教育法」から，10教科20単位を修得する。

自教科生と他教科生(B類・C類生を含む）で標準開設学期が異なるため注意。

（専攻科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
初等国語科教育法	2	講	Ⅳ	各教科の指導法	A類国語
初等社会科教育法	2	講	Ⅲ	各教科の指導法	A類社会
初等算数科教育法	2	講	Ⅳ	各教科の指導法	A類数学
初等理科教育法	2	講	Ⅲ	各教科の指導法	A類理科・環境教育
初等音楽科教育法	2	講演	Ⅲ	各教科の指導法	A類音楽
初等図画工作科教育法	2	講	Ⅲ	各教科の指導法	A類美術
初等体育科教育法	2	講	Ⅳ	各教科の指導法	A類保健体育
初等家庭科教育法	2	講	Ⅲ	各教科の指導法	A類家庭
初等英語科教育法	2	演	Ⅲ	各教科の指導法	A類英語
初等国語科教育法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	各教科の指導法	A類他コース・B類・C類
初等社会科教育法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	各教科の指導法	A類他コース・B類・C類
初等算数科教育法	2	講	Ⅴ・Ⅵ	各教科の指導法	A類他コース・B類・C類
初等理科教育法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	各教科の指導法	A類他コース・B類・C類
初等音楽科教育法	2	講演	Ⅴ・Ⅵ	各教科の指導法	A類他コース・B類・C類
初等図画工作科教育法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	各教科の指導法	A類他コース・B類・C類
初等体育科教育法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	各教科の指導法	A類他コース・B類・C類
初等家庭科教育法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	各教科の指導法	A類他コース・B類・C類
初等英語科教育法	2	演	Ⅲ・Ⅳ	各教科の指導法	A類他コース・B類・C類
初等生活科教育法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	各教科の指導法	A類他コース・B類・C類

B類対象（小学校教諭二種免許状取得を希望する学生のみ）

B類生で小学校教諭（二種）免許状の取得を希望する学生は音楽・図工・体育のうち2科目を含み、「初等〇〇科指導法」から6教科6単位を修得する。

（専攻科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
初等国語科指導法	1	講	Ⅴ前	各教科の指導法	B類
初等社会科指導法	1	講	Ⅴ前	各教科の指導法	B類
初等算数科指導法	1	講	Ⅳ前	各教科の指導法	B類
初等理科指導法	1	講	Ⅴ後	各教科の指導法	B類
初等音楽科指導法	1	講演	Ⅳ後	各教科の指導法	B類
初等図画工作科指導法	1	講	Ⅳ後	各教科の指導法	B類
初等体育科指導法	1	講	Ⅳ後	各教科の指導法	B類
初等家庭科指導法	1	講	Ⅳ前	各教科の指導法	B類
初等英語科指導法	1	演	Ⅴ後	各教科の指導法	B類
初等生活科指導法	1	講	Ⅳ前	各教科の指導法	B類

b 中・高等学校各教科の指導法

B類対象

下記の授業科目は必修なので，専攻教科と同一教科の教育法について8単位を必ず修得する。

技術コースは，技術科教育法8単位及び工業科教育法4単位の計12単位を修得する。

書道コースは，中等国語科教育法8単位及び書道科教育法4単位の計12単位を修得する。

情報コースは，中等数学科教育法8単位及び情報科教育法4単位の計12単位を修得する。

なお，「保健」，「工芸」の免許取得を希望する場合は，必ず各々の教科の教育法を修得する必要がある。

（専攻科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
中等国語科教育法Ⅰ	2	講	Ⅲ	各教科の指導法	国語・書道
中等国語科教育法Ⅱ	2	講	Ⅳ	各教科の指導法	国語・書道
中等国語科教育法Ⅲ	2	講	Ⅴ	各教科の指導法	国語・書道
中等国語科教育法Ⅳ	2	講	Ⅵ	各教科の指導法	国語・書道
中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	2	講	Ⅳ	各教科の指導法	社会（地歴）
中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	2	講	Ⅴ	各教科の指導法	社会（地歴）
中等社会科・公民科教育法Ⅰ	2	講	Ⅲ	各教科の指導法	社会（公民）
中等社会科・公民科教育法Ⅱ	2	講	Ⅵ	各教科の指導法	社会（公民）
中等数学科教育法Ⅰ	2	講	Ⅲ	各教科の指導法	数学・情報
中等数学科教育法Ⅱ	2	講	Ⅳ	各教科の指導法	数学・情報
中等数学科教育法Ⅲ	2	講	Ⅴ	各教科の指導法	数学・情報
中等数学科教育法Ⅳ	2	講	Ⅵ	各教科の指導法	数学・情報
中等理科教育法Ⅰ	2	講	Ⅳ	各教科の指導法	理科
中等理科教育法Ⅱ	2	講	Ⅴ	各教科の指導法	理科
中等理科教育法Ⅲ	2	講	Ⅵ	各教科の指導法	理科
中等理科教育法Ⅳ	2	講	Ⅵ	各教科の指導法	理科
中等音楽科教育法Ⅰ	2	講演	Ⅰ	各教科の指導法	音楽
中等音楽科教育法Ⅱ	2	講演	Ⅱ	各教科の指導法	音楽
中等音楽科教育法Ⅲ	2	講演	Ⅲ	各教科の指導法	音楽
中等音楽科教育法Ⅳ	2	講演	Ⅳ	各教科の指導法	音楽
中等美術科教育法Ⅰ	2	講	Ⅲ	各教科の指導法	美術
中等美術科教育法Ⅱ	2	講	Ⅳ	各教科の指導法	美術
中等美術科教育法Ⅲ	2	講	Ⅴ	各教科の指導法	美術
中等美術科教育法Ⅳ	2	講	Ⅵ	各教科の指導法	美術
中等工芸科教育法Ⅰ	2	講	Ⅲ	各教科の指導法	工芸
中等工芸科教育法Ⅱ	2	講	Ⅳ	各教科の指導法	工芸
中等保健体育科教育法Ⅰ	2	講	Ⅲ	各教科の指導法	保健体育
中等保健体育科教育法Ⅱ	2	講	Ⅳ	各教科の指導法	保健体育
中等保健体育科教育法Ⅲ	2	講	Ⅴ	各教科の指導法	保健体育
中等保健体育科教育法Ⅳ	2	講	Ⅳ	各教科の指導法	保健体育

（専攻科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
中等保健科教育法Ⅰ	2	講	Ⅳ	各教科の指導法	保健
中等保健科教育法Ⅱ	2	講	Ⅴ	各教科の指導法	保健
中等保健科教育法Ⅲ	2	講	Ⅵ	各教科の指導法	保健
中等保健科教育法Ⅳ	2	講	Ⅶ	各教科の指導法	保健
中等家庭科教育法Ⅰ	2	講	Ⅲ	各教科の指導法	家庭
中等家庭科教育法Ⅱ	2	講	Ⅳ	各教科の指導法	家庭
中等家庭科教育法Ⅲ	2	講	Ⅴ	各教科の指導法	家庭
中等家庭科教育法Ⅳ	2	講	Ⅵ	各教科の指導法	家庭
技術科教育法Ⅰ	2	講	Ⅰ	各教科の指導法	技術
技術科教育法Ⅱ	2	講	Ⅱ	各教科の指導法	技術
技術科教育法Ⅲ	2	講	Ⅲ	各教科の指導法	技術
技術科教育法Ⅳ	2	講演	Ⅳ	各教科の指導法	技術
工業科教育法Ⅰ	2	講	Ⅴ	各教科の指導法	工業
工業科教育法Ⅱ	2	講	Ⅵ	各教科の指導法	工業
中等英語科教育法Ⅰ	2	演	Ⅲ	各教科の指導法	英語
中等英語科教育法Ⅱ	2	演	Ⅳ	各教科の指導法	英語
中等英語科教育法Ⅲ	2	演	Ⅴ	各教科の指導法	英語
中等英語科教育法Ⅳ	2	演	Ⅵ	各教科の指導法	英語
書道科教育法Ⅰ	2	講	Ⅲ	各教科の指導法	書道
書道科教育法Ⅱ	2	講	Ⅳ	各教科の指導法	書道
情報科教育法Ⅰ	2	講	Ⅳ	各教科の指導法	情報
情報科教育法Ⅱ	2	講	Ⅴ	各教科の指導法	情報

c 保育内容の指導法

A類幼児教育コース対象

下記の授業科目のうち，A類幼対象の12単位を必ず修得する。

（専攻科目）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
保育内容「健康」（a）	2	演	Ⅲ	保育内容の指導法	A類幼対象
保育内容「健康」（b）	2	演	Ⅲ	保育内容の指導法	
保育内容「環境」（a）	2	演	Ⅱ	保育内容の指導法	A類幼対象
保育内容「環境」（b）	2	演	Ⅱ	保育内容の指導法	
保育内容「人間関係」（a）	2	演	Ⅳ	保育内容の指導法	A類幼対象
保育内容「人間関係」（b）	2	演	Ⅳ	保育内容の指導法	
保育内容「言葉」（a）	2	演	Ⅲ	保育内容の指導法	A類幼対象
保育内容「言葉」（b）	2	演	Ⅲ	保育内容の指導法	
保育内容「表現Ａ」（a）	2	演	Ⅴ	保育内容の指導法	A類幼対象
保育内容「表現Ａ」（b）	2	演	Ⅴ	保育内容の指導法	
保育内容「表現Ｂ」（a）	2	演	Ⅴ	保育内容の指導法	A類幼対象
保育内容「表現Ｂ」（b）	2	演	Ⅴ	保育内容の指導法	
保育内容総論（b）	2	演	Ⅳ	保育内容の指導法	

※幼児教育コース対象の「保育内容総論(a)」はP.118に掲載

③ 国語

学校教育教員養成課程 初等教育専攻 国語コース〔A類 国語〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（A国語SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
国語科カリキュラム論	2	講	V	（幼，小，中・高（国））大学独自		
国語科教材論	2	講	VI	（幼，小，中・高（国））大学独自		

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，14単位を必ず修得する。

（A国語S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	I 前			※
コース別入門セミナー	1	講	I 前			A国語
日本語学概論 I	2	講	I	(小)国語 (中・高)国語学（音声言語，文章表現を含む。）	登録日本語教員	
日本語学概論 II	2	講	II	(小)国語 (中・高)国語学（音声言語，文章表現を含む。）	登録日本語教員	
日本語文法	2	講	III	(小)国語 (中・高)国語学	登録日本語教員	
日本古典文学概論	2	講	II	(小)国語 (中・高)国文学（国文学史を含む。）		
日本近代文学概論	2	講	I	(小)国語 (中・高)国文学（国文学史を含む。）		
中国古典文基礎	2	講	I	(中・高)漢文学 【(高)書道】漢文学		

（※）掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，8単位以上を修得する。

（A国語SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
日本語音声	2	講	VI	(中・高)国語学	登録日本語教員	
日本語学演習 A	2	演	III	(中・高)国語学		
日本語学演習 B	2	演	III	(中・高)国語学		
日本語学演習 C	2	演	IV	(中・高)国語学		
日本近代文学史	2	講	II	(中・高)国文学 【(高)書道】国文学		
日本古典文学史	2	講	I	(中・高)国文学 【(高)書道】国文学		
古典文学演習 A	2	演	IV	(中・高)国文学		
古典文学演習 B	2	演	III	(中・高)国文学		
古典文学演習 C	2	演	IV	(中・高)国文学		
古典文学演習 D	2	演	III	(中・高)国文学		
古典文学特殊演習	2	演	IV	(中・高)国文学		
近代文学演習 A	2	演	IV	(中・高)国文学		
近代文学演習 B	2	演	III	(中・高)国文学		
近代文学演習 C	2	演	IV	(中・高)国文学		

（A国語SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
近代文学特殊演習	2	演	Ⅳ	(中・高)国文学		
文献講読Ⅰ	2	講	Ⅵ	(中・高)国文学		
文献講読Ⅱ	2	講	Ⅵ	(中・高)国文学		
中国古典文学概論	2	講	Ⅰ	(中・高)漢文学 【(高)書道】漢文学		
中国古典演習A	2	演	Ⅲ	(中・高)漢文学		
中国古典演習B	2	演	Ⅱ	(中・高)漢文学		
中国古典演習C	2	演	Ⅱ	(中・高)漢文学		
書写A	2	演	Ⅳ	(小)国語 (中)書道		
日本語教育概論	2	講	Ⅰ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
日本語教育の歴史と言語政策	2	講演	Ⅵ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
異文化理解と心理	2	講演	Ⅴ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
第二言語習得論	2	講演	Ⅳ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
日本語教育の方法Ⅰ 教授法と教室活動	2	講演	Ⅲ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
日本語教育の方法Ⅱ 教材の開発と活用	2	講演	Ⅳ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
日本語教育の方法Ⅲ 授業実践と省察	2	講演	Ⅴ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
日本語教育文法	2	講演	Ⅲ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
言語学概論	2	講演	Ⅳ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
子どもの日本語教育A 子どもの社会文化的背景とバイリンガリズム	2	講演	Ⅱ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
子どもの日本語教育B 学校・地域の現状と課題	2	講演	Ⅵ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
児童文学	2	講	Ⅲ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自		
言語科学と教育	2	講	Ⅳ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自		
近代文学と国語教育	2	講	Ⅴ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自		
古典文学と国語教育	2	講	Ⅵ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自		
漢字漢文教育論	2	演	Ⅵ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自		
現代文化論	2	講	Ⅳ			
研究法Ⅰ	2	演	Ⅴ			
研究法Ⅱ	2	演	Ⅵ			

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（A国語SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	諸資格	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	国語コース		

学校教育教員養成課程 中等教育専攻 国語コース〔B類 国語〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B国語SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
国語科カリキュラム論	2	講	V	（幼，小，中・高（国））大学独自		
国語科教材論	2	講	VI	（幼，小，中・高（国））大学独自		

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，22単位を必ず修得する。

（B国語S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	I 前			※
コース別入門セミナー	1	講	I 前			B国語
日本語学概論 I	2	講	I	（小）国語 （中・高）国語学（音声言語，文章表現を含む。）	登録日本語教員	
日本語学概論 II	2	講	II	（小）国語 （中・高）国語学（音声言語，文章表現を含む。）	登録日本語教員	
日本語文法	2	講	III	（小）国語 （中・高）国語学	登録日本語教員	
日本古典文学史	2	講	I	（中・高）国文学 【（高）書道】国文学		
日本古典文学概論	2	講	II	（小）国語 （中・高）国文学（国文学史を含む。）		
日本近代文学史	2	講	II	（中・高）国文学 【（高）書道】国文学		
日本近代文学概論	2	講	I	（小）国語 （中・高）国文学（国文学史を含む。）		
中国古典文基礎	2	講	I	（中・高）漢文学 【（高）書道】漢文学		
中国古典文学概論	2	講	I	（中・高）漢文学 【（高）書道】漢文学		
書写 B	2	講実	IV	（小）国語 （中）書道		

（※）掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，合計20単位以上を修得する。

（B国語SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
中国古典演習 A	2	演	III	（中・高）漢文学		
中国古典演習 B	2	演	II	（中・高）漢文学		
中国古典演習 C	2	演	II	（中・高）漢文学		
日本語音声	2	講	VI	（中・高）国語学	登録日本語教員	
日本語学演習 A	2	演	III	（中・高）国語学		
日本語学演習 B	2	演	III	（中・高）国語学		
日本語学演習 C	2	演	IV	（中・高）国語学		
古典文学演習 A	2	演	IV	（中・高）国文学		
古典文学演習 B	2	演	III	（中・高）国文学		
古典文学演習 C	2	演	IV	（中・高）国文学		
古典文学演習 D	2	演	III	（中・高）国文学		
古典文学特殊演習	2	演	IV	（中・高）国文学		

（B国語SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
近代文学演習A	2	演	Ⅳ	(中・高)国文学		
近代文学演習B	2	演	Ⅲ	(中・高)国文学		
近代文学演習C	2	演	Ⅳ	(中・高)国文学		
近代文学特殊演習	2	演	Ⅳ	(中・高)国文学		
文献講読Ⅰ	2	講	Ⅵ	(中・高)国文学		
文献講読Ⅱ	2	講	Ⅵ	(中・高)国文学		
日本語教育概論	2	講	Ⅰ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
日本語教育の歴史と言語政策	2	講	Ⅵ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
異文化理解と心理	2	講演	Ⅴ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
第二言語習得論	2	講演	Ⅳ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
日本語教育の方法Ⅰ 教授法と教室活動	2	講演	Ⅲ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
日本語教育の方法Ⅱ 教材の開発と活用	2	講演	Ⅳ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
日本語教育の方法Ⅲ 授業実践と省察	2	講演	Ⅴ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
日本語教育文法	2	講演	Ⅲ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
言語学概論	2	講演	Ⅳ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
子どもの日本語教育A 子どもの社会文化的背景とバイリンガリズム	2	講演	Ⅱ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
子どもの日本語教育B 学校・地域の現状と課題	2	講演	Ⅵ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自	登録日本語教員	
児童文学	2	講	Ⅲ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自		
言語科学と教育	2	講	Ⅳ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自		
近代文学と国語教育	2	講	Ⅴ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自		
古典文学と国語教育	2	講	Ⅵ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自		
漢字漢文教育論	2	演	Ⅵ	(幼, 小, 中・高(国))大学独自		
現代文化論	2	講	Ⅳ			
研究法Ⅰ	2	演	Ⅴ			
研究法Ⅱ	2	演	Ⅵ			

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B国語SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	諸資格	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	国語コース		

④ 社会

学校教育教員養成課程 初等教育専攻 社会コース〔A類 社会〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（A社会SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
社会科カリキュラム論	2	講	Ⅲ	（小，中（社），高（地）（公））大学独自	
社会科教材論	2	講	Ⅵ	（小，中（社），高（地）（公））大学独自	

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，11単位を必ず修得する。

（A社会S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ後		A社会
地理学概論Ⅰ	1	講	Ⅰ前	（小）社会 （中）地理学 （高（地歴））人文地理学	
地理学概論Ⅱ	1	講	Ⅰ後	（小）社会 （中）地理学 （高（地歴））人文地理学	
日本史概論A	1	講	Ⅰ前後	（中・高（地歴））日本史	
日本史概論B	1	講	Ⅰ前後	（中・高（地歴））日本史	
日本史概論C	1	講	Ⅰ前後	（中・高（地歴））日本史	
日本史概論D	1	講	Ⅰ前後	（中・高（地歴））日本史	
法学概論	1	講	Ⅱ前後	（小）社会 （中）法律学 （高（公））法律学（国際法を含む。）	
政治学概論	1	講	Ⅱ前後	（小）社会 （中）政治学 （高（公））政治学（国際政治を含む。）	
社会学概論	1	講	Ⅰ前後	（小）社会 （中・高（公））社会学	

（※）掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，11単位以上を修得する。

（A社会SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
社会科教育学概論	2	講	Ⅱ		
社会科地域教材論Ⅰ	2	実	Ⅲ（集中）		
社会科地域教材論Ⅱ	2	実	Ⅴ（集中）		
社会科地域教材論Ⅲ	2	実	Ⅶ（集中）		
社会科授業論	2	講	Ⅳ		
外国史概論A	1	講	Ⅱ前後	（小）社会 （中・高（地歴））外国史	
外国史概論B	1	講	Ⅱ前後	（小）社会 （中・高（地歴））外国史	
外国史概論C	1	講	Ⅱ前後	（小）社会 （中・高（地歴））外国史	

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
外国史概論D	1	講	Ⅱ前後	(小)社会 (中・高(地歴))外国史	
歴史学文献講読A	2	演	Ⅲ	(中・高(地歴))日本史	
歴史学文献講読B	2	演	Ⅲ	(中・高(地歴))外国史	
歴史学文献講読C	2	演	Ⅲ	(中・高(地歴))外国史	
歴史学概論	2	講	Ⅲ	(中・高(地歴))複合科目	
歴史学基礎演習A	2	演	Ⅳ	(中・高(地歴))日本史	
歴史学基礎演習B	2	演	Ⅳ	(中・高(地歴))複合科目	
日本史研究A	2	講	Ⅲ偶	(中・高(地歴))日本史	
日本史研究B	2	講	Ⅳ奇	(中・高(地歴))日本史	
日本史研究C	2	講	Ⅳ偶	(中・高(地歴))日本史	
外国史研究A	2	講	Ⅳ奇	(中・高(地歴))外国史	
外国史研究B	2	講	Ⅲ偶	(中・高(地歴))外国史	
外国史研究C	2	講	Ⅲ奇	(中・高(地歴))外国史	
日本史研究と歴史教育A	2	講	Ⅲ奇	(中・高(地歴))複合科目	
日本史研究と歴史教育B	2	講	Ⅳ偶	(中・高(地歴))複合科目	
日本史研究と歴史教育C	2	講	Ⅳ奇	(中・高(地歴))複合科目	
外国史研究と歴史教育A	2	講	Ⅳ偶	(中・高(地歴))複合科目	
外国史研究と歴史教育B	2	講	Ⅲ奇	(中・高(地歴))複合科目	
外国史研究と歴史教育C	2	講	Ⅲ偶	(中・高(地歴))複合科目	
地誌学概論	2	講	Ⅳ	(小)社会 (中)地理学(地誌を含む。) (高(地歴))地誌	
地誌学特論	2	講	Ⅴ	(中)地理学 (高(地歴))地誌	
自然環境Ⅰ	1	講	Ⅱ前	(小)社会 (中)地理学 (高(地歴))自然地理学	
自然環境Ⅱ	1	講	Ⅱ後	(小)社会 (中)地理学 (高(地歴))自然地理学	
地理学研究法	2	講	Ⅱ	(中)地理学 (高(地歴))自然地理学	
自然地理学研究	2	講	Ⅳ	(中)地理学 (高(地歴))自然地理学	
人文地理学研究	2	講	Ⅲ	(中)地理学 (高(地歴))人文地理学	
地誌学研究	2	講	Ⅵ	(中)地理学 (高(地歴))地誌	
地理情報と地図	2	講	Ⅳ	(中)地理学 (高(地歴))人文地理学	
地域調査法	2	講	Ⅲ (集中)	(中)地理学 (高(地歴))地誌	

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
自然地理学実習Ⅰ	1	実	Ⅲ	(中)地理学 (高(地歴))自然地理学	
自然地理学実習Ⅱ	1	実	Ⅲ	(中)地理学 (高(地歴))自然地理学	
人文地理学実習	1	実	Ⅴ	(中)地理学 (高(地歴))人文地理学	
地誌学実習	1	実	Ⅲ	(中)地理学 (高(地歴))地誌	
哲学・倫理学・宗教学概論A	1	講	Ⅱ前後	(小)社会 (中・高(公))哲学,倫理学,宗教学	
哲学・倫理学・宗教学概論B	1	講	Ⅱ前後	(小)社会 (中・高(公))哲学,倫理学,宗教学	
哲学基礎資料講読	2	演	Ⅲ	(中・高(公))哲学,倫理学	
宗教思想基礎資料講読	2	演	Ⅲ	(中・高(公))宗教学	
哲学史	2	講	Ⅳ	(中・高(公))哲学	
宗教思想史	2	講	Ⅳ	(中・高(公))宗教学	
哲学・倫理学の諸問題	2	講	Ⅴ	(中・高(公))哲学, 倫理学	
宗教思想の諸問題	2	講	Ⅴ	(中・高(公))宗教学	
国際関係論	2	講	Ⅲ	(中)政治学 (高(公))政治学	
政治制度論	2	講	Ⅳ	(中)政治学 (高(公))政治学	
民法A	2	講	Ⅲ	(中)法律学 (高(公))法律学	
民法B	2	講	Ⅳ	(中)法律学 (高(公))法律学	
刑法A	2	講	Ⅲ	(中)法律学 (高(公))法律学	
刑法B	2	講	Ⅳ	(中)法律学 (高(公))法律学	
経済学概論	1	講	Ⅰ前後	(小)社会 (中)経済学 (高(公))経済学(国際経済を含む。)	
経済学基礎演習	2	演	Ⅳ	(中)経済学 (高(公))経済学	
経済学基礎論	2	講	Ⅲ	(中)経済学 (高(公))経済学	
経済学応用論	2	講	Ⅴ	(中)経済学 (高(公))経済学	
都市社会学	2	講	Ⅲ	(中・高(公))社会学	
家族社会学	2	講	Ⅲ偶	(中・高(公))社会学	
ジェンダーの社会学	2	講	Ⅳ奇	(中・高(公))社会学	
社会調査法Ⅰ	2	講	Ⅲ	(中・高(公))社会学	
社会調査法Ⅱ	2	講	Ⅳ	(中・高(公))社会学	
多文化教育演習A－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		社会教育学
多文化教育演習A－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		社会教育学
多文化教育演習B－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		社会教育学
多文化教育演習B－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		社会教育学
地理教育演習A－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		社会教育学
地理教育演習A－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		社会教育学
地理教育演習B－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		社会教育学

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
地理教育演習B－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		社会教育学
歴史教育演習A－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		社会教育学
歴史教育演習A－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		社会教育学
歴史教育演習B－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		社会教育学
歴史教育演習B－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		社会教育学
公民教育演習A－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		社会教育学
公民教育演習A－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		社会教育学
公民教育演習B－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		社会教育学
公民教育演習B－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		社会教育学
公民教育演習C－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		社会教育学
公民教育演習C－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		社会教育学
公民教育演習D－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		社会教育学
公民教育演習D－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		社会教育学
臨地研究演習Ⅰ	2	演	Ⅴ		地理学
臨地研究演習Ⅱ	2	演	Ⅵ		地理学
地理学演習Ⅰ	2	演	Ⅶ		地理学
地理学演習Ⅱ	2	演	Ⅷ		地理学
日本史演習A－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		歴史学
日本史演習A－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		歴史学
日本史演習B－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		歴史学
日本史演習B－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		歴史学
日本史演習C－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		歴史学
日本史演習C－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		歴史学
日本史演習D－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		歴史学
日本史演習D－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		歴史学
日本史演習E－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		歴史学
日本史演習E－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		歴史学
日本史演習F－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		歴史学
日本史演習F－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		歴史学
外国史演習A－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		歴史学
外国史演習A－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		歴史学
外国史演習B－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		歴史学
外国史演習B－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		歴史学
外国史演習C－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		歴史学
外国史演習C－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		歴史学
外国史演習D－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		歴史学
外国史演習D－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		歴史学
外国史演習E－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		歴史学

（A社会SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
外国史演習E－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		歴史学
外国史演習F－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		歴史学
外国史演習F－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		歴史学
哲学・倫理学基礎演習A	2	演	Ⅵ奇		哲学
哲学・倫理学基礎演習B	2	演	Ⅵ偶		哲学
宗教思想基礎演習A	2	演	Ⅵ奇		哲学
宗教思想基礎演習B	2	演	Ⅵ偶		哲学
哲学・倫理学演習A	2	演	Ⅶ奇		哲学
哲学・倫理学演習B	2	演	Ⅶ偶		哲学
宗教思想演習A	2	演	Ⅶ奇		哲学
宗教思想演習B	2	演	Ⅶ偶		哲学
法学政治学演習Ⅰ	2	演	Ⅴ		法学・政治学
法学政治学演習Ⅱ	2	演	Ⅵ		法学・政治学
経済学演習AⅠ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		経済学
経済学演習AⅡ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		経済学
経済学演習BⅠ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		経済学
経済学演習BⅡ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		経済学
社会学演習Ⅰ	2	演	Ⅴ		社会学
社会学演習Ⅱ	2	演	Ⅵ		社会学

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（A社会SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	社会コース	

学校教育教員養成課程 中等教育専攻 社会コース〔B類 社会〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B社会SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
社会科カリキュラム論	2	講	Ⅲ	(小，中(社)，高(地)(公))大学独自	
社会科教材論	2	講	Ⅵ	(小，中(社)，高(地)(公))大学独自	

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，22単位を必ず修得する。

（B社会S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ後		B社会
日本史概論A	1	講	Ⅰ前後	(小)社会 (中・高(地歴))日本史	
日本史概論B	1	講	Ⅰ前後	(小)社会 (中・高(地歴))日本史	
日本史概論C	1	講	Ⅰ前後	(小)社会 (中・高(地歴))日本史	
日本史概論D	1	講	Ⅰ前後	(小)社会 (中・高(地歴))日本史	
外国史概論A	1	演	Ⅱ前後	(小)社会 (中・高(地歴))外国史	
外国史概論B	1	演	Ⅱ前後	(小)社会 (中・高(地歴))外国史	
外国史概論C	1	演	Ⅱ前後	(小)社会 (中・高(地歴))外国史	
外国史概論D	1	講	Ⅱ前後	(小)社会 (中・高(地歴))外国史	
地理学概論Ⅰ	1	講	Ⅰ前	(小)社会 (中)地理学 (高(地歴))人文地理学	
地理学概論Ⅱ	1	講	Ⅰ後	(小)社会 (中)地理学 (高(地歴))人文地理学	
哲学・倫理学・宗教学概論A	1	講	Ⅱ前後	(小)社会 (中・高(公))哲学,倫理学,宗教学	
哲学・倫理学・宗教学概論B	1	講	Ⅱ前後	(小)社会 (中・高(公))哲学,倫理学,宗教学	
法学概論	1	講	Ⅱ前後	(小)社会 (中)法律学 (高(公))法律学(国際法を含む。)	
政治学概論	1	講	Ⅱ前後	(小)社会 (中)政治学 (高(公))政治学(国際政治を含む。)	
社会学概論	1	講	Ⅰ前後	(小)社会 (中・高(公))社会学	
経済学概論	1	講	Ⅰ前後	(小)社会 (中)経済学 (高(公))経済学(国際経済を含む。)	
自然環境Ⅰ	1	講	Ⅱ前	(小)社会 (中)地理学 (高(地歴))自然地理学	
自然環境Ⅱ	1	講	Ⅱ後	(小)社会 (中)地理学 (高(地歴))自然地理学	
地誌学概論	2	講	Ⅳ	(小)社会 (中)地理学(地誌を含む。) (高(地歴))地誌	

(※)掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

下記の授業科目から20単位以上を修得する。

（※下記の事項に注意して履修すること。）

○高等学校（地理歴史）を選択する者は，免許法上の科目を参考に「日本史」「外国史」「人文地理学」「自然地理学」「地誌」「（中・高（地歴））複合科目」の中から6単位以上を修得する。

○高等学校（公民）を選択する者は，免許法上の科目を参考に「法律学」「政治学」「社会学」「経済学」「哲学」「倫理学」「宗教学」の中から14単位以上を修得する。

（B社会SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
社会科教育学概論	2	講	Ⅱ		
社会科地域教材論Ⅰ	2	実	Ⅲ（集中）		
社会科地域教材論Ⅱ	2	実	Ⅴ（集中）		
社会科地域教材論Ⅲ	2	実	Ⅶ（集中）		
社会科授業論	2	講	Ⅳ		
歴史学文献講読A	2	演	Ⅲ	（中・高（地歴））日本史	
歴史学文献講読B	2	演	Ⅲ	（中・高（地歴））外国史	
歴史学文献講読C	2	演	Ⅲ	（中・高（地歴））外国史	
歴史学概論	2	講	Ⅲ	（中・高（地歴））複合科目	
歴史学基礎演習A	2	演	Ⅳ	（中・高（地歴））日本史	
歴史学基礎演習B	2	演	Ⅳ	（中・高（地歴））複合科目	
日本史研究A	2	講	Ⅲ偶	（中・高（地歴））日本史	
日本史研究B	2	講	Ⅳ奇	（中・高（地歴））日本史	
日本史研究C	2	講	Ⅳ偶	（中・高（地歴））日本史	
外国史研究A	2	講	Ⅳ奇	（中・高（地歴））外国史	
外国史研究B	2	講	Ⅲ偶	（中・高（地歴））外国史	
外国史研究C	2	講	Ⅲ奇	（中・高（地歴））外国史	
日本史研究と歴史教育A	2	講	Ⅲ奇	（中・高（地歴））複合科目	
日本史研究と歴史教育B	2	講	Ⅳ偶	（中・高（地歴））複合科目	
日本史研究と歴史教育C	2	講	Ⅳ奇	（中・高（地歴））複合科目	
外国史研究と歴史教育A	2	講	Ⅳ偶	（中・高（地歴））複合科目	
外国史研究と歴史教育B	2	講	Ⅲ奇	（中・高（地歴））複合科目	
外国史研究と歴史教育C	2	講	Ⅲ偶	（中・高（地歴））複合科目	
地誌学特論	2	講	Ⅴ	（中）地理学 （高（地歴））地誌	
地理学特論	2	講	Ⅵ	（中）地理学 （高（地歴））人文地理学	
地理学研究法	2	講	Ⅱ	（中）地理学 （高（地歴））人文地理学	

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
自然地理学研究	2	講	Ⅳ	(中)地理学 (高(地歴))自然地理学	
人文地理学研究	2	講	Ⅲ	(中)地理学 (高(地歴))人文地理学	
地誌学研究	2	講	Ⅵ	(中)地理学 (高(地歴))地誌	
地理情報と地図	2	講	Ⅳ	(中)地理学 (高(地歴))人文地理学	
地域調査法	2	講	Ⅲ (集中)	(中)地理学 (高(地歴))地誌	
自然地理学実習Ⅰ	1	実	Ⅲ	(中)地理学 (高(地歴))自然地理学	
自然地理学実習Ⅱ	1	実	Ⅲ	(中)地理学 (高(地歴))自然地理学	
人文地理学実習	1	実	Ⅴ	(中)地理学 (高(地歴))人文地理学	
地誌学実習	1	実	Ⅲ	(中)地理学 (高(地歴))地誌	
哲学基礎資料講読	2	演	Ⅲ	(中・高(公))哲学, 倫理学	
宗教思想基礎資料講読	2	演	Ⅲ	(中・高(公))宗教学	
哲学史	2	講	Ⅳ	(中・高(公))哲学	
宗教思想史	2	講	Ⅳ	(中・高(公))宗教学	
哲学・倫理学の諸問題	2	講	Ⅴ	(中・高(公))哲学, 倫理学	
宗教思想の諸問題	2	講	Ⅴ	(中・高(公))宗教学	
国際関係論	2	講	Ⅲ	(中)政治学 (高(公))政治学	
政治制度論	2	講	Ⅳ	(中)政治学 (高(公))政治学	
民法A	2	講	Ⅲ	(中)法律学 (高(公))法律学	
民法B	2	講	Ⅳ	(中)法律学 (高(公))法律学	
刑法A	2	講	Ⅲ	(中)法律学 (高(公))法律学	
刑法B	2	講	Ⅳ	(中)法律学 (高(公))法律学	
経済学基礎演習	2	演	Ⅳ	(中)経済学 (高(公))経済学	
経済学基礎論	2	講	Ⅲ	(中)経済学 (高(公))経済学	
経済学応用論	2	講	Ⅴ	(中)経済学 (高(公))経済学	
都市社会学	2	講	Ⅲ	(中・高(公))社会学	
家族社会学	2	講	Ⅲ偶	(中・高(公))社会学	
ジェンダーの社会学	2	講	Ⅳ奇	(中・高(公))社会学	
社会調査法Ⅰ	2	講	Ⅲ	(中・高(公))社会学	
社会調査法Ⅱ	2	講	Ⅳ	(中・高(公))社会学	
多文化教育演習A－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		社会教育学
多文化教育演習A－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		社会教育学
多文化教育演習B－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		社会教育学
多文化教育演習B－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		社会教育学
地理教育演習A－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		社会教育学
地理教育演習A－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		社会教育学

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
地理教育演習B－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		社会教育学
地理教育演習B－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		社会教育学
歴史教育演習A－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		社会教育学
歴史教育演習A－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		社会教育学
歴史教育演習B－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		社会教育学
歴史教育演習B－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		社会教育学
公民教育演習A－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		社会教育学
公民教育演習A－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		社会教育学
公民教育演習B－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		社会教育学
公民教育演習B－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		社会教育学
公民教育演習C－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		社会教育学
公民教育演習C－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		社会教育学
公民教育演習D－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		社会教育学
公民教育演習D－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		社会教育学
臨地研究演習Ⅰ	2	演	Ⅴ		地理学
臨地研究演習Ⅱ	2	演	Ⅵ		地理学
地理学演習Ⅰ	2	演	Ⅶ		地理学
地理学演習Ⅱ	2	演	Ⅷ		地理学
日本史演習A－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		歴史学
日本史演習A－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		歴史学
日本史演習B－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		歴史学
日本史演習B－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		歴史学
日本史演習C－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		歴史学
日本史演習C－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		歴史学
日本史演習D－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		歴史学
日本史演習D－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		歴史学
日本史演習E－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		歴史学
日本史演習E－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		歴史学
日本史演習F－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		歴史学
日本史演習F－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		歴史学
外国史演習A－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		歴史学
外国史演習A－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		歴史学
外国史演習B－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		歴史学
外国史演習B－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		歴史学
外国史演習C－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		歴史学
外国史演習C－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		歴史学
外国史演習D－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		歴史学
外国史演習D－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		歴史学
外国史演習E－Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		歴史学
外国史演習E－Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		歴史学

（B社会SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
外国史演習Ｆ－Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		歴史学
外国史演習Ｆ－Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		歴史学
哲学・倫理学基礎演習Ａ	2	演	Ⅵ奇		哲学
哲学・倫理学基礎演習Ｂ	2	演	Ⅵ偶		哲学
宗教思想基礎演習Ａ	2	演	Ⅵ奇		哲学
宗教思想基礎演習Ｂ	2	演	Ⅵ偶		哲学
哲学・倫理学演習Ａ	2	演	Ⅶ奇		哲学
哲学・倫理学演習Ｂ	2	演	Ⅶ偶		哲学
宗教思想演習Ａ	2	演	Ⅶ奇		哲学
宗教思想演習Ｂ	2	演	Ⅶ偶		哲学
法学政治学演習Ⅰ	2	演	Ⅴ		法学・政治学
法学政治学演習Ⅱ	2	演	Ⅵ		法学・政治学
経済学演習Ａ Ⅰ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		経済学
経済学演習Ａ Ⅱ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		経済学
経済学演習Ｂ Ⅰ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		経済学
経済学演習Ｂ Ⅱ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		経済学
社会学演習Ⅰ	2	演	Ⅴ		社会学
社会学演習Ⅱ	2	演	Ⅵ		社会学

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B社会SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	社会コース	

⑤ 数学

学校教育教員養成課程 初等教育専攻 数学コース〔A類 数学〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（A数学SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
数学カリキュラム論	2	講演	Ⅵ	(小,中・高(数))大学独自	
初等算数科教材論	2	講演	Ⅴ	(小)大学独自	

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，10単位を必ず修得する。

（A数学S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ前後		A数学
解析学Ⅰ	2	講	Ⅲ	(小)算数 (中・高)解析学	
代数学Ⅰ	2	講	Ⅲ	(小)算数 (中・高)代数学	
幾何学Ⅰ	2	講	Ⅲ	(小)算数 (中・高)幾何学	
確率・統計Ⅰ	2	講	Ⅲ	(小)算数 (中・高)確率論	

(※)掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，●印の科目8単位は全て修得したうえで，12単位以上を修得する。

（A数学SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
微分・積分学Ⅰ	2	講	Ⅰ		●
微分・積分学Ⅱ	2	講	Ⅱ		●
線形数学Ⅰ	2	講	Ⅰ		●
線形数学Ⅱ	2	講	Ⅱ		●
微分・積分学演習Ⅰ	1	演	Ⅰ		
微分・積分学演習Ⅱ	1	演	Ⅱ		
線形数学演習Ⅰ	1	演	Ⅰ		
線形数学演習Ⅱ	1	演	Ⅱ		
解析学Ⅱ	2	講	Ⅳ	(小)算数 (中・高)解析学	
代数学Ⅱ	2	講	Ⅳ	(小)算数 (中・高)代数学	
幾何学Ⅱ	2	講	Ⅳ	(小)算数 (中・高)幾何学	
確率・統計Ⅱ	2	講	Ⅳ	(小)算数 (中・高)統計学	
位相数学	2	講	Ⅱ	(中・高)解析学	
位相空間論	2	講	Ⅲ	(中・高)幾何学	
コンピュータ概論Ⅰ	1	講	Ⅵ前	(小)算数 (中・高(数))コンピュータ	

（A数学SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
コンピュータ概論Ⅱ	1	講	Ⅵ後	(小)算数 (中・高(数))コンピュータ	
解析学各論A	2	講	Ⅴ	(中・高)解析学	
解析学各論B	2	講	Ⅵ	(中・高)解析学	
代数学各論	2	講	Ⅵ	(中・高)代数学	
幾何学各論	2	講	Ⅵ	(中・高)幾何学	
確率論各論	2	講	Ⅵ	(中・高)確率論	
確率論特論Ⅰ	2	講	Ⅴ	(中・高)確率論	
集合と論理	2	講	Ⅰ	(中・高)幾何学	
算数科教育臨床	2	講演	Ⅵ		

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（A数学SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	数学コース	

学校教育教員養成課程 中等教育専攻 数学コース〔B類 数学〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B数学SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
数学カリキュラム論	2	講演	Ⅵ	（小,中・高（数））大学独自	
数学科教材論	2	講演	Ⅳ	（中・高（数））大学独自	

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，20単位を必ず修得する。

（B数学S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ前		B数学
解析学Ⅰ	2	講	Ⅲ	（小）算数 （中・高）解析学	
解析学Ⅱ	2	講	Ⅳ	（小）算数 （中・高）解析学	
代数学Ⅰ	2	講	Ⅲ	（小）算数 （中・高）代数学	
代数学Ⅱ	2	講	Ⅳ	（小）算数 （中・高）代数学	
幾何学Ⅰ	2	講	Ⅲ	（小）算数 （中・高）幾何学	
幾何学Ⅱ	2	講	Ⅳ	（小）算数 （中・高）幾何学	
確率・統計Ⅰ	2	講	Ⅲ	（小）算数 （中・高）確率論	
確率・統計Ⅱ	2	講	Ⅳ	（小）算数 （中・高）統計学	
コンピュータ概論Ⅰ	1	講	Ⅵ前	（小）算数 （中・高（数））コンピュータ	
コンピュータ概論Ⅱ	1	講	Ⅵ後	（小）算数 （中・高（数））コンピュータ	

（※）掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，●印の科目8単位を全て修得し，○印の科目から1科目2単位以上修得したうえで，
合計22単位以上を修得する。

（B数学SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
微分・積分学Ⅰ	2	講	Ⅰ		●
微分・積分学Ⅱ	2	講	Ⅱ		●
線形数学Ⅰ	2	講	Ⅰ		●
線形数学Ⅱ	2	講	Ⅱ		●
微分・積分学演習Ⅰ	1	演	Ⅰ		
微分・積分学演習Ⅱ	1	演	Ⅱ		
線形数学演習Ⅰ	1	演	Ⅰ		
線形数学演習Ⅱ	1	演	Ⅱ		
集合と論理	2	講	Ⅰ	(中・高)幾何学	○
位相数学	2	講	Ⅱ	(中・高)解析学	○
位相空間論	2	講	Ⅲ	(中・高)幾何学	○
解析学特論AⅠ	2	講	Ⅴ	(中・高)解析学	○
解析学特論AⅡ	2	講	Ⅵ	(中・高)解析学	○
解析学特論BⅠ	2	講	Ⅴ	(中・高)解析学	○
解析学特論BⅡ	2	講	Ⅵ	(中・高)解析学	○
解析学特論C	2	講	Ⅴ	(中・高)解析学	○
解析学特論D	2	講	Ⅵ	(中・高)解析学	○
解析学特論E	2	講	Ⅴ	(中・高)解析学	○
代数学特論AⅠ	2	講	Ⅴ	(中・高)代数学	○
代数学特論AⅡ	2	講	Ⅵ	(中・高)代数学	○
代数学特論B	2	講	Ⅴ	(中・高)代数学	○
代数学特論C	2	講	Ⅵ	(中・高)代数学	○
幾何学特論AⅠ	2	講	Ⅴ	(中・高)幾何学	○
幾何学特論AⅡ	2	講	Ⅵ	(中・高)幾何学	○
幾何学特論BⅠ	2	講	Ⅴ	(中・高)幾何学	○
幾何学特論BⅡ	2	講	Ⅵ	(中・高)幾何学	○
確率論各論	2	講	Ⅵ	(中・高)確率論	○
確率論特論Ⅰ	2	講	Ⅴ	(中・高)確率論	○
確率論特論Ⅱ	2	講	Ⅵ	(中・高)確率論	○
数学科教育臨床	2	講演	Ⅴ		
数学教育研究	2	講演	Ⅵ		

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B数学SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	数学コース	

⑥ 理科

学校教育教員養成課程 初等教育専攻 理科コース〔A類 理科〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（A理科SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
理科カリキュラム・教材開発基礎A	2	講	Ⅲ	(小，中・高(理))大学独自	
理科カリキュラム・教材開発基礎B	2	講	Ⅲ	(小，中・高(理))大学独自	

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，14単位を必ず修得する。

（A理科S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ後		A理科
物理学概論Ⅰ	1	講	Ⅰ後	(小)理科 (中・高)物理学	
化学概論Ⅰ	1	講	Ⅰ前	(小)理科 (中・高)化学	
生物学概論Ⅰ	1	講	Ⅰ前	(小)理科 (中・高)生物学	
地学概論Ⅰ	1	講	Ⅰ後	(小)理科 (中・高)地学	
物理学実験	2	実	Ⅰ・Ⅱ	(小)理科 (中・高)物理学実験	
化学実験	2	実	Ⅰ・Ⅱ	(小)理科 (中・高)化学実験	
生物学実験	2	実	Ⅰ・Ⅱ	(小)理科 (中・高)生物学実験	
地学実験	2	実	Ⅰ・Ⅱ	(小)理科 (中・高)地学実験	

(※)掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，8単位以上を修得する。

（A理科SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
現代社会における理科教育	2	講	Ⅰ	(小，中・高(理))大学独自	
自然探究実践法	2	講	Ⅲ	(小，中・高(理))大学独自	
理科学習評価論	2	講	Ⅳ	(小，中・高(理))大学独自	
理科教育学概説	2	講	Ⅴ	(小，中・高(理))大学独自	
理科学習指導論	2	講	Ⅴ	(小，中・高(理))大学独自	
海洋科学教育	2	講	Ⅲ	(中・高)複合科目	
物理学概論Ⅱ	2	講	Ⅱ	(小)理科 (中・高)物理学	
力学Ⅰ	2	講	Ⅲ	(中・高)物理学	
力学Ⅱ	2	講	Ⅳ	(中・高)物理学	
電磁気学Ⅰ	2	講	Ⅲ	(中・高)物理学	
電磁気学Ⅱ	2	講	Ⅳ	(中・高)物理学	
熱力学	2	講	Ⅳ	(中・高)物理学	
統計力学	2	講	Ⅴ【偶】	(中・高)物理学	

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
量子力学Ⅰ	2	講	Ⅴ	(中・高)物理学	
量子力学Ⅱ	2	講	Ⅵ	(中・高)物理学	
数理物理学Ⅰ	2	講	Ⅲ	(中・高)物理学	
数理物理学Ⅱ	2	講	Ⅳ	(中・高)物理学	
相対性理論	2	講	Ⅴ【奇】	(中・高)物理学	
物性物理学	2	講	Ⅵ	(中・高)物理学	
化学概論Ⅱ	2	講	Ⅱ	(小)理科 (中・高)化学	
有機化学Ⅰ	2	講	Ⅲ	(中・高)化学	
有機化学Ⅱ	2	講	Ⅳ	(中・高)化学	
有機化学Ⅲ	2	講	Ⅴ	(中・高)化学	
有機化学実験	2	実	Ⅴ	(中・高)化学実験	
物理化学Ⅰ	2	講	Ⅲ	(中・高)化学	
物理化学Ⅱ	2	講	Ⅳ	(中・高)化学	
物理化学Ⅲ	2	講	Ⅴ	(中・高)化学	
物理化学実験	2	実	Ⅳ	(中・高)化学実験	
無機化学Ⅰ	2	講	Ⅲ	(中・高)化学	
無機化学Ⅱ	2	講	Ⅳ	(中・高)化学	
無機化学Ⅲ	2	講	Ⅴ	(中・高)化学	
無機分析化学実験	2	実	Ⅴ	(中・高)化学実験	
生物学概論Ⅱ	2	講	Ⅱ	(小)理科 (中・高)生物学	
生物科学方法論	2	講	Ⅲ	(中・高)生物学	
統合生命科学セミナー	2	講	Ⅳ	(中・高)生物学	
現代生命科学AⅠ	2	講	Ⅳ	(中・高)生物学	
現代生命科学AⅡ	2	講	Ⅵ	(中・高)生物学	
現代生命科学BⅠ	2	講	Ⅴ	(中・高)生物学	
現代生命科学BⅡ	2	講	Ⅶ	(中・高)生物学	
生物学野外実習	1	実	Ⅲ (集中)	(中・高)生物学	
系統学	2	講	Ⅲ	(中・高)生物学	
生態学	2	演	Ⅲ	(中・高)生物学	
植物生理学	2	講	Ⅴ	(中・高)生物学	
動物生理学	2	演	Ⅵ	(中・高)生物学	
分子生物学	2	講	Ⅲ	(中・高)生物学	
自然科学のための数学A	2	講	Ⅰ		
自然科学のための数学B	2	講	Ⅱ		
地学概論Ⅱ	2	講	Ⅱ	(小)理科 (中・高)地学	
地球科学A	2	講	Ⅲ	(中・高)地学	
地球科学B	2	講	Ⅳ	(中・高)地学	
地球科学野外実習	1	講実	Ⅵ (集中)	(中・高)地学	

（A理科SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
地球科学実験	1	実	V	(中・高)地学実験	
地球物理学概説A	2	講	Ⅲ	(中・高)地学	
地球物理学概説B	2	講	Ⅳ	(中・高)地学	
地球物理学	2	講	V	(中・高)地学	
地球物理学実験	1	実	Ⅵ	(中・高)地学実験	
宇宙地球と生命	2	講	Ⅳ	(中・高)地学	
宇宙物理学	2	講	V	(中・高)地学	
天文学実験	1	実	Ⅵ	(中・高)地学実験	
専修物理学実験A	2	実	V		物理学
専修物理学実験B	2	実	Ⅵ		物理学
専修物理学演習A	2	演	V		物理学
専修物理学演習B	2	演	Ⅵ		物理学
化学演習A	2	演	Ⅶ【奇】		化学
化学演習B	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		化学
化学演習C	2	演	Ⅶ【偶】		化学
化学演習D	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		化学
生物学特別演習AⅠ	2	演	V【奇】・Ⅶ【奇】		生物学
生物学特別演習AⅡ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		生物学
生物学特別演習BⅠ	2	演	V【偶】・Ⅶ【偶】		生物学
生物学特別演習BⅡ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		生物学
地学特別演習A	2	演	V		地学
地学特別演習B	2	演	Ⅵ		地学
理科教育学演習AⅠ	2	演	V【奇】・Ⅶ【奇】		理科教育学
理科教育学演習AⅡ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		理科教育学
理科教育学演習BⅠ	2	演	V【偶】・Ⅶ【偶】		理科教育学
理科教育学演習BⅡ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		理科教育学

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（A理科SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	理科コース	

学校教育教員養成課程 中等教育専攻 理科コース〔B類 理科〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B理科SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
理科カリキュラム・教材開発基礎A	2	講	Ⅲ	(小，中・高(理))大学独自	
理科カリキュラム・教材開発基礎B	2	講	Ⅲ	(小，中・高(理))大学独自	

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，22単位を必ず修得する。

（B理科S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ後		B理科
物理学概論Ⅰ	1	講	Ⅰ後	(小)理科 (中・高)物理学	
物理学概論Ⅱ	2	講	Ⅱ	(小)理科 (中・高)物理学	
物理学実験	2	実	Ⅰ・Ⅱ	(小)理科 (中・高)物理学実験	
化学概論Ⅰ	1	講	Ⅰ前	(小)理科 (中・高)化学	
化学概論Ⅱ	2	講	Ⅱ	(小)理科 (中・高)化学	
化学実験	2	実	Ⅰ・Ⅱ	(小)理科 (中・高)化学実験	
生物学概論Ⅰ	1	講	Ⅰ前	(小)理科 (中・高)生物学	
生物学概論Ⅱ	2	講	Ⅱ	(小)理科 (中・高)生物学	
生物学実験	2	実	Ⅰ・Ⅱ	(小)理科 (中・高)生物学実験	
地学概論Ⅰ	1	講	Ⅰ後	(小)理科 (中・高)地学	
地学概論Ⅱ	2	講	Ⅱ	(小)理科 (中・高)地学	
地学実験	2	実	Ⅰ・Ⅱ	(小)理科 (中・高)地学実験	

(※)掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，20単位以上を修得する。

（B理科SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
現代社会における理科教育	2	講	Ⅰ	(小，中・高(理))大学独自	
自然探究実践法	2	講	Ⅲ	(小，中・高(理))大学独自	
理科学習評価論	2	講	Ⅳ	(小，中・高(理))大学独自	
理科教育学概説	2	講	Ⅴ	(小，中・高(理))大学独自	
理科学習指導論	2	講	Ⅴ	(小，中・高(理))大学独自	
海洋科学教育	2	講	Ⅲ	(中・高)複合科目	
力学Ⅰ	2	講	Ⅲ	(中・高)物理学	

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考(対象)
力学Ⅱ	2	講	Ⅳ	(中・高)物理学	
電磁気学Ⅰ	2	講	Ⅲ	(中・高)物理学	
電磁気学Ⅱ	2	講	Ⅳ	(中・高)物理学	
熱力学	2	講	Ⅳ	(中・高)物理学	
統計力学	2	講	V【偶】	(中・高)物理学	
量子力学Ⅰ	2	講	V	(中・高)物理学	
量子力学Ⅱ	2	講	Ⅵ	(中・高)物理学	
数理物理学Ⅰ	2	講	Ⅲ	(中・高)物理学	
数理物理学Ⅱ	2	講	Ⅳ	(中・高)物理学	
相対性理論	2	講	V【奇】	(中・高)物理学	
物性物理学	2	講	Ⅵ	(中・高)物理学	
有機化学Ⅰ	2	講	Ⅲ	(中・高)化学	
有機化学Ⅱ	2	講	Ⅳ	(中・高)化学	
有機化学Ⅲ	2	講	V	(中・高)化学	
有機化学実験	2	実	V	(中・高)化学実験	
物理化学Ⅰ	2	講	Ⅲ	(中・高)化学	
物理化学Ⅱ	2	講	Ⅳ	(中・高)化学	
物理化学Ⅲ	2	講	V	(中・高)化学	
物理化学実験	2	実	Ⅳ	(中・高)化学実験	
無機化学Ⅰ	2	講	Ⅲ	(中・高)化学	
無機化学Ⅱ	2	講	Ⅳ	(中・高)化学	
無機化学Ⅲ	2	講	V	(中・高)化学	
無機分析化学実験	2	実	V	(中・高)化学実験	
生物科学方法論	2	講	Ⅲ	(中・高)生物学	
統合生命科学セミナー	2	講	Ⅳ	(中・高)生物学	
現代生命科学AⅠ	2	講	Ⅳ	(中・高)生物学	
現代生命科学AⅡ	2	講	Ⅵ	(中・高)生物学	
現代生命科学BⅠ	2	講	V	(中・高)生物学	
現代生命科学BⅡ	2	講	Ⅶ	(中・高)生物学	
生物学野外実習	1	実	Ⅲ(集中)	(中・高)生物学	
系統学	2	講	Ⅲ	(中・高)生物学	
生態学	2	演	Ⅲ	(中・高)生物学	
植物生理学	2	講	V	(中・高)生物学	
動物生理学	2	演	Ⅵ	(中・高)生物学	
分子生物学	2	講	Ⅲ	(中・高)生物学	
自然科学のための数学A	2	講	Ⅰ		
自然科学のための数学B	2	講	Ⅱ		
地球科学A	2	講	Ⅲ	(中・高)地学	
地球科学B	2	講	Ⅳ	(中・高)地学	
地球科学野外実習	1	講実	Ⅵ(集中)	(中・高)地学	

(B理科SA)

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考(対象)
地球科学実験	1	実	Ⅴ	(中・高)地学実験	
地球物理学概説A	2	講	Ⅲ	(中・高)地学	
地球物理学概説B	2	講	Ⅳ	(中・高)地学	
地球物理学	2	講	Ⅴ	(中・高)地学	
地球物理学実験	1	実	Ⅵ	(中・高)地学実験	
宇宙地球と生命	2	講	Ⅳ	(中・高)地学	
宇宙物理学	2	講	Ⅴ	(中・高)地学	
天文学実験	1	実	Ⅵ	(中・高)地学実験	
専修物理学実験A	2	実	Ⅴ		物理学
専修物理学実験B	2	実	Ⅵ		物理学
専修物理学演習A	2	演	Ⅴ		物理学
専修物理学演習B	2	演	Ⅵ		物理学
化学演習A	2	演	Ⅶ【奇】		化学
化学演習B	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		化学
化学演習C	2	演	Ⅶ【偶】		化学
化学演習D	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		化学
生物学特別演習AⅠ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		生物学
生物学特別演習AⅡ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		生物学
生物学特別演習BⅠ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		生物学
生物学特別演習BⅡ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		生物学
地学特別演習A	2	演	Ⅴ		地学
地学特別演習B	2	演	Ⅵ		地学
理科教育学演習AⅠ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		理科教育学
理科教育学演習AⅡ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		理科教育学
理科教育学演習BⅠ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		理科教育学
理科教育学演習BⅡ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		理科教育学

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

(B理科SZ)

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考(対象)
卒業研究	④	ⅦⅧ	理科コース	

⑦音楽

学校教育教員養成課程 初等教育専攻 音楽コース〔A類 音楽〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。　（A音楽SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
音楽科カリキュラム論A	2	演	Ⅵ	（小，中・高（音））大学独自	
音楽科教材論A	2	演	Ⅱ	（小，中・高（音））大学独自	

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，14単位を必ず修得する。　（A音楽S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ前		A音楽
基礎声楽実技Ⅰ	1	実	Ⅰ	(小)音楽 (中・高)声楽	
合唱	1	演	Ⅰ	(小)音楽 (中・高)声楽（合唱を含む。）	
ソルフェージュⅠ	1	演	Ⅰ	(小)音楽 (中・高)ソルフェージュ	
基礎ピアノ実技Ⅰ	1	実	Ⅰ	(小)音楽 (中・高)器楽（合奏，伴奏を含む。）	
基礎管弦打実技Ⅰ	1	実	Ⅰ	(小)音楽 (中・高)器楽（合奏を含む。）	
作曲法Ⅰ	1	演	Ⅰ	(小)音楽 (中・高)音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）	
作曲法Ⅱ	1	演	Ⅱ	(小)音楽 (中・高)音楽理論・作曲法	
指揮法	1	演	Ⅲ	(小)音楽 (中・高)指揮法	
音楽学概論A	2	講	Ⅰ	(小)音楽 (中・高)音楽理論・音楽史	
音楽学概論B	2	講	Ⅱ	(小)音楽 (中・高)音楽理論・音楽史（日本の伝統音楽を含む。）	

（※）掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，○印の科目（「吹奏楽」又は「オーケストラ」）のいずれか1科目1単位を含めて8単位以上を修得する。

（A音楽SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
基礎声楽実技Ⅱ	1	実	Ⅱ	(小)音楽 (中・高)声楽	
基礎声楽実技Ⅲ	1	実	Ⅲ	(中・高)声楽	
基礎声楽実技Ⅳ	1	実	Ⅳ	(中・高)声楽	
声楽実技Ⅰ	2	実	Ⅴ		
声楽実技Ⅱ	2	実	Ⅵ		
吹奏楽	1	演	Ⅴ偶	(小)音楽 (中・高)器楽（合奏を含む。）	○
オーケストラ	1	演	Ⅴ奇	(小)音楽 (中・高)器楽（合奏を含む。）	○
ソルフェージュⅡ	1	演	Ⅱ奇	(中・高)ソルフェージュ	
基礎ピアノ実技Ⅱ	1	実	Ⅱ	(中・高)器楽	
基礎ピアノ実技Ⅲ	1	実	Ⅲ	(中・高)器楽	

（A音楽SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
基礎ピアノ実技Ⅳ	1	実	Ⅳ	(中・高)器楽	
ピアノ実技Ⅰ	2	実	Ⅴ		
ピアノ実技Ⅱ	2	実	Ⅵ		
基礎管弦打実技Ⅱ	1	実	Ⅱ	(中・高)器楽	
基礎管弦打実技Ⅲ	1	実	Ⅲ	(中・高)器楽	
基礎管弦打実技Ⅳ	1	実	Ⅳ	(中・高)器楽	
管弦打実技Ⅰ	2	実	Ⅴ		
管弦打実技Ⅱ	2	実	Ⅵ		
作曲研究A	2	演	Ⅲ奇		
作曲研究B	2	演	Ⅳ奇		
作曲研究C	2	演	Ⅴ偶		
作曲研究D	2	演	Ⅵ偶		
音楽学概論CⅠ	1	講	Ⅵ前	(小)音楽 (中・高)音楽理論・音楽史(諸民族の音楽を含む。)	
音楽学概論CⅡ	1	講	Ⅵ後	(小)音楽 (中・高)音楽理論・音楽史	
音楽学基礎研究A	2	演	Ⅰ		
音楽学基礎研究B	2	演	Ⅲ		
音楽学基礎研究C	2	演	Ⅴ		
音楽教育特別研究A	2	演	Ⅴ		
音楽教育特別研究B	2	演	Ⅵ		
音楽教育特別研究C	2	演	Ⅵ		
音楽学研究A	2	演	Ⅱ		
音楽学研究B	2	演	Ⅳ		
音楽学研究C	2	演	Ⅵ		
邦楽歌唱法A	1	演	Ⅳ	(小)音楽 (中・高)声楽(日本の伝統的な歌唱を含む。)	
邦楽歌唱法B	1	演	Ⅲ	(小)音楽 (中・高)声楽(日本の伝統的な歌唱を含む。)	
和楽器A	1	演	Ⅲ	(小)音楽 (中・高)器楽(和楽器を含む。)	
和楽器B	1	演	Ⅳ	(小)音楽 (中・高)器楽(和楽器を含む。)	
和楽器C	1	演	Ⅳ	(小)音楽 (中・高)器楽(和楽器を含む。)	
和楽器D	1	演	Ⅲ	(小)音楽 (中・高)器楽(和楽器を含む。)	
民族音楽演習A	1	演	Ⅴ奇		
民族音楽演習B	1	演	Ⅴ偶		
ポピュラー音楽演習	1	演	Ⅵ		
音楽療法概説	2	講	Ⅵ		
リトミック演習	1	演	Ⅴ		

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（A音楽SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	音楽コース	

学校教育教員養成課程 中等教育専攻 音楽コース〔B類 音楽〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B音楽SE）

授業科目	単位数	講演実	開設学年学期	免許法上の科目	備考（対象）
音楽科カリキュラム論B	2	演	Ⅵ	(小，中・高(音))大学独自	
音楽科教材論B	2	演	Ⅳ	(小，中・高(音))大学独自	

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，19単位を必ず修得する。

（B音楽S）

授業科目	単位数	講演実	開設学年学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ前		B音楽
基礎声楽実技Ⅰ	1	実	Ⅰ	(小)音楽 (中・高)声楽	
基礎声楽実技Ⅱ	1	実	Ⅱ	(小)音楽 (中・高)声楽	
合唱	1	演	Ⅰ	(小)音楽 (中・高)声楽(合唱を含む。)	
ソルフェージュⅠ	1	演	Ⅰ	(小)音楽 (中・高)ソルフェージュ	
基礎ピアノ実技Ⅰ	1	実	Ⅰ	(小)音楽 (中・高)器楽(合奏，伴奏を含む。)	
基礎ピアノ実技Ⅱ	1	実	Ⅱ	(小)音楽 (中・高)器楽	
基礎管弦打実技Ⅰ	1	実	Ⅰ	(小)音楽 (中・高)器楽(合奏を含む。)	
基礎管弦打実技Ⅱ	1	実	Ⅱ	(中・高)器楽	
作曲法Ⅰ	1	演	Ⅰ	(小)音楽 (中・高)音楽理論・作曲法(編曲法を含む。)	
作曲法Ⅱ	1	演	Ⅱ	(小)音楽 (中・高)音楽理論・作曲法	
指揮法	1	演	Ⅲ	(小)音楽 (中・高)指揮法	
音楽学概論A	2	講	Ⅰ	(小)音楽 (中・高)音楽理論・音楽史	
音楽学概論B	2	講	Ⅱ	(小)音楽 (中・高)音楽理論・音楽史(日本の伝統音楽を含む。)	
音楽学概論CⅠ	1	講	Ⅵ前	(小)音楽 (中・高)音楽理論・音楽史(諸民族の音楽を含む。)	
音楽学概論CⅡ	1	講	Ⅵ後	(小)音楽 (中・高)音楽理論・音楽史	

(※)掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，○印の科目（「邦楽歌唱法A」又は「邦楽歌唱法B」）のいずれか1科目1単位，□印の科目（「吹奏楽」又は「オーケストラ」）のいずれか1科目1単位，△印の科目（「和楽器A」「和楽器B」「和楽器C」「和楽器D」）の中から1科目1単位を含めて23単位以上を修得する。

（B音楽SA）

授業科目	単位数	講演実	開設学年学期	免許法上の科目	備考（対象）
基礎声楽実技Ⅲ	1	実	Ⅲ	(中・高)声楽	
基礎声楽実技Ⅳ	1	実	Ⅳ	(中・高)声楽	
声楽実技Ⅰ	2	実	Ⅴ		
声楽実技Ⅱ	2	実	Ⅵ		
吹奏楽	1	演	Ⅴ偶	(小)音楽 (中・高)器楽(合奏を含む。)	□
オーケストラ	1	演	Ⅴ奇	(小)音楽 (中・高)器楽(合奏を含む。)	□
ソルフェージュⅡ	1	演	Ⅱ奇	(中・高)ソルフェージュ	
基礎ピアノ実技Ⅲ	1	実	Ⅲ	(中・高)器楽	
基礎ピアノ実技Ⅳ	1	実	Ⅳ	(中・高)器楽	
ピアノ実技Ⅰ	2	実	Ⅴ		
ピアノ実技Ⅱ	2	実	Ⅵ		
基礎管弦打実技Ⅲ	1	実	Ⅲ	(中・高)器楽	
基礎管弦打実技Ⅳ	1	実	Ⅳ	(中・高)器楽	
管弦打実技Ⅰ	2	実	Ⅴ		
管弦打実技Ⅱ	2	実	Ⅵ		
作曲研究A	2	演	Ⅲ奇		
作曲研究B	2	演	Ⅳ奇		
作曲研究C	2	演	Ⅴ偶		
作曲研究D	2	演	Ⅵ偶		
音楽学基礎研究A	2	演	Ⅰ		
音楽学基礎研究B	2	演	Ⅲ		
音楽学基礎研究C	2	演	Ⅴ		
音楽教育特別研究A	2	演	Ⅴ		
音楽教育特別研究B	2	演	Ⅵ		
音楽教育特別研究C	2	演	Ⅵ		
音楽学研究A	2	演	Ⅱ		
音楽学研究B	2	演	Ⅳ		
音楽学研究C	2	演	Ⅵ		
邦楽歌唱法A	1	演	Ⅳ	(小)音楽 (中・高)声楽(日本の伝統的な歌唱を含む。)	○
邦楽歌唱法B	1	演	Ⅲ	(小)音楽 (中・高)声楽(日本の伝統的な歌唱を含む。)	○
和楽器A	1	演	Ⅲ	(小)音楽 (中・高)器楽(和楽器を含む。)	△
和楽器B	1	演	Ⅳ	(小)音楽 (中・高)器楽(和楽器を含む。)	△
和楽器C	1	演	Ⅳ	(小)音楽 (中・高)器楽(和楽器を含む。)	△

（B音楽SA）

授業科目	単位数	講演実	開設学年学期	免許法上の科目	備考（対象）
和楽器D	1	演	Ⅲ	(小)音楽 (中・高)器楽(和楽器を含む。)	△
民族音楽演習A	1	演	Ⅴ奇		
民族音楽演習B	1	演	Ⅴ偶		
ポピュラー音楽演習	1	演	Ⅵ		
音楽療法概説	2	講	Ⅵ		
リトミック演習	1	演	Ⅴ		

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B音楽SZ）

授業科目	単位数	開設学年学期	コース・プログラム
卒業研究	④	ⅦⅧ	音楽コース

⑧ 美術

学校教育教員養成課程 初等教育専攻 美術コース〔A類 美術〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（A美術SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
図画工作科教材論	2	演	Ⅱ	(幼，小，中・高(美)・高(工芸))大学独自	
図画工作科カリキュラム論	2	演	Ⅵ	(幼，小，中・高(美)・高(工芸))大学独自	

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，14単位を必ず修得する。

（A美術S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ前		A美術
絵画基礎Ⅰ	2	演	Ⅰ	(小)図画工作 (中・高(美))絵画 (映像メディア表現を含む。)	
彫刻基礎Ⅰ	2	演	Ⅰ	(小)図画工作 (中・高(美))彫刻	
デザイン基礎Ⅰ	2	演	Ⅰ	(小)図画工作 (中・高(美))デザイン(映像メディア表現を含む。) 【(高)工芸】デザイン	
工芸基礎Ⅰ	2	演	Ⅰ	(小)図画工作 (中)工芸 【(高)工芸】工芸制作(プロダクト制作を含む。)	
日本東洋美術史概論	2	講	Ⅲ	(小)図画工作 (中・高(美))美術史(鑑賞,日本の伝統美術,アジアの美術を含む。) 【(高)工芸】美術史(鑑賞,日本の伝統工芸,アジアの工芸を含む。)	
美学	2	講	Ⅵ	(小)図画工作 (中・高(美))美術理論	

(※)掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，8単位以上修得する。

（A美術SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
絵画基礎Ⅱ	2	演	Ⅱ	(小)図画工作 (中・高(美))絵画	
絵画演習A	2	演	Ⅲ	(中・高(美))絵画	
絵画演習B	2	演	Ⅳ	(中・高(美))絵画	
絵画演習C	2	演	Ⅳ	(中・高(美))絵画	
彫刻基礎Ⅱ	2	演	Ⅱ	(小)図画工作 (中・高(美))彫刻	
彫刻演習A	2	演	Ⅲ	(中・高(美))彫刻	
彫刻演習B	2	演	Ⅳ	(中・高(美))彫刻	
デザイン基礎Ⅱ	2	演	Ⅱ	(小)図画工作 (中・高(美))デザイン 【(高)工芸】デザイン	
デザイン演習A	2	演	Ⅳ	(中・高(美))デザイン 【(高)工芸】デザイン	
デザイン演習B	2	演	Ⅴ	(中・高(美))デザイン 【(高)工芸】デザイン	

（A美術SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
工芸基礎Ⅱ	2	演	Ⅱ	(小)図画工作 (中)工芸 【(高)工芸】工芸制作(プロダクト制作を含む。)	
工芸演習A	2	演	Ⅲ	(中)工芸 【(高)工芸】工芸制作	
工芸演習B	2	演	Ⅴ	(中)工芸 【(高)工芸】工芸制作	
工芸演習C	2	演	Ⅳ	(中)工芸 【(高)工芸】工芸制作	
工芸演習D	2	演	Ⅲ	(中)工芸 【(高)工芸】工芸制作	
工芸演習E	2	演	Ⅳ	(中)工芸 【(高)工芸】工芸制作	
美術史演習A	2	演	Ⅶ奇	(中・高(美))美術史	
美術史演習B	2	演	Ⅶ偶	(中・高(美))美術史	
美術史演習C	2	演	Ⅳ		
現代美術史概論	2	講	Ⅳ	(中・高(美))美術史	
西洋美術史概論	2	講	Ⅱ	(小)図画工作 (中・高(美))美術史	
美術科教育演習Ⅰ	2	演	Ⅰ	(幼, 小, 中・高(美)・高(工芸))大学独自	
美術科教育演習Ⅱ	2	演	Ⅱ	(幼, 小, 中・高(美)・高(工芸))大学独自	
美術科教育演習Ⅲ	2	演	Ⅲ	(幼, 小, 中・高(美)・高(工芸))大学独自	
美術科教育演習Ⅳ	2	演	Ⅳ	(幼, 小, 中・高(美)・高(工芸))大学独自	
図画工作・美術科基礎	2	演	Ⅱ	(幼, 小, 中・高(美)・高(工芸))大学独自	
工芸・デザイン理論	2	講	Ⅲ	【(高)工芸】工芸理論・デザイン理論	
生産工芸実地研修	2	演	Ⅳ(集中)	(中)工芸 【(高)工芸】工芸制作	
図法・製図	2	演	Ⅱ	【(高)工芸】図法・製図	
美術史実地研修	1	実	Ⅳ(集中)	(中・高(美))美術史	
美術演習AⅠ	2	演	Ⅲ【偶】・Ⅴ【偶】		
美術演習AⅡ	2	演	Ⅳ【偶】・Ⅵ【偶】		
美術演習BⅠ	2	演	Ⅲ【奇】・Ⅴ【奇】		
美術演習BⅡ	2	演	Ⅳ【奇】・Ⅵ【奇】		

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（A美術SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	美術コース	

学校教育教員養成課程 中等教育専攻 美術コース〔B類 美術〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B美術SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
美術科教材論	2	演	Ⅳ	(小，中・高(美)・高(工芸))大学独自	
美術科カリキュラム論	2	演	Ⅵ	(小，中・高(美)・高(工芸))大学独自	

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，24単位を必ず修得する。

（B美術S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ前		B美術
絵画基礎Ⅰ	2	演	Ⅰ	(小)図画工作 (中・高(美))絵画(映像メディア表現を含む。)	
絵画基礎Ⅱ	2	演	Ⅱ	(小)図画工作 (中・高(美))絵画	
彫刻基礎Ⅰ	2	演	Ⅰ	(小)図画工作 (中・高(美))彫刻	
彫刻基礎Ⅱ	2	演	Ⅱ	(小)図画工作 (中・高(美))彫刻	
デザイン基礎Ⅰ	2	演	Ⅰ	(小)図画工作 (中・高(美))デザイン(映像メディア表現を含む。) 【(高)工芸】デザイン	
デザイン基礎Ⅱ	2	演	Ⅱ	(小)図画工作 (中・高(美))デザイン 【(高)工芸】デザイン	
工芸基礎Ⅰ	2	演	Ⅰ	(小)図画工作 (中)工芸 【(高)工芸】工芸制作(プロダクト制作を含む。)	
工芸基礎Ⅱ	2	演	Ⅱ	(小)図画工作 (中)工芸 【(高)工芸】工芸制作(プロダクト制作を含む。)	
日本東洋美術史概論	2	講	Ⅲ	(小)図画工作 (中・高(美))美術史(鑑賞,日本の伝統美術,アジアの美術を含む。) 【(高)工芸】美術史(鑑賞,日本の伝統工芸,アジアの工芸を含む。)	
西洋美術史概論	2	講	Ⅱ	(小)図画工作 (中・高(美))美術史	
美学	2	講	Ⅵ	(小)図画工作 (中・高(美))美術理論	

(※)掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，18単位以上を修得する。

（B美術SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
絵画演習A	2	演	Ⅲ	(中・高(美))絵画	
絵画演習B	2	演	Ⅳ	(中・高(美))絵画	
絵画演習C	2	演	Ⅳ	(中・高(美))絵画	
彫刻演習A	2	演	Ⅲ	(中・高(美))彫刻	
彫刻演習B	2	演	Ⅳ	(中・高(美))彫刻	
デザイン演習A	2	演	Ⅳ	(中・高(美))デザイン 【(高)工芸】デザイン	
デザイン演習B	2	演	Ⅴ	(中・高(美))デザイン 【(高)工芸】デザイン	
工芸演習A	2	演	Ⅲ	(中)工芸 【(高)工芸】工芸制作	
工芸演習B	2	演	Ⅴ	(中)工芸 【(高)工芸】工芸制作	
工芸演習C	2	演	Ⅳ	(中)工芸 【(高)工芸】工芸制作	
工芸演習D	2	演	Ⅲ	(中)工芸 【(高)工芸】工芸制作	
工芸演習E	2	演	Ⅳ	(中)工芸 【(高)工芸】工芸制作	
美術科教育演習Ⅰ	2	演	Ⅰ	(幼，小，中・高(美)・高(工芸))大学独自	
美術科教育演習Ⅱ	2	演	Ⅱ	(幼，小，中・高(美)・高(工芸))大学独自	
美術科教育演習Ⅲ	2	演	Ⅲ	(幼，小，中・高(美)・高(工芸))大学独自	
美術科教育演習Ⅳ	2	演	Ⅳ	(幼，小，中・高(美)・高(工芸))大学独自	
図画工作・美術科基礎	2	演	Ⅱ	(幼，小，中・高(美)・高(工芸))大学独自	
工芸・デザイン理論	2	講	Ⅲ	【(高)工芸】工芸理論・デザイン理論	
生産工芸実地研修	2	演	Ⅳ (集中)	(中)工芸 【(高)工芸】工芸制作	
図法・製図	2	演	Ⅱ	【(高)工芸】図法・製図	
美術史実地研修	1	実	Ⅳ (集中)	(中・高(美))美術史	
美術史演習A	2	演	Ⅶ奇	(中・高(美))美術史	
美術史演習B	2	演	Ⅶ偶	(中・高(美))美術史	
美術史演習C	2	演	Ⅳ		
現代美術史概論	2	講	Ⅳ	(中・高(美))美術史	
美術演習AⅠ	2	演	Ⅲ【偶】・Ⅴ【偶】		
美術演習AⅡ	2	演	Ⅳ【偶】・Ⅵ【偶】		
美術演習BⅠ	2	演	Ⅲ【奇】・Ⅴ【奇】		
美術演習BⅡ	2	演	Ⅳ【奇】・Ⅵ【奇】		

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B美術SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	美術コース	

⑨ 保健体育

学校教育教員養成課程 初等教育専攻 保健体育コース〔A類 保健体育〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（A保健体育SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
保健体育科教材研究A	2	講	Ⅳ	(小，中・高(保体))大学独自		
保健体育科カリキュラム開発論A	2	講	Ⅴ	(小，中・高(保体))大学独自		

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，14単位を必ず修得する。

（A保健体育S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前			※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ前			A保体
学校保健学AⅠ	1	講	Ⅱ前	(小)体育 (中・高(保体))【(中・高)保健】学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	スポーツ指導者資格	
学校保健学AⅡ	1	講	Ⅱ後	(小)体育 (中・高(保体))【(中・高)保健】学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	スポーツ指導者資格	
器械運動A	1	実	Ⅰ	(小)体育 (中・高(保体))体育実技		
陸上A	1	実	Ⅰ	(小)体育 (中・高(保体))体育実技		
水泳A	1	実	Ⅰ	(小)体育 (中・高(保体))体育実技	スポーツ指導者資格	
バレーボールA	1	実	Ⅲ	(小)体育 (中・高(保体))体育実技		
運動生理学AⅠ	1	講	Ⅲ前	(小)体育 (中・高(保体))生理学(運動生理学を含む。) 【(中・高)保健】生理学	スポーツ指導者資格	
運動生理学AⅡ	1	講	Ⅲ後	(小)体育 (中・高(保体))生理学(運動生理学を含む。) 【(中・高)保健】生理学	スポーツ指導者資格	
運動方法学総論AⅠ	1	講	Ⅳ前	(小)体育 (中・高(保体))運動学(運動方法学を含む。)	スポーツ指導者資格	
運動方法学総論AⅡ	1	講	Ⅳ後	(小)体育 (中・高(保体))運動学(運動方法学を含む。)	スポーツ指導者資格	
体育原理AⅠ	1	講	Ⅰ前	(小)体育 (中・高(保体))体育原理	スポーツ指導者資格	
体育原理AⅡ	1	講	Ⅰ後	(小)体育 (中・高(保体))体育原理	スポーツ指導者資格	

（※）掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，8単位以上を修得する。

（A保健体育SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
バスケットボールA	1	実	Ⅲ	(小)体育 (中・高(保体))体育実技		
ソフトボールA	1	実	Ⅱ	(小)体育 (中・高(保体))体育実技		
表現運動	1	実	Ⅳ	(小)体育 (中・高(保体))体育実技		
剣道A	1	実	Ⅳ	(中・高(保体))体育実技		
柔道A	1	実	Ⅲ	(中・高(保体))体育実技		

（A保健体育SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
体つくり運動A	1	実	Ⅱ	(小)体育 (中・高(保体))体育実技		
サッカーA	1	実	Ⅱ	(中・高(保体))体育実技		
体育史	2	講	Ⅰ	(中・高(保体))体育史		
体育・スポーツ社会学	2	講	Ⅳ	(中・高(保体))体育社会学		
保健体育・スポーツ専門英語演習(外国語活用科目)	2	演	Ⅴ			
衛生・公衆衛生学AⅠ	1	講	Ⅲ前	(中・高(保体))【(中・高)保健】衛生学・公衆衛生学 【養護】衛生学・公衆衛生学(予防医学を含む。)		
衛生・公衆衛生学AⅡ	1	講	Ⅲ後	(中・高(保体))【(中・高)保健】衛生学・公衆衛生学 【養護】衛生学・公衆衛生学(予防医学を含む。)		
学校安全・救急処置	2	講	Ⅱ	(中・高(保体))【(中・高)保健】学校保健	スポーツ指導者資格	
体育理論	2	講演	Ⅵ	(中・高(保体))複合科目		
体育科指導演習	2	演	Ⅴ	(小)複合科目		
学校部活動総論	2	講演	Ⅴ	(中・高(保体))複合科目	スポーツ指導者資格	
ラケットスポーツ	1	実	Ⅵ			
インクルーシブスポーツ	2	講	Ⅲ【奇】		スポーツ指導者資格	
ダイバーシティとスポーツ	2	講	Ⅲ【偶】		スポーツ指導者資格	
スポーツ動作分析法	2	演	Ⅳ			
野外環境教育学	2	講	Ⅲ			
野外環境教育学実習	1	実	Ⅲ(集中)			
スキー	1	実	Ⅱ(集中)			
体育・スポーツ統計学	2	演	Ⅲ			
保健体育科模擬授業演習A	2	講	Ⅳ			
体育科学習評価論	2	講	Ⅲ【偶】			
教科教育・特活指導計画論	2	講	Ⅲ【奇】			
保健体育科研究法A	2	演	Ⅴ			
保健体育科研究法B	2	演	Ⅵ			
体育・スポーツ心理学	2	講	Ⅱ	(中・高(保体))体育心理学	スポーツ指導者資格	
体育・スポーツ経営学	2	講	Ⅳ	(中・高(保体))体育経営管理学	スポーツ指導者資格	
解剖生理学	2	講	Ⅰ	(中・高(保体))生理学 【(中・高)保健】生理学		
スポーツバイオメカニクス	2	講	Ⅲ	(中・高(保体))生理学 【(中・高)保健】生理学、栄養学	スポーツ指導者資格	

*スポーツ指導者資格は一部E類生スポ科目の履修も必要なため、「諸資格」のページも参照すること。

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（A保健体育SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	保健体育コース	

学校教育教員養成課程 中等教育専攻 保健体育コース〔B類 保健体育〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B保健体育SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
保健体育科教材研究B	2	講	Ⅳ	(小，中・高(保体))大学独自		
保健体育科カリキュラム開発論B	2	講	Ⅴ	(小，中・高(保体))大学独自		

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，22単位を必ず修得する。

（B保健体育S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前			※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ前			B保体
学校保健学BⅠ	1	講	Ⅱ前	(小)体育 (中・高(保体))【(中・高)保健】 学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	スポーツ指導者資格	
学校保健学BⅡ	1	講	Ⅱ後	(小)体育 (中・高(保体))【(中・高)保健】 学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	スポーツ指導者資格	
衛生・公衆衛生学BⅠ	1	講	Ⅲ前	(中・高(保体))【(中・高)保健】 衛生学・公衆衛生学 【養護】衛生学・公衆衛生学(予防医学を含む。)		
衛生・公衆衛生学BⅡ	1	講	Ⅲ後	(中・高(保体))【(中・高)保健】 衛生学・公衆衛生学 【養護】衛生学・公衆衛生学(予防医学を含む。)		
柔道B	1	実	Ⅲ	(中・高(保体))体育実技		
剣道B	1	実	Ⅲ	(中・高(保体))体育実技		
器械運動B	1	実	Ⅰ	(小)体育 (中・高(保体))体育実技		
陸上B	1	実	Ⅰ	(小)体育 (中・高(保体))体育実技		
水泳B	1	実	Ⅰ	(小)体育 (中・高(保体))体育実技	スポーツ指導者資格	
ダンス	1	実	Ⅱ	(小)体育 (中・高(保体))体育実技		
バスケットボールB	1	実	Ⅳ	(小)体育 (中・高(保体))体育実技		
ソフトボールB	1	実	Ⅲ	(小)体育 (中・高(保体))体育実技		
バレーボールB	1	実	Ⅱ	(小)体育 (中・高(保体))体育実技		
体つくり運動B	1	実	Ⅰ	(小)体育 (中・高(保体))体育実技		
運動生理学BⅠ	1	講	Ⅲ前	(小)体育 (中・高(保体))生理学(運動生理学を含む。) 【(中・高)保健】生理学	スポーツ指導者資格	
運動生理学BⅡ	1	講	Ⅲ後	(小)体育 (中・高(保体))生理学(運動生理学を含む。) 【(中・高)保健】生理学	スポーツ指導者資格	
体育原理BⅠ	1	講	Ⅰ前	(小)体育 (中・高(保体))体育原理	スポーツ指導者資格	
体育原理BⅡ	1	講	Ⅰ後	(小)体育 (中・高(保体))体育原理	スポーツ指導者資格	
運動方法学総論BⅠ	1	講	Ⅳ前	(小)体育 (中・高(保体))運動学(運動方法学を含む。)	スポーツ指導者資格	
運動方法学総論BⅡ	1	講	Ⅳ後	(小)体育 (中・高(保体))運動学(運動方法学を含む。)	スポーツ指導者資格	

(※)掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，20単位以上を修得する。

（B保健体育SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
スポーツバイオメカニクス	2	講	Ⅲ	(中・高(保体))生理学 【(中・高)保健】生理学	スポーツ指導者資格	
解剖生理学	2	講	Ⅰ	(中・高(保体))生理学 【(中・高)保健】生理学		
学校安全・救急処置	2	講	Ⅱ	(中・高(保体))【(中・高)保健】 学校保健	スポーツ指導者資格	
体育理論	2	講演	Ⅵ	(中・高(保体))複合科目		
体育科指導演習	2	演	Ⅴ	(小)複合科目		
学校部活動総論	2	講演	Ⅴ	(中・高(保体))複合科目	スポーツ指導者資格	
体育・スポーツ統計学	2	演	Ⅲ			
保健体育科模擬授業演習B	2	講	Ⅳ			
体育科学習評価論	2	講	Ⅲ【偶】			
教科教育・特活指導計画論	2	講	Ⅲ【奇】			
保健体育・スポーツ専門英語演習 (外国語活用科目)	2	演	Ⅴ			
サッカーB	1	実	Ⅱ	(中・高(保体))体育実技		
ラグビー	1	実	Ⅳ【偶】	(中・高(保体))体育実技		
ハンドボール	1	実	Ⅳ【奇】	(中・高(保体))体育実技		
体育史	2	講	Ⅰ	(中・高(保体))体育史		
体育・スポーツ心理学	2	講	Ⅱ	(中・高(保体))体育心理学	スポーツ指導者資格	
体育・スポーツ社会学	2	講	Ⅳ	(中・高(保体))体育社会学		
体育・スポーツ経営学	2	講	Ⅳ	(中・高(保体))体育経営管理学	スポーツ指導者資格	
野外環境教育学	2	講	Ⅲ			
ラケットスポーツ	1	実	Ⅵ			
インクルーシブスポーツ	2	講	Ⅲ【奇】		スポーツ指導者資格	
ダイバーシティとスポーツ	2	講	Ⅲ【偶】		スポーツ指導者資格	
スポーツ動作分析法	2	演	Ⅳ			
野外環境教育学実習	1	実	Ⅲ (集中)			
スキー	1	実	Ⅱ (集中)			
保健体育科研究法A	2	演	Ⅴ			
保健体育科研究法B	2	演	Ⅵ			

*スポーツ指導者資格は一部E類生スポ科目の履修も必要なため、「諸資格」のページも参照すること。

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B保健体育SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	保健体育コース	

⑩ 家庭

学校教育教員養成課程 初等教育専攻 家庭コース〔A類 家庭〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。 （A家庭SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
家庭科教材論（A）	2	講演	Ⅲ	(小，中・高(家)) 大学独自	
家庭科カリキュラム論（A）	2	講	Ⅵ	(小，中・高(家)) 大学独自	

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，12単位を必ず修得する。 （A家庭S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ後		A家庭
栄養学概論	2	講	Ⅲ	(小)家庭 (中・高)食物学(栄養学，食品学を含む。)	
被服学概論	2	講	Ⅰ	(小)家庭 (中・高)被服学(被服実習を含む。)	
家庭経営学概論	2	講	Ⅰ	(小)家庭 (中・高)家庭経営学(家庭経済学を含む。)	
住居学概論	2	講実	Ⅱ	(小)家庭 (中・高)住居学	
児童学概論	2	講	Ⅲ	(小)家庭 (中・高)保育学	

(※)掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から，10単位以上を修得する。 （A家庭SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
食品学	2	講	Ⅳ	(中・高)食物学	
被服構成学	2	講実	Ⅱ	(小)家庭 (中・高)被服学(被服実習を含む。)	
衣生活論	2	講実	Ⅲ	(中・高)被服学	
被服学実験・実習A	1	実	Ⅳ	(中・高)被服学	
被服学実験・実習B	1	実	Ⅴ	(中・高)被服学	
被服管理学	2	講	Ⅲ	(中・高)被服学	
食物学	2	講実	Ⅴ	(中・高)食物学	
調理学概論	2	講実	Ⅱ	(小)家庭 (中・高)食物学(調理実習を含む。)	
食物学実験・実習A	1	実	Ⅱ (集中)	(中・高)食物学	
食物学実験・実習B	1	実	Ⅴ	(中・高)食物学	
生活経営学	2	講	Ⅲ	(中・高)家庭経営学	
消費生活論	2	講	Ⅴ	(中・高)家庭経営学	

（A家庭SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
住環境論	2	講演	Ⅳ	(中・高)住居学	
生活環境論	2	講演	Ⅲ	(中・高)住居学	
住居計画学	2	講実	Ⅴ	(小)家庭 (中・高)住居学	
家族関係学	2	講	Ⅵ	(小)家庭 (中・高)家庭経営学(家族関係学を含む。)	
家庭電気・機械・情報処理	2	講	Ⅵ		
乳幼児と生活Ⅰ	2	講演実	Ⅳ(集中)	(小)家庭 (中・高)保育学	
乳幼児と生活Ⅱ	2	演	Ⅴ	(中・高)保育学	
看護・介護と生活	2	講実	Ⅵ	(中・高)保育学	
家庭科演習	2	演	Ⅵ		

選択科目B（SB）

（A家庭SB）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
児童福祉論	2	講	Ⅲ		社会福祉士	E類ソーシャルワークSA
高齢者福祉論	2	講	Ⅳ		社会福祉士	E類ソーシャルワークSA
家族社会学	2	講	Ⅲ偶	(中(社)・高(公))社会学		A・B類社会SA
ジェンダーの社会学	2	講	Ⅳ奇	(中(社)・高(公))社会学		A・B類社会SA

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（A家庭SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	家庭コース	

学校教育教員養成課程 中等教育専攻 家庭コース〔B類 家庭〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B家庭SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
家庭科教材論（B）	2	講演	Ⅲ	（小，中・高(家)）大学独自	
家庭科カリキュラム論（B）	2	講	Ⅵ	（小，中・高(家)）大学独自	

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，24単位を必ず修得する。

（B家庭S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ後		B家庭
栄養学概論	2	講	Ⅲ	（小）家庭 （中・高）食物学(栄養学，食品学を含む。）	
家庭経営学概論	2	講	Ⅰ	（小）家庭 （中・高）家庭経営学（家庭経済学を含む。）	
住居学概論	2	講実	Ⅱ	（小）家庭 （中・高）住居学	
住居計画学	2	講実	Ⅴ	（小）家庭 （中・高）住居学	
調理学概論	2	講実	Ⅱ	（小）家庭 （中・高）食物学（調理実習を含む。）	
児童学概論	2	講	Ⅲ	（小）家庭 （中・高）保育学	
家族関係学	2	講	Ⅵ	（小）家庭 （中・高）家庭経営学（家族関係学を含む。）	
家庭電気・機械・情報処理	2	講	Ⅵ		
乳幼児と生活Ⅰ	2	講演実	Ⅳ（集中）	（小）家庭 （中・高）保育学	
被服学概論	2	講	Ⅰ	（小）家庭 （中・高）被服学（被服実習を含む。）	
被服構成学	2	講実	Ⅱ	（小）家庭 （中・高）被服学（被服実習を含む。）	

（※）掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から，18単位以上を修得する。

（B家庭SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
食物学実験・実習A	1	実	Ⅱ（集中）	（中・高）食物学	
食物学実験・実習B	1	実	Ⅴ	（中・高）食物学	
食物学	2	講実	Ⅴ	（中・高）食物学	
食品学	2	講	Ⅳ	（中・高）食物学	
衣生活論	2	講実	Ⅲ	（中・高）被服学	
被服管理学	2	講	Ⅲ	（中・高）被服学	
被服学実験・実習A	1	実	Ⅳ	（中・高）被服学	
被服学実験・実習B	1	実	Ⅴ	（中・高）被服学	
生活経営学	2	講	Ⅲ	（中・高）家庭経営学	
消費生活論	2	講	Ⅴ	（中・高）家庭経営学	
住環境論	2	講演	Ⅳ	（中・高）住居学	
生活環境論	2	講演	Ⅲ	（中・高）住居学	
乳幼児と生活Ⅱ	2	演	Ⅴ	（中・高）保育学	
看護・介護と生活	2	講実	Ⅵ	（中・高）保育学	
家庭科演習	2	演	Ⅵ		

選択科目B（SB）

（B家庭SB）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
児童福祉論	2	講	Ⅲ		社会福祉士	E類ソーシャルワークSA
高齢者福祉論	2	講	Ⅳ		社会福祉士	E類ソーシャルワークSA
家族社会学	2	講	Ⅲ偶	（中(社)・高（公））社会学		A・B類社会SA
ジェンダーの社会学	2	講	Ⅳ奇	（中(社)・高（公））社会学		A・B類社会SA

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B家庭SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	家庭コース	

⑪ 英語

学校教育教員養成課程 初等教育専攻 英語コース〔A類 英語〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（A英語SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
英語科教材論	2	演	Ⅰ	(小,中・高(英))大学独自	
英語科カリキュラム論	2	演	Ⅱ	(小,中・高(英))大学独自	

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，14単位を必ず修得する。

（A英語S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ後		A英語
英会話Ⅰ	1	演	Ⅰ	(小)外国語 (中・高)英語コミュニケーション	
英作文Ⅰ	1	演	Ⅰ	(小)外国語 (中・高)英語コミュニケーション	
英語読解Ⅰ	1	演	Ⅰ	(小)外国語 (中・高)英語コミュニケーション	
英語読解Ⅱ	1	演	Ⅱ	(中・高)英語コミュニケーション	
英文法演習Ⅰ	2	演	Ⅰ	(小)外国語 (中・高)英語学	
英語音声学概論	2	演	Ⅰ	(小)外国語 (中・高)英語学	
英米文学概論AⅠ	1	講	Ⅲ前	(小)外国語 (中・高)英語文学	
英米文学概論AⅡ	1	講	Ⅲ後	(小)外国語 (中・高)英語文学	
英米文学概論BⅠ	1	講	Ⅳ前	(小)外国語 (中・高)英語文学	
英米文学概論BⅡ	1	講	Ⅳ後	(小)外国語 (中・高)英語文学	

（※）掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，8単位以上を修得する。

（A英語SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
英会話Ⅱ	1	演	Ⅱ	(中・高)英語コミュニケーション	
英会話Ⅲ	1	演	Ⅲ	(中・高)英語コミュニケーション	
英会話Ⅳ	1	演	Ⅳ	(中・高)英語コミュニケーション	
英作文Ⅱ	1	演	Ⅱ	(中・高)英語コミュニケーション	
英作文Ⅲ	1	演	Ⅲ	(中・高)英語コミュニケーション	
英文法演習Ⅱ	2	演	Ⅱ	(小)外国語 (中・高)英語学	
英語史概論	2	講	Ⅳ	(小)外国語 (中・高)英語学	
現代英語学Ⅰ	2	講	Ⅲ	(中・高)英語学	
現代英語学Ⅱ	2	講	Ⅳ	(中・高)英語学	
文法理論	2	演	Ⅴ	(中・高)英語学	

（A英語SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
近現代英語研究A	2	演	V【奇】	(中・高)英語学	
近現代英語研究B	2	演	V【偶】	(中・高)英語学	
英文法特論A	2	演	VI【奇】	(中・高)英語学	
英文法特論B	2	演	VI【偶】	(中・高)英語学	
イギリス文学A	2	演	V【偶】	(中・高)英語文学	
イギリス文学B	2	演	V【奇】	(中・高)英語文学	
アメリカ文学A	2	演	V【偶】	(中・高)英語文学	
アメリカ文学B	2	演	V【奇】	(中・高)英語文学	
英米文学基礎講読A	2	演	Ⅲ	(中・高)英語文学	
英米文学基礎講読B	2	演	Ⅳ	(中・高)英語文学	
イギリス文化概論Ⅰ	1	講	Ⅱ前	(小)外国語 (中・高)異文化理解	
イギリス文化概論Ⅱ	1	講	Ⅱ後	(小)外国語 (中・高)異文化理解	
アメリカ文化概論Ⅰ	1	講	Ⅰ前	(小)外国語 (中・高)異文化理解	
アメリカ文化概論Ⅱ	1	講	Ⅰ後	(小)外国語 (中・高)異文化理解	
英語圏文化演習A	2	演	Ⅲ	(中・高)異文化理解	
英語圏文化演習B	2	演	Ⅳ	(中・高)異文化理解	
英語教育学研究	2	演	Ⅵ		
英語指導実践演習	2	演	Ⅴ (集中)		
小学校英語教育概論Ⅰ	2	演	Ⅲ		
小学校英語教育概論Ⅱ	2	演	Ⅳ		
小学校英語教育演習Ⅰ	2	演	Ⅴ		
小学校英語教育演習Ⅱ	2	演	Ⅵ		
第二言語習得	2	演	Ⅴ	(小,中・高(英))大学独自	
英語科と異文化理解	2	演	Ⅴ	(小,中・高(英))大学独自	

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（A英語SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	英語コース	

学校教育教員養成課程 中等教育専攻 英語コース〔B類 英語〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B英語SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
英語科教材論	2	演	Ⅰ	(小,中・高(英))大学独自	
英語科カリキュラム論	2	演	Ⅱ	(小,中・高(英))大学独自	

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，22単位を必ず修得する。

（B英語S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ後		B英語
英語読解Ⅰ	1	演	Ⅰ	(小)外国語 (中・高)英語コミュニケーション	
英語読解Ⅱ	1	演	Ⅱ	(中・高)英語コミュニケーション	
英会話Ⅰ	1	演	Ⅰ	(小)外国語 (中・高)英語コミュニケーション	
英作文Ⅰ	1	演	Ⅰ	(小)外国語 (中・高)英語コミュニケーション	
英文法演習Ⅰ	2	演	Ⅰ	(小)外国語 (中・高)英語学	
英文法演習Ⅱ	2	演	Ⅱ	(小)外国語 (中・高)英語学	
英語音声学概論	2	演	Ⅰ	(小)外国語 (中・高)英語学	
英語史概論	2	講	Ⅳ	(小)外国語 (中・高)英語学	
イギリス文化概論Ⅰ	1	講	Ⅱ前	(小)外国語 (中・高)異文化理解	
イギリス文化概論Ⅱ	1	講	Ⅱ後	(小)外国語 (中・高)異文化理解	
アメリカ文化概論Ⅰ	1	講	Ⅰ前	(小)外国語 (中・高)異文化理解	
アメリカ文化概論Ⅱ	1	講	Ⅰ後	(小)外国語 (中・高)異文化理解	
英米文学概論AⅠ	1	講	Ⅲ前	(小)外国語 (中・高)英語文学	
英米文学概論AⅡ	1	講	Ⅲ後	(小)外国語 (中・高)英語文学	
英米文学概論BⅠ	1	講	Ⅳ前	(小)外国語 (中・高)英語文学	
英米文学概論BⅡ	1	講	Ⅳ後	(小)外国語 (中・高)英語文学	

（※）掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，20単位以上を修得する。

（B英語SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
英会話Ⅱ	1	演	Ⅱ	(中・高)英語コミュニケーション	
英会話Ⅲ	1	演	Ⅲ	(中・高)英語コミュニケーション	
英会話Ⅳ	1	演	Ⅳ	(中・高)英語コミュニケーション	
英作文Ⅱ	1	演	Ⅱ	(中・高)英語コミュニケーション	
英作文Ⅲ	1	演	Ⅲ	(中・高)英語コミュニケーション	
現代英語学Ⅰ	2	講	Ⅲ	(中・高)英語学	
現代英語学Ⅱ	2	講	Ⅳ	(中・高)英語学	
文法理論	2	演	Ⅴ	(中・高)英語学	
近現代英語研究A	2	演	Ⅴ【奇】	(中・高)英語学	
近現代英語研究B	2	演	Ⅴ【偶】	(中・高)英語学	
英文法特論A	2	演	Ⅵ【奇】	(中・高)英語学	
英文法特論B	2	演	Ⅵ【偶】	(中・高)英語学	
イギリス文学A	2	演	Ⅴ【偶】	(中・高)英語文学	
イギリス文学B	2	演	Ⅴ【奇】	(中・高)英語文学	
アメリカ文学A	2	演	Ⅴ【偶】	(中・高)英語文学	
アメリカ文学B	2	演	Ⅴ【奇】	(中・高)英語文学	
英米文学基礎講読A	2	演	Ⅲ	(中・高)英語文学	
英米文学基礎講読B	2	演	Ⅳ	(中・高)英語文学	
英語圏文化演習A	2	演	Ⅲ	(中・高)異文化理解	
英語圏文化演習B	2	演	Ⅳ	(中・高)異文化理解	
英語教育学研究	2	演	Ⅵ		
英語指導実践演習	2	演	Ⅴ（集中）		
第二言語習得	2	演	Ⅴ	(小,中・高(英))大学独自	
英語科と異文化理解	2	演	Ⅴ	(小,中・高(英))大学独自	

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B英語SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	英語コース	

⑫ 現代教育実践

学校教育教員養成課程 初等教育専攻 現代教育実践コース〔A類 現代教育実践〕

- 学校教育プログラム
- 学校心理プログラム
- 国際教育プログラム
- 環境教育プログラム

教育内容科目（SE）

下記の授業科目から，自プログラム対象の科目1科目を含めて，2科目4単位以上修得する。

（A現代教育実践SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
合科的学習教材論	2	講	Ⅲ	(幼, 小, 中, 高, 養)大学独自	学校教育
カリキュラム論	2	講演	Ⅲ	(幼, 小, 中, 高, 養)大学独自	学校教育
授業実践の心理学	2	講	Ⅳ	(幼, 小, 中, 高, 養)大学独自	学校心理
教授学習プロセスとその評価	2	演	Ⅵ	(幼, 小, 中, 高, 養)大学独自	学校心理
国際教育のカリキュラム	2	講演	Ⅳ	(幼, 小, 中, 高, 養)大学独自	国際教育
国際教育臨床	2	講演	Ⅲ	(幼, 小, 中, 高, 養)大学独自	国際教育
環境教育カリキュラム論	2	講	Ⅲ	(幼, 小, 中, 高, 養)大学独自	環境教育
環境教育教材論	2	講演	Ⅳ	(幼, 小, 中, 高, 養)大学独自	環境教育

必修科目（S）

下記の授業科目のうち，「全学共通入門セミナー」1単位，自プログラム対象の「コース別入門セミナー」1単位，「教育実践概論A～D」の4科目4単位の合計6単位を必ず修得する。

（A現代教育実践S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講演	Ⅰ前後		学校教育・学校心理・国際教育・環境教育
教育実践概論A	1	講	Ⅰ		
教育実践概論B	1	講	Ⅱ		
教育実践概論C	1	講	Ⅱ		
教育実践概論D	1	講	Ⅰ		

（※）掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

学校教育プログラム

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，16単位以上を修得する。

（A学校教育SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
教育実践研究法	2	講演	Ⅰ（集中）		
教育調査法	2	演	Ⅳ		
教育学基礎論	2	講演	Ⅱ		

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
教育技術論	2	講	Ⅲ		
教育学文献研究法	2	演	Ⅱ		
学級経営の理論と実践	2	講演	Ⅲ		
教育方法学演習AⅠ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		
教育方法学演習AⅡ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		
教育方法学演習BⅠ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		
教育方法学演習BⅡ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		
特別活動演習AⅠ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		
特別活動演習AⅡ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		
特別活動演習BⅠ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		
特別活動演習BⅡ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		
学校社会学演習AⅠ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		
学校社会学演習AⅡ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		
学校社会学演習BⅠ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		
学校社会学演習BⅡ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		
教育史学演習AⅠ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		
教育史学演習AⅡ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		
教育史学演習BⅠ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		
教育史学演習BⅡ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		
教育社会学演習AⅠ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		
教育社会学演習AⅡ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		
教育社会学演習BⅠ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		
教育社会学演習BⅡ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		
教育経営学演習AⅠ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		
教育経営学演習AⅡ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		
教育経営学演習BⅠ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		
教育経営学演習BⅡ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		
教育工学演習AⅠ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		
教育工学演習AⅡ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		
教育工学演習BⅠ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		
教育工学演習BⅡ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		
教育哲学演習AⅠ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		
教育哲学演習AⅡ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		
教育哲学演習BⅠ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		
教育哲学演習BⅡ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		
授業研究演習AⅠ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		
授業研究演習AⅡ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		
授業研究演習BⅠ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		
授業研究演習BⅡ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		

（A学校教育SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
教育法制演習AⅠ	2	演	V【奇】・Ⅶ【奇】		
教育法制演習AⅡ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		
教育法制演習BⅠ	2	演	V【偶】・Ⅶ【偶】		
教育法制演習BⅡ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		

学校心理プログラム

選択科目A（SA）

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から，16単位以上を修得する。

（A学校心理SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
教育心理学実験	1	実	Ⅴ		
学校心理実践演習A	2	演	Ⅴ		
学校心理実践演習B	2	演	Ⅵ		
学校心理実践演習C	2	演	Ⅳ		
発達心理学	2	講	Ⅰ		
社会・集団・家族心理学	2	講	Ⅲ		
知覚・認知心理学	2	講	Ⅳ		
心理学概論	2	講	Ⅰ		
教育・学校心理学	2	講	Ⅱ		
心理学統計法Ⅰ	1	演	Ⅰ		
心理学統計法Ⅱ	1	演	Ⅱ		
実験・観察研究法	2	演	Ⅲ		
質問紙調査法	2	演	Ⅳ		
学校心理学応用研究	2	演	Ⅵ		

選択科目B（SB）

（A学校心理SB）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
教育・心理データ解析法	2	講	Ⅲ		E類カウンセリングS
人間理解の心理学	2	講	Ⅱ		E類カウンセリングS
心理的アセスメントA	2	演	Ⅴ		E類カウンセリングSA
神経・生理心理学	2	講	Ⅵ		E類カウンセリングSA
感情・人格心理学	2	講	Ⅴ		E類カウンセリングSA
学習・言語心理学	2	講	Ⅵ		E類カウンセリングSA

国際教育プログラム

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，●から3科目6単位全てを修得し，○から2科目4単位以上修得したうえで，16単位以上を修得する。

（A国際教育SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
国際教育基本文献講読	2	講	Ⅱ		●
国際教育交流史	2	講	Ⅲ		
比較教育学研究	2	講	Ⅱ		
帰国・外国人児童生徒のための日本語教育	2	講	Ⅴ		
異文化間心理学	2	講	Ⅳ		
海外・帰国児童生徒教育論	2	講	Ⅳ		
国際教育演習A	2	演	Ⅴ		○
国際教育演習B	2	演	Ⅵ		○
国際教育演習C	2	演	Ⅴ		○
国際教育演習D	2	演	Ⅴ		○
国際教育フィールド研究Ⅰ	2	演	Ⅵ		●
国際教育フィールド研究Ⅱ	2	演	Ⅶ		●

環境教育プログラム

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，16単位以上を修得する。

（A環境教育SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
環境教育野外実習	2	実	Ⅲ（集中）		
植物進化生態学	2	講	Ⅳ		
自然環境調査法	2	実	Ⅲ		
自然環境解析実験	1	実	Ⅲ（集中）		
地球環境論	2	講	Ⅰ		
河川環境論	2	講実	Ⅴ		
環境教育概論	2	講	Ⅱ		
環境教育演習AⅠ	2	演	Ⅴ【奇】・Ⅶ【奇】		
環境教育演習AⅡ	2	演	Ⅵ【奇】・Ⅷ【奇】		
環境教育演習BⅠ	2	演	Ⅴ【偶】・Ⅶ【偶】		
環境教育演習BⅡ	2	演	Ⅵ【偶】・Ⅷ【偶】		

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，自プログラムの4単位を必ず修得する。

（A現代教育実践SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	学校教育プログラム	
卒業研究	④	ⅦⅧ	学校心理プログラム	
卒業研究	④	ⅦⅧ	国際教育プログラム	
卒業研究	④	ⅦⅧ	環境教育プログラム	

⑬ ものづくり技術

学校教育教員養成課程 初等教育専攻 ものづくり技術コース〔A類 ものづくり技術〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（Aものづくり技術SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
ものづくり・技術教育カリキュラム論	2	講演	Ⅱ	（小，中(技)，高(工業)）大学独自	
ものづくり・技術教育教材論	2	講演	Ⅳ	（小，中(技)，高(工業)）大学独自	

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，11単位を必ず修得する。

（Aものづくり技術S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ後		Aものづくり技術
金属加工概論	3	講実	Ⅰ	【(中)技】材料加工（実習を含む。） 【(高)工業】工業の関係科目	
基礎製図	2	講実	Ⅰ	【(中)技】材料加工 【(高)工業】工業の関係科目	
木材加工の基礎	2	講実	Ⅰ	【(中)技】材料加工（実習を含む。） 【(高)工業】工業の関係科目	
情報処理概論	2	講実	Ⅲ	【(中)技】情報とコンピュータ 【(高)工業】工業の関係科目	

（※）掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から，11単位以上を修得する。

（Aものづくり技術SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
工業数学Ⅰ	2	講	Ⅰ		※
工業物理学Ⅰ	2	講	Ⅰ		※
工業数学Ⅱ	2	講	Ⅱ		※
工業物理学Ⅱ	2	講	Ⅱ		※
ものづくりセミナー	2	講	Ⅳ		
工業技術	2	講	Ⅵ	【(高)工業】工業の関係科目	
青年期の職業指導	2	講	Ⅴ	【(高)工業】職業指導	
電気回路	3	講実	Ⅲ	【(中)技】機械・電気（実習を含む。） 【(高)工業】工業の関係科目	
電子工学概論	2	講	Ⅵ	【(中)技】機械・電気 【(高)工業】工業の関係科目	
栽培	3	講実	Ⅲ	【(中)技】生物育成	
機械工学の基礎	3	講実	Ⅳ	【(中)技】機械・電気（実習を含む。） 【(高)工業】工業の関係科目	
機械工学A	2	講	Ⅴ	【(中)技】機械・電気 【(高)工業】工業の関係科目	
機械工学B	2	講	Ⅵ	【(中)技】機械・電気 【(高)工業】工業の関係科目	
機械工学C	2	講	Ⅴ		
木材加工の応用Ⅰ	2	講実	Ⅱ	【(中)技】材料加工 【(高)工業】工業の関係科目	
木材加工の応用Ⅱ	3	講実	Ⅲ	【(中)技】材料加工 【(高)工業】工業の関係科目	

※中学（技術）の教員免許状取得を希望するA類ものづくり技術コースの学生においては、履修することを強く推奨

（Aものづくり技術SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
応用情報処理Ⅰ	2	講	Ⅳ	【(中)技】情報とコンピュータ 【(高)工業】工業の関係科目	
応用情報処理Ⅱ	2	講	Ⅴ	【(中)技】情報とコンピュータ 【(高)工業】工業の関係科目	
応用情報処理Ⅲ	2	講	Ⅶ		
ものづくり特別演習Ⅰ	2	講	Ⅴ		
ものづくり特別演習Ⅱ	2	講	Ⅴ		
ものづくり特別演習Ⅲ	2	講演実	Ⅴ		
ものづくり特別演習Ⅳ	2	講演実	Ⅴ		
ものづくり特別演習Ⅴ	2	演	Ⅴ		
ものづくり特別演習Ⅵ	2	講演	Ⅴ		
科学・技術と技術教育の教材	2	講演	Ⅴ		
技術教育教師論	2	講	Ⅰ		
技術・職業教育と情報技術	2	講演	Ⅱ		
技術演習A	2	演	Ⅵ奇		
技術演習B	2	演	Ⅵ偶		

選択科目B（SB）

（Aものづくり技術SB）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
計算機ハードウェア	2	講	Ⅲ	【(高)情】ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理	B類情報SA
計測と制御	2	講	Ⅵ	【(高)情】ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理	B類情報SA
自然科学のための数学A	2	講	Ⅰ		A・B類理科SA
数理物理学Ⅰ	2	講	Ⅲ	【(中・高)理】物理学	A・B類理科SA
数理物理学Ⅱ	2	講	Ⅳ	【(中・高)理】物理学	A・B類理科SA
情報メディア	2	講	Ⅳ	【(高)情】情報社会・情報倫理	B類情報SA

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（Aものづくり技術SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	ものづくり技術コース	

⑭ 幼児教育

学校教育教員養成課程 初等教育専攻 幼児教育コース〔A類 幼児教育〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，４単位を必ず修得する。

（A幼児教育ＳＥ）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
保育者論	2	講	Ⅵ	（幼）大学独自	
幼児教育学	2	講	Ⅱ	（幼）大学独自	

幼稚園の領域に関する専門的事項（SK）

下記の授業科目のうち，A類幼児教育対象の６単位を必ず修得する。

（領域に関する専門的事項）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
幼児と健康（a）	1	演	Ⅱ前	（幼）健康	A類幼対象
幼児と健康（b）	1	演	Ⅱ前	（幼）健康	
幼児と人間関係（a）	1	演	Ⅲ前	（幼）人間関係	A類幼対象
幼児と人間関係（b）	1	演	Ⅲ前		
幼児と環境（a）	1	演	Ⅲ後	（幼）環境	A類幼対象
幼児と環境（b）	1	演	Ⅲ後	（幼）環境	
幼児と言葉（a）	1	演	Ⅱ後	（幼）言葉	A類幼対象
幼児と言葉（b）	1	演	Ⅱ後		
幼児と表現A（a）	1	演	Ⅳ前	（幼）表現	A類幼対象
幼児と表現A（b）	1	演	Ⅳ前		
幼児と表現B（a）	1	演	Ⅳ後	（幼）表現	A類幼対象
幼児と表現B（b）	1	演	Ⅳ後		

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，１４単位を必ず修得する。

（A幼児教育Ｓ）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ前		A類幼対象
乳児保育Ⅰ	2	講	Ⅰ		
保育原理	2	講	Ⅳ	（幼）大学独自	
子ども家庭支援の心理学	2	講	Ⅵ		
保育内容総論（a）	2	演	Ⅳ	（幼）保育内容の指導法	A類幼対象
乳幼児心理学	2	講	Ⅰ	（幼）大学独自	
幼児の健康指導研究	2	講	Ⅶ	（幼）大学独自	

（※）掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

選択科目Ａ及び選択科目Ｂの授業科目から，２２単位以上を修得する。

（A幼児教育ＳＡ）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
音楽表現	2	演	Ⅰ		
造形表現	2	演	Ⅰ		
幼児体育特講	2	演	Ⅴ		
幼児心理学演習	2	演	Ⅲ		
子ども家庭支援論	2	講	Ⅱ		
子どもの健康と安全	1	演	Ⅲ前		
障害児保育	2	演	Ⅲ		
保育臨床相談	1	演	Ⅶ前		
基礎音楽Ⅰ	2	演	Ⅰ		
基礎音楽Ⅱ	2	演	Ⅱ		
幼児音楽演習	2	演	Ⅲ		
乳児保育Ⅱ	1	演	Ⅱ前		
社会的養護Ⅰ	2	講	Ⅱ		
社会的養護Ⅱ	1	演	Ⅲ後		
小児栄養演習	2	演	Ⅱ		
保育実習ⅠA	2	実	Ⅳ（集中）		
保育実習ⅠB	2	実	Ⅵ（集中）		
保育実習指導Ⅰ	2	演	Ⅲ		
保育実習Ⅱ	2	実	Ⅶ（集中）		
保育実習指導Ⅱ	1	演	Ⅶ前		
幼児教育特論	1	演	Ⅵ後		
幼児教育演習AⅠ	2	演	Ⅴ奇・Ⅶ奇		
幼児教育演習AⅡ	2	演	Ⅵ奇・Ⅷ奇		
幼児教育演習BⅠ	2	演	Ⅴ偶・Ⅶ偶		
幼児教育演習BⅡ	2	演	Ⅵ偶・Ⅷ偶		

選択科目B（SB）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
社会福祉原論Ⅰ	2	講	Ⅰ		E類ソーシャルワークS
児童福祉論	2	講	Ⅲ		E類ソーシャルワークSA
発達心理学	2	講	Ⅰ		A類学校心理SA

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，４単位を必ず修得する。

（A幼児教育ＳＺ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	幼児教育コース	

⑮ 技術

学校教育教員養成課程 中等教育専攻 技術コース〔B類 技術〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B技術SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
ものづくり・技術教育カリキュラム論	2	講演	Ⅱ	（小，中(技)，高(工業)）大学独自	
ものづくり・技術教育教材論	2	講演	Ⅳ	（小，中(技)，高(工業)）大学独自	

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，26単位を必ず修得する。

（B技術S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ後		B技術
基礎製図	2	講実	Ⅰ	（中）材料加工 【(高)工業】工業の関係科目	
木材加工の基礎	2	講実	Ⅰ	（中）材料加工（実習を含む。） 【(高)工業】工業の関係科目	
金属加工概論	3	講実	Ⅰ	（中）材料加工（実習を含む。） 【(高)工業】工業の関係科目	
木材加工の応用Ⅰ	2	講実	Ⅱ	（中）材料加工 【(高)工業】工業の関係科目	
機械工学の基礎	3	講実	Ⅳ	（中）機械・電気（実習を含む。） 【(高)工業】工業の関係科目	
電気回路	3	講実	Ⅲ	（中）機械・電気（実習を含む。） 【(高)工業】工業の関係科目	
情報処理概論	2	講実	Ⅲ	（中）情報とコンピュータ 【(高)工業】工業の関係科目	
栽培	3	講実	Ⅲ	（中）生物育成	
工業技術	2	講	Ⅵ	【(高)工業】工業の関係科目	
青年期の職業指導	2	講	Ⅴ	【(高)工業】職業指導	

（※）掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から，●の4科目8単位は全て修得したうえで，併せて16単位以上を修得する。

（B技術SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
工業数学Ⅰ	2	講	Ⅰ		●
工業数学Ⅱ	2	講	Ⅱ		●
工業物理学Ⅰ	2	講	Ⅰ		●
工業物理学Ⅱ	2	講	Ⅱ		●
木材加工の応用Ⅱ	3	講実	Ⅲ	（中）材料加工 【(高)工業】工業の関係科目	
電子工学概論	2	講	Ⅵ	（中）機械・電気 【(高)工業】工業の関係科目	
電子工学	2	講	Ⅵ		
応用情報処理Ⅰ	2	講	Ⅳ	（中）情報とコンピュータ 【(高)工業】工業の関係科目	

（B技術SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
応用情報処理Ⅱ	2	講	Ⅴ	(中)情報とコンピュータ 【(高)工業】工業の関係科目	
応用情報処理Ⅲ	2	講	Ⅶ		
ものづくり特別演習Ⅰ	2	講	Ⅴ		
ものづくり特別演習Ⅱ	2	講	Ⅴ		
ものづくり特別演習Ⅲ	2	講演実	Ⅴ		
ものづくり特別演習Ⅳ	2	講演実	Ⅴ		
ものづくり特別演習Ⅴ	2	演	Ⅴ		
ものづくり特別演習Ⅵ	2	講演	Ⅴ		
機械工学A	2	講	Ⅴ	(中)機械・電気 【(高)工業】工業の関係科目	
機械工学B	2	講	Ⅵ	(中)機械・電気 【(高)工業】工業の関係科目	
機械工学C	2	講	Ⅴ		
科学・技術と技術教育の教材	2	講演	Ⅴ		
技術教育教師論	2	講	Ⅰ		
技術・職業教育と情報技術	2	講演	Ⅱ		
技術演習A	2	演	Ⅵ奇		
技術演習B	2	演	Ⅵ偶		

選択科目B（SB）

（B技術SB）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
自然科学のための数学A	2	講	Ⅰ		A・B類理科SA
自然科学のための数学B	2	講	Ⅱ		A・B類理科SA
計算機ハードウェア	2	講	Ⅲ	【(高)情】ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理	B類情報SA
計測と制御	2	講	Ⅵ	【(高)情】ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理	B類情報SA
数理物理学Ⅰ	2	講	Ⅲ	【(中・高)理】物理学	A・B類理科SA
数理物理学Ⅱ	2	講	Ⅳ	【(中・高)理】物理学	A・B類理科SA
情報メディア	2	講	Ⅳ	【(高)情】情報社会・情報倫理	B類情報SA

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B技術SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	技術コース	

⑯ 書道

学校教育教員養成課程 中等教育専攻 書道コース〔B類 書道〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B書道SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
書道科教材論	2	演	Ⅳ	（小，高(書)）大学独自	
書道科カリキュラム論	2	演	Ⅱ	（小，高(書)）大学独自	

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，32単位を必ず修得する。

（B書道S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ後		B書道
漢字研究A	1	実	Ⅰ	【(高)書】書道（書写を含む。）	
漢字研究B	1	実	Ⅲ	【(高)書】書道（書写を含む。）	
仮名研究A	1	実	Ⅰ	【(高)書】書道（書写を含む。）	
漢字仮名交じり研究A	1	実	Ⅰ	【(高)書】書道	
篆刻・刻字	2	演	Ⅱ	【(高)書】書道	
日本語文法	2	講	Ⅲ	(小)国語 (中・高)国語学	
書道史研究A	2	講	Ⅱ	【(高)書】書道史	
書道史研究B	2	講	Ⅲ	【(高)書】書道史	
書論・鑑賞研究Ⅰ	2	演	Ⅳ	【(高)書】書論、鑑賞	
日本語学概論Ⅰ	2	講	Ⅰ	(小)国語 (中・高)国語学（音声言語，文章表現を含む。）	
日本語学概論Ⅱ	2	講	Ⅱ	(小)国語 (中・高)国語学（音声言語，文章表現を含む。）	
日本近代文学概論	2	講	Ⅰ	(小)国語 (中・高)国文学（国文学史を含む。）	
日本古典文学概論	2	講	Ⅱ	(小)国語 (中・高)国文学（国文学史を含む。）	
日本古典文学史	2	講	Ⅰ	(中・高)国文学 【(高)書】国文学	
日本近代文学史	2	講	Ⅱ	(中・高)国文学 【(高)書】国文学	
中国古典文基礎	2	講	Ⅰ	(中・高)漢文学 【(高)書】漢文学	
中国古典文学概論	2	講	Ⅰ	(中・高)漢文学 【(高)書】漢文学	

（※）掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

下記の授業科目から，○印のうちどちらか1科目2単位を修得したうえで，合計14単位以上を修得する。

（B書道SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
漢字研究C	2	演	Ⅳ	【(高)書】書道	
仮名研究B	2	演	Ⅳ	【(高)書】書道	
漢字仮名交じり研究B	2	演	Ⅳ	【(高)書】書道	
書作品制作研究	2	演	Ⅵ	【(高)書】書道	
書写A	2	演	Ⅳ	(小)国語 (中)書道	○
書写B	2	講実	Ⅳ	(小)国語 (中)書道	○
中国古典演習A	2	演	Ⅲ	(中・高)漢文学	
中国古典演習B	2	演	Ⅱ	(中・高)漢文学	
書学Ⅰ	2	演	Ⅳ	【(高)書】書論、鑑賞	
書学Ⅱ	2	演	Ⅵ	【(高)書】書論、鑑賞	
書学・書作品制作演習	2	演	Ⅴ	【(高)書】書道	
書論・鑑賞研究Ⅱ	2	演	Ⅴ	【(高)書】書論、鑑賞	
書論・鑑賞研究Ⅲ	2	演	Ⅴ	【(高)書】書論、鑑賞	
近代文学演習A	2	演	Ⅳ	(中・高)国文学	
近代文学演習B	2	演	Ⅲ	(中・高)国文学	
近代文学演習C	2	演	Ⅳ	(中・高)国文学	
古典文学演習A	2	演	Ⅳ	(中・高)国文学	
古典文学演習B	2	演	Ⅲ	(中・高)国文学	
古典文学演習C	2	演	Ⅳ	(中・高)国文学	

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B書道SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	書道コース	

⑰ 情報

学校教育教員養成課程 中等教育専攻 情報コース〔B類 情報〕

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B情報SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
情報科教育教材論	2	講	Ⅲ	（小，高(情)）大学独自	
情報科教育カリキュラム論	2	講	Ⅵ	（小，高(情)）大学独自	

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，32単位を必ず修得する。

（B情報S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ後		B情報
コンピュータシステム概論	2	講	Ⅰ	（高(情)）ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理 【（中・高）数】コンピュータ	
プログラミングⅠ	2	講	Ⅰ	（高(情)）ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理 【（中・高）数】コンピュータ	
プログラミング演習Ⅰ	2	演	Ⅰ	（高(情)）ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理 【（中・高）数】コンピュータ	
基本解析学Ⅰ	2	講	Ⅰ	（小）算数 【（中・高）数】解析学	
基本代数学Ⅰ	2	講	Ⅰ	（小）算数 【（中・高）数】代数学	
数理・データサイエンスⅠ	2	講	Ⅰ	（小）算数 【（中・高）数】「確率論、統計学」	
基本情報数学	2	講	Ⅱ	（小）算数 【（中・高）数】代数学	
プログラミングⅡ	2	講	Ⅱ	（高(情)）ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理 【（中・高）数】コンピュータ	
プログラミング演習Ⅱ	2	演	Ⅱ	（高(情)）ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理 【（中・高）数】コンピュータ	
基本幾何学Ⅰ	2	講	Ⅲ	（小）算数 【（中・高）数】幾何学	
情報社会と情報倫理	2	講	Ⅲ	（高(情)）情報社会・情報倫理	
情報社会と職業	2	講	Ⅳ	（高(情)）情報社会 （職業に関する内容を含む。）	
オペレーティングシステム	2	講	Ⅳ	（高(情)）情報システム	
ネットワークシステム	2	講	Ⅵ	（高(情)）情報通信ネットワーク	
マルチメディア情報解析	2	講	Ⅲ	（高(情)）マルチメディア表現・ マルチメディア技術	

（※）掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から，14単位以上を修得する。

（B情報SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
オートマトンと形式言語	2	講	Ⅱ	(高(情))ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理	
基本解析学Ⅱ	2	講	Ⅱ	(小)算数 【(中・高)数】解析学	
基本代数学Ⅱ	2	講	Ⅱ	(小)算数 【(中・高)数】代数学	
数理・データサイエンスⅡ	2	講	Ⅱ	(小)算数 【(中・高)数】「確率論、統計学」	
計算機ハードウェア	2	講	Ⅲ	(高(情))ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理	
データベース	2	講	Ⅲ	(高(情))ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理	
基本幾何学Ⅱ	2	講	Ⅳ	(小)算数 【(中・高)数】幾何学	
プログラム言語論とコンパイラ	2	講	Ⅳ	(高(情))ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理	
情報メディア	2	講	Ⅳ	(高(情))情報社会・情報倫理	
データ分析とコンピュータ	2	講	Ⅴ	(高(情))ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理 【(中・高)数】コンピュータ	
知識処理と人工知能	2	講	Ⅴ	(高(情))ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理	
計測と制御	2	講	Ⅵ	(高(情))ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理	
情報科学教育演習A	2	演	Ⅴ		
情報科学教育演習B	2	演	Ⅵ		

選択科目B（SB）

（B情報SB）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
応用プログラミング	2	講	Ⅲ		E類情報教育SA
数値計算	2	講	Ⅳ		E類情報教育SA
HCI	2	講	Ⅳ	(高(情))マルチメディア表現・ マルチメディア技術	E類情報教育SA
情報システム	2	講	Ⅴ	(高(情))情報システム	E類情報教育SA
教育工学	2	講	Ⅴ		E類情報教育SA
システムプログラミング	2	講	Ⅵ	(高(情))情報通信ネットワーク	E類情報教育SA

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（B情報SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	情報コース	

⑱ 特別支援教育

学校教育教員養成課程 特別支援教育専攻〔C類〕

聴覚障害・言語障害系コース

発達障害・学習障害系コース

教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，2単位を必ず修得する。

（C特別支援教育SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
特別支援教育支援方法論	2	演	V	（幼，小，中，高，養）大学独自	

各コース共通
必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，30単位を必ず修得する。

（C特別支援教育S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	I 前		※
コース別入門セミナー	1	講	I 後		C特別支援教育
特別支援教育概論	2	講	I	特別支援（基礎理論）	
聴覚言語障害の心理・生理・病理A	2	講	II	特別支援（聴覚障害）	
聴覚言語障害の心理・生理・病理B	2	講	IV	特別支援（聴覚障害）	
聴覚言語障害の指導法A	2	講	I	特別支援（聴覚障害）	
聴覚言語障害の指導法B	2	講	III	特別支援（聴覚障害）	
知的障害の心理・生理・病理	2	講	I	特別支援（知的障害）	
知的障害の指導法	2	講	II	特別支援（知的障害）	
肢体不自由の心理・生理・病理	2	講	III	特別支援（肢体不自由）	
肢体不自由の指導法	2	講	IV	特別支援（肢体不自由）	
病弱の心理・生理・病理	2	講	III	特別支援（病弱者）	
病弱の指導法	2	講	IV	特別支援（病弱者）	
重複障害教育総論	2	講	IV	特別支援（重複・LD）	
言語・情緒・発達障害教育総論	2	講	II	特別支援（重複・LD）	
視覚障害教育総論	2	講	II	特別支援（領域外）	

（※）掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

〇聴覚障害・言語障害系コースは，「特別支援教育演習ＡⅠ」又は「特別支援教育演習ＢⅠ」から1科目，
「聴覚言語障害特論A」又は「聴覚言語障害特論B」から1科目を含めて8単位以上修得する。

〇発達障害・学習障害系コースは，「特別支援教育演習ＡⅠ」又は「特別支援教育演習ＢⅠ」から1科目，
「知的障害教育特論」又は「発達障害教育特論」から1科目を含めて8単位以上修得する。

（C特別支援教育SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
聴覚言語障害特論A	2	講	Ⅲ	特別支援（聴覚障害）	
聴覚言語障害特論B	2	講	Ⅳ	特別支援（聴覚障害）	
知的障害教育特論	2	講	Ⅲ	特別支援（知的障害）	
肢体不自由教育特論	2	講	Ⅳ	特別支援（肢体不自由）	
病弱教育特論	2	講	Ⅲ	特別支援（病弱者）	
発達障害教育特論	2	講	Ⅳ	特別支援（重複・LD）	
特別支援教育演習AⅠ	2	演	Ⅵ奇		
特別支援教育演習AⅡ	2	演	Ⅶ偶		
特別支援教育演習BⅠ	2	演	Ⅵ偶		
特別支援教育演習BⅡ	2	演	Ⅶ奇		

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（C特別支援教育SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	聴覚障害・言語障害系コース	
卒業研究	④	ⅦⅧ	発達障害・学習障害系コース	

⑲ 養護

学校教育教員養成課程 養護教育専攻 養護教育コース〔D類 養護教育〕

養護・教育内容科目（SE）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（D養護教育SE）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
健康教育教材論	2	講	Ⅴ	（養護）大学独自	
養護活動カリキュラム論	2	講	Ⅲ	（養護）大学独自	

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので，41単位を必ず修得する。

（D養護教育S）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
全学共通入門セミナー	1	講	Ⅰ前		※
コース別入門セミナー	1	講	Ⅰ後		D養護教育
衛生・公衆衛生学	2	講	Ⅱ	【（中・高）保体・保健】 衛生学・公衆衛生学 （養護）衛生学・公衆衛生学(予防医学を含む。)	
保健行動科学	2	講	Ⅳ	【（中・高）保健】衛生学・公衆衛生学 （養護）衛生学・公衆衛生学	
学校保健学	2	講	Ⅱ	【（中・高）保健】学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。) （養護）学校保健	
小児科学	2	講	Ⅳ	【（中・高）保健】学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。) （養護）学校保健	
救急処置の理論と演習	2	講演	Ⅴ	【（中・高）保健】学校保健(救急処置を含む。) （養護）学校保健	
養護概論	2	講	Ⅱ	（養護）養護概説	
健康相談活動の理論と方法	2	講演	Ⅵ	（養護）健康相談活動の理論及び方法	
養護活動論	2	講	Ⅲ	（養護）健康相談活動の理論及び方法	
健康と栄養	2	講	Ⅳ	【（中・高）保健】栄養学 （養護）栄養学（食品学を含む。）	
解剖学	2	講	Ⅰ	【（中）保健】生理学 【（高）保健】生理学、解剖学 （養護）解剖学・生理学	
生理学	2	講	Ⅱ	【（中・高）保健】生理学 （養護）解剖学・生理学	
薬理学	2	講	Ⅲ	【（高）保健】微生物学 （養護）微生物学、薬理概論	
精神保健	2	講	Ⅳ	【（中・高）保健】学校保健 （養護）精神保健	
臨床医学Ⅰ	2	講	Ⅲ	（養護）看護学（救急処置を含む。）	
臨床医学Ⅱ	2	講	Ⅳ	（養護）看護学（救急処置を含む。）	
学校看護学理論と演習Ⅰ	2	講演	Ⅲ	（養護）看護学（救急処置を含む。）	
学校看護学理論と演習Ⅱ	2	講演	Ⅲ	（養護）看護学（救急処置を含む。）	
学校看護学理論と演習Ⅲ	2	講演	Ⅳ	（養護）看護学（救急処置を含む。）	
臨床実習Ⅰ	1	実	Ⅴ（集中）	（養護）看護学（臨床実習を含む。）	
臨床実習Ⅱ	2	実	Ⅵ（集中）	（養護）看護学（臨床実習を含む。）	

（※）掲示板やランパスで各自のクラス（01 ～ 19）を確認のうえ、間違いのないように履修登録すること。

選択科目A（SA）

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から，8単位以上を修得する。

（D養護教育SA）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	備考（対象）
学校安全と危機管理	2	講	Ⅲ	【(中・高)保健】学校保健(学校安全を含む。) 【養護】学校保健	
健康調査の理論と演習Ⅰ	2	講演	Ⅵ	(養護)学校保健	
健康調査の理論と演習Ⅱ	2	講演	Ⅵ	(養護)学校保健	
養護実践学	2	講	Ⅶ	(養護)養護概説	
感染免疫学	2	講	Ⅲ	【(高)保健】微生物学 (養護)微生物学、免疫学	
臨床医学Ⅲ	2	講	Ⅴ	(養護)看護学	
臨床医学Ⅳ	2	講	Ⅴ	(養護)看護学	
臨床医学Ⅴ	2	講	Ⅵ	(養護)看護学	
歯科保健	2	講	Ⅵ	(養護)看護学	
学校看護学理論と演習Ⅳ	2	講演	Ⅵ	(養護)看護学(救急処置を含む。)	
病弱児障害児養護学	2	講	Ⅴ	(養護)看護学	
フィジカルアセスメント	2	講演	Ⅴ	(養護)看護学	

選択科目B（SB）

（D養護教育SB）

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考（対象）
児童福祉論	2	講	Ⅲ		社会福祉士	E類ソーシャルワークSA
地域福祉論Ⅰ	2	講	Ⅳ		社会福祉士	E類ソーシャルワークSA
スクールソーシャルワーク論	2	講	Ⅵ		スクールソーシャルワーカー	E類ソーシャルワークSA
特別支援教育概論	2	講	Ⅰ	特別支援(基礎理論)		C類S

卒業研究（SZ）

下記の授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。

（D養護教育SZ）

授業科目	単位数	標準開設学期	コース・プログラム	備考（対象）
卒業研究	④	ⅦⅧ	養護教育コース	

25
学校教育教員養成課程学生のための教員免許状の取得方法

２５　学校教育教員養成課程学生のための教員免許状の取得方法

（１）幼稚園教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法　……132
（２）小学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法　……133
（３）中学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法　……136
（４）高等学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法……137
（５）中学校・高等学校教諭各種免許状取得に必要な「教科に関する専門的事項」，
「各教科の指導法」の履修方法（教科別）
・中学校教諭一種免許状（国語）……138
・高等学校教諭一種免許状（国語）……139
・中学校教諭一種免許状（社会）……140
・高等学校教諭一種免許状（地理歴史）……141
・高等学校教諭一種免許状（公民）……141
・中学校教諭一種免許状（数学）……142
・高等学校教諭一種免許状（数学）……143
・中学校教諭一種免許状（理科）……144
・高等学校教諭一種免許状（理科）……145
・中学校教諭一種免許状（音楽）……146
・高等学校教諭一種免許状（音楽）……147
・中学校教諭一種免許状（美術）……148
・高等学校教諭一種免許状（美術）……149
・高等学校教諭一種免許状（工芸）……150
・中学校教諭一種免許状（保健体育）……151
・高等学校教諭一種免許状（保健体育）……152
・中学校教諭一種免許状（保健）……153
・高等学校教諭一種免許状（保健）……154
・中学校教諭一種免許状（家庭）……155
・高等学校教諭一種免許状（家庭）……156
・中学校教諭一種免許状（技術）……157
・高等学校教諭一種免許状（工業）……158
・中学校教諭一種免許状（英語）……159
・高等学校教諭一種免許状（英語）……160
・高等学校教諭一種免許状（書道）……161
・高等学校教諭一種免許状（情報）……162
（６）各種免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目」について……163
（７）特別支援学校教諭免許状取得に必要な「特別支援教育に関する科目」の履修方法.167
（８）養護教諭一種免許状の取得に必要な授業科目の履修方法……168

(1) 幼稚園教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法

①A類幼児教育コースの学生の履修方法(主免許)
②幼児教育コースを除くA類，C類学生の履修方法
③小学校教諭普通免許状を取得せずに幼稚園教諭普通免許状を取得するB類学生の履修方法
（B類学生であっても，小学校教諭免許状取得予定者は，②と同じ単位の修得方法となります。）

免許法上の科目区分			本学の対応授業科目等		新規修得単位等(一種)				備　考
			科目名等	単位	履修方法	①	②	③	
指定大学が加える科目（教員養成フラッグシップ大学が定める独自の科目群）			社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン	1	必修	1			
			学びを支えるファシリテーションの技法	1	必修	1			
			チーム学校と多職種協働	1	必修	1			
			教師のレジリエンスと自己管理能力の育成	1	必修	1			
			教育のためのデータサイエンス	1	必修	1			
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健　康	幼児と健康(a)，(b)	各1	A類幼児教育コースは各科目の(a)を履修。	1	1	1	(＊注2)
		人間関係	幼児と人間関係(a)	1		1			
		環　境	幼児と環境(a)，(b)	各1		1	1	1	
		言　葉	幼児と言葉(a)	1		1			
		表　現	幼児と表現A(a)	1		1			
			幼児と表現B(a)	1		1			
	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	健　康	保育内容「健康」(a)，(b)	各2	A類他コースやB，C類の学生は各科目の(b)を履修。	2	6～(＊注1)(＊注2)	2	
		環　境	保育内容「環境」(a)，(b)	各2		2		2	
		人間関係	保育内容「人間関係」(a)，(b)	各2		2		2	
		言　葉	保育内容「言葉」(a)，(b)	各2		2		2	
		表　現	保育内容「表現A」(a)，(b)	各2		2		2	
			保育内容「表現B」(a)，(b)	各2		2		2	
		その他	保育内容総論(a)，(b)	各2		2	2		
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門	2	必修	2			
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		教育の理念と歴史	2	必修	2			
	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	必修	2			
	特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解		特別支援教育の理解	2	必修	2	(＊注3)		
	教育に関する社会的，制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育組織論	2	必修	2			
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		保育・幼児教育課程総論	2	必修	2	(＊注4)	(＊注4)	
道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育の方法とICT	2	必修	2			
	幼児理解の理論及び方法		幼児理解の理論と方法(a)または(b)	2	必修	2	2	2	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談の理論と方法	2	必修	2			
教育実践に関する科目	教育実習		教育実習Ⅰ(A類)	5	必修	5			
			教育実習(選択・初等)	2	必修			2(＊注5)	
	教職実践演習		保育・教職実践演習(幼稚園)	2	必修	2	(＊注6)	(＊注6)	
大学が独自に設定する科目			①・②による履修方法の場合は，「教育創成科目」等の履修により，「大学が独自に設定する科目」の必要単位数を満たすため，当該科目を追加履修する必要なし。 ③による履修方法の場合は，後述(6)各種免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目について」(p.163～)に記載の科目の中から，幼稚園の欄に○が付いているものを1単位修得する。						
合　計						51	12	19	

（＊注1）「健康」，「環境」，「人間関係」，「言葉」，「表現」の5領域から3領域以上の修得が必要。
（＊注2）履修方法①～③によって必要単位数が異なる。各履修方法の単位数の考え方は以下のとおり。
なお，いずれの履修方法においても、法定必要単位16単位のうち，「指定大学が加える科目」を4単位まであてることができる。
・①，③による履修方法の場合，
「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の法定必要単位数16単位－「指定大学が加える科目(4単位)」＝12単位
12単位を超えて修得した単位は「大学が独自に設定する科目」 の単位数にあてることができる。
・②による履修方法の場合，
「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の法定必要単位数16単位－「指定大学が加える科目(4単位)」＝12単位
12単位－「領域に関する専門的事項」2単位＝10単位
⇒「保育内容の指導法」の必要単位数10単位のうち5単位は小学校の各教科の指導法または特別活動の指導法に関する科目の単位をもってあてるため，残り5単位が必要単位数となる。必要単位数を超えて修得した「保育内容の指導法」の単位は「大学が独自に設定する科目」の単位数にあてる。
（＊注3） C類学生は「特別な教育的ニーズの理解と支援」を当該科目区分にあてることができる。
（＊注4）「教育課程の理論と実践」を当該科目区分にあてることができる。
（＊注5） B類学生が幼稚園教諭免許状を取得する場合の教育実習は「教育実習(選択・初等)」です。
「教育実習(選択・初等)」を受講する前学期終了時までに「初等各教科教育法」3科目6単位以上を修得している必要があります。p.61参照
（＊注6）「教職実践演習」を当該科目区分にあてることができる。
※「大学が独自に設定する科目」には，「指定大学が加える科目」1単位及び法令上の他の科目区分の余剰科目分をあてることができる。

(2) 小学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法

①A類(幼児教育コースを除く)学生，C類の履修方法(主免許)
②A類幼児教育コースの学生が，小学校教諭普通免許状を取得する場合の履修方法
③B類の学生が，小学校教諭普通免許状を選択で取得する場合の履修方法

一種免許状は大学卒業相当，二種免許状は短期大学卒業相当の教員免許状。小学校教諭の普通免許状においては，一種，二種，いずれかを選択して取得することが可能だが，一種免許状を取得することが望ましい。

免許法上の科目区分			本学の対応授業科目等		新規修得単位等(一種，二種)					備　考
			科目名等	単位	履修方法	①(一種)	②(一種)	②(二種)	③(一種)	③(二種)	
指定大学が加える科目(教員養成フラッグシップ大学が定める独自の科目群)			社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン	1	必修	1					
			学びを支えるファシリテーションの技法	1	必修	1					
			チーム学校と多職種協働	1	必修	1					
			教師のレジリエンスと自己管理能力の育成	1	必修	1					
			教育のためのデータサイエンス	1	必修	1					
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語(書写含む)	国語科研究	1	言語系(国語，英語)から1科目，理系(算数，理科)から1科目，実技系(音楽，図画工作，体育)から2科目，社会，生活系(社会，生活，家庭)から1科目の計5科目5単位を修得。	1	5 次頁の【別表】を参照		5 次頁の【別表】を参照	10 次頁の【別表】を参照	【①による免許状取得の場合】 自コースの教科以外の教科を選択
		外国語	英語科研究	1							
		算数	算数科研究	1		1					
		理科	理科研究	1							
		音楽	音楽科研究	1		2					
		図画工作	図画工作科研究	1							
		体育	体育科研究	1							
		社会	社会科研究	1		1					
		生活	生活科研究	1							
		家庭	家庭科研究	1							
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	国語(書写含む)	初等国語科教育法	2	【一種免許状】 10教科20単位必修 【二種免許状】 音楽・図画工作・体育のうち2教科を含み、6教科以上	2	2	2	2		「初等○○科指導法」(1単位)はB類学生のみ履修可
			初等国語科指導法	1						1	
		社会	初等社会科教育法	2		2	2	2	2		
			初等社会科指導法	1						1	
		算数	初等算数科教育法	2		2	2	2	2		
			初等算数科指導法	1						1	
		理科	初等理科教育法	2		2	2	2	2		
			初等理科指導法	1						1	
		生活	初等生活科教育法	2		2	2	2	2		
			初等生活科指導法	1						1	
		家庭	初等家庭科教育法	2		2	2	2	2		
			初等家庭科指導法	1						1	
		外国語	初等英語科教育法	2		2	2	2	2		
			初等英語科指導法	1						1	
		音楽	初等音楽科教育法	2		2	2	2	2		
			初等音楽科指導法	1						1	
		図画工作	初等図画工作科教育法	2		2	2	2	2		
			初等図画工作科指導法	1						1	
		体育	初等体育科教育法	2		2	2	2	2		
			初等体育科指導法	1						1	
							12 (音楽、図画工作、体育のうち2教科を含む)		6 (音楽、図画工作、体育のうち2教科を含む)		
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門	2	必修	2					
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		教育の理念と歴史	2	必修	2					
	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	必修	2					
	特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解		特別支援教育の理解	2	必修	2 (＊注1)					
	教育に関する社会的，制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育組織論	2	必修	2					
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程の理論と実践	2	必修	2	2	2			
道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法		道徳教育の指導法	2	必修	2	2	2			
	特別活動の指導法		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	必修	2	2	2			
	総合的な学習の時間の指導法										
	教育の方法及び技術		教育の方法とICT	2	必修	2					
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法										
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導・進路指導の理論と方法	2	必修	2	2	2			
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法										
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談の理論と方法	2	必修	2					
教育実践に関する科目	教育実習		教育実習Ⅰ(A類)(C類)	5	必修	5					
			教育実習(選択・初等)	2	実習を行う学校種に応じて履修				2	2	
			教育実習(選択・小中)	2							B類のみ履修可
	教職実践演習		教職実践演習	2	必修	2	(＊注2)				
大学が独自に設定する科目			「教育創成科目」等の履修により，「大学が独自に設定する科目」の必要単位数を満たすため，当該科目を追加履修する必要なし。「大学が独自に設定する科目」の必要単位数や修得単位の内訳，科目一覧はp.163参照。							
合　計						59	33	25	22～27	8～18	

(＊注1)C類学生は「特別な教育的ニーズの理解と支援」を当該科目区分にあてることができる。
(＊注2)A類幼児教育コースの学生は「保育・教職実践演習(幼稚園)」の2単位を当該科目区分に流用できるため，「教職実践演習」の履修は不要。
※「大学が独自に設定する科目」には，「教科に関する専門的事項」の余剰科目分をあてることができる。

【別表1】

○A幼及びB類生の小学校の教科に関する専門的事項履修方法一覧

B類に開設される各専攻科目の必修科目（S科目）のうち，以下の科目は小学校の「教科に関する専門的事項」の単位になります。いずれか1教科において5単位を履修することで，小学校の教科に関する専門的事項を満たすことが可能となっており，B類生（B類技術コース以外）は自コースの必修科目（S）等を履修することにより，自動的に小学校の「教科に関する専門的事項」の要件を満たします。

＜A類幼児教育コース・B類技術コースの小学校の教科に関する専門的事項履修方法＞
以下の1，2いずれかの方法により必要単位を5単位修得する。
1.「小学校の教科に関する専門的事項（SP）」（p.63参照）から5単位を修得する。（SP10教科のうち，任意の5教科を選択可。ただし，p.63のSP修得方法を参考に，様々な分野の教科を履修することが望ましい。）
2.以下の9教科から1教科を選択し，5単位修得する。（教科をまたいで履修しても小学校の教科に関する専門的事項の要件を満たさないため注意。）

＜B類技術コースの小学校教諭（二種）免許状取得に係る教科に関する専門的事項履修方法＞
以下の1，2いずれかの方法により必要単位を10単位修得する。
1.「小学校の教科に関する専門的事項（SP）」（p.63参照）から10単位を修得する。
2.以下の9教科からいずれか1教科において5単位以上，合計10単位を修得する。

免許法上の科目区分		開設場所	本学の授業科目						備考
			科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
教科に関する専門的事項	国語（書写を含む。）	A，B類国語コース B類書道コース	日本語学概論Ⅰ	2	日本語学概論Ⅱ	2	日本語文法	2	「書写A」又は「書写B」のいずれかを必ず含む。
			日本近代文学概論	2	日本古典文学概論	2	書写A	2	
			書写B	2					
	社会	A，B類社会コース	日本史概論A	1	日本史概論B	1	日本史概論C	1	
			日本史概論D	1	外国史概論A	1	外国史概論B	1	
			外国史概論C	1	外国史概論D	1	地理学概論Ⅰ	1	
			地理学概論Ⅱ	1	自然環境Ⅰ	1	自然環境Ⅱ	1	
			地誌学概論	2	法学概論	1	政治学概論	1	
			社会学概論	1	経済学概論	1	哲学・倫理学・宗教学概論A	1	
			哲学・倫理学・宗教学概論B	1					
	算数	A，B類数学コース	代数学Ⅰ	2	代数学Ⅱ	2	幾何学Ⅰ	2	
			幾何学Ⅱ	2	解析学Ⅰ	2	解析学Ⅱ	2	
			確率・統計Ⅰ	2	確率・統計Ⅱ	2	コンピュータ概論Ⅰ	1	
			コンピュータ概論Ⅱ	1					
		B類情報コース	基本代数学Ⅰ	2	基本代数学Ⅱ	2	基本情報数学	2	
			基本幾何学Ⅰ	2	基本幾何学Ⅱ	2	基本解析学Ⅰ	2	
			基本解析学Ⅱ	2	数理・データサイエンスⅠ	2	数理・データサイエンスⅡ	2	
	理科	A，B類理科コース	物理学概論Ⅰ	1	物理学概論Ⅱ	2	物理学実験	2	
			化学概論Ⅰ	1	化学概論Ⅱ	2	化学実験	2	
			生物学概論I	1	生物学概論Ⅱ	2	生物学実験	2	
			地学概論Ⅰ	1	地学概論Ⅱ	2	地学実験	2	

免許法上の科目区分		開設場所	本学の授業科目						備考
			科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
教科に関する専門的事項	音楽	A, B類音楽コース	ソルフェージュⅠ	1	基礎声楽実技Ⅰ	1	基礎声楽実技Ⅱ	1	
			合唱	1	邦楽歌唱法A	1	邦楽歌唱法B	1	
			基礎ピアノ実技Ⅰ	1	オーケストラ	1	吹奏楽	1	
			基礎管弦打実技Ⅰ	1	和楽器A	1	和楽器B	1	
			和楽器C	1	和楽器D	1	指揮法	1	
			作曲法Ⅰ	1	作曲法Ⅱ	1	音楽学概論A	2	
			音楽学概論B	2	音楽学概論CⅠ	1	音楽学概論CⅡ	1	
	図画工作	A, B類美術コース	絵画基礎Ⅰ	2	絵画基礎Ⅱ	2	彫刻基礎Ⅰ	2	
			彫刻基礎Ⅱ	2	デザイン基礎Ⅰ	2	デザイン基礎Ⅱ	2	
			工芸基礎Ⅰ	2	工芸基礎Ⅱ	2	日本東洋美術史概論	2	
			西洋美術史概論	2	美学	2			
	家庭	A, B類家庭コース	家庭経営学概論	2	家族関係学	2	被服学概論	2	
			被服構成学	2	栄養学概論	2	調理学概論	2	
			住居学概論	2	住居計画学	2	児童学概論	2	
			乳幼児と生活Ⅰ	2					
	体育	A, B類保健体育コース	器械運動A	1	器械運動B	1	陸上A	1	
			陸上B	1	水泳A	1	水泳B	1	
			バスケットボールA	1	バスケットボールB	1	ソフトボールA	1	
			ソフトボールB	1	バレーボールA	1	バレーボールB	1	
			表現運動	1	ダンス	1	体つくり運動A	1	
			体つくり運動B	1	運動方法学総論AⅠ	1	運動方法学総論AⅡ	1	
			運動方法学総論BⅠ	1	運動方法学総論BⅡ	1	体育原理AⅠ	1	
			体育原理AⅡ	1	体育原理BⅠ	1	体育原理BⅡ	1	
			運動生理学AⅠ	1	運動生理学AⅡ	1	運動生理学BⅠ	1	
			運動生理学BⅡ	1	学校保健学AⅠ	1	学校保健学AⅡ	1	
			学校保健学BⅠ	1	学校保健学BⅡ	1			
	外国語	A, B類英語コース	英文法演習I	2	英文法演習Ⅱ	2	英語音声学概論	2	
			英語史概論	2	英米文学概論AⅠ	1	英米文学概論AⅡ	1	
			英米文学概論BⅠ	1	英米文学概論BⅡ	1	英作文Ⅰ	1	
			英会話Ⅰ	1	英語読解Ⅰ	1	イギリス文化概論Ⅰ	1	
			イギリス文化概論Ⅱ	1	アメリカ文化概論Ⅰ	1	アメリカ文化概論Ⅱ	1	

(3) 中学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法

①B類学生の履修方法(主免許)

②A類,C類,D類の学生が中学校教諭普通免許状を選択で取得する場合の履修方法

免許法上の科目区分		本学の対応授業科目等		新規修得単位等(一種)				備　考
		科目名等	単位	履修方法	①	②		
					B類	A類 C類 D類	A幼	
指定大学が加える科目 (教員養成フラッグシップ大学が定める独自の科目群)		社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン	1	必修	1			
		学びを支えるファシリテーションの技法	1	必修	1			
		チーム学校と多職種協働	1	必修	1			
		教師のレジリエンスと自己管理能力の育成	1	必修	1			
		教育のためのデータサイエンス	1	必修	1			
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	取得する免許の教科に対応した「教科に関する専門的事項」の科目(p.138～)	23～	免許法上の必修科目を含め修得(p.138～)	23単位以上修得(教科によって必要な単位数が異なる為注意。詳細はp.138以降を参照)			
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	中等各教科教育法Ⅰ		取得する免許状の教科毎に8単位必修(p.65～)				
		中等各教科教育法Ⅱ						
		中等各教科教育法Ⅲ						
		中等各教科教育法Ⅳ						
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	2	必修	2			
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育の理念と歴史	2	必修	2			
	幼児,児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	必修	2			
	特別の支援を必要とする幼児,児童及び生徒に対する理解	特別支援教育の理解	2	必修	2	(＊注1)		
	教育に関する社会的,制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育組織論	2	必修	2			
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程の理論と実践	2	必修	2		2	
道徳,総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導,教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法	2	必修	2		2	
	特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	必修	2		2	
	総合的な学習の時間の指導法							
	教育の方法及び技術	教育の方法とICT	2	必修	2			
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法							
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導の理論と方法	2	必修	2		2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法	2	必修	2			
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習Ⅰ(B類)	5	必修	5			
		教育実習(選択・中等)	2	必修		2	2	()はD類
		教育実習(選択・D類)	5	必修		(5)		
	教職実践演習	教職実践演習	2	必修	2	(2)	(＊注2)	()はD類
大学が独自に設定する科目		「教育創成科目」等の履修により,「大学が独自に設定する科目」の必要単位数を満たすため,当該科目を追加必修する必要なし。「大学が独自に設定する科目」の必要単位数や修得単位の内訳,科目一覧はp.163参照。						
合　計					59	25～(30～)	33～	()はD類

(＊注1)C類学生は「特別な教育的ニーズの理解と支援」を当該科目区分にあてることができる。

(＊注2)A類幼児教育コースの学生は「保育・教職実践演習(幼稚園)」の2単位を当該科目区分に流用できるため,「教職実践演習」の履修は不要。

※ 「教科及び教科の指導法に関する科目」は, p.138以降に記載されている教科毎の必修科目を必ず修得する。その上で23単位に満たない場合は,取得する免許の教科に対応した「教科に関する専門的事項」から不足分を修得する。
各教科の「教科に関する専門的事項」については,p.138以降の説明及び各科目の「免許法上の科目」欄を参照すること。

※ 各教科の指導法は, 取得を希望する教科の指導法4科目8単位を修得する。(p.65～)

※ 「大学が独自に設定する科目」には, 法令上の他の科目区分の余剰科目分をあてることができる。

(4) 高等学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法

①B類学生の履修方法(主免許)

②A類,C類,D類の学生が高等学校教諭普通免許状を選択で取得する場合の履修方法

免許法上の科目区分		本学の対応授業科目等 科目名等	単位	新規修得単位等(一種) 履修方法	① B類	② A類 C類 D類	② A幼	備考
指定大学が加える科目(教員養成フラッグシップ大学が定める独自の科目群)		社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン	1	必修	1			
		学びを支えるファシリテーションの技法	1	必修	1			
		チーム学校と多職種協働	1	必修	1			
		教師のレジリエンスと自己管理能力の育成	1	必修	1			
		教育のためのデータサイエンス	1	必修	1			
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	取得する免許の教科に対応した「教科に関する専門的事項」の科目(p.138～)	19～	免許法上の必修科目を含め修得(p.138～)	19単位以上修得(教科によって必要な単位数が異なる為注意。詳細はp.138以降を参照)			
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	中等各教科教育法Ⅰ		取得する免許状の教科毎に4～8単位必修(＊注1)(p.65～)				
		中等各教科教育法Ⅱ						
		中等各教科教育法Ⅲ						
		中等各教科教育法Ⅳ						
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	2	必修	2			
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育の理念と歴史	2	必修	2			
	幼児,児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	必修	2			
	特別の支援を必要とする幼児,児童及び生徒に対する理解	特別支援教育の理解	2	必修	2	(＊注2)		
	教育に関する社会的,制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育組織論	2	必修	2			
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程の理論と実践	2	必修	2		2	
道徳,総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導,教育相談等に関する科目	特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	必修	2		2	
	総合的な学習の時間の指導法							
	教育の方法及び技術	教育の方法とICT	2	必修	2			
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法							
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導の理論と方法	2	必修	2		2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法	2	必修	2			
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習Ⅰ(B類)	5	必修	5			
		教育実習(選択・中等)	2	必修		2	2	()はD類
		教育実習(選択・D類)	5	必修		(5)		
	教職実践演習	教職実践演習	2	必修	2	(2)	(＊注3)	()はD類
大学が独自に設定する科目		後述(6)各種免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目について」(p.163～)に記載の科目の中から,高等学校の欄に○が付いているものを5単位修得する。(教科名が記載されている科目は,修得する免許教科のものを修得する。)						
合計					59	21～(26～)	27～	()はD類

(＊注1)各教科の指導法は,取得を希望する教科の指導法4科目8単位を修得する。(p.65～)

ただし,地理歴史は「中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ・Ⅱ」,公民は「中等社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ」,

工芸は「中等工芸科教育法Ⅰ・Ⅱ」,工業は「工業科教育法Ⅰ・Ⅱ」,書道は「書道科教育法Ⅰ・Ⅱ」

情報は「情報科教育法Ⅰ・Ⅱ」の**2科目4単位**を修得する。

(＊注2)C類学生は「特別な教育的ニーズの理解と支援」を当該科目区分にあてることができる。

(＊注3)A類幼児教育コースの学生は「保育・教職実践演習(幼稚園)」の2単位を当該科目区分に流用できるため,「教職実践演習」の履修は不要。

※ 「教科及び教科の指導法に関する科目」は,p.138以降に記載されている教科毎の必修科目を必ず修得する。その上で19単位に満たない場合は,取得する免許の教科に対応した「教科に関する専門的事項」から不足分を修得する。

各教科の「教科に関する専門的事項」については,p.138以降の説明及び各科目の「免許法上の科目」欄を参照すること。

※ 「大学が独自に設定する科目」には,法令上の他の科目区分の余剰科目分をあてることができる。

(5) 中学校・高等学校教諭各種免許状取得に必要な「教科に関する専門的事項」,「各教科の指導法」の履修方法

中学校教諭一種免許状(国語)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	日本語学概論Ⅰ	2	A・B国S B書S	音声言語及び文章表現に関するものを含む。
	日本語文法	2		
国文学(国文学史を含む。)	日本古典文学概論	2	A・B国S B書S	国文学史を含む。
	日本近代文学概論	2		国文学史を含む。
漢文学	中国古典文基礎	2	A・B国S B書S	
書道(書写を中心とする。)	書写A 書写B } 1科目選択	2	A国SA B書SA B国S B書SA	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等国語科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	中等国語科教育法Ⅱ	2		
	中等国語科教育法Ⅲ	2		
	中等国語科教育法Ⅳ	2		
合計		20		

①上記20単位を全て修得する。

②さらにA類国語,B類国語に開設している中学校(国語)の「教科に関する専門的事項」から3単位以上を修得する。

→ ①と②併せて23単位以上修得する。

中学校(国語)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「国語学」「国文学」「漢文学」及び「書道」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状（国語）を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	日本語学概論Ⅰ	2	A･B国S B書S	音声言語及び文章表現に関するものを含む。
	日本語文法	2		
国文学（国文学史を含む。）	日本古典文学概論	2	A･B国S B書S	国文学史を含む。
	日本近代文学概論	2		国文学史を含む。
漢文学	中国古典文基礎	2	A･B国S B書S	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等国語科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法（ST）	
	中等国語科教育法Ⅱ	2		
	中等国語科教育法Ⅲ	2		
	中等国語科教育法Ⅳ	2		
合計		18		

①上記18単位を全て修得する。

②またA類国語,B類国語に開設している高等学校（国語）の「教科に関する専門的事項」から1単位以上を修得する。

③さらにA類国語,B類国語に開設している高等学校（国語）の「教科に関する専門的事項」や,高等学校（国語）の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から5単位以上修得する。

→ ①～③併せて24単位以上修得する。

高等学校(国語)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「国語学」「国文学」「漢文学」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(社会)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
日本史・外国史	日本史概論A 日本史概論B 1科目選択	1	A・B社S	
	日本史概論C	1		
	日本史概論D	1		
	外国史概論B	1	A社SA B社S	
	外国史概論D	1		
地理学(地誌を含む。)	地理学概論Ⅰ	1	A・B社S	
	自然環境Ⅰ	1	A社SA B社S	
	地誌学概論	2		地誌を含む。
「法律学、政治学」	法学概論 政治学概論 1科目選択	1	A・B社S	
「社会学、経済学」	社会学概論 経済学概論 1科目選択	1	A・B社S A社SA B社S	
「哲学、倫理学、宗教学」	哲学・倫理学・宗教学概論A 哲学・倫理学・宗教学概論B 1科目選択	1	A社SA B社S	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	2		
	中等社会科・公民科教育法Ⅰ	2		
	中等社会科・公民科教育法Ⅱ	2		
合計		20		

①上記20単位を全て修得する。
②さらにA類社会,B類社会に開設している中学校(社会)の「教科に関する専門的事項」から3単位以上を修得する。
→ ①と②併せて23単位以上取得する。

中学校(社会)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「日本史」「外国史」「地理学」「法律学」「政治学」「社会学」「経済学」「哲学」「倫理学」「宗教学」「(中・高(地歴))複合科目」である。
※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(地理歴史)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
日本史	日本史概論A / 日本史概論B (1科目選択)	1	A・B社S	
	日本史概論C	1		
	日本史概論D	1		
外国史	外国史概論B	1	A社SA B社S	
	外国史概論D	1		
人文地理学・自然地理学	地理学概論Ⅰ	1	A・B社S	
	自然環境Ⅰ	1	A社SA B社S	
地誌	地誌学概論	2	A社SA B社S	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	2		
合計		13		

①上記13単位を全て修得する。
②またA類社会，B類社会に開設している高等学校(地理歴史)の「教科に関する専門的事項」から6単位以上取得する。
③さらにA類社会,B類社会に開設している高等学校(地理歴史)の「教科に関する専門的事項」や,高等学校(地理歴史)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から5単位以上修得する。
→ ①～③併せて24単位以上修得する。

高等学校(地理歴史)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは，「日本史」「外国史」「人文地理学」「自然地理学」「地誌」「(中・高(地歴))複合科目」である。
※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(公民)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」	法学概論 / 政治学概論 (1科目選択)	1	A・B社S	国際法を含む。 国際政治を含む。
「社会学、経済学(国際経済を含む。)」	社会学概論 / 経済学概論 (1科目選択)	1	A・B社S A社SA B社S	 国際経済を含む。
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	哲学・倫理学・宗教学概論A / 哲学・倫理学・宗教学概論B (1科目選択)	1	A社SA B社S	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等社会科・公民科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	中等社会科・公民科教育法Ⅱ	2		
合計		7		

①上記7単位を全て修得する。
②またA類社会，B類社会に開設している高等学校(公民)の「教科に関する専門的事項」から12単位以上，取得する。
③さらにA類社会,B類社会に開設している高等学校(公民)の「教科に関する専門的事項」や,高等学校(公民)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から5単位以上修得する。
→ ①～③併せて24単位以上修得する。

高等学校(公民)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは，「法律学」「政治学」「社会学」「経済学」「哲学」「倫理学」「宗教学」である。
※法令上は「心理学」というカテゴリーも存在するが，本学では開設していない。
※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(数学)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
代数学	代数学Ⅰ	2	A・B数S	
	代数学Ⅱ	2	A数SA B数S	
幾何学	幾何学Ⅰ	2	A・B数S	
	幾何学Ⅱ	2	A数SA B数S	
解析学	解析学Ⅰ	2	A・B数S	
	解析学Ⅱ	2	A数SA B数S	
「確率論、統計学」	確率・統計Ⅰ	2	A・B数S	
コンピュータ	コンピュータ概論Ⅰ	1	A数SA B数S	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等数学科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	中等数学科教育法Ⅱ	2		
	中等数学科教育法Ⅲ	2		
	中等数学科教育法Ⅳ	2		
合計		23		

①上記23単位を修得する。

中学校(数学)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「代数学」「幾何学」「解析学」「確率論」「統計学」「コンピュータ(A・B数学の専門科目として開設しているものに限る)」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

【B類情報コース所属学生の場合】

教科に関する専門的事項(数学)の必修科目は,上の表によらず,「基本解析学Ⅰ」「基本代数学Ⅰ」「基本幾何学Ⅰ」「数理・データサイエンスⅠ」「コンピュータシステム概論」「プログラミングⅠ」「プログラミングⅡ」「プログラミング演習Ⅰ」「プログラミング演習Ⅱ」「基本情報数学」,及び「中等数学科教育法Ⅰ～Ⅳ」の計28単位とする。

・中学校(数学)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「代数学」「幾何学」「解析学」「確率論」「統計学」「コンピュータ(B類情報の専門科目として開設しているものに限る)」である。

・「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(数学)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
代数学	代数学Ⅰ	2	A・B数S	
	代数学Ⅱ	2	A数SA B数S	
幾何学	幾何学Ⅰ	2	A・B数S	
	幾何学Ⅱ	2	A数SA B数S	
解析学	解析学Ⅰ	2	A・B数S	
	解析学Ⅱ	2	A数SA B数S	
「確率論、統計学」	確率・統計Ⅰ	2	A・B数S	
コンピュータ	コンピュータ概論Ⅰ	1	A数SA B数S	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等数学科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	中等数学科教育法Ⅱ	2		
	中等数学科教育法Ⅲ	2		
	中等数学科教育法Ⅳ	2		
合計		23		

①上記23単位を修得する。

②さらにA類数学,B類数学に開設している高等学校(数学)の「教科に関する専門的事項」や,高等学校(数学)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から1単位以上修得する。

→ ①と②併せて24単位以上修得する。

高等学校(数学)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「代数学」「幾何学」「解析学」「確率論」「統計学」「コンピュータ(A・B数学の専門科目として開設しているものに限る)」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

【B類情報コース所属学生の場合】

教科に関する専門的事項(数学)の必修科目は,上の表によらず,「基本解析学Ⅰ」「基本代数学Ⅰ」「基本幾何学Ⅰ」「数理・データサイエンスⅠ」「コンピュータシステム概論」「プログラミングⅠ」「プログラミングⅡ」「プログラミング演習Ⅰ」「プログラミング演習Ⅱ」「基本情報数学」,及び「中等数学科教育法Ⅰ～Ⅳ」の計28単位とする。

・高等学校(数学)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「代数学」「幾何学」「解析学」「確率論」「統計学」「コンピュータ(B類情報の専門科目として開設しているものに限る)」である。

・「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状（理科）を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
物理学	物理学概論Ⅰ	1	A・B理S	
	物理学概論Ⅱ ※	2	A理SA B理S	
化学	化学概論Ⅰ	1	A・B理S	
	化学概論Ⅱ ※	2	A理SA B理S	
生物学	生物学概論Ⅰ	1	A・B理S	
	生物学概論Ⅱ ※	2	A理SA B理S	
地学	地学概論Ⅰ	1	A・B理S	
	地学概論Ⅱ ※	2	A理SA B理S	
物理学実験・化学実験・生物実験・地学実験	物理学実験	2	A・B理S	
	化学実験	2		
	生物学実験	2		
	地学実験	2		
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等理科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法（ST）	
	中等理科教育法Ⅱ	2		
	中等理科教育法Ⅲ	2		
	中等理科教育法Ⅳ	2		
合計		22		

①上記22単位を全て修得する。（※印の4科目のうち、いずれか1科目（2単位）を選択し、修得すること。）
②さらにA類理科、B類理科に開設している中学校（理科）の「教科に関する専門的事項」から、1単位以上修得する。
→ ①と②併せて23単位以上修得する。

中学校(理科)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは，「物理学」「化学」「生物学」「地学」「物理学実験」「化学実験」「生物学実験」「地学実験」「複合科目（A・B理科の専門科目として開設しているものに限る）」である。
※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(理科)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
物理学	物理学概論Ⅰ	1	A・B理S	
	物理学概論Ⅱ	2	A理SA B理S	
化学	化学概論Ⅰ	1	A・B理S	
	化学概論Ⅱ	2	A理SA B理S	
生物学	生物学概論Ⅰ	1	A・B理S	
	生物学概論Ⅱ	2	A理SA B理S	
地学	地学概論Ⅰ	1	A・B理S	
	地学概論Ⅱ	2	A理SA B理S	
「物理学実験、化学実験、生物実験、地学実験」	物理学実験 ※ 化学実験 ※ 生物学実験 ※ 地学実験 ※	2	A・B理S	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等理科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	中等理科教育法Ⅱ	2		
	中等理科教育法Ⅲ	2		
	中等理科教育法Ⅳ	2		
合計		22		

①上記22単位を全て修得する。(※印の4科目のうち、いずれか1科目(2単位)を選択し、修得すること。)
②さらにA類理科,B類理科に開設している高等学校(理科)の「教科に関する専門的事項」や,高等学校(理科)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から2単位以上修得する。
→ ①と②併せて24単位以上修得する。

高等学校(理科)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「物理学」「化学」「生物学」「地学」「物理学実験」「化学実験」「生物学実験」「地学実験」「複合科目(A・B理科の専門科目として開設しているものに限る)」である。
※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(音楽)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	A・B音S	
声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)	合唱	1	A・B音S	合唱を含む。
	邦楽歌唱法A ┐ 邦楽歌唱法B ┘ 1科目選択	1	A・B音SA	日本の伝統的な歌唱を含む。 日本の伝統的な歌唱を含む。
	基礎声楽実技Ⅰ	1	A・B音S	
器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)	基礎ピアノ実技Ⅰ	1	A・B音S	合奏、伴奏を含む。
	基礎管弦打実技Ⅰ	1	A・B音S	合奏を含む。
	吹奏楽(偶) ┐ オーケストラ(奇) ┘ 1科目選択	1	A・B音SA	合奏を含む。 合奏を含む。
	和楽器A ┐ 和楽器B 和楽器C 和楽器D ┘ 1科目選択	1		和楽器を含む。 和楽器を含む。 和楽器を含む。 和楽器を含む。
指揮法	指揮法	1	A・B音S	
音楽理論・作曲法(編曲法を含む。)・音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)	作曲法Ⅰ	1	A・B音S	編曲法を含む。
	音楽学概論A	2		
	音楽学概論B	2		日本の伝統音楽を含む。
	音楽学概論CⅠ	1	A音SA B音S	諸民族の音楽を含む。
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等音楽科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	中等音楽科教育法Ⅱ	2		
	中等音楽科教育法Ⅲ	2		
	中等音楽科教育法Ⅳ	2		
合計		23		

①上記23単位を全て修得する。

中学校(音楽)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「ソルフェージュ」「声楽」「器楽」「指揮法」「音楽理論」「作曲法」「音楽史」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(音楽)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	A･B音S	
声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)	合唱	1	A･B音S	合唱を含む。
	邦楽歌唱法A 邦楽歌唱法B 1科目選択	1	A･B音SA	日本の伝統的な歌唱を含む。 日本の伝統的な歌唱を含む。
	基礎声楽実技Ⅰ	1	A･B音S	
器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)	基礎ピアノ実技Ⅰ	1	A･B音S	合奏、伴奏を含む。
	基礎管弦打実技Ⅰ	1	A･B音S	合奏を含む。
	吹奏楽(偶) オーケストラ(奇) 1科目選択	1	A･B音SA	合奏を含む。 合奏を含む。
	和楽器A 和楽器B 和楽器C 和楽器D 1科目選択	1		和楽器を含む。 和楽器を含む。 和楽器を含む。 和楽器を含む。
指揮法	指揮法	1	A･B音S	
音楽理論･作曲法(編曲法を含む。)･音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)	作曲法Ⅰ	1	A･B音S	編曲法を含む。
	音楽学概論A	2		
	音楽学概論B	2		日本の伝統音楽を含む。
	音楽学概論CⅠ	1	A音SA B音S	諸民族の音楽を含む。
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等音楽科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	中等音楽科教育法Ⅱ	2		
	中等音楽科教育法Ⅲ	2		
	中等音楽科教育法Ⅳ	2		
合計		23		

①上記23単位を全て修得する。
②更にA類音楽,B類音楽に開設している高等学校(音楽)の「教科に関する専門的事項」や,高等学校(音楽)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から1単位以上修得する。
→ ①と②併せて24単位以上修得する。

高等学校(音楽)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「ソルフェージュ」「声楽」「器楽」「指揮法」「音楽理論」「作曲法」「音楽史」である。
※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(美術)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
絵画(映像メディア表現を含む。)	絵画基礎Ⅰ	2	A・B美S	映像メディア表現を含む。
彫刻	彫刻基礎Ⅰ	2	A・B美S	
デザイン(映像メディア表現 を含む。)	デザイン基礎Ⅰ	2	A・B美S	映像メディア表現を含む。
工芸	工芸基礎Ⅰ	2	A・B美S	
美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	日本東洋美術史概論	2	A・B美S	鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。
	西洋美術史概論	2	A美SA B美S	
	美学	2	A・B美S	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等美術科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	中等美術科教育法Ⅱ	2		
	中等美術科教育法Ⅲ	2		
	中等美術科教育法Ⅳ	2		
合計		22		

①上記22単位を全て修得する。
②さらにA類美術,B類美術に開設している中学校(美術)の「教科に関する専門的事項」から,1単位修得する。
→ ①と②併せて23単位以上修得する。

中学校(美術)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「絵画」「彫刻」「デザイン」「工芸」「美術理論」「美術史」である。
※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(美術)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
絵画(映像メディア表現を含む。)	絵画基礎Ⅰ	2	A・B美S	映像メディア表現を含む。
彫刻	彫刻基礎Ⅰ	2	A・B美S	
デザイン(映像メディア表現を含む。)	デザイン基礎Ⅰ	2	A・B美S	映像メディア表現を含む。
美術理論・美術史(鑑賞	日本東洋美術史概論	2	A・B美S	鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。
並びに日本の伝統美術	西洋美術史概論	2	A美SA B美S	
及びアジアの美術を含む。)	美学	2	A・B美S	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等美術科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	中等美術科教育法Ⅱ	2		
	中等美術科教育法Ⅲ	2		
	中等美術科教育法Ⅳ	2		
合計		20		

①上記20単位を全て修得する。

②さらにA類美術,B類美術に開設している高等学校(美術)の「教科に関する専門的事項」や,高等学校(美術)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から4単位以上修得する。

→ ①と②併せて24単位以上修得する。

高等学校(美術)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「絵画」「彫刻」「デザイン」「美術理論」「美術史」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状（工芸）を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
図法・製図	図法・製図	2	A・B美SA	
デザイン	デザイン基礎Ⅰ	2	A・B美S	
工芸制作（プロダクト制作を含む。）	工芸基礎Ⅰ	2	A・B美S	プロダクト制作を含む。
工芸理論・デザイン理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統工芸及びアジアの工芸を含む。）	日本東洋美術史概論	2	A・B美S	鑑賞並びに日本の伝統工芸及びアジアの工芸を含む。
	工芸・デザイン理論	2	A・B美SA	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等工芸科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法（ST）	
	中等工芸科教育法Ⅱ	2		
合計		14		

①上記14単位を全て修得する。
②またA類美術，B類美術に開設している高等学校（工芸）の「教科に関する専門的事項」から5単位修得する。
③さらにA類美術,B類美術に開設している高等学校（工芸）の「教科に関する専門的事項」や,高等学校（工芸）の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から5単位以上修得する。
→ ①～③併せて24単位以上修得する。

高等学校(工芸)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは，「図法・製図」「デザイン」「工芸制作」「工芸理論」「デザイン理論」「【（高）工芸】美術史」である。
※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(保健体育)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目				備考
	授業科目		単位数	開設場所	
体育実技	(1)	器械運動A	各科目1単位合計7単位選択必修 (※(1)～(10)の同一区分から複数選択不可)	A保体S	
		器械運動B		B保体S	
	(2)	陸上A		A保体S	
		陸上B		B保体S	
	(3)	水泳A		A保体S	
		水泳B		B保体S	
	(4)	ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙA		A保体SA	
		ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙB		B保体S	
	(5)	ソフトボールA		A保体SA	
		ソフトボールB		B保体S	
	(6)	バレーボールA		A保体S	
		バレーボールB		B保体S	
	(7)	表現運動		A保体SA	
		ダンス		B保体S	
	(8)	剣道A		A保体SA	
		剣道B		B保体S	
	(9)	柔道A		A保体SA	
		柔道B		B保体S	
	(10)	体つくり運動A		A保体SA	
		体つくり運動B		B保体S	
「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。)	運動方法学総論AⅠ 運動方法学総論BⅠ	1科目選択	1	A保体S	運動方法学を含む。
				B保体S	運動方法学を含む。
	体育原理AⅠ 体育原理BⅠ	1科目選択	1	A保体S	
				B保体S	
生理学(運動生理学を含む。)	運動生理学AⅠ 運動生理学BⅠ	1科目選択	1	A保体S	運動生理学を含む。
				B保体S	運動生理学を含む。
衛生学・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学 衛生・公衆衛生学AⅠ 衛生・公衆衛生学BⅠ	1科目選択	1～2	D養護S	
				A保体SA	
				B保体S	
学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	学校保健学AⅠ 学校保健学BⅠ	1科目選択	1	A保体S	小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。
				B保体S	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等保健体育科教育法Ⅰ		2	各教科の指導法(ST)	
	中等保健体育科教育法Ⅱ		2		
	中等保健体育科教育法Ⅲ		2		
	中等保健体育科教育法Ⅳ		2		
合計			20～21		

①上記20～21単位を全て修得する。

②さらにA類保健体育,B類保健体育に開設している中学校(保健体育)の「教科に関する専門的事項」から2～3単位以上を修得する。

→ ①と②併せて23単位以上修得する。

中学校(保健体育)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「体育実技」「体育原理」「体育心理学」「体育経営管理学」「体育社会学」「体育史」「運動学」「生理学」「衛生学・公衆衛生学」「学校保健(小児保健)(精神保健)(学校安全)(救急処置)」「(中・高(保体))複合科目」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(保健体育)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目				備考
	授業科目		単位数	開設場所	
体育実技	(1)	器械運動A	各科目1単位合計7単位選択必修 (※(1)～(10)の同一区分から複数選択不可)	A保体S	
		器械運動B		B保体S	
	(2)	陸上A		A保体S	
		陸上B		B保体S	
	(3)	水泳A		A保体S	
		水泳B		B保体S	
	(4)	ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙA		A保体SA	
		ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙB		B保体S	
	(5)	ソフトボールA		A保体SA	
		ソフトボールB		B保体S	
	(6)	バレーボールA		A保体S	
		バレーボールB		B保体S	
	(7)	表現運動		A保体SA	
		ダンス		B保体S	
	(8)	剣道A		A保体SA	
		剣道B		B保体S	
	(9)	柔道A		A保体SA	
		柔道B		B保体S	
	(10)	体つくり運動A		A保体SA	
		体つくり運動B		B保体S	
「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。)	運動方法学総論AⅠ 運動方法学総論BⅠ	1科目選択	1	A保体S	運動方法学を含む。
				B保体S	運動方法学を含む。
	体育原理AⅠ 体育原理BⅠ	1科目選択	1	A保体S	
				B保体S	
生理学(運動生理学を含む。)	運動生理学AⅠ 運動生理学BⅠ	1科目選択	1	A保体S	運動生理学を含む。
				B保体S	運動生理学を含む。
衛生学・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学 衛生・公衆衛生学AⅠ 衛生・公衆衛生学BⅠ	1科目選択	1～2	D養護S	
				A保体SA	
				B保体S	
学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	学校保健学AⅠ 学校保健学BⅠ	1科目選択	1	A保体S	小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。
				B保体S	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等保健体育科教育法Ⅰ		2	各教科の指導法(ST)	
	中等保健体育科教育法Ⅱ		2		
	中等保健体育科教育法Ⅲ		2		
	中等保健体育科教育法Ⅳ		2		
合計			20～21		

①上記20～21単位を全て修得する。
②さらにA類保健体育,B類保健体育に開設している高等学校(保健体育)の「教科に関する専門的事項」や,高等学校(保健体育)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から3～4単位以上修得する。
→ ①と②併せて24単位以上修得する。

高等学校(保健体育)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「体育実技」「体育原理」「体育心理学」「体育経営管理学」「体育社会学」「体育史」「運動学」「生理学」「衛生学・公衆衛生学」「学校保健(小児保健)(精神保健)(学校安全)(救急処置)」「(中・高(保体))複合科目」である。
※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(保健)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
生理学・栄養学	健康と栄養	2	D養護S	
	解剖学	2		
	生理学	2		
衛生学・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学 ┐ 衛生・公衆衛生学AⅠ ├ 1科目選択 衛生・公衆衛生学BⅠ ┘	1～2	D養護S A保体SA B保体S	
学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	学校保健学AⅠ ┐ 学校保健学BⅠ ├ 1科目選択 学校保健学 ┘	1～2	A保体S B保体S D養護S	小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。
	学校安全と危機管理	2	D養護SA	学校安全を含む。
	救急処置の理論と演習	2	D養護S	救急処置を含む。
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等保健科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	中等保健科教育法Ⅱ	2		
	中等保健科教育法Ⅲ	2		
	中等保健科教育法Ⅳ	2		
合計		20～22		

①上記20～22単位を全て修得する。

②さらにA類保健体育,B類保健体育またはD類養護が開設している中学校(保健)の「教科に関する専門的事項」から1～3単位修得する。

→ ①と②併せて23単位以上修得する。

中学校(保健)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「生理学」「栄養学」「衛生学・公衆衛生学」「学校保健(小児保健)(精神保健)(学校安全)(救急処置)」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(保健)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
「生理学、栄養学、微生物学、解剖学」	健康と栄養	2	D養護S	
	解剖学	2	D養護S	
	生理学	2	D養護S	
衛生学・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	1～2	D養護S	
	衛生・公衆衛生学AⅠ（1科目選択）		A保体SA	
	衛生・公衆衛生学BⅠ（1科目選択）		B保体S	
学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	学校保健学AⅠ（1科目選択）	1～2	A保体S	小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。
	学校保健学BⅠ（1科目選択）		B保体S	
	学校保健学（1科目選択）		D養護S	
	学校安全と危機管理	2	D養護SA	学校安全を含む。
	救急処置の理論と演習	2	D養護S	救急処置を含む。
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等保健科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	中等保健科教育法Ⅱ	2		
	中等保健科教育法Ⅲ	2		
	中等保健科教育法Ⅳ	2		
合計		20～22		

①上記20～22単位を全て修得する。

②さらにA類保健体育,B類保健体育またはD類養護に開設している高等学校(保健)の「教科に関する専門的事項」や,高等学校(保健)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から2～4単位以上修得する。

→ ①と②併せて24単位以上修得する。

高等学校(保健)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「生理学」「栄養学」「微生物学」「解剖学」「衛生学・公衆衛生学」「学校保健(小児保健)(精神保健)(学校安全)(救急処置)」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(家庭)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	家庭経営学概論	2	A・B家S	家庭経済学を含む。
	家族関係学	2	A家SA B家S	家族関係学を含む。
被服学(被服実習を含む。)	被服学概論	2	A・B家S	被服実習を含む。
食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	栄養学概論	2	A・B家S	栄養学、食品学を含む。
	調理学概論	2	A家SA B家S	調理実習を含む。
住居学	住居学概論	2	A・B家S	
保育学	児童学概論	2	A・B家S	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等家庭科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	中等家庭科教育法Ⅱ	2		
	中等家庭科教育法Ⅲ	2		
	中等家庭科教育法Ⅳ	2		
合計		22		

①上記22単位を全て修得する。

②さらにA類家庭，B類家庭が開設している中学校(家庭)の「教科に関する専門的事項」から1単位修得する。

→ ①と②併せて23単位以上修得する。

中学校(家庭)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは，「家庭経営学」「被服学」「食物学」「住居学」「保育学」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(家庭)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	家庭経営学概論	2	A・B家S	家庭経済学を含む。
	家族関係学	2	A家SA B家S	家族関係学を含む。
被服学(被服実習を含む。)	被服学概論	2	A・B家S	被服実習を含む。
食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	栄養学概論	2	A・B家S	栄養学、食品学を含む。
	調理学概論	2	A家SA B家S	調理実習を含む。
住居学	住居学概論	2	A・B家S	
保育学	児童学概論	2	A・B家S	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等家庭科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	中等家庭科教育法Ⅱ	2		
	中等家庭科教育法Ⅲ	2		
	中等家庭科教育法Ⅳ	2		
合計		22		

①上記22単位を全て修得する。
②さらにA類家庭,B類家庭に開設している高等学校(家庭)の「教科に関する専門的事項」や,高等学校(家庭)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から2単位以上修得する。
→ ①と②併せて24単位以上修得する。

高等学校(家庭)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「家庭経営学」「被服学」「食物学」「住居学」「保育学」である。
※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(技術)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
材料加工(実習を含む。)	基礎製図	2	AものS B技S	
	木材加工の基礎	2		実習を含む。
機械・電気(実習を含む。)	機械工学の基礎	3	AものSA B技S	実習を含む。
	電気回路	3	AものSA B技S	実習を含む。
生物育成	栽培	3	AものSA B技S	
情報とコンピュータ	情報処理概論	2	AものS B技S	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	技術科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	技術科教育法Ⅱ	2		
	技術科教育法Ⅲ	2		
	技術科教育法Ⅳ	2		
合計		23		

①上記23単位を全て修得する。

中学校(技術)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「材料加工」「機械・電気」「生物育成」「情報とコンピュータ」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(工業)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
工業の関係科目	工業技術	2	AものSA B技S	
職業指導	青年期の職業指導	2	AものSA B技S	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	工業科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	工業科教育法Ⅱ	2		
合計		8		

①上記8単位を全て修得する。
②またA類ものづくり技術，B類技術が開設している高等学校(工業)の「教科に関する専門的事項」から11単位以上修得する。
③さらにA類ものづくり技術,B類技術に開設している高等学校(工業)の「教科に関する専門的事項」や,高等学校(工業)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から5単位以上修得する。
→ ①～③併せて24単位以上修得する。

高等学校(工業)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは，「工業の関係科目」「職業指導」である。
※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(英語)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
英語学	英文法演習Ⅰ	2	A英S B英S	
	英語音声学概論	2	A英S B英S	
	英語史概論	2	A英SA B英S	
英語文学	英米文学概論AⅠ	1	A英S B英S	
	英米文学概論BⅠ	1		
英語コミュニケーション	英作文Ⅰ	1	A英S B英S	
	英会話Ⅰ	1		
	英語読解Ⅰ	1		
異文化理解	イギリス文化概論Ⅰ	1	A英SA B英S	
	アメリカ文化概論Ⅰ	1		
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等英語科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	中等英語科教育法Ⅱ	2		
	中等英語科教育法Ⅲ	2		
	中等英語科教育法Ⅳ	2		
合計		21		

①上記21単位を全て修得する。

②さらにA類英語、B類英語に開設している中学校(英語)の「教科に関する専門的事項」から2単位以上修得する。

→ ①と②併せて23単位以上修得する。

中学校(英語)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
英語学	英文法演習Ⅰ	2	A英S B英S	
	英語音声学概論	2	A英S B英S	
	英語史概論	2	A英SA B英S	
英語文学	英米文学概論AⅠ	1	A英S B英S	
	英米文学概論BⅠ	1		
英語コミュニケーション	英作文Ⅰ	1	A英S B英S	
	英会話Ⅰ	1		
	英語読解Ⅰ	1		
異文化理解	イギリス文化概論Ⅰ	1	A英SA B英S	
	アメリカ文化概論Ⅰ	1		
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	中等英語科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	中等英語科教育法Ⅱ	2		
	中等英語科教育法Ⅲ	2		
	中等英語科教育法Ⅳ	2		
合計		21		

①上記21単位を全て修得する。

②さらにA類英語,B類英語に開設している高等学校(英語)の「教科に関する専門的事項」や,高等学校(英語)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から3単位以上修得する。

→ ①と②併せて24単位以上修得する。

高等学校(英語)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(書道)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
書道(書写を含む。)	漢字研究A	1	B書S	書写を含む。
	漢字研究B	1		書写を含む。
	仮名研究A	1		書写を含む。
書道史	書道史研究A	2	B書S	
「書論、鑑賞」	書論・鑑賞研究Ⅰ	2	B書S	
「国文学、漢文学」	日本古典文学史	2	A国SA B国S B書S	
	日本近代文学史	2		
	中国古典文基礎	2	A国S B国S B書S	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	書道科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	書道科教育法Ⅱ	2		
合計		17		

①上記17単位を全て修得する。
②またB類書道に開設している高等学校(書道)の「教科に関する専門的事項」から,2単位以上修得する。
③さらにB類書道に開設している高等学校(書道)の「教科に関する専門的事項」や,高等学校(書道)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から5単位以上修得する。
→ ①～③併せて24単位以上修得する。

高等学校(書道)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「書道」「書道史」「書論」「鑑賞」「国文学」「漢文学」である。
※「国文学」及び「漢文学」は, B書道の専門科目として開設している科目のうち「免許法上の科目」欄に「【(高)書】国文学」「【(高)書】漢文学」と記載のある科目に限る。
※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(情報)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
情報社会(職業に関する内容を含む。)・情報倫理	情報社会と情報倫理	2	B情S	
	情報社会と職業	2	B情S	職業に関する内容を含む。
コンピュータ・情報処理	コンピュータシステム概論	2	B情S	
情報システム	オペレーティングシステム	2	B情S	
情報通信ネットワーク	ネットワークシステム	2	B情S	
マルチメディア表現・マルチメディア技術	マルチメディア情報解析	2	B情S	
教育職員免許法上の「各教科の指導法」	情報科教育法Ⅰ	2	各教科の指導法(ST)	
	情報科教育法Ⅱ	2		
合計		16		

①上記16単位を全て修得する。
②またB類情報に開設している高等学校(情報)の「教科に関する専門的事項」から3単位以上修得する。
③さらにB類情報に開設している高等学校(情報)の「教科に関する専門的事項」や,高等学校(情報)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から5単位以上修得する。
→ ①～③併せて24単位以上修得する。

高等学校(情報)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは,「情報社会・情報倫理」「コンピュータ・情報処理」「情報システム」「情報通信ネットワーク」「マルチメディア表現・マルチメディア技術」である。

※B情報の専攻科目として開設している科目に限る。
※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

(6) 各種免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目」について

学校教育教員養成課程において，幼稚園，小学校，中学校，高等学校の教諭免許状の取得に際し「大学が独自に設定する科目」の単位修得が必要である。本学の履修基準に従って免許取得する際，必要単位数を充足している場合は，「大学が独自に設定する科目」としての追加の単位修得は必要ないが，以下に各授業科目がどの校種,教科の「大学が独自に設定する科目」として,認定を受けているか等をまとめる。
なお,「大学が独自に設定する科目」については，法令上の他の科目区分の余剰科目分をあてることができる。

○「大学が独自に設定する科目」の必要単位数と修得単位の内訳（参考）

1.幼稚園教諭一種免許状
・「大学が独自に設定する科目」の法令上の必要単位数…14単位
・修得単位の内訳…「教育の基礎的理解に関する科目」で2単位，「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」で2単位，法令上計4単位余剰。教育創成科目の必修「授業観察演習」1単位と選択3単位及び「指定大学が加える科目」1単位で「大学が独自に設定する科目」計5単位履修。
さらに，「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の余剰単位をあてることができる。
※A幼以外のA・B・C・D類学生は「道徳教育の指導法（2単位）」も「大学が独自に設定する科目」としてあてることができる。
上記の合計で14単位に満たない場合は，各自修得する必要がある。

2.小学校教諭一種免許状
・「大学が独自に設定する科目」の法令上の必要単位数…2単位
・修得単位の内訳…「教育の基礎的理解に関する科目」で法令上2単位余剰。教育創成科目の必修「授業観察演習」1単位と選択3単位で「大学が独自に設定する科目」計4単位履修。

3.中学校教諭一種免許状
・「大学が独自に設定する科目」の法令上の必要単位数…4単位
・修得単位の内訳…「教育の基礎的理解に関する科目」で法令上2単位余剰。教育創成科目の必修「授業観察演習」1単位と選択3単位で「大学が独自に設定する科目」計4単位履修。

4.高等学校教諭一種免許状
・「大学が独自に設定する科目」の法令上の必要単位数…12単位
・修得単位の内訳…「教育の基礎的理解に関する科目」で2単位，「教育実習」で1単位以上(A・C類は1単位，B・D類は2単位)，法令上計3単位以上余剰。
教育創成科目の必修「授業観察演習」1単位と選択3単位で「大学が独自に設定する科目」計4単位履修。
さらに，「教科及び教科の指導法に関する科目」の余剰単位をあてることができる。
※A幼以外のA・B・C・D類学生は「道徳教育の指導法（2単位）」も「大学が独自に設定する科目」としてあてることができる。
上記の合計で12単位に満たない場合は，各自修得する必要がある。

○学校教育教員養成課程で免許法上の「大学が独自に設定する科目」として認定される科目 「○・・・使用可」

区分	授業科目名	単位数	「大学が独自に設定する科目」の指定学校種				開設場所	備 考
			小学校	中学校	高等学校	幼稚園		
大学が独自に設定する科目として指定されている科目	社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン	1	*1	*1	*1	*2		
	学びを支えるファシリテーションの技法	1	*1	*1	*1	*2		
	チーム学校と多職種協働	1	*1	*1	*1	*2	教育創成科目（必修）	
	教師のレジリエンスと自己管理能力の育成	1	*1	*1	*1	*2		
	教育のためのデータサイエンス	1	*1	*1	*1	*2		
	授業観察演習	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	学校教育におけるSDGs	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	教育評価の理論と実践	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	環境と教育実践	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	エコスクール論	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	地域の環境観測とその実践	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	子どもの遊びと生活	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	板書指導と手書き文字	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	学校におけるプログラミング教育	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	遊びと発育・発達	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	学校図書館で深める主体的な学びのデザイン	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	Lesson Study in Japan	2	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	いじめ・不登校と変化する社会	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	現代の学校と外国人児童・生徒	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	外国人児童生徒への日本語教育	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	文字文化と書写指導	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	不平等と教育	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○	教育創成科目（Ⅰ群）	
	特別ニーズと教育	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	インクルーシブ教育とユニバーサルデザイン	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	未来の学校をみんなで創る	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	現代の学校をめぐる諸課題と教育行政A	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	現代の学校をめぐる諸課題と教育行政B	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	教師の省察的実践のための教育思想	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	現代学校論	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	教室集団の人間関係	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	学級経営論	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	学校経営のための教育経営・教育政策	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	Education in Japan (A)	2	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	Education in Japan (B)	2	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	教育の情報化基礎	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	学校保健・衛生管理とマネジメントサイクル	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	教職基礎としての子供の安全	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		
	学校教育と地域連携	1	○	○（全教科）	○（全教科）	○		

*1…小学校・中学校・高等学校の「大学が独自に設定する科目」として認定を受けているが，本学の学校教育教員養成課程に所属している学生が履修した場合，小学校・中学校・高等学校の「指定大学が加える科目」として扱われ，「大学が独自に設定する科目」の単位にはならないため注意。

*2…幼稚園の「大学が独自に設定する科目」として認定を受けているが，本学の学校教育教員養成課程に所属している学生が履修した場合，4単位分は幼稚園の「指定大学が加える科目」として扱われ，1単位分のみ「大学が独自に設定する科目」の単位となるため注意。

区分	授業科目名	単位数	「大学が独自に設定する科目」の指定学校種				開設場所	備考
			小学校	中学校	高等学校	幼稚園		
大学が独自に設定する科目として指定されている科目	学校経営と学校図書館	2	○	○(全教科)	○(全教科)	○	教育創成科目	
	学校図書館メディアの構成	2	○	○(全教科)	○(全教科)	○		
	読書と豊かな人間性	2	○	○(全教科)	○(全教科)	○		
	学習指導と学校図書館	2	○	○(全教科)	○(全教科)	○		
	情報メディアの活用	2	○	○(全教科)	○(全教科)	○		
	道徳教育の指導法	2			○(全教科)	○	道徳の理論及び指導法EM	
	国語科カリキュラム論	2	○	○(国語)	○(国語)	○	A・B類国語コースSE	
	国語科教材論	2	○	○(国語)	○(国語)	○		
	日本語教育概論	2	○	○(国語)	○(国語)	○	A・B類国語コースSA	
	日本語教育の歴史と言語政策	2	○	○(国語)	○(国語)	○		
	異文化理解と心理	2	○	○(国語)	○(国語)	○		
	第二言語習得論	2	○	○(国語)	○(国語)	○		
	日本語教育の方法Ⅰ　教授法と教室活動	2	○	○(国語)	○(国語)	○		
	日本語教育の方法Ⅱ　教材の開発と活用	2	○	○(国語)	○(国語)	○		
	日本語教育の方法Ⅲ　授業実践と省察	2	○	○(国語)	○(国語)	○		
	日本語教育文法	2	○	○(国語)	○(国語)	○		
	言語学概論	2	○	○(国語)	○(国語)	○		
	子どもの日本語教育A　子どもの社会文化的背景とバイリンガリズム	2	○	○(国語)	○(国語)	○		
	子どもの日本語教育B　学校・地域の現状と課題	2	○	○(国語)	○(国語)	○		
	児童文学	2	○	○(国語)	○(国語)	○		
	言語科学と教育	2	○	○(国語)	○(国語)	○		
	近代文学と国語教育	2	○	○(国語)	○(国語)	○		
	古典文学と国語教育	2	○	○(国語)	○(国語)	○		
	漢字漢文教育論	2	○	○(国語)	○(国語)	○		
	社会科教材論	2	○	○(社会)	○(地歴・公民)		A・B類社会コースSE	
	社会科カリキュラム論	2	○	○(社会)	○(地歴・公民)			
	数学カリキュラム論	2	○	○(数学)	○(数学)		A・B類数学コースSE	
	初等算数科教材論	2	○				A類数学コースSE	
	数学科教材論	2		○(数学)	○(数学)		B類数学コースSE	
	理科カリキュラム・教材開発基礎A	2	○	○(理科)	○(理科)		A・B類理科コースSE	
	理科カリキュラム・教材開発基礎B	2	○	○(理科)	○(理科)			
	現代社会における理科教育	2	○	○(理科)	○(理科)		A・B類理科コースSA	
	自然探究実践法	2	○	○(理科)	○(理科)			
	理科学習評価論	2	○	○(理科)	○(理科)			
	理科教育学概説	2	○	○(理科)	○(理科)			
	理科学習指導論	2	○	○(理科)	○(理科)			
	音楽科カリキュラム論A	2	○	○(音楽)	○(音楽)		A類音楽コースSE	
	音楽科教材論A	2	○	○(音楽)	○(音楽)			
	音楽科カリキュラム論B	2	○	○(音楽)	○(音楽)		B類音楽コースSE	
	音楽科教材論B	2	○	○(音楽)	○(音楽)			
	図画工作科教材論	2	○	○(美術)	○(美術・工芸)	○	A類美術コースSE	
	図画工作科カリキュラム論	2	○	○(美術)	○(美術・工芸)	○		
	美術科教材論	2	○	○(美術)	○(美術・工芸)		B類美術コースSE	
	美術科カリキュラム論	2	○	○(美術)	○(美術・工芸)			
	美術科教育演習Ⅰ	2	○	○(美術)	○(美術・工芸)	○	A・B類美術コースSA	
	美術科教育演習Ⅱ	2	○	○(美術)	○(美術・工芸)	○		
	美術科教育演習Ⅲ	2	○	○(美術)	○(美術・工芸)	○		
	美術科教育演習Ⅳ	2	○	○(美術)	○(美術・工芸)	○		
	図画工作・美術科基礎	2	○	○(美術)	○(美術・工芸)	○		
	保健体育科教材研究A	2	○	○(保体)	○(保体)		A類保健体育コースSE	
	保健体育科カリキュラム開発論A	2	○	○(保体)	○(保体)			
	保健体育科教材研究B	2	○	○(保体)	○(保体)		B類保健体育コースSE	
	保健体育科カリキュラム開発論B	2	○	○(保体)	○(保体)			
	家庭科教材論(A)	2	○	○(家庭)	○(家庭)		A類家庭科コースSE	
	家庭科カリキュラム論(A)	2	○	○(家庭)	○(家庭)			
	家庭科教材論(B)	2	○	○(家庭)	○(家庭)		B類家庭科コースSE	
	家庭科カリキュラム論(B)	2	○	○(家庭)	○(家庭)			
	英語科教材論	2	○	○(英語)	○(英語)		A・B類英語コースSE	
	英語科カリキュラム論	2	○	○(英語)	○(英語)			

区分	授業科目名	単位数	「大学が独自に設定する科目」の指定学校種				開設場所	備考
			小学校	中学校	高等学校	幼稚園		
大学が独自に設定する科目として指定されている科目	第二言語習得	2	○	○(英語)	○(英語)		A・B類英語コースSA	
	英語科と異文化理解	2	○	○(英語)	○(英語)			
	合科的学習教材論	2	○	○(全教科)	○(全教科)	○	A類現代教育実践コースSE	
	カリキュラム論	2	○	○(全教科)	○(全教科)	○		
	授業実践の心理学	2	○	○(全教科)	○(全教科)	○		
	教授学習プロセスとその評価	2	○	○(全教科)	○(全教科)	○		
	国際教育のカリキュラム	2	○	○(全教科)	○(全教科)	○		
	国際教育臨床	2	○	○(全教科)	○(全教科)	○		
	環境教育カリキュラム論	2	○	○(全教科)	○(全教科)	○		
	環境教育教材論	2	○	○(全教科)	○(全教科)	○		
	ものづくり・技術教育カリキュラム論	2	○	○(技術)	○(工業)		Aものづくり・B類技術コースSE	
	ものづくり・技術教育教材論	2	○	○(技術)	○(工業)			
	保育者論	2				○	A類幼児教育コースSE	
	幼児教育学	2				○		
	保育原理	2				○	A類幼児教育コースS	
	乳幼児心理学	2				○		
	幼児の健康指導研究	2				○		
	国語科研究	1				○	小学校の教科に関する専門的事項SP	
	算数科研究	1				○		
	生活科研究	1				○		
	音楽科研究	1				○		
	図画工作科研究	1				○		
	体育科研究	1				○		
	書道科カリキュラム論	2	○		○(書道)		B類書道コースSE	
	書道科教材論	2	○		○(書道)			
	情報科教育教材論	2	○		○(情報)		B類情報コースSE	
	情報科教育カリキュラム論	2	○		○(情報)			
	特別支援教育支援方法論	2	○	○(全教科)	○(全教科)	○	C類SE	
	健康教育教材論	2	※養護の大学独自科目				D類SE	
	養護活動カリキュラム論	2	※養護の大学独自科目					

区分	「教科(領域)に関する専門的事項」,「各教科(保育内容)の指導法」の指定授業科目		「大学が独自に設定する科目」の指定学校種				開設場所	備考
			小学校	中学校	高等学校	幼稚園		
教科に関する専門的事項の余剰科目(単位)分となる科目	**右記の専攻科目の中で「教科(領域)に関する専門的事項」に指定されている科目で免許法上の最低修得単位を超えて修得した科目(単位)**	小学校の「教科に関する専門的事項」「小学校各教科指導法」	○(最低修得単位数:25単位)				専攻科目	
		「各コース(幼児教育コース以外)の専攻に関する科目」「中・高等学校各教科指導法」		○当該免許教科に限る(最低修得単位数:23単位)	○当該免許教科に限る(最低修得単位数:19単位(※1))			
		幼稚園の「領域に関する専門的事項」「保育内容の指導法」				○(最低修得単位数:12単位(※2))		

※1高等学校の「中等(教科)教育法」の取扱い(地理歴史,公民,工芸,書道,情報,工業を除く)

本学では,中学校免許と同様に4科目8単位を必修としているが,免許法では,高等学校免許取得に必要な「各教科の指導法」の単位は4単位(法定必要単位)となっている。法定必要単位との余剰分である4単位を高等学校の「大学が独自に設定する科目」の12単位に含めることができる。

※2小学校教諭免許状を取得する場合

小学校教諭免許状取得者は「保育内容の指導法」に関する科目の単位のうち半数までを小学校の各教科の指導法または特別活動の指導法に関する科目をもってあてることができる。

・「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の法定必要単位数16単位－「指定大学が加える科目(4単位)」－「領域に関する専門的事項(2単位)」＝10単位

⇒「保育内容の指導法」の必要単位数10単位のうち5単位は小学校の各教科の指導法または特別活動の指導法に関する科目の単位をもってあてるため,残り5単位が必要単位数となる。

「領域に関する専門的事項」2単位+「保育内容の指導法」5単位=7単位 を超えて履修したものは「大学が独自に設定する科目」の単位とすることが可能。

○選択科目「教育実習Ⅱ（A, B類）」「養護実習Ⅱ」の取り扱い

選択科目「教育実習Ⅱ（A, B類）」「養護実習Ⅱ」を履修した場合，該当の免許取得のために「大学が独自に設定する科目」の余剰科目分として，あてることができる。　「○･･･使用可」

	小学校	中学校	高等学校	養護	幼稚園	備考
①A類幼児教育コースの学生	○				○	協力幼稚園での教育実習
②幼児教育コースを除くA類の学生	○				○	協力小学校での教育実習
③B類の学生		○	○			協力中･高･中等教育学校での教育実習
④D類の学生				○		協力小･中･高･中等教育学校での養護実習

○免許法上の「教育の基礎的理解に関する科目等」の余剰分となる科目 「○･･･使用可」

①以下の対象者は，必修科目の履修により「教育の基礎的理解に関する科目等」の余剰単位が生じるため，対応する校種の「大学が独自に設定する科目」の単位数として，以下の単位数を加算することができる。

	授業科目名	単位数	「教育の基礎的理解に関する科目等」の指定学校種				開設場所	備　考
			小学校	中学校	高等学校	幼稚園		
A～D類全コース　対象								
	「教育の基礎的理解に関する科目（EB）」の必修科目の余剰単位数	2	○	○	○	○	教育の基礎的理解に関する科目（ＥＢ）	
A類幼児教育コース及び幼稚園教諭免許取得者（副免）　対象								
	「道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目（EM）」の必修科目の余剰単位数	2				○	道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目（EM）	
B類全コース　対象								
	教育実習Ⅰ（B類）	2			○		教育実践に関する科目（ＥＰ）	

②必修科目に加え，以下の科目を履修した場合は，「大学が独自に設定する科目」の単位数として，以下の単位数を加算することができる。

	授業科目名	単位数	「教育の基礎的理解に関する科目等」の指定学校種				開設場所	備　考
			小学校	中学校	高等学校	幼稚園		
C類生　対象								
	特別支援教育の理解	2	○	○	○	○	教育の基礎的理解に関する科目（ＥＢ）	
A，B，D類生　対象								
	特別な教育的ニーズの理解と支援	2	○	○	○	○	教育の基礎的理解に関する科目（ＥＢ）	
幼児教育コースを除くA類，B～D類生　対象								
	保育・幼児教育課程総論	2				○	教育の基礎的理解に関する科目（ＥＢ）	
A，C類生　対象								
	教育実習（選択・中等）	1			○		教育実践に関する科目（ＥＰ）	
B類生　対象								
	教育実習（選択・小中）	2		○			教育実践に関する科目（ＥＰ）	
D類生　対象								
	教育実習（選択・D類）	2			○		教育実践に関する科目（ＥＰ）	

(7) 特別支援学校教諭免許状取得に必要な「特別支援教育に関する科目」の履修方法

特別支援学校教諭の免許状を取得するには，基礎資格として小学校，中学校，高等学校又は幼稚園教諭普通免許状を有することが必要である。

一種免許状は大学卒業相当、二種免許状は短期大学卒業相当の教員免許状。特別支援学校教諭免許状については、一種、二種、いずれかを選択して取得することが可能。

①特別支援学校教諭一種免許状（聴覚障害者）（知的障害者）（肢体不自由者）（病弱者）の4領域を取得する場合

区分			本学の対応する開設授業科目		履修方法	備考
欄	免許法上の「特別支援教育に関する科目」	免許法上の最低修得単位数	授業科目	単位		
第1	特別支援教育の基礎理論に関する科目	2	特別支援教育概論	2	必修	
第2	心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目	16	聴覚言語障害の心理・生理・病理A	2	10科目必修	
			聴覚言語障害の心理・生理・病理B	2		
			知的障害の心理・生理・病理	2		
			肢体不自由の心理・生理・病理	2		
			病弱の心理・生理・病理	2		
	心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		聴覚言語障害の指導法A	2		
			聴覚言語障害の指導法B	2		
			知的障害の指導法	2		
			肢体不自由の指導法	2		
			病弱の指導法	2		
第3	・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	5	重複障害教育総論	2	必修	
			言語・情緒・発達障害教育総論	2	必修	
			視覚障害教育総論	2	必修	
	心身に障害のある幼児，児童又は生徒についての教育実習	3	特別支援学校教育実習（選択）	3	必修	
合計		26単位以上		31単位		

②特別支援学校教諭二種免許状（聴覚障害者）（知的障害者）（肢体不自由者）（病弱者）の4領域を取得する場合

区分			本学の対応する開設授業科目		履修方法	備考
欄	免許法上の「特別支援教育に関する科目」	免許法上の最低修得単位数	授業科目	単位		
第1	特別支援教育の基礎理論に関する科目	2	特別支援教育概論	2	必修	
第2	心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目	8	聴覚言語障害の心理・生理・病理A 又は B	2	8科目必修	
			知的障害の心理・生理・病理	2		
			肢体不自由の心理・生理・病理	2		
			病弱の心理・生理・病理	2		
	心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		聴覚言語障害の指導法A 又は B	2		
			知的障害の指導法	2		
			肢体不自由の指導法	2		
			病弱の指導法	2		
第3	・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	3	重複障害教育総論	2	必修	
			言語・情緒・発達障害教育総論	2	必修	
			視覚障害教育総論	2	必修	
	心身に障害のある幼児，児童又は生徒についての教育実習	3	特別支援学校教育実習（選択）	3	必修	
合計		16単位以上		27単位		

(8) 養護教諭一種免許状の取得に必要な授業科目の履修方法

養護教諭は，D類養護教育コースのみが取得できる免許状であり，他の専攻の学生は取得できないので注意すること。

免許法上の科目区分		本学の対応授業科目等		履修方法	備考
		授業科目	単位		
養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）	衛生・公衆衛生学	2	必修	予防医学を含む。
		保健行動科学	2	必修	
	学校保健	学校保健学	2	必修	
		小児科学	2	必修	
		救急処置の理論と演習	2	必修	
	養護概説	養護概論	2	必修	
	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	健康相談活動の理論と方法	2	必修	
		養護活動論	2	必修	
	栄養学（食品学を含む。）	健康と栄養	2	必修	食品学を含む。
	解剖学・生理学	解剖学	2	必修	
		生理学	2	必修	
	「微生物学、免疫学、薬理概論」	薬理学	2	必修	
	精神保健	精神保健	2	必修	
	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）	臨床医学Ⅰ	2	必修	救急処置を含む。
		臨床医学Ⅱ	2	必修	救急処置を含む。
		学校看護学理論と演習Ⅰ	2	必修	救急処置を含む。
		学校看護学理論と演習Ⅱ	2	必修	救急処置を含む。
		学校看護学理論と演習Ⅲ	2	必修	救急処置を含む。
		臨床実習Ⅰ	1	必修	臨床実習を含む。
		臨床実習Ⅱ	2	必修	臨床実習を含む。
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職入門	2	必修	
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育の理念と歴史	2	必修	
	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	必修	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育の理解	2	必修	
	教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育組織論	2	必修	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程の理論と実践	2	必修	
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び総合的な探求の時間並びに特別活動に関する内容	道徳教育の指導法	2	必修	
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	必修	
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育の方法とICT	2	必修	
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導の理論と方法	2	必修	
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法	2	必修	
教育実践に関する科目	養護実習	養護実習Ⅰ	5	必修	
	教職実践演習	教職実践演習（養護教諭）	2	必修	
合計			68		

※上記科目を履修することで，「大学が独自に設定する科目」に必要な7単位分も含まれる。

26
資格又は受験資格取得に必要な単位及び履修方法（諸資格）

資格又は受験資格取得に必要な単位及び履修方法

1 司書教諭

本学の開設授業科目・単位等						講習相当科目・単位数	
授業科目	授業内容	単位	標準開設学期	開設場所	履修方法	科目	単位数
学校経営と学校図書館	学校図書館・メディアセンターの基礎及び管理運営論	2	V	教育創成科目	必	学校経営と学校図書館	2
学校図書館メディアの構成	学校図書館・メディアの種類・特性，及びその選択，収集，組織化	2	V			学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	「情報活用能力」育成のための児童への支援活動教員に対する支援活動	2	VI			学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	読書活動と読書指導	2	V		修	読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	情報メディアの種類・特色および学校図書館での活用	2	VI			情報メディアの活用	2

＊司書教諭の資格取得手続き

○司書教諭資格取得には，法令上基礎となる教育職員免許状（**小，中，高**）のいずれかが必要である。

○**3年次（卒業予定年次の前年度）までに全ての必修科目を取得した者**は，4年次（卒業予定年次）の7月頃に学務課担当窓口に申請すること。

○**4年次（卒業予定年次）までに全ての必修科目を取得した者**は，卒業後（教育職員免許状取得後）の6月初旬頃に本学のホームページを参照し，「学校図書館司書教諭講習」の参加申請をすること。
（書類参加のみ，講習は受講しなくてよい）

○上記以外の者は，教育職員免許状（幼稚園教諭免許状及び養護教諭免許状を除く。）取得後，毎年8月に実施される「学校図書館司書教諭講習」の実施大学に申請すること。（本学は昭和29年度以降継続して講習実施大学である。）

2 保育士

保育士は，A類幼児教育コースの学生のみが取得できる資格であり，他専攻・コース の学生は取得できないので注意すること。なお，資格取得に関する科目は，A類幼児教育コースのみに開設される。

［授業科目名等の記載については省略］

3 司書

本学の開設授業科目・単位数等						講習相当科目・単位数	
授業科目	授業内容	単位数	標準開設学期	履修方法	開設場所	科　目	単位数
生涯学習概説Ⅰ	同　左	2	Ⅰ	必修	E生涯学習S E表現教育SB	生涯学習概論	2
図書館情報学概説Ⅰ	同　左	2	Ⅲ	必修	E生涯学習S	図書館概論	2
情報検索技術論	同　左	2	Ⅴ奇	1科目選択	E生涯学習SA	図書館情報技術論	2
情報管理技術論	同　左	2	Ⅴ偶				
地域図書館経営論	同　左	2	Ⅳ	必修		図書館制度・経営論	2
地域図書館サービス論	同　左	2	Ⅳ	必修		図書館サービス概論	2
情報サービス論	同　左	2	Ⅴ	必修		情報サービス論	2
子ども図書館サービス論	同　左	2	Ⅲ	必修		児童サービス論	2
資料・情報サービス演習	同　左	2	Ⅵ	1科目選択		情報サービス演習	2
情報検索演習	同　左	2	Ⅵ				
メディア資源論	同　左	2	Ⅲ	必修		図書館情報資源概論	2
資料・情報組織法Ⅰ	同　左	2	Ⅲ	必修		情報資源組織論	2
資料・情報組織法Ⅱ	同　左	2	Ⅳ	必修		情報資源組織演習	2
図書館特論	同　左	2	Ⅵ偶	2科目選択	E生涯学習SA	図書館基礎特論	1
学校図書館サービス特論	同　左	2	Ⅳ		E生涯学習S	図書館サービス特論	1
学術情報メディア特論	同　左	2	Ⅵ奇		E生涯学習SA	図書館情報資源特論	1
図書館情報学概説Ⅱ	同　左	2	Ⅳ			図書・図書館史	1
図書館建築論	同　左	2	Ⅲ			図書館施設論	1
図書館情報学演習Ⅰ	同　左	2	Ⅴ			図書館総合演習	1

＊司書の資格取得手続き

上記単位を取得した者で資格証明が必要な者は，大学に対し「資格取得証明書」の発行を申請すること。

4 学校司書

本学の開設授業科目・単位数等					「学校司書のモデルカリキュラム」における文部科学省の提示科目		
授業科目名	単位数	標準開設学期	履修方法	開設場所		科目名	単位数
学校経営と学校図書館	2	Ⅴ	必修	教育創成科目	学校図書館の運営・管理・サービスに関する科目	学校図書館概論	2
情報管理技術論	2	Ⅴ偶	1科目選択	E生涯学習 SA		図書館情報技術論	2
情報検索技術論	2	Ⅴ奇					
メディア資源論	2	Ⅲ	必修			図書館情報資源概論	2
資料・情報組織法Ⅰ	2	Ⅲ	必修			情報資源組織論	2
資料・情報組織法Ⅱ	2	Ⅳ	必修			情報資源組織演習	2
学校図書館サービス特論	2	Ⅳ	必修	E生涯学習 S		学校図書館サービス論	2
情報サービス論	2	Ⅴ	必修	E生涯学習 SA		学校図書館情報サービス論	2
資料・情報サービス演習	2	Ⅵ	1科目選択				
情報検索演習	2	Ⅵ					
教育の理念と歴史	2	Ⅰ・Ⅱ	必修	学校教育教員養成課程 教育基礎科目	児童生徒に対する教育支援に関する科目	学校教育概論	2
教育心理学	2	Ⅲ	必修				
特別支援教育の理解	2	Ⅰ・Ⅱ	1科目選択				
特別な教育的ニーズの理解と支援	2	Ⅴ					
教育課程の理論と実践	2	Ⅳ	必修				
学習指導と学校図書館	2	Ⅵ	必修	教育創成科目		学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2	Ⅴ	必修			読書と豊かな人間性	2

＊学校司書の資格取得手続き
上記単位を取得した者で資格証明が必要な者は、大学に対し「学校司書に関する科目の単位修得証明書」の発行を申請すること。

5 社会教育主事(社会教育士)

本学の開設授業科目・単位数等						講習相当科目・単位数	
授業科目	授業内容	単位数	標準開設学期	開設場所	履修方法	科　目	単位数
生涯学習概説Ⅰ	同　左	2	Ⅰ	E生涯学習S E表現教育SB	必修	生涯学習概論	4
生涯学習概説Ⅱ	同　左	2	Ⅱ	E生涯学習SA E表現教育SB			
生涯学習支援論Ⅰ	同　左	2	Ⅲ	E生涯学習SA		生涯学習支援論	4
生涯学習支援論Ⅱ	同　左	2	Ⅳ				
社会教育経営論Ⅰ	同　左	2	Ⅴ	E生涯学習SA		社会教育経営論	4
社会教育経営論Ⅱ	同　左	2	Ⅵ				
社会教育演習Ⅰ	同　左	2	Ⅴ	E生涯学習SA		社会教育演習、社会教育実習又は社会教育課題研究のうち1以上の科目	3
社会教育演習Ⅱ	同　左	2	Ⅵ				
社会教育実習	同　左	1	Ⅲ (集中)	E生涯学習SA		社会教育実習	1
現代社会と生涯学習	同　左	2	Ⅰ	E生涯学習S	4科目以上選択必修	社会教育特講	8
生涯学習とキャリア形成	同　左	2	Ⅱ				
同和問題と社会教育	同　左	2	Ⅱ	E生涯学習SA			
地域教育基礎論	同　左	2	Ⅲ				
コミュニティ形成と社会教育	同　左	2	Ⅲ				
社会教育実践論	同　左	2	Ⅳ				
性と人権	同　左	2	Ⅳ				

＊社会教育主事の資格および社会教育士(養成課程)の称号取得手続き

上記単位を取得した者で資格および称号証明が必要な者は，大学に対し「社会教育主事に関する科目の単位修得証明書」の発行を申請すること。

6 学芸員

本学の開設授業科目・単位数等							学芸員に関する科目・単位数	
授業科目	授業内容	単位数	標準開設学期	開設場所	履修方法		科目	単位数
生涯学習社会と博物館	同左	2	Ⅲ	E生涯学習S	必修	11科目22単位以上修得すること	博物館教育論	2
博物館学基礎論	同左	2	Ⅳ	E生涯学習SA			博物館概論	2
博物館資料論	同左	2	Ⅲ	E生涯学習SA			博物館資料論	2
博物館経営論	同左	2	Ⅲ				博物館経営論	2
博物館実習Ⅰ	同左	2	Ⅴ	E生涯学習SA			博物館実習	3
博物館実習Ⅱ	同左	2	Ⅵ					
博物館実習Ⅲ	同左	②	ⅦⅧ					
博物館情報・メディア論	同左	2	Ⅴ	E生涯学習SA			博物館情報・メディア論	2
生涯学習概説Ⅰ	同左	2	Ⅰ	E生涯学習S E表現教育SB	1科目選択		生涯学習概論	2
生涯学習概説Ⅱ	同左	2	Ⅱ	E生涯学習SA E表現教育SB				
博物館資料保存論	同左	2	Ⅳ	E生涯学習SA	必修		博物館資料保存論	2
博物館展示論	同左	2	Ⅳ	E生涯学習SA	1科目選択		博物館展示論	2
博物館と展示の活用	同左	2	Ⅳ	教育創成科目				

＊履修上の注意

①「生涯学習社会と博物館」⇒「博物館学基礎論」の順番に履修すること。

②「博物館実習Ⅰ」は「生涯学習社会と博物館」「博物館学基礎論」の単位修得後に履修すること。

③「博物館実習Ⅰ」⇒「博物館実習Ⅱ」の順番に履修し、「博物館実習Ⅲ」は「博物館実習Ⅰ及びⅡ」の単位修得後に履修すること。

④「博物館実習Ⅲ」は博物館園における実務実習であり、履修前までに資格取得に必要な他の科目全てを修得済みであることが望ましい。

＊学芸員の資格取得手続き

上記単位を修得した者で資格証明が必要な者は，大学に対し「資格取得証明書」の発行を申請すること。

7 スポーツ指導者関連資格

本学は公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成免除適応コースに認定されている。
当該科目の履修後に申請を行い，資格取扱団体の試験に合格することで，「共通科目Ⅲ」，公認スポーツプログラマー，公認ジュニアスポーツ指導員，公認水泳コーチ，アシスタントマネジャーそれぞれの資格が取得可能。
取得を希望する者は説明会に出席すること。（説明会の日程などは学芸ポータル等で連絡予定。）

①共通科目Ⅲ ※所属コースにより履修が必要な科目が異なる為，注意すること。

1)A・B類保健体育コース所属学生対象

授業科目名	単位数	標準開設学期	履修方法	開設場所	備考
スポーツコーチング論A	2	Ⅲ	必修	E生スポSA	
スポーツコーチング論B	2	Ⅵ	必修	E生スポSA	
スポーツコーチング論C	2	Ⅴ	必修	E生スポSA	
健康とスポーツの栄養学	2	Ⅳ	必修	E生スポSA	
ダイバーシティとスポーツ	2	Ⅲ【偶】	1科目選択	AB保体SA	
インクルーシブスポーツ		Ⅲ【奇】		AB保体SA	
体育・スポーツ心理学	2	Ⅱ	必修	AB保体SA E生スポSB	
学校部活動総論	2	Ⅴ	必修	AB保体SA	
学校安全・救急処置	2	Ⅱ	必修	AB保体SA	
体育原理AⅠ	1	Ⅰ前	1科目選択	A保体S	
体育原理BⅠ		Ⅰ前		B保体S E生スポSB	
運動生理学AⅠ	1	Ⅲ前	1科目選択	A保体S	
運動生理学BⅠ		Ⅲ前		B保体S E生スポSB	

2) 1)**以外**の学校教員養成課程所属学生対象

授業科目名	単位数	標準開設学期	履修方法	開設場所	備考
スポーツコーチング論A	2	Ⅲ	必修	E生スポSA	
スポーツコーチング論B	2	Ⅵ	必修	E生スポSA	
スポーツコーチング論C	2	Ⅴ	必修	E生スポSA	
健康とスポーツの栄養学	2	Ⅳ	必修	E生スポSA	
ダイバーシティとスポーツ	2	Ⅲ【偶】	1科目選択	AB保体SA	
インクルーシブスポーツ		Ⅲ【奇】		AB保体SA	
体育原理AⅠ	1	Ⅰ前	1科目選択	A保体S	
体育原理BⅠ		Ⅰ前		B保体S E生スポSB	
学校部活動総論	2	Ⅴ	必修	AB保体SA	
運動処方論	2	Ⅳ	1科目選択	E生スポS	
運動生理学AⅠ	1	Ⅲ前		A保体S	
運動生理学BⅠ		Ⅲ前		B保体S E生スポSB	
スポーツリハビリテーション	2	Ⅱ	1科目選択	E生スポSA	
学校安全・救急処置		Ⅱ		AB保体SA	
コーチングの心理学	2	Ⅴ	1科目選択	E生スポSA	
運動学習と指導の心理学		Ⅳ		E生スポSA	
体育・スポーツ心理学		Ⅱ		AB保体SA E生スポSB	

*共通科目Ⅲの資格取得手続き

○ 上記の履修が必要な科目を全て履修した後，学務課窓口まで申請を行うこと。

○ 学務課への申請後，対象試験の合格を得ることにより，資格を取得することができる。

以下②～⑥については、基礎資格として①「共通科目Ⅲ」の取得が必須になる。

②公認スポーツプログラマー

授業科目名	単位数	標準開設学期	履修方法	開設場所	備考
スポーツコーチング論A	2	Ⅲ	必修	E生スポSA	
生涯スポーツ基礎実習	1	Ⅲ	必修	E生スポSA	
ニュースポーツ実習	2	Ⅰ	必修	E生スポSA	
レジスタンス・エクササイズ実習	1	Ⅱ	必修	E生スポSA	
発育発達学	2	Ⅰ	必修	E生スポSA	
ダイバーシティとスポーツ	2	Ⅲ【偶】	1科目選択	AB保体SA	
インクルーシブスポーツ	2	Ⅲ【奇】		AB保体SA	
スポーツ医学・救急処置	2	Ⅲ	必修 ※	E生スポSA	※A・B類保体の学生は履修不要
学校保健学ＡⅠ	1	Ⅱ前	1科目選択	A保体S	
学校保健学ＢⅠ		Ⅱ前		B保体S	
学校安全・救急処置	2	Ⅱ	必修	AB保体SA	
体育・スポーツ測定評価	2	Ⅳ	必修	E生スポSA	
スポーツカウンセリング実習	1	Ⅳ（集中）	1科目選択	E生スポSA	
体育・スポーツ心理学	2	Ⅱ		AB保体SA E生スポSB	

③公認ジュニアスポーツ指導員

授業科目名	単位数	標準開設学期	履修方法	開設場所	備考
スポーツコーチング論B	2	Ⅵ	1科目選択	E生スポSA	
中等保健体育科教育法Ⅰ	2	Ⅲ		各教科の指導法	※1　※2
運動学習と指導の心理学	2	Ⅳ	1科目選択	E生スポSA	
コーチングの心理学	2	Ⅴ		E生スポSA	
体育・スポーツ心理学	2	Ⅱ		AB保体SA E生スポSB	
発育発達学	2	Ⅰ	1科目選択	E生スポSA	※3
学校保健学ＡⅠ	1	Ⅱ前		A保体S	
学校保健学ＢⅠ		Ⅱ前		B保体S	
発育発達学	2	Ⅰ	1科目選択	E生スポSA	※3
運動方法学総論ＡⅠ	1	Ⅳ前		A保体S	
運動方法学総論ＢⅠ		Ⅳ前		B保体S	
健康とスポーツの栄養学	2	Ⅳ	必修	E生スポSA	
スポーツリハビリテーション	2	Ⅱ	1科目選択	E生スポSA	
学校安全・救急処置	2	Ⅱ		AB保体SA	
スポーツコーチング論A	2	Ⅲ	必修	E生スポSA	
ニュースポーツ実習	2	Ⅰ	1科目選択	E生スポSA	
中等保健体育科教育法Ⅰ	2	Ⅲ		各教科の指導法	※1　※2
体育科研究	1	Ⅴ・Ⅵ		SP	
初等体育科教育法	2	Ⅳ・Ⅴ	1科目選択	各教科の指導法	
中等保健体育科教育法Ⅰ	2	Ⅲ		各教科の指導法	※1　※2

※1「中等保健体育科教育法Ⅰ」は、教員免許（中高・保体）取得予定者のみ受講対象とする。

※2※3 「中等保健体育科教育法Ⅰ」及び「発育発達学」は複数の選択科目区分に含まれる。

④公認水泳コーチ1

授業科目名	単位数	標準開設学期	履修方法	開設場所	備考
水泳A	1	Ⅰ	1科目選択	A保体S	
水泳B		Ⅰ		B保体S	

⑤公認水泳コーチ3

授業科目名	単位数	標準開設学期	履修方法	開設場所	備考
水泳A	1	Ⅰ	1科目選択	A保体S	
水泳B		Ⅰ		B保体S	
運動生理学ＡⅠ	1	Ⅲ前	1科目選択	A保体S	
運動生理学ＢⅠ		Ⅲ前		B保体S E生スポSB	
スポーツバイオメカニクス	2	Ⅲ	必修	AB保体SA E生スポSB	
体育・スポーツ心理学	2	Ⅱ	必修	AB保体SA E生スポSB	
健康とスポーツの栄養学	2	Ⅳ	必修	E生スポSA	
健康スポーツ医学	2	Ⅴ	必修	E生スポSA	
スポーツリハビリテーション	2	Ⅱ	必修	E生スポSA	

⑥アシスタントマネジャー

授業科目名	単位数	標準開設学期	履修方法	開設場所	備考
地域スポーツ支援演習	2	Ⅳ	必修	E生スポSA	
体育・スポーツ経営学	2	Ⅳ	1科目選択	AB保体SA E生スポSB	
スポーツ支援ネットワーク形成実践演習		Ⅴ		E生スポS	

＊上記②～⑥の資格取得手続き

○ 上記の履修が必要な科目を全て履修した後，学務課窓口まで申請を行うこと。

○ 学務課への申請後，対象試験の合格を得ることにより，資格を取得することができる。

8 登録日本語教員(令和7年度以降入学生対象)

登録日本語教員資格を取得するには,日本語教員試験の**「基礎試験」**及び**「応用試験」**の合格と,登録実践研修機関が実施する**「実践研修」**を修了する必要がある。

本学は文部科学省より登録日本語教員養成機関としての認定を受けており,「日本語教員養成プログラム」を修了することで,申請により日本語教員試験のうち**「基礎試験」の免除**を受けることができる。

【「日本語教員養成プログラム」履修方法】に記載の必修科目の単位を全て修得し,修了審査に合格した者には養成課程修了証書を発行する。

「日本語教員養成プログラム」の受講を希望する者は,1年次2月の説明会に参加し,受講申請要項(以下,要項という)に従って申請書等の必要書類を提出すること。なお,同プログラムの定員は1学年あたり20名とし,受講希望者が定員を超える場合は,書類審査を行う。また,受講申請に先行してⅠⅡ期の授業科目の単位を修得した場合,同プログラム内で履修したこととして取り扱う。

なお,登録日本語教員の資格を取得するには,本学での「日本語教員養成プログラム」の修了の他,日本語教員試験の「応用試験」の合格,外部機関での「実践研修」の修了が必要となる。4年次において,外部機関で実施される「実践研修」の受講を希望する者は,「実践研修前要履修科目」欄に○が付されている科目を3年次終了時までに修得し,学務課窓口にて「実践研修前要履修科目単位取得証明」発行の手続きを行うこと。在学中に実践研修を修了できなかった場合,卒業後,自己開拓により実践研修を受講することになるが,その際は外部の実践研修機関の情報を提供する。

【「日本語教員養成プログラム」履修方法】

本学の開設授業科目・単位数等						登録日本語教員養成課程コアカリキュラム
授業科目	単位数	標準開設学期	履修方法	実践研修前要履修科目	開設場所	一般目標(学習項目No.) ※学習項目の詳細は要項を参照すること
日本語学概論Ⅰ	2	Ⅰ	必修		A国語S B国語S	・言語と社会の関係(9) ・日本語の構造(40,43,44,45)
日本語学概論Ⅱ	2	Ⅱ				・言語と社会の関係(8) ・日本語の構造(41,42,43)
日本語教育概論	2	Ⅰ		○	A国語SA B国語SA	・異文化接触(2,3) ・日本語教育の歴史と現状(6,7) ・言語教育法・実習(21,23,31) ・日本語の構造(41,42,43)
子どもの日本語教育A 子どもの社会文化的背景とバイリンガリズム	2	Ⅱ		○		・世界と日本(1) ・異文化接触(3) ・日本語教育の歴史と現状(7) ・異文化コミュニケーションと社会(13) ・異文化理解と心理(16,18,19) ・異文化間教育とコミュニケーション教育(32,33)
日本語教育文法	2	Ⅲ		○		・言語教育法・実習(25,29) ・日本語の構造(39,40,41,42,43,44,45)
日本語教育の方法Ⅰ 教授法と教室活動	2	Ⅲ		○		・言語使用と社会(10,11,12) ・言語理解の過程(15) ・言語習得・発達(17) ・言語教育法・実習(23,24,26,27) ・コミュニケーション能力(49)
言語学概論	2	Ⅳ				・日本語教育の歴史と現状(5) ・言語と社会の関係(8) ・言語使用と社会(12) ・言語の構造一般(37,38) ・日本語の構造(39) ・コミュニケーション能力(47,48)
第二言語習得論	2	Ⅳ		○		・世界と日本(1) ・言語理解の過程(15) ・言語習得・発達(16,17) ・異文化理解と心理(19) ・言語教育法・実習(22,29) ・異文化間教育とコミュニケーション教育(34)
日本語教育の方法Ⅱ 教材の開発と活用	2	Ⅳ		○		・言語使用と社会(11) ・言語理解の過程(14) ・言語教育法・実習(25,30,31) ・言語教育と情報(35,36) ・コミュニケーション能力(46,47,48)
日本語教育の方法Ⅲ 授業実践と省察	2	Ⅴ		○		・異文化理解と心理(18) ・言語教育法・実習(20,21,24,26,27,30) ・コミュニケーション能力(47,49,50)
日本語音声	2	Ⅵ				・言語と社会の関係(8) ・言語使用と社会(10) ・言語理解の過程(14) ・言語の構造一般(38) ・日本語の構造(40)

(次ページへ続く)

本学の開設授業科目・単位数等						登録日本語教員養成課程コアカリキュラム
異文化理解と心理	2	V	必修		A国語SA B国語SA	・世界と日本(1) ・言語と社会の関係(9) ・異文化コミュニケーションと社会(13) ・異文化理解と心理(18,19) ・異文化間教育とコミュニケーション教育(32,33,34) ・コミュニケーション能力(46,50)
日本語教育の歴史と言語政策	2	Ⅵ				・世界と日本(1) ・異文化接触(2,3) ・日本語教育の歴史と現状(4,5,6) ・言語と社会の関係(9) ・異文化コミュニケーションと社会(13)
日本語文法	2	Ⅲ	自由選択		A国語S B国語S	・言語理解の過程(14) ・言語の構造一般(37,38) ・日本語の構造(43,45)
子どもの日本語教育B　学校・地域の現状と課題	2	Ⅵ			A国語SA B国語SA	・異文化接触(3) ・言語使用と社会(12) ・言語教育法・実習(20,22,23,26,27,31) ・言語教育と情報(35) ・コミュニケーション能力(49)

27
学校教育教員養成課程
コースガイド

目　　次

【学校教育教員養成課程】

初等教育専攻（A 類）

国語コース ・・・・・・・・180
社会コース ・・・・・・・・183
数学コース ・・・・・・・・187
理科コース ・・・・・・・・189
音楽コース ・・・・・・・・193
美術コース ・・・・・・・・195
保健体育コース ・・・・・・・・198
家庭コース ・・・・・・・・200
英語コース ・・・・・・・・202
現代教育実践コース学校教育プログラム ・・・・・・・・204
現代教育実践コース学校心理プログラム ・・・・・・・・206
現代教育実践コース国際教育プログラム ・・・・・・・・208
現代教育実践コース環境教育プログラム ・・・・・・・・210
ものづくり技術コース ・・・・・・・・212
幼児教育コース ・・・・・・・・215

中等教育専攻（B類）

国語コース ・・・・・・・・217
社会コース ・・・・・・・・219
数学コース ・・・・・・・・224
理科コース ・・・・・・・・226
音楽コース ・・・・・・・・230
美術コース ・・・・・・・・232
保健体育コース ・・・・・・・・235
家庭コース ・・・・・・・・237
英語コース ・・・・・・・・239
技術コース ・・・・・・・・241
書道コース ・・・・・・・・244
情報コース ・・・・・・・・246

特別支援教育専攻（C 類） ・・・・・・・・248

養護教育専攻（D 類） ・・・・・・・・250

初等教育専攻（A類） 国語コース

1. コースの目的・目標

A類国語コースは，基本的に小学校教員の養成を国語教育という立場から行っています。国語教育を成り立たせるものは基礎科学と教科教育学です。両者は車の両輪のようなものです。国語科は基礎科学の日本語学・日本文学（古典文学・近代文学）・中国古典学と，教科教育学の国語科教育学，以上の四つの専門領域から成り立っています。また，2年次からは日本語教育サブコースが設けられており，外国人児童生徒への日本語教育に関する領域も加わります。自身の研究的関心と目指す教師像に基づき重点を置いて学ぶ領域を決定して科目を履修することにより，教育に対する高い意識と国語科教育に関する優れた専門性を身につけることを目指しています。

2. カリキュラムの特色と構造

カリキュラムには，全学を対象とした教養科目があり，その上に立って教育基礎科目と国語コースの専攻科目があります。専攻科目は（1）小学校の教科に関する専門的事項（SP），（2）各教科の指導法（ST），（3）専攻に関する科目（教育内容科目 SE・必修 S・選択 SA），（4）卒業研究（SZ）の4種類の科目から成っています。

これらの専攻科目は，（1）は小学校で指導する各教科についての知識や技能を学び，（2）は各教科を指導するための方法や技術等について学び，（3）で国語および日本語教育の専攻に関する専門性を深める科目を学びます。そして（4）卒業研究は4年間の学習と研究の集大成として卒業論文を作成します。

このうち（1）については次の通りです。

（1）小学校の教科に関する専門的事項は，小学校の各教科についての知識や技能を学ぶものです。A類の学生は小学校教諭の1種免許状を取得することが卒業要件となっているので，そのために必要な単位です。10教科のうち「国語」については，国語科の学生は（2）の専攻に関する科目をこれに当てることができますから「国語」に関する科目を別に履修する必要はありません。したがって9教科 （社会，算数，理科，生活，家庭，英語，音楽，図画工作，体育）からスタディガイドに定める方法で5科目5単位を選択し，履修することになります。

それ以外の専攻科目については，3. 履修の方法で説明します。

3. 履修の方法

専攻科目については2. カリキュラムの特色と構造で説明した「（1）小学校の教科に関する専門的事項」以外に，「（3）専攻に関する科目（教育内容科目 SE・必修S・選択SA）」があります。

「教育内容科目 SE」は，教科教育学と教科専門を横断した応用的科学です。「国語科カリキュラム論」「国語科教材論」の合計4単位は，三年次（Ⅴ，Ⅵ学期）の必修科目です。

「専攻に関する科目」は必修科目の「全学共通入門セミナー」，「コース別入門セミナー」，「日本語学概論Ⅰ・Ⅱ」，「日本語文法」，「日本近代文学概論」，「日本古典文学概論」，「中国古典文基礎」，合計14 単位は，必ず修得して下さい。

また選択科目A（SA 科目）の中から8単位以上を選択し，修得します。その際，演習科目6単位を必ず履修すること。すなわち，次の科目から3科目以上を必ず選択して下さい。

日本語学演習A　日本語学演習B　日本語学演習C　古典文学演習A　古典文学演習B
古典文学演習C　古典文学演習D　近代文学演習A　近代文学演習B　近代文学演習C
中国古典演習A　中国古典演習B　中国古典演習C　近代(古典)文学特殊演習

SA科目に関しては，**三年次にもいくつかの科目が開設されています。低学年での単位数の充填のみにとらわれず，自分の専門や関心に合わせて計画的に**履修することをお勧めします。

日本語教育サブコース（2年次より設置）の学生は，上記演習科目に替えて，次の選択科目（SA）の中から 4 科目（8 単位）を必ず履修してください。なお，日本語教師の専門性としては，履修モデルに示すように関連科目を 26 単位以上修得することが求められます。

日本語教育概論，日本語教育の方法Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ

子どもの日本語教育 A, B　日本語教育文法
言語学概論, 第二言語習得論, 異文化理解と心理, 日本語教育の歴史と言語政策

卒業研究は必修 4 単位で,「卒業論文」の執筆を求めます。
卒業論文作成に向けて, 3年次に開設されている各領域の研究法の授業(春学期 1 科目, 秋学期 1 科目, 計 2 科目 4 単位)を必ず履修し修得してください。

(春学期)研究法Ⅰ
日本語学研究法Ⅰ　古典文学研究法Ⅰ　近代文学研究法Ⅰ　中国古典学研究法Ⅰ
国語科教育研究法Ⅰ　日本語教育研究法Ⅰ
(秋学期)研究法Ⅱ
日本語学研究法Ⅱ　古典文学研究法Ⅱ　近代文学研究法Ⅱ　中国古典学研究法Ⅱ
国語科教育研究法Ⅱ　日本語教育研究法Ⅱ

なお卒業論文に関する詳しい説明は国語科「あなたのための履修ガイド」を参照してください。
専攻科目以外の履修等については, 教育基礎科目として教育実習があります。3年生9月に教育実習Ⅰ, 4年生の5～6月に教育実習Ⅱ(選択)があります。

4. 4年間の標準的履修モデル

<table>
<tr><td>学　年</td><td colspan="2">1</td><td colspan="2">2</td><td colspan="2">3</td><td colspan="2">4</td></tr>
<tr><td>学　期</td><td>Ⅰ</td><td>Ⅱ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅳ</td><td>Ⅴ</td><td>Ⅵ</td><td>Ⅶ</td><td>Ⅷ</td></tr>
<tr><td>教育内容科目(SE)(必修)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>国語科カリキュラム論</td><td>国語科教材論</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>S 科 目(必修)</td><td>全学共通入門セミナー
コース別入門セミナー
日本近代文学概論
日本語学概論Ⅰ
中国古典文基礎</td><td>日本古典文学概論
日本語学概論Ⅱ</td><td>日本語文法</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>SA科目(選択)</td><td>日本古典文学史
中国古典文学概論
日本語教育概論</td><td>中国古典演習B
中国古典演習C
日本近代文学史</td><td>中国古典演習A
日本語学演習A
日本語学演習B
古典文学演習B
古典文学演習D
近代文学演習B
児童文学</td><td>日本語学演習C
古典文学演習A
古典文学演習C
古典文学特殊演習
近代文学演習A
近代文学演習C
近代文学特殊演習
現代文化論
言語科学と教育
書写 A</td><td>研究法Ⅰ
日本語学
古典文学
近代文学
中国古典学
国語科教育
日本語教育
のうちいずれか
近代文学と国語教育</td><td>研究法Ⅱ
日本語学
古典文学
近代文学
中国古典学
国語科教育
日本語教育
のうちいずれか
日本語音声
文献講読Ⅰ
文献講読Ⅱ
古典文学と国語教育
漢字漢文教育論</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>SZ科目</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2">卒業研究</td></tr>
<tr><td>教育実習等</td><td colspan="2">自己創造のための教育体験活動
A・B・C(Ⅰ～Ⅲ)(選択)</td><td colspan="2">介護等体験(社会福祉施設)</td><td colspan="2">事前事後指導
9月:教育実習Ⅰ</td><td colspan="2">6月:教育実習Ⅱ(選択)
教職実践演習</td></tr>
<tr><td>教室行事</td><td colspan="2">4月:オリエンテーション</td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td colspan="2">12月:卒論提出
1月:卒論発表会</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="2"></td><td colspan="2">2年生対象教員就職セミナー
新3年生対象教員就職セミナー</td><td colspan="2">各自治体教師養成塾(埼玉県、千葉県　等)募集
9月:教師力養成特別講座(通称:万ゼミ)募集
新4年生対象教員就職セミナー</td><td colspan="2">5月～:教員採用試験</td></tr>
</table>

4年間の標準的履修モデル（日本語教育サブコース）

日本語教育関連科目（※印）を 31 単位，研究法を 4 単位**修得する場合**

学　年	1		2		3		4	
学　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
CA/ 教科・教職に関する科目	外国人児童生徒への日本語教育※							
専攻ＳＥ科目（選択必修）					**国語科カリキュラム論**	**国語科教材論**		
Ｓ科目（必修）	**全学共通入門セミナー** **コース別入門セミナー** **日本近代文学概論** **日本語学概論Ⅰ※** **中国古典文基礎**	**日本古典文学概論** **日本語学概論Ⅱ※**	**日本語文法※**					
SA科目（選択）	日本語教育概論※	子どもの日本語教育 A※	日本語教育の方法Ⅰ※ 日本語教育文法※	日本語教育の方法Ⅱ※ 第二言語習得論※ 言語学概論※	日本語教育の方法Ⅲ※ 異文化理解と心理※ 研究法Ⅰ	子どもの日本語教育 B※ 日本語音声※ 日本語教育の歴史と言語政策※ 研究法Ⅱ		
SZ科目							卒業研究	
教育実習等	自己創造のための教育体験活動 Ａ・Ｂ・Ｃ（Ⅰ～Ⅲ）（選択）		介護等体験（社会福祉施設）		事前事後指導 9月：教育実習		6月：教育実習Ⅱ（選択） 教職実践演習	
教室行事	4月：オリエンテーション						12月：卒論提出 1月：卒論発表会	
その他			2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー		各自治体教師養成塾（埼玉県、千葉県　等）募集 9月：教師力養成特別講座（通称：万ゼミ）募集 新4年生対象教員就職セミナー		5月～：教員採用試験	

※2年次から日本語教育サブコースを希望する学生は，1 年次に SA 科目の「日本語教育概論」（2 単位）と「子どもの日本語教育 A」（2 単位）を履修すること。また，教育創成科目「外国人児童生徒への日本語教育」（1 単位）を履修しておくことが望ましい。

5．4年間の学習計画や進路（進学・就職）について

国語科を卒業した人の就職先を大別すると，教職と教職外に分けられます。また本学や他大学の大学院に進学する人もあります。ここ数年，教員の採用数は増加の傾向にあり，小学校教員として就職する人が増えつつあります。3年生の春学期に募集のある東京教師養成塾に応募し，東京都の教員に採用された人もいます。中学校・高等学校も少しずつではありますが，採用数が増える傾向にあります。ただし高等学校の教員については最近大学院修了者を採用するところが増えていますので，そのことを念頭において進路を考えることが必要です。教職外では企業・公務員として就職する人もあります。

初等教育専攻（A類） 社会コース

1. コースの目的・目標

A類社会コースは，1学年70名，総数では280名に及ぶ学生が所属し,B類社会コースとともに社会科教室を構成しています。本コースは，主として小学校教員をめざす学生が，社会のしくみと原理について確実な知識を習得し，社会について学問的に考える能力を養うこと，またそれをもとに児童・生徒の社会への関心を高め，公民的資質の基礎を養成できる人材，いいかえれば「社会と社会科に強い小学校教員」になることができる人材を育成することを目的としています。

2. カリキュラムの特色と構造

社会科教室には歴史学，地理学，哲学・倫理学，法学・政治学，経済学，社会学，社会科教育学の7つの分野があり，合わせて 24 名の教員がおり，専門科目の勉強やゼミ活動の指導，卒論指導などを受けることができます。以下では，社会科教室の専攻科目を中心にカリキュラムの特色を説明します。

1年次には，まず春学期に「全学共通入門セミナー」，「コース別入門セミナー」（S）を履修し高等学校までとは異なる大学での（そして学芸大社会科教室での）勉学の方法について学びます。あわせて春学期・秋学期にわたって必修の概論科目(S)とその他の選択科目（SA）を履修し，社会科の基礎的な概念や考え方を学びます。

2年になると7つの分野のいずれかに所属し，各分野の特色ある「選択科目 A」(SA)を中心に履修して，専門領域について体系的に学習を深めていきます。これは基礎知識にもとづいて応用力を獲得し「社会に強くなる」ことを目的としています。これと並行して初等社会科教育法（専攻科目のなかの「教科の指導法」）および社会科共通の「教育内容科目」（SE）を履修し，社会科の考え方や教育・教材開発にかかわる方法論，授業研究などに関して学びを深め，将来，「社会科に強い」教員として応用できる実践力を養います。

本コースのカリキュラムの重要な特色は，演習を中心とする少人数教育です。教員や仲間とともに社会と社会科に関する議論を通じて学問の楽しさを実感できるでしょう。分野によっては野外での実地調査も行います。2年では各分野の基礎的な演習，3～4年ではより進んだレベルの演習に参加し，卒業論文の準備をしながら研究を進めます。4年次には約1年かけて学生生活の集大成となる質の高い卒業論文の完成をめざします。

3. 履修の方法

A類社会コースは小学校教員免許の取得を主な目的としてカリキュラムが構成されています。教員免許取得に必要な科目のアウトラインは教育職員免許法及び同法施行規則によって定められていますが，A類の卒業要件を満たすように履修していけば必要な単位が修得できるようになっています。なお「社会科カリキュラム論」「社会科教材論」の2科目は，教科と教職の両方にかかわる本学独特の科目（「教育内容科目」（SE））で,この2科目の履修が卒業要件となっています。

4. 4年間の標準的履修モデル（コース内の行事予定）

A類社会コースの専攻科目を中心にして，4年間の標準的な履修の流れを表に示しました。卒業に必要な単位を修得し，卒業要件である小学校教員免許を取得するには，これ以外に教養科目（22 単位），教育基礎科目（教育実習を含む 29 単位）をそれぞれの履修基準に従って履修し，最終的に 126 単位以上を修得する必要があります。

「SE」から「その他」までの4項目は，A類社会コースに共通の必修科目と教室行事です。必修のSE科目，S科目はできるだけ標準開設学期に，選択科目に優先して履修してください。

5番目の項目から下は，2年から所属する分野別に，主な選択科目と行事をあげています。自分の所属す

る分野の授業科目を中心に履修していきますが，選択科目は社会科共通なので，時間割の上で履修可能であればどの科目も履修できます。なお各分野で標準開設学期の厳守やその他の履修条件を定めている科目があるので，2年次以降毎年度開催される分野別のオリエンテーションには必ず出席し，その指示に従ってください。

各分野の詳細については，B類社会コースの「4. 社会科各分野の特色紹介」を参照してください。

学　年	1		2		3		4	
学　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
SE科目			社会科カリキュラム論			社会科教材論		
S科目	地理学概論Ⅰ・Ⅱ 日本史概論A～D 社会学概論 **全学共通入門セミナー** **コース別入門セミナー**	法学概論 政治学概論 社会科教育学概論(注1)						
教育実習等	自己創造のための教育体験活動A･B･C(Ⅰ～Ⅲ)(選択)		介護等体験(社会福祉施設)		9月:教育実習Ⅰ(A類)		5～6月:教育実習Ⅱ(A類)(選択) 教職実践演習	
その他 (専攻共通)	(春学期) 4月:新入生研修 (秋学期) 12月:分野分け説明会 1～2月:所属分野確定		(秋学期) 2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー		各自治体教師養成塾(埼玉県、千葉県　等)募集 (秋学期) 9月:教師力養成特別講座 (通称:万ゼミ)募集 新4年生対象教員就職セミナー		(春学期) 5月～:教員採用試験	
歴史学分野SA科目		外国史概論A～D	歴史学文献講読A･B･C 歴史学概論 日本史研究A(隔年) 外国史研究B･C(隔年) 日本史研究と歴史教育A(隔年) 外国史研究と歴史教育B･C(隔年)	歴史学基礎演習A･B 日本史研究B･C(隔年) 外国史研究A(隔年) 日本史研究と歴史教育B･C(隔年) 外国史研究と歴史教育A(隔年)	日本史研究A(隔年) 外国史研究B･C(隔年) 日本史研究と歴史教育A(隔年) 外国史研究と歴史教育B･C(隔年) 日本史演習AⅠ,BⅠ,CⅠ,DⅠ,EⅠ,FⅠ(隔年) 外国史演習AⅠ,BⅠ,CⅠ,DⅠ,EⅠ,FⅠ(隔年)	日本史研究B･C(隔年) 外国史研究A(隔年) 日本史研究と歴史教育B･C(隔年) 外国史研究と歴史教育A(隔年) 日本史演習AⅡ,BⅡ,CⅡ,DⅡ,EⅡ,FⅡ(隔年) 外国史演習AⅡ,BⅡ,CⅡ,DⅡ,EⅡ,FⅡ(隔年)	(SZ)卒業研究 日本史演習AⅠ,BⅠ,CⅠ,DⅠ,EⅠ,FⅠ(隔年) 外国史演習AⅠ,BⅠ,CⅠ,DⅠ,EⅠ,FⅠ(隔年)	(SZ)卒業研究 日本史演習AⅡ,BⅡ,CⅡ,DⅡ,EⅡ,FⅡ(隔年) 外国史演習AⅡ,BⅡ,CⅡ,DⅡ,EⅡ,FⅡ(隔年)
歴史学分野行事			4月各ゼミで歓迎会 11月東京学芸大学史学会		11月:東京学芸大学史学会 2月:卒業論文発表会への参加(全員参加)		11月:東京学芸大学史学会 2月:卒業論文発表会での発表(全員参加)	
地理学分野SA科目		自然環境Ⅰ・Ⅱ 地理学研究法	地域調査法* 自然地理学実習Ⅰ・Ⅱ* 人文地理学研究 地誌学実習*	地誌学概論 自然地理学研究 地理情報と地図**	臨地研究演習Ⅰ* 地誌学特論 人文地理学実習**	臨地研究演習Ⅱ* 地誌学研究	(SZ)卒業研究 地理学演習Ⅰ* ＊印は指定の学期に必ず履修する。**も指示があるので留意すること。	(SZ)卒業研究 地理学演習Ⅱ*

地理学分野行事			4月:歓迎会 6月:学芸地理学会総会		4月:歓迎会 6月:学芸地理学会総会		4月:歓迎会 6月:学芸地理学会総会 2月:卒論発表会	
学　年	1		2		3		4	
学　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
哲学・倫理学分野 SA科目		哲学・倫理学・宗教学概論A・B	哲学基礎資料講読 宗教思想基礎資料講読	哲学史 宗教思想史	哲学・倫理学の諸問題 宗教思想の諸問題	哲学・倫理学基礎演習A・B(隔年) 宗教思想基礎演習A・B(隔年)	(SZ 卒業研究) 哲学・倫理学演習A・B(隔年) 宗教思想演習A・B(隔年)	(SZ 卒業研究)
哲学・倫理学分野行事			4月:歓迎会		1月:卒論構想発表会		11月:卒論中間報告 2月:卒論発表会	
法学・政治学分野 SA科目			国際関係論 民法A 刑法A	政治制度論 民法B 刑法B	法学政治学演習Ⅰ*	法学政治学演習Ⅱ*	(SZ 卒業研究)	(SZ 卒業研究)
			*演習は卒業研究には必須・指定学期に履修					
法学・政治学分野行事			4月:歓迎会				7月:卒論中間報告 11月:卒論第2回中間報告 2月:卒論最終報告会	
経済学分野 SA科目	経済学概論		経済学基礎論	経済学基礎演習*	経済学演習AⅠ,BⅠ(隔年) 経済学応用論	経済学演習AⅡ,BⅡ(隔年)	(SZ 卒業研究) 経済学演習AⅠ,BⅠ(隔年)	(SZ 卒業研究) 経済学演習AⅡ,BⅡ(隔年)
			* 演習は卒業研究には必須					
経済学分野行事			4月:歓迎会				卒論中間報告(7・11月)	卒論最終報告会(2月)
社会学分野 SA科目			社会調査法Ⅰ 家族社会学* 都市社会学	社会調査法Ⅱ ジェンダーの社会学*	社会学演習Ⅰ	社会学演習Ⅱ	(SZ)卒業研究	(SZ)卒業研究
			*隔年開講					
社会学分野行事			4月:歓迎会		7月上旬:分野合宿			2月上旬:卒論発表会
社会科教育学分野SA科目			社会科地域教材論Ⅰ	社会科授業論	社会科地域教材論Ⅱ 多文化教育演習AⅠ,BⅠ(隔年) 地理教育演習AⅠ,BⅠ(隔年) 歴史教育演習AⅠ,BⅠ(隔年) 公民教育演習AⅠ,BⅠ,CⅠ,DⅠ(隔年)	多文化教育演習AⅡ,BⅡ(隔年) 地理教育演習AⅡ,BⅡ(隔年) 歴史教育演習AⅡ,BⅡ(隔年) 公民教育演習AⅡ,BⅡ,CⅡ,DⅡ(隔年)	(SZ)卒業研究 社会科地域教材論Ⅲ 多文化教育演習AⅠ,BⅠ(隔年) 地理教育演習AⅠ,BⅠ(隔年) 歴史教育演習AⅠ,BⅠ(隔年) 公民教育演習AⅠ,BⅠ,CⅠ,DⅠ(隔年)	(SZ)卒業研究 多文化教育演習AⅡ,BⅡ(隔年) 地理教育演習AⅡ,BⅡ(隔年) 歴史教育演習AⅡ,BⅡ(隔年) 公民教育演習AⅡ,BⅡ,CⅡ,DⅡ(隔年)
社会科教育学分野行事			東京学芸大学社会科教育学会例会(年3回)		東京学芸大学社会科教育学会例会(年3回)		東京学芸大学社会科教育学会例会(年3回)	

(注1)社会科教育学概論はカリキュラム上選択科目Aであるが、必修科目に准じて履修することが望ましい。

* 社会コース必修科目(S)だけでは中学校社会科，高校地理歴史科・公民科の免許取得に必要な条件を満たしていません。選択科目(SA)を利用して必要単位を履修してください。

＊ いわゆる「介護等体験特例法」により，小・中学校教諭の普通免許状を取得するには，7日間以上の介護等体験をする必要があります。学校教育教員養成課程では2年次に実施します。指定されたスケジュールに従って必ず介護等体験を行ってください。

5．4年間の学習計画や進路（進学・就職）について

A類社会コースでは東京都はじめ各道府県の小学校教員が一般的な進路です。なおA類生が中学社会科，高校地理歴史科・高校公民科の免許を取得するにはB類生と同様の履修が必要となります。B類社会コースのスタディガイドを参考にしてください。本学の教職大学院や他大学の大学院へ進学してさらに研鑽を積む学生もいます。

初等教育専攻（A類） 数学コース

1. コースの目的・目標

数学科教室は，学生の数学的能力の育成と，小学校教員としての資質の養成を目的とし，以下の事項を教育の目標とする。

(1) 小学校算数の内容を考察し，数学教育の理論と実践についての素養を身につける。
(2) 数学に対する興味と理解を深める。
(3) 数学を学ぶことによって，自然や社会に対して自らの頭で論理的に考える態度を育てる。

2. カリキュラムの特色と構造

数学は，一歩一歩階段を上るように学習を積み重ねていく学問である。数学科における各科目は，このことを考慮して1・2年次に集合と論理，線形数学，微分・積分，代数学，幾何学，確率・統計等の数学の基礎となる科目，3・4年次に代数学各論，幾何学各論，解析学各論，確率論各論等のさらに高度な数学の科目とカリキュラムや指導法に関する数学教育の科目を，「教育内容科目(SE)」，「必修科目(S)」，「選択科目A(SA)」に配置してある。4年次での卒業研究では，数学，数学教育から選択した分野内の1つのテーマについてより深い専門的な学習をする。

3. 履修の方法

(1) 教育内容科目(SE)のうち，「数学カリキュラム論」，「初等算数科教材論」の2つの授業科目は必修なので，4単位を必ず修得する。
(2) 数学科の専攻科目はすべて標準履修学期に履修すること。上位学年の科目を履修する事はできない。
(3) 卒業研究を履修するためには必修科目(S科目)の「全学共通入門セミナー（1単位）」，「コース別入門セミナー（1単位）」，「線形数学Ⅰ(2 単位)」，「線形数学Ⅱ(2 単位)」，「微分・積分学Ⅰ(2 単位)」，「微分・積分学Ⅱ(2 単位)」，「代数学Ⅰ(2単位)」，「幾何学Ⅰ(2単位)」，「解析学Ⅰ(2単位)」，「確率・統計Ⅰ(2単位)」の合計18単位をすべて修得していなければならない。
(4) 中学校および高等学校の数学科教員免許状を取得するには，必修科目に加えて，「代数学Ⅱ」，「幾何学Ⅱ」，「解析学Ⅱ」，「コンピュータ概論Ⅰ」，「中等数学科教育法Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ」の計15単位を修得しなければならない。スタディガイドの**学校教育教員養成課程学生のための教員免許状の取得方法**を参照して下さい。
(5) 4年次(秋学期)には，教育基礎科目の必修科目として「教職実践演習」を履修する。

4. 4年間の標準的履修モデル

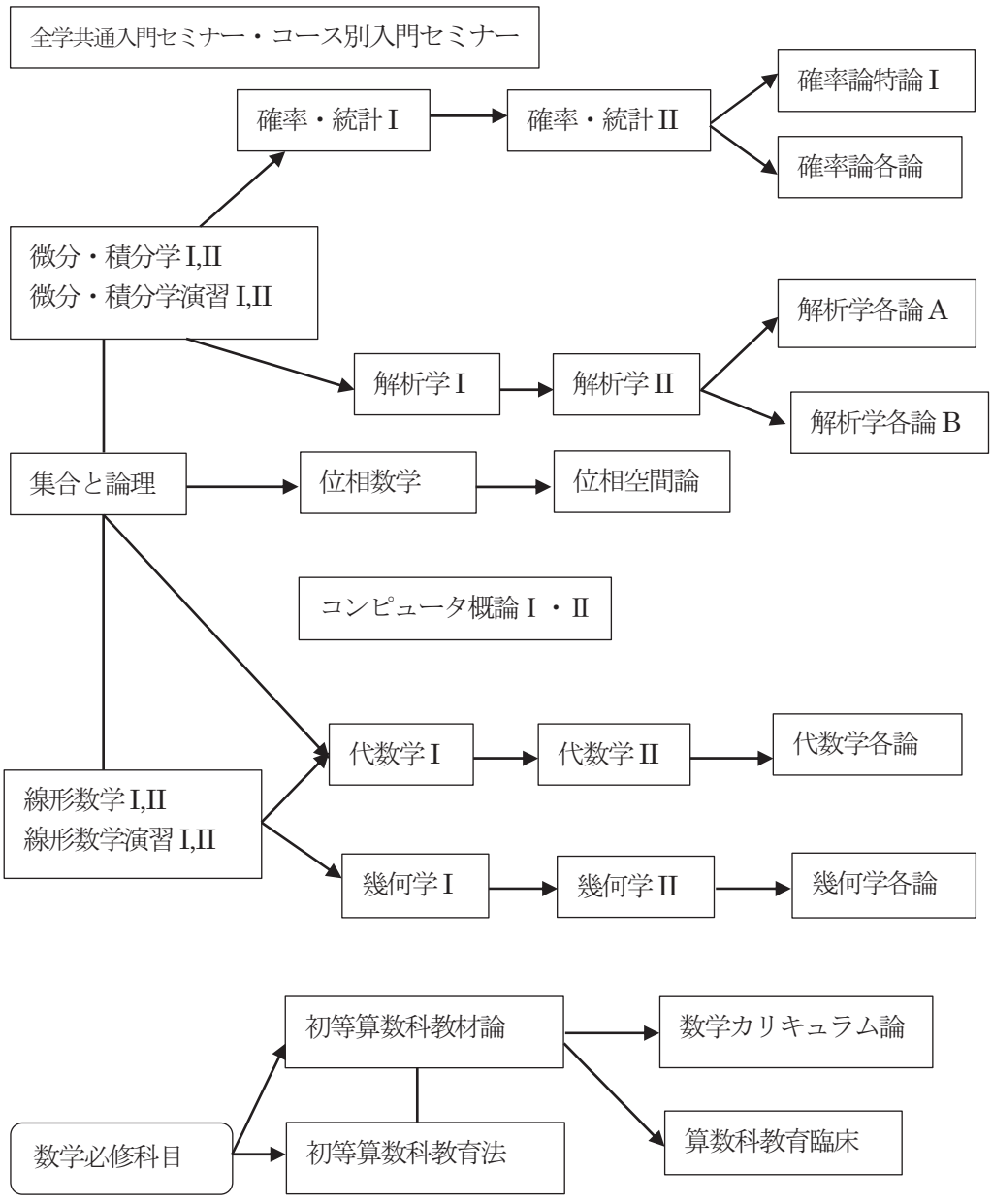
学年	1		2		3		4	
学期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
必修	微分・積分学Ⅰ 線形数学Ⅰ 全学共通入門セミナー コース別入門セミナー	微分・積分学Ⅱ 線形数学Ⅱ	代数学Ⅰ 幾何学Ⅰ 解析学Ⅰ 確率・統計Ⅰ				卒業研究	
SE科目					初等算数科教材論	数学カリキュラム論		
SA科目	微分・積分学演習Ⅰ 線形数学演習Ⅰ 集合と論理	微分・積分学演習Ⅱ 線形数学演習Ⅱ 位相数学	位相空間論	代数学Ⅱ 幾何学Ⅱ 解析学Ⅱ 確率・統計Ⅱ	解析学各論Ａ 確率論特論Ⅰ	代数学各論 幾何学各論 解析学各論Ｂ 確率論各論 コンピュータ概論Ⅰ・Ⅱ 算数科教育臨床		
							3年次のSA科目のうち未履修科目	
教育実習	自己創造のための教育体験活動Ａ・Ｂ・Ｃ（Ⅰ～Ⅲ）（選択）				9月:教育実習Ⅰ（事前・事後指導）		5～6月:教育実習Ⅱ(選択)	10月:教育実習(選択・中等) 教職実践演習
ET				初等算数科教育法				

中･高免許取得のための教科			代数学Ⅰ 幾何学Ⅰ 解析学Ⅰ 確率･統計Ⅰ 中等数学科教育法Ⅰ	代数学Ⅱ 幾何学Ⅱ 解析学Ⅱ 中等数学科教育法Ⅱ	SA 科目から教育職員免許法上の科目2単位以上 中等数学科教育法Ⅲ	コンピュータ概論Ⅰ 中等数学科教育法Ⅳ	9～10 月:教育実習(選択･中等)	
その他			2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー		各自治体教師養成塾(埼玉県、千葉県等)募集 教師力養成特別講座(通称:万ゼミ)募集 新4年生対象教員就職セミナー		5月～:教員採用試験	

5. 4年間の学習計画や進路(進学･就職)について

卒業要件をみたせば，小学校教諭一種免許状を取得することができ，さらに必要科目を修得すれば中学校，高等学校の免許状も取得することができる。教育界のみならず一般社会において数学的能力をもった人が必要とされている。数学科で勉強したことを生かして，全国の公立および私立の小，中，高等学校教員になる卒業生が圧倒的に多いのは勿論だが，大学院へ進学する人もいる。国家公務員，地方公務員になる人や，一般企業では情報･通信関連企業，銀行，各種メーカー等に進む人など多彩である。

初等教育専攻（A類）　数学コース



初等教育専攻（A類） 理科コース

1. コースの目的・目標

本学初等教育専攻（A類）理科コースは，理科を得意とする小学校教員の養成を目的としている。カリキュラムの目標として，共通科目，教育基礎科目や自由選択科目の履修を通じ，幅広い教養を身につけ，現代的教育課題や教職への高い意識を養い，専攻科目の履修を通じ，深い専門性を身につけることを目指している。教員免許状としては，小学校教諭一種免許状が取得できる。

2. カリキュラムの特色と構造

理科教室が開設する科目群は，理科に関わる全領域と理科教育学にわたり，「教育内容科目」と「専攻に関する科目」に分類される。自然科学を理解するための学習方法には特質ある取り組み方が知られている。その一般的な取り組み方は，高等学校までの学習を基盤とし，大学として基本的事項の整理から始め，段階を経て徐々に専門性を高めていき，高度な内容へと発展させていくものである。理科教室の科目群はこの特質を考慮して学期配列されている。

A類理科コースでは，1年次に物理学教室・化学教室・生物学教室・地学教室・理科教育学教室のいずれかに配属される。基本的事項として開設する物理学・化学・生物学・地学・理科教育学の全分野にわたる「専攻に関する科目」には，理科の4分野の名称（以降「～」）を冠する必修科目「～実験」4科目及び「～概論Ⅰ」4科目がある。また「全学共通入門セミナー」，「コース別入門セミナー」も1年次に履修する。これら基本的・基礎的内容の学びの上に，主に2年次以降，「教育内容科目」とともに，より専門的な内容の「専攻に関する科目」の選択科目が理科の4分野及び理科教育学分野に体系立てて用意されている。「教育内容科目」の単位数は4単位，「専攻に関する科目」の単位数は 22 単位以上である。「専攻に関する科目」には，講義以外に，実験・実習・演習という形態で開設される科目があることは理科のカリキュラムの特徴である。A類理科コースでは，参考まで，理科教室以外が開設する科目群，例えば「小学校の教科に関する専門的事項」についても合計5単位を履修することを付記しておく。

3年次には研究室に配属される。必修である「卒業研究」は，配属された研究室の教員のもとで理科の各分野の専門的な研究を行い，大きく成長を遂げる。これまでの科目群での学びの上に「卒業研究」に取り組むというカリキュラムの全体が，専門性に基づいた教員養成課程を構成している。

3. 履修の方法

（1）教育内容科目（SE）

SE科目として 2 科目を開設する。「理科カリキュラム・教材開発基礎 A」，「理科カリキュラム・教材開発基礎 B」の 2 科目両方を必ず履修すること（必修）。

（2）卒業研究

（物理学教室）

卒業研究は3年次から配属される研究室毎に実施する。卒業研究には次の専門科目，すなわち「自然科学のための数学A・B」，「数理物理学Ⅰ・Ⅱ」，「力学Ⅰ・Ⅱ」，「電磁気学Ⅰ・Ⅱ」，「熱力学」，「統計力学」，及び「量子力学Ⅰ・Ⅱ」を履修しておくことが望ましい。特に，「自然科学のための数学A・B」を1年次に，「数理物理学Ⅰ・Ⅱ」を2年次に必修と思って必ず履修しておくことが非常に重要である。3年次には配属された研究室が開講している「専修物理学実験A・B」あるいは「専修物理学演習A・B」を履修し，4年次の卒業研究に備える。

（化学教室）

卒業研究には化学に対する幅広い知識と技能，深い理解が必要となるため，化学分野に開設されている専門科目は必修科目に準ずるものとして履修しておくことが重要であり，研究室配属においてはこれらの専門科目

を全体に渡り履修しているかが考慮される。特に，Ⅳ期に開設される「物理化学実験」，Ⅴ期に開設される「無機分析化学実験」，「有機化学実験」を履修・単位を修得し，実験と安全に関する知識や技能を習得すること，「教職実践演習」の履修条件を満たしていることを卒業研究にとりかかるための要件としている。3年次に各研究室へ配属され，研究室のゼミに参加して研究内容に関連する基礎を学び，4年次に卒業研究を行う。

（生物学教室）

3年次から各研究室に配属されるが，そのためには必修科目の他に，選択科目（SA）に開設されている生物学分野の講義・演習・実験・実習を体系立て積極的に履修することが望まれる。Ⅲ期に開設される「生物科学方法論」は各研究室で行われている研究内容を解説しているので，卒業研究にとりかかるための参考になる。

（地学教室）

3年次に各研究室へ配属され，そこで卒業研究を行う。それぞれの研究室で行われるゼミや巡検とは別に，必修科目はもちろん，選択科目（SA）に開設されている地学分野の講義・演習・実験・実習を体系立って積極的に履修することが望ましい。なお，岩石鉱物学に興味のある学生は無機化学や物理化学などに関する科目を，地質古生物学に興味のある学生は生物学（系統学や生態学，分子生物学など）に関する科目を履修しておくことが重要である。また，天文学や地球物理学（気象学・地震学）に関心のある学生は，数学（「自然科学のための数学 A」「自然科学のための数学 B」「数理物理学 I」「数理物理学 II」）および物理学（力学，熱力学，電磁気学など）に関する科目を必修科目に準ずるものとして履修しておくことが重要である。

（理科教育学教室）

理科教育学の特徴は，自然科学の専門分野の理解を基礎として，それを教育学的視点でとらえ直すことである。理科教育の研究に取り組むうえで，理科の各科目の一定程度の専門性が平均的に必要なため，中学・高等学校免許（理科）取得に必要な理科の概論科目（Ⅰ，Ⅱ）の履修を卒業研究にとりかかるための基本的な条件とする 。また，理科教育学教室で開設している選択科目（SA）に加え，理科の他の教室の選択科目を，講義・演習・実験・実習にわたって積極的に幅広く履修することが望まれる。このことは，理科教育学的な研究を進める基礎として重要である。

4. 免許や進路について

○取得する免許

小学校教諭一種免許状

○単位修得を条件に取得可能な免許・資格（注）

幼稚園・中学校・高等学校・特別支援学校教諭の一種免許状，司書教諭，司書，社会教育主事，学芸員など。
（注）履修方法によっては取得困難な場合もある。

◇進路

東京都他全国各地の公立および私立小学校，あるいは中学校，高等学校，民間教育機関，博物館，民間企業への就職，もしくは大学院修士課程，教職大学院等への進学など。

5. 4年間の標準的履修モデル（コース内の行事予定）

次頁以降の表を参照されたい。

4年間の標準的履修モデル

学年	1		2		3		4	
学期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
SE科目			理科カリキュラム・教材開発基礎A 理科カリキュラム・教材開発基礎B					
S科目	物理学概論Ⅰ 化学概論Ⅰ 生物学概論Ⅰ 地学概論Ⅰ 理科実験〔注1〕 全学共通入門セミナー コース別入門セミナー	理科実験〔注1〕						
選択SA	理科コースの選択科目については下に示す。							
教育実習等	自己創造のための教育体験活動A・B・C（Ⅰ～Ⅲ）（選択）				事前・事後指導 9月：教育実習Ⅰ		5～6月 教育実習Ⅱ（選択）	教職実践演習
			介護等体験（社会福祉施設） 授業観察演習（Ⅲ）					
教室行事	所属教室決定(予定)							
その他			（秋学期） 2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー		各自治体教師養成塾(埼玉県、千葉県　等)募集 （春学期） 教員採用試験(大学3年生受験)〔注2〕 （秋学期） 教師力養成特別講座(通称：万ゼミ)募集 新4年生対象教員就職セミナー		（春学期） 教員採用試験〔注2〕	

注1　理科実験：Ⅰ期とⅡ期に物理学実験，化学実験，生物学実験，地学実験の4実験をすべて履修しなければならない。

注2　教員採用試験：自治体によって試験の内容や日程は異なるので，希望する自治体の詳細を確認すること。

理科コースの選択科目（SA）

領域ごとの科目群を下記の表に示す。学生は所属する教室の科目群を系統的に履修する。

学　年	1		2		3		4	
学　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
理科教育学の科目群	現代社会における理科教育		自然探究実践法 海洋科学教育	理科学習評価論	理科学習指導論 理科教育学概説 理科教育学演習AⅠ（奇） 理科教育学演習BⅠ（偶）	理科教育学演習AⅡ（奇） 理科教育学演習BⅡ（偶）	理科教育学演習AⅠ（奇） 理科教育学演習BⅠ（偶）	理科教育学演習AⅡ（奇） 理科教育学演習BⅡ（偶）

学年	1		2		3		4	
学期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
物理学の科目群	自然科学のための数学A	自然科学のための数学B 物理学概論Ⅱ	力学Ⅰ 電磁気学Ⅰ 数理物理学Ⅰ	力学Ⅱ 電磁気学Ⅱ 数理物理学Ⅱ 熱力学	量子力学Ⅰ 専修物理学実験A〔注3〕 専修物理学演習A〔注3〕 相対性理論（奇）〔注4〕 統計力学（偶）〔注4〕	物性物理学 量子力学Ⅱ 専修物理学実験B〔注3〕 専修物理学演習B〔注3〕	相対性理論（偶）〔注4〕 統計力学（奇）〔注4〕	
化学の科目群		化学概論Ⅱ	物理化学Ⅰ 無機化学Ⅰ 有機化学Ⅰ	物理化学Ⅱ 無機化学Ⅱ 有機化学Ⅱ 物理化学実験	無機分析化学実験 有機化学実験 物理化学Ⅲ 無機化学Ⅲ 有機化学Ⅲ	化学演習B（奇） 化学演習D（偶）	化学演習A（奇） 化学演習C（偶）	化学演習B（奇） 化学演習D（偶）
生物学の科目群		生物学概論Ⅱ	生物科学方法論 生態学 分子生物学 系統学	生物学野外実習（集中） 統合生命科学セミナー 現代生命科学AI	植物生理学 生物学特別演習AI（奇） 生物学特別演習BI（偶） 現代生命科学BI	動物生理学 生物学特別演習AII（奇） 生物学特別演習BII（偶） 現代生命科学AII	生物学特別演習AI（奇） 生物学特別演習BI（偶） 現代生命科学BII	生物学特別演習AII（奇） 生物学特別演習BII（偶）
地学の科目群	自然科学のための数学A	自然科学のための数学B 地学概論Ⅱ	地球物理学概説A 地球科学A	宇宙地球と生命 地球物理学概説B 地球科学B	宇宙物理学 地球物理学 地球科学実験 地学特別演習A	地球科学野外実習(集中) 天文学実験 地球物理学実験 地学特別演習B		

注３：専修物理学実験Ａ・Ｂあるいは専修物理学演習Ａ・ＢをⅤ期からⅥ期に履修することが望ましい。

注４： 統計力学（偶数年開講）と相対性理論（奇数年開講）は隔年開講。

初等教育専攻（A類） 音楽コース

1. コースの目的・目標

教員養成を主たる目的として設置されている専攻であり，基本的に小学校の教員を養成するカリキュラムが組まれています。小学校教員を目指すカリキュラムですから小学校の全教科と音楽の教科に強い教員を養成しています。従って4年間で小学校全体の教育全般と音楽科の知識，技能に優れた教員を養成するためのカリキュラムが組まれています。

2. カリキュラムの特色と構造

音楽コースのカリキュラムは，音楽教育に関わる音楽全般の基礎的な知識と技能を習得し，さらに高度な実践力を養えるように構成されています。

第1年次から第2年次（第Ⅰ学期から第Ⅳ学期）までの2年間に，初等教育教員として必要な基礎的な知識と技能を幅広く習得します。第3年次以降は，6つの分野（声楽，ピアノ，管弦打，作曲，音楽学，音楽教育）から，授業を選択して履修することになります。これらを通じて，音楽教育の理論と実践に関する幅広い素養と高度な実践力を備えた人材の育成を目指しています。

3. 履修の方法

○教育内容科目（SE）

「音楽科カリキュラム論Ａ」「音楽科教材論Ａ」は音楽教育の基礎的な科目であり，現代のニーズに応じた科目です。2科目4単位を必ず修得して下さい。

○専攻に関する科目（S，SA）

音楽科の必修科目として14単位を必ず修得すること。選択科目は，「吹奏楽」「オーケストラ」のいずれか1つを含めて8単位以上修得して下さい。

○卒業研究（SZ）

最終年次には，4年間の学習成果の集大成として卒業研究（必修4単位）を行います。第3年次より，それまでの学習で生じた関心や課題意識に応じて選択科目を履修し，卒業研究に向けて準備を進めます。卒業研究のオリエンテーションは別途行うので，必ず出席するようにして下さい。

4. 進路（就職・進学）について

音楽科教室では，授業に関連して様々な自主ゼミや研究発表会（演奏会），各種音楽教育セミナー，教員就職のための講習会等を実施しています。そのような行事等に主体的に参加して学習を深めることも，自身のキャリアを築いていくためには重要です。

卒業後の進路としては，小学校の全科教諭，音楽専科教諭が主ですが，社会教育の指導者，教職大学院への進学，民間企業等への就職も見られます。

５．４年間の標準的履修モデル（コース内の行事予定）

初等教育専攻　音楽コース（履修例）

学　年	1		2	
学　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
SE科目		音楽科教材論 A		
S科目	基礎声楽実技Ⅰ 基礎ピアノ実技Ⅰ 基礎管弦打実技Ⅰ 作曲法Ⅰ 音楽学概論A 合唱 ソルフェージュⅠ 全学共通入門セミナー コース別入門セミナー	作曲法Ⅱ 音楽学概論B	指揮法	
SA科目		ソルフェージュⅡ 基礎声楽実技Ⅱ 基礎ピアノ実技Ⅱ 基礎管弦打実技Ⅱ	基礎声楽実技Ⅲ 基礎ピアノ実技Ⅲ 基礎管弦打実技Ⅲ 邦楽歌唱法または和楽器	基礎声楽実技Ⅳ 基礎ピアノ実技Ⅳ 基礎管弦打実技Ⅳ 和楽器または邦楽歌唱法
教育実習	自己創造のための教育体験活動A・B・C（Ⅰ～Ⅲ）（選択）			
教室行事	教員志望者講演会		教員志望者講演会	
その他			2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー	

学　年	3		4	
学　期	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
SE科目		音楽科カリキュラム論 A		
S科目				
SA科目	声楽実技Ⅰ オーケストラ　または 吹奏楽 音楽教育特別研究A 民族音楽演習 A・B リトミック演習	声楽実技Ⅱ 音楽教育特別研究 B・C ポピュラー音楽演習 音楽療法概説 音楽学概論CⅠ・CⅡ		
教育実習	事前事後指導 9月：教育実習Ⅰ（附属）		5～6月：教育実習Ⅱ（協力校）	教職実践演習
教室行事	教員志望者講演会		教員志望者講演会	
その他	オーケストラ，吹奏楽の演奏会 各自治体教師養成塾（埼玉県、千葉県　等）募集 教師力養成特別講座（通称：万ゼミ）募集（9月） 新4年生対象教員就職セミナー		5月～：教員採用試験	

初等教育専攻（A類） 美術コース

1. コースの目的・目標

A類美術コースでは，小学校の図画工作専科や美術・図工を得意にする小学校全科の優れた教員の養成を目的にしています。大学生活の4年間に，小学校の全教科の学習内容や指導法を習得しながら，美術の専門的な実技や理論を学ぶことによって，小学校の子どもたちの成長に欠かせない豊かな感性と創造力を育むための表現力，鑑賞力，コミュニケーション能力を身につけることが目標です。

2. カリキュラムの特色と構造

美術科は，絵画，彫刻，デザイン，工芸，造形芸術学，美術科教育学の6つの領域から構成されています。その中心になる専攻科目の授業がS科目（必修科目）とSA科目（選択科目）です。S・SA科目の授業は，関心を持った領域を1つ選んで，段階的に知識と能力を伸ばしながら，美術と教育への理解を深めることができるよう工夫されています。

1年次は，まず，それぞれの領域の基礎力を養うため，春学期と秋学期に集中的にS科目を履修します。この間に，自分がどの領域に関心を持てるか，いろいろ試してみることがポイントです。

2年次から 3 年次にかけて，どれか1つの領域を選んでSA 科目「美術演習 ＡⅠ・AⅡ（偶数年）」及び「美術演習ＢⅠ・BⅡ（奇数年）」を履修します。専門的な知識と能力を段階的に身につけていくのが目的です。最後に，卒業研究に進みます。自分の関心を専門的な知識と能力に結びつけ，研究テーマを深めていくのが目的です。

また，美術科教育学の学習をより深めたい人や美術科教育学の領域で卒業研究を行いたい人は，1年次にSA科目「美術科教育演習Ⅰ・Ⅱ」を，2年次にSA科目「美術科教育演習Ⅲ・Ⅳ」を履修します。

この他にもSA科目や（選択科目）が開講されています。自分の実力の幅を広げるため，関心に応じて積極的に履修することを勧めます。

3. 履修の方法

（1）教育内容科目（SE）の履修

教育基礎科目と専攻科目の橋渡しをする大事な科目です。2 科目すべてを履修してください。

（2）教育基礎科目と小学校の教科に関する専門的事項（SP）

教職に関する基本的な科目です。2年次の春学期に「初等図画工作科教育法」を，4年次の秋学期に「教職実践演習」を履修します。また，2～3年次に小学校の教科に関する科目「○○科研究」と「初等○○科教育法」を履修して，図工以外の各教科の内容と指導法を学習します。

（3）卒業研究

卒業研究（必修4単位）は，最終年次に行なう4年間の学習成果の集大成です。6つの領域（絵画，彫刻，デザイン，工芸，造形芸術学，美術科教育学）のなかから領域を1つ選んで研究テーマを決め，教員の指導を受けながら作品を制作したり論文を作成したりします。成果は卒業制作展や論文発表会で公表します。できるだけ早めに自分に合った研究テーマを見つけることがポイントです。

4．4年間の標準的履修モデル（コース内の行事予定）

学　年	1		2	
学　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
SE科目		図画工作科教材論		
S科目 （必修）	絵画基礎Ⅰ 彫刻基礎Ⅰ デザイン基礎Ⅰ 工芸基礎Ⅰ 全学共通入門セミナー コース別入門セミナー		日本東洋美術史概論	
主な SA科目 （選択）	美術科教育演習Ⅰ	絵画基礎Ⅱ 彫刻基礎Ⅱ デザイン基礎Ⅱ 工芸基礎Ⅱ 西洋美術史概論 美術科教育演習Ⅱ 図画工作・美術科基礎 図法・製図	美術演習ＡⅠ（偶数年） 美術演習ＢⅠ（奇数年） 絵画演習A 彫刻演習A 工芸演習A・D 工芸・デザイン理論 美術科教育演習Ⅲ	美術演習ＡⅡ（偶数年） 美術演習ＢⅡ（奇数年） 絵画演習B・C 彫刻演習B デザイン演習Ａ 工芸演習C・E 美術史演習Ｃ 生産工芸実地研修 （集中） 美術史実地研修（集中） 美術科教育演習Ⅳ 現代美術史概論
教育実習	自己創造のための教育体験活動A・B・C（Ⅰ～Ⅲ）（選択）			
教室行事	6・11月：「先輩に聞こう」		6・11月：「先輩に聞こう」	
その他			介護等体験（社会福祉施設） 2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー	

学　年	3		4	
学　期	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
SE 科目		図画工作科カリキュラム論		
S科目		美学	（SZ　卒業研究）	（SZ　卒業研究）
主な SA科目 （選択）	美術演習ＡⅠ（偶数年） 美術演習ＢⅠ（奇数年） デザイン演習Ｂ 工芸演習Ｂ	美術演習ＡⅡ（偶数年） 美術演習ＢⅡ（奇数年）	美術史演習A（奇数年） 美術史演習B（偶数年）	
教育実習	9月：教育実習Ⅰ		5～6　月：教育実習Ⅱ （選択）	教職実践演習
教室行事	6・11月：「先輩に聞こう」		8月：教員採用試験面接・実技対策ゼミ	
その他	各自治体教師養成塾（埼玉県、千葉県　等）募集 9月：教師力養成特別講座（万ゼミ）募集 新4年生対象教員就職セミナー		5月～：教員採用試験 10月：大学院入試	

５．４年間の学習計画や進路（進学・就職）について

１・2年次は，学外の教育ボランティアや各種のボランティア活動に積極的に参加することを勧めます。見聞を広めることによって，自分なりの教育観を養うことができます。

３・4年次には教育実習が行なわれます。3年次は，9月に附属小学校で「教育実習Ⅰ」を経験します。実習を履修する前年度終了時までに決められた単位を修得しないと教育実習に参加できないので注意が必要です。4年次は，5～6月に公立小学校で「教育実習Ⅱ」を経験します。実習を終えると7月には各都道府県の教員採用試験があります。3年次から計画的に準備をして，試験に臨むことが必要です。「教育実習Ⅱ」は選択ですが，教員を目指す方は極力受講するようにしてください。

卒業後は，小学校の全科教員や図画工作科専科教員になる人，教職大学院へ進学する人などがいます。この他の進路に民間企業や公務員などがありますが，どの場合も，美術の魅力を人に伝えられる真の実力を備えた，教育に強い人材として活躍することが期待されています。

初等教育専攻（A類） 保健体育コース

1. コースの目的・目標

優れた小学校教員の養成を目的としていることはA類の他のコースと同様ですが，学級担任を基本とする小学校教員に求められる基本的な資質に加え，特に運動をめぐる専門的知識と一定程度の実技能力を有することにより，小学校教育の場で，日々の体育の授業や体育的な諸行事，体育や保健のカリキュラム編成等々において中心的な役割を果たすことのできる小学校教員を養成することを目指しています。

2. カリキュラムの特性と構造

保健体育科の専門領域には，「運動学」「体育学」「健康科学」「体育科教育学」という大きく分けると４つの学問領域があります。カリキュラムに開設されている科目は，それぞれこれらの領域と深く関わっています。

皆さんは先ず，必修科目（S）や選択科目（SA）の1～2年次に開講されている講義や実技を履修しながら，運動・スポーツや体育に関わるどのような領域に特に関心が持てるかを探っていきましょう。そして，自分が興味を持てる領域が見えてきたら，その領域に関連する科目を積極的に加えながら，自ら学習を深めていってください。

また，A類コース生が中学校（保健体育）や高等学校（保健体育）の副免許取得を希望する場合は，取得に必要な指定科目を加えて履修する必要がありますので注意してください。

3. 履修の方法

（1）教育内容科目（SE）

「保健体育科教材研究 A」「保健体育科カリキュラム開発論 A」の2科目４単位を必ず修得してください。

（2）卒業研究

4年次になると，大学での学習の言わば総まとめとなる必修の卒業研究があります。どの領域の先生に指導を受けて論文を書いていくかは，おおよそ2年次の終わりまでに決められるとよいでしょう。3年次に進む際に，卒業研究を行うために所属する研究室の希望を出すことになるからです。３年次に開講される「保健体育科研究法Ａ」「保健体育科研究法Ｂ」は、ＳＡに分類されますが卒業研究に向けた研究室単位のゼミになりますので、必ず全員が履修、修得する必要があります。

日頃の学習の中で見出された学問的な関心を，関連する科目の履修で深めながら，徐々に卒業研究へと発展させていくことが望まれます。

4. 4年間の標準履修モデル（コース内の行事予定）

1年次：履修ガイダンス，チューター配当

Ⅰ期（春学期）

全学共通入門セミナー(S) / コース別入門セミナー(S)
体育原理ＡⅠ・ＡⅡ（S） / 陸上Ａ(S)
器械運動Ａ （S） / 水泳Ａ(S)
解剖生理学（SA） / 体育史（SA） 他

→

Ⅱ期（秋学期）

学校保健学ＡⅠ・ＡⅡ（S）/
ソフトボールA(SA) / 体つくり運動Ａ(SA) /
サッカーA(SA)
体育・スポーツ心理学(SA) / スキー（SA集中）
学校安全・救急処置（SA）
他

研究室仮所属希望調査

2年次：履修ガイダンス，研究室仮所属

Ⅲ期（春学期）

運動生理学ＡⅠ・ＡⅡ（S）/ バレーボールＡ（S）
バスケットボールＡ（SA）/ 剣道Ａ（SA）
柔道Ａ（SA） / 衛生・公衆衛生学ＡⅠ・ＡⅡ(SA)
ｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞｽﾎﾟｰﾂ（SA奇） / ﾀﾞｲﾊﾞｰｼﾃｨとｽﾎﾟｰﾂ（SA偶）
野外環境教育学（SA) / 野外環境教育学実習(SA集中)
体育・ｽﾎﾟｰﾂ統計学(SA) / 体育科学習評価論（SA偶）
/ ｽﾎﾟｰﾂﾊﾞｲｵﾒｶﾆｸｽ（SA） / 教科教育・特活指導計画論（SA奇） 他

→

Ⅳ期（秋学期）

保健体育科教材研究Ａ （SE)
運動方法学総論ＡⅠ・ＡⅡ（S）／表現運動(SA)
体育・ｽﾎﾟｰﾂ社会学（SA）/ｽﾎﾟｰﾂ動作分析法（SA）
剣道Ａ（SA） / 体育・ｽﾎﾟｰﾂ経営学（SA）
保健体育科模擬授業演習Ａ（SA）
他

研究室所属希望調査
2年生対象教員就職セミナー
新3年生対象教員就職セミナー

3年次：卒業研究室所属

Ⅴ期（春学期）

保健体育科カリキュラム開発論Ａ(SE)
保健体育科研究法Ａ（SA）
保健体育・スポーツ専門英語演習（SA）
体育科指導演習（SA） / 学校部活動総論（SA）
他

各自治体教師養成塾（埼玉県、千葉県 等）募集

→

Ⅵ期（秋学期）

保健体育科研究法Ｂ（SA）
体育理論（SA）／ ラケットスポーツ（SA）
他

教師力養成特別講座（通称：万ゼミ）募集
新4年生対象教員就職セミナー

実習事前指導、**9～10月：教育実地研究**、実習事後指導

4年次

Ⅶ期（春学期）

卒業研究 他

→

Ⅷ期（秋学期）

卒業研究
教職実践演習 他

5～6月：教育実習Ⅱ（選択）

5月～：教員採用試験

9～10月：教育実習（選択・中等）

10月：大学院（修士課程・教職大学院）入試

5. 4年間の学習計画や進路（進学・就職）について

学習計画を立てるに当たり，大学での学習の重要な柱である教育実習をひとつの手がかりにするとよいでしょう。3年次の9～10月には，附属小学校で初めての「教育実地研究（教育実習）」が行われます。教育実地研究に参加するために必要な履修単位を確実に修得することは勿論，他教科の教科教育法に関する科目もできるだけ履修して実習に備える必要があります。また，3年次春学期開講の「教育実習の事前の指導」に合格しないと教育実地研究には参加できないことに特に注意してください。

4年次の春学期中の5～6月には，公立小学校での「教育実習Ⅱ」が行われます。この実習のすぐ後の7月には教員採用試験が実施されますので，3年次からの準備が欠かせません。9～10月には中学・高校ほかの副免許取得希望者の教育実習があり，10月には大学院（修士課程・教職大学院）入試があります。副免許や進学を希望する場合は，できるだけ早くから準備しておくことが望まれます。

初等教育専攻（A類） 家庭コース

1. コースの目的・目標

家庭コースの目的は，大きく分けて3つあります。
①小学校教員免許を取得する。
②小学校全教科の中でも特に家庭科を専門的に学び，小学校の現場では，家庭科の教科研究のリーダーになる資質を養う。
③児童の家庭生活を中心とした生活実態に根ざした指導が出来る能力を養う。

家庭科は，家庭を中心とした「人間の生活」を対象とし，現代生活の中で生ずる生活の諸側面（衣・食・住・保育・家族の営み）の問題を把握し，その解決をはかる能力を養うことによって，生活の自立と生きる力の育成をめざしている教科です。家庭科の専門的な学びは，小学生の子どもたちの生活に根ざした指導に活かされます。

2. カリキュラムの特色と構造

小学校全科の指導方法の学習を主体とし，それに加えて家庭科並びに家庭科の基礎科学である生活科学の5領域の概要を学ぶ構成になっています。すなわち，専攻科目として，小学校各教科指導法を10教科20単位，小学校の教科に関する専門的事項5単位を修得する必要があります。その中の「初等家庭科教育法」は自教科の指導法として2年生春学期に開講されます。

家庭科の専門科目は，食品・栄養・繊維・洗剤の実験，調理・被服製作・住居設計の実習，保育園訪問，模擬授業の実践などが多彩に用意されています。

3. 履修の方法

共通科目や教職専門科目の他，家庭科の専門科目も1年次から順次開講され，授業によっては内容に系統性があり，前もって受講しておく必要のある授業があります。各学年で用意されている授業については，なるべくその学年でとるように心がけてください。

(1)教育内容科目（SE）

「家庭科教材論（A）」「家庭科カリキュラム論（A）」は，全てを必ず履修する必要があります。

(2)卒業研究

卒業論文を書くために所属する研究室は，2年次末に希望をとり，3年次春学期に決定します。3年次秋学期からは，ゼミに所属して各々の分野の研究を開始します。ゼミに所属するために履修しておかなければならない授業もありますので，注意して下さい。

4. 4年間の学習計画や進路（進学・就職）について

4年間は，あっという間に過ぎてしまいます。学習に積極的に取り組み，大学でしか得られない専門的な知見を身につけ，小学校教員となるための学びを深めてください。卒業生は，全国の小学校，私立小学校に勤務し，活躍しています。また，副免許として中学・高校の家庭科教員の免許を取得するための学びは，小学校だけにとどまらない先を見通した学びとなるため，児童のために役に立ちます。ぜひ，中学・高校の免許も取得してください。さらに，教職大学院への進学は，より家庭科に強い教員への道を拓くことにつながります。博士課程に進学し，家庭科教育の研究者となり，家庭科を引っ張っていく人にもなる道もあります。何事にも意欲的に取り組むことで，様々な道が拓けてくるでしょう。

5. 4年間の家庭科関連科目の標準的履修モデル(A類)

学年	1		2		3		4	
学期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
専攻SE科目			家庭科教材論(A)			家庭科カリキュラム論(A)		
S科目	全学共通入門セミナー コース別入門セミナー 家庭経営学概論 被服学概論	住居学概論	栄養学概論 児童学概論					
SA科目		被服構成学 調理学概論 食物学実験・実習A(集中)	生活経営学 衣生活論 被服管理学 生活環境論	被服学実験・実習A 食品学 住環境論 乳幼児と生活Ⅰ(集中)	消費生活論 被服学実験・実習B 食物学 食物学実験・実習B 住居計画学 乳幼児と生活Ⅱ	家族関係学 看護・介護と生活 家庭電気・機械・情報処理 家庭科演習		
SB科目			児童福祉論 家族社会学(偶)	高齢者福祉論 ジェンダーの社会学(奇)				
教育実習	自己創造のための教育体験活動A・B・C(Ⅰ～Ⅲ)(選択)		授業観察演習(EC, 9月)		事前・事後の指導 9月:教育実習Ⅰ		5～6月: 教育実習Ⅱ 教育実習(選択・中等)	教職実践演習
教室行事	交流会・履修相談会	卒業研究発表会(参加) 教員就職等対策相談会	交流会	卒業研究発表会(参加) 卒業研究説明会 教員就職等対策相談会	交流会	卒業研究発表会(参加) 教員就職等対策相談会	交流会	卒業研究発表会
その他			2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー		各自治体教師養成塾(埼玉県、千葉県等)募集 教師力養成特別講座(通称:万ゼミ)募集 新4年生対象教員就職セミナー		5月～:教員採用試験	

初等教育専攻（A類） 英語コース

1. コースの目的・目標

世界中の人々との距離がいろいろな意味で飛躍的に近くなった今日，英語を学ぶ意義はますます高まってきています。こうした流れの中，2020年度から小学校5・6年生において「外国語（英語）」が教科化され，3・4年生に対しても「外国語活動」が導入されました。英語学習のスタートを援助する確かな英語力と英語指導力，言語の背景にある文化を受け止める寛容性をそなえた小学校教員を養成し，世に送り出すことが，本コースの目的であり目標です。

2. カリキュラムの特色と構造

本コースのカリキュラムは，1）小学校英語教育の理論や実践を学ぶための科目，2）英語力を高めるための科目，3）英語を科学的に分析する科目，4） 英米の文学・文化について学ぶ科目，という4種類の科目から構成されていて，しっかりとした体系性と豊かな多様性を持っている点が特色です。特に，上記1）の中には，本コースを特徴づける「小学校英語教育概論Ⅰ・Ⅱ」と「小学校英語教育演習Ⅰ・Ⅱ」という科目が含まれています。

開設科目の年次的な構成としては，1，2年次は，英語に関する必須の知識と技能を学ぶ科目が中心となり，3年次は，各自が興味をもった分野を更に深く学ぶための科目が多く用意されています。4年次は，4年間の勉学の集大成として英語で卒業論文を書きます。

3. 履修の方法

（1）教育内容科目(SE)/専攻に関する科目：必修科目（S）選択科目A（SA）

教育内容科目（ＳＥ）を４単位，必修科目（Ｓ）を 14 単位，選択科目Ａ（ＳＡ）を 8 単位以上修得してください。科目の詳細は Study Guide【学校教育教員養成課程】の英語コースのページを参照してください。

（2）卒業研究

必修です。卒業論文は英語で執筆します。3年次の11月末に，英語教育学・英語学・英米文学文化の3分野の中から，執筆希望領域を選び，希望する指導教員名と共に届け出ます。提出の締切りは4年次の 12 月 22 日です。

卒業論文のテーマを見つけるためには，普段から，自分が興味を持った点，疑問点などを大切にする必要があります。一見小さな問題も，掘り下げていくとしばしば興味深いテーマに繋がります。また，当該分野の英語論文を積極的に読んで，英語論文の構成や表現に慣れ親しんでおくことも大変重要です。

（3）その他

教養科目の語学領域に関しては，必修の「英語コミュニケーションA・B」，選択の「メディア英語 A・B」「英語リーディング A・B」「英語リスニング＆スピーキング A・B」「英語集中演習 A・B・C」は語学技能検定で一定のスコアを取得した場合等に単位認定の申請が可能ですが，英語コースの学生として英語力を高める機会を確保するためにも，履修することを強く勧めます。なお，中学校・高校での実習を希望する場合は，語学技能検定での一定のスコア取得，もしくは語学領域選択科目の一定の単位修得が必要となります。

4．4年間の標準的履修モデル（コース内の行事予定）

この表は，SE 科目と S 科目以外は，ほんの数科目を例示したものです。小学校教員は全教科を教えますので，他に多くの授業科目を取る必要があります。他コースの科目にも十分注意を払い，自分自身にとって最も良い履修プランを工夫して下さい。

学年	1		2		3		4	
学期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
SE科目	英語科教材論	英語科カリキュラム論						
S科目	全学共通入門セミナー コース別入門セミナー 英会話Ⅰ 英作文Ⅰ 英語読解Ⅰ 英語音声学概論	英語読解Ⅱ	英米文学概論AⅠ 英米文学概論AⅡ	英米文学概論BⅠ 英米文学概論BⅡ				
SA科目	アメリカ文化概論Ⅰ アメリカ文化概論Ⅱ	英会話Ⅱ 英文法 演習Ⅱ イギリス文化概論Ⅰ イギリス文化概論Ⅱ	小学校英語教育概論Ⅰ 英会話Ⅲ 英作文Ⅲ	小学校英語教育概論Ⅱ 英会話Ⅳ	小学校英語教育演習Ⅰ 第二言語習得 英語科と異文化理解	小学校英語教育演習Ⅱ 英文法特論AB 英語教育学研究		
教育実習	自己創造のための教育体験活動A・B・C（Ⅰ～Ⅲ）（選択）				前期：事前指導 9～10月：教育実習Ⅰ 11月：事後指導		5～6月：教育実習Ⅱ（選択）	教職実践演習
教室行事					11月卒論領域届け		11月卒論題目届け 12月卒論提出	
その他			介護等体験 （社会福祉施設） 2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー		各自治体教師養成塾（埼玉県、千葉県　等）募集 教師力養成特別講座（通称：万ゼミ）募集 新4年生対象教員就職セミナー		5月～：教員採用試験	

5．4年間の学習計画や進路（進学・就職）について

中・高の英語教員免許も取得する場合には，『スタディガイド』巻末の説明をよく読んで，早くから慎重に計画を立ててください。また，在学中に留学を考えている人は，一年間の留学の場合には通常卒業に5年かかりますので，特に慎重に履修計画を立ててください。

教員採用に当たっては，教育ボランティアやクラブ活動の経験が重視される傾向があります。また，最近は，教職大学院に進学する人も増えています。進路に関しては，指導教員に相談すると共に，大学が用意している各種の講習会なども積極的に利用するようにしましょう。

初等教育専攻（A類） 現代教育実践コース　学校教育プログラム

1．コース・プログラムの目的・目標

本プログラムは，特定の教科を中心に学ぶプログラムではなく，小学校教育全般にかかわる内容を広範にかつ深く学ぶ特色あるプログラムです。教育学を深く学んだ小学校教員の養成をめざす本プログラムでは，国内外及び過去から現在までの教育事情に精通した教育学のプロフェッショナルが学生の学習・研究および実践を支援します。主として教育哲学，教育史，教育方法・内容，教育制度・行政・経営，教育社会学の5領域の学修を通して，多様な教育事象の理論と実践およびそれらを統合する知識と技能を追究することができるプログラムです。

2．カリキュラムの特色と構造

本プログラムのカリキュラムは，上記の目的を達成するために系統的に構成されています。A類の他のコースと同様，本プログラムも「教養科目」と「教育基礎科目」を履修します。「教育基礎科目」には「教職入門」「教育の理念と歴史」「教育組織論」「教育課程の理論と実践」「教育の方法と ICT」「特別活動・総合的な学習の時間の指導法」「生徒指導・進路指導の理論と方法」など教育学の基礎をなす諸科目が含まれています。

本プログラムでは上記の諸科目の履修と並行して「専攻科目」を履修します。本プログラムのコア（中核）・カリキュラムである「教育内容科目（SE）」（8科目のうち2科目以上履修）および教育学の基礎を身につける「必修科目（S）」（8科目）を学び，「選択科目A（SA）」（6基礎科目・40演習（10分野））の中から自己の関心と問題意識に応じて16単位以上を修得します。「選択科目A（SA）」のうち特に深く研究したい内容や分野を「卒業研究」へと発展させることが期待されています。

なお，学部・プログラムでの基礎的な理論に基づいて授業を行う機会として，附属小学校での教育実習Ⅰ（第Ⅴ期必修）と公立小学校での教育実習Ⅱ（第Ⅶ期選択）を履修します。

3．履修の方法

（1） 教育内容科目(SE)

「合科的学習教材論」「カリキュラム論」の2科目のうち1科目（2単位）以上履修しますが，2科目（4単位）をともに履修することが望ましいです。

（2） 卒業研究

・第Ⅴ学期開始直前に卒業研究ガイダンス，第Ⅶ学期に卒業研究中間発表会，第Ⅷ学期に卒業研究発表会が行われ，該当者は全員出席することになります。
・第Ⅴ学期中に卒業研究の計画書を作成・提出し，それをもとに指導教員が決定されます。
・選択科目A（SA）のうち，卒業研究として取り組もうとする領域・分野にかかわる演習（第Ⅴ・Ⅵ学期）は受講しておくことが望ましいです。

4．4年間の学習計画や進路（進学・就職）について

別記の履修モデルをいつも念頭に置いてください。必修科目は必ず履修し所要単位を確実に修得するとともに，自己の関心や問題意識に基づいて選択科目を計画的に履修することが肝要です。講義・演習・実習をいっそう充実させるためには自学こそ不可欠です。充実した成果の蓄積を期待します。

卒業後の進路をできるだけ早期に決定し，それに向けて準備を始めてください。大学も，進路決定に有益で充実した多様な企画を実施しますので，できるだけ参加して自己の進路決定に役立ててください。

５．４年間の標準的履修モデル（プログラム内の行事予定）

学　年	1		2		3		4	
学　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
SE科目			合科的学習教材論 カリキュラム論					
S科目	全学共通入門セミナー コース別入門セミナー 教育実践概論Ａ 教育実践概論Ｄ	教育実践概論Ｂ 教育実践概論Ｃ						
SA科目	教育実践研究法	教育学基礎論 教育学文献研究法	教育技術論 学級経営の理論と実践	教育調査法	10 分野の演習（ＡⅠまたはＢⅠ）	10 分野の演習（ＡⅡまたはＢⅡ）	卒業研究（SZ）	卒業研究（SZ）
教育実習	自己創造のための教育体験活動Ａ・Ｂ・Ｃ（Ⅰ～Ⅲ）（選択）				9月：教育実習Ⅰ		5～6月：教育実習Ⅱ（選択）	教職実践演習
教室行事	4月：履修ガイダンス（「教育学道場」*を含む）		4月：2年次履修指導**		4月：3年次履修指導（卒業研究ガイダンスを含む）**		9月：卒業研究中間発表会 2月：卒業研究発表会 3月：「学校教育卒論グランプリ」*選考	
その他			介護等体験 （社会福祉施設） 2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー		各自治体教師養成塾（埼玉県、千葉県　等）募集 教師力養成特別講座（通称：万ゼミ）募集 新4年生対象教員就職セミナー		5月～：教員採用試験	

＊　いずれも，本プログラムで独自に実施している行事です。

＊＊　前年度にあたる 3 月末に行われることもあります。

初等教育専攻（A類） 現代教育実践コース　学校心理プログラム

1. コース・プログラムの目的・目標

学校心理プログラムは，子どもや学校の問題に対し教育心理学の専門性で対応できる「心を知る教師」の養成を目的としている。そのため，A類の他のコースのように特定の教科を専門とせず，子どもたちの「心の発達」「友人関係や学級集団」「学習の仕組み」「学校への不適応」「測定と教育評価」など，教育活動の様々な面を支える心理学の知識と技術を学ぶ。

2. カリキュラムの特色と構造

学校心理プログラムでは，学校における学習や行動の諸問題についてデータをもとに考察する力をつけるために，1～2年次にデータ分析法（心理学統計法など），2～3年次に心理学の方法論（実験・観察研究法，質問紙調査法，教育心理学実験）の科目をそれぞれ選択科目（SA・SB）として課している。そして，これらで身につけた研究能力を3～4年次の「学校心理学応用研究」「卒業研究」で実践していくカリキュラムとなっている。

また，選択科目（SA・SB）には，1）教育心理学の5領域（発達，集団過程，教授学習過程，教育評価，学校臨床）について演習形式で学習する科目（学校心理実践演習 A～C など）と，2）教育実践の基礎となる多様な心理学を学ぶ科目（発達心理学，教育・学校心理学，社会・集団・家族心理学，知覚・認知心理学など）が含まれている。また教育内容科目（SE）では，現代教育の重要なトピックを教育心理学の立場から学習する。

3. 履修の方法

（1）教育内容科目（SE）

学校心理プログラム対象の科目（「授業実践の心理学」「教授学習プロセスとその評価」）を含め，2科目を履修する。自プログラム対象科目を両方履修することが望ましいが，自由選択を活用するなどして，他プログラム対象の科目も履修することを推奨する。

（2）必修科目（S）

「全学共通入門セミナー」，「コース別入門セミナー」および「教育実践概論 A～D」の6科目6単位を標準開設学期に履修すること。

（3）選択科目（SA・SB）

選択科目 A（SA）は学校心理プログラムの教員が担当する科目である。選択科目 B（SB）は，他コース（E 類カウンセリングコース）の教員が担当する開設科目だが，学校心理の学びにも重要な科目であるため，選択科目B（SB）として履修できるよう設定している。いずれも心理学の知識や研究法を身につけるために構造化されているため，標準開設学期どおりに履修すること。特に「心理学概論」「人間理解の心理学」「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」「教育・心理データ解析法」は，この科目の内容を理解していることを前提に上位学年の授業が組まれているため，必ず全員が標準開設学期に履修すること。この2つの授業を履修していない場合，上位学年の授業が理解できない場合がある。

なお，選択科目A（SA）及び選択科目B（SB）の授業科目から16単位以上の修得が卒業要件だが，いずれの科目も卒業研究での研究実践に重要な科目なので，自由選択を活用するなどして，できるだけ多く履修することが望ましい。

（4）卒業研究に向けて

3年次の春学期に卒業研究のための研究室配属を行う。研究室では，卒業研究に向けた指導をゼミ形式で受ける。卒業研究の学びにおいては，必ず3年次に「学校心理学応用研究」の単位を修得した上で，4年次に「卒業研究」を履修する。

研究室に配属されるためには，以下の3つを満たしていることが条件となる。

①「心理学統計法Ⅰ」「心理学統計法Ⅱ」の単位を修得していること。

②「教育・心理データ解析法」の単位を修得していること（2年次で修得できなかった場合に限り3年次での再履修中も認めることとする）。

③「実験・観察研究法」「質問紙調査法」「教育心理学実験」の3科目のうち2科目以上の単位を修得していること(教育心理学実験については履修中であること)。

この条件を満たさない場合，卒業が延期にならざるを得ないので十分に注意すること。なお，以上の科目は，標準開設学期に履修すること。

4．4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

2～3年次における研究法の授業では，データ収集・分析など授業時間外での学習が多く要求される。また3年次～4年次は，卒業研究や教員採用試験準備などに追われることが多い。さらにA類の学生としての教職関連科目が数多くあることを考えると相当に多忙な4年間であり，計画的に単位を修得することが重要である。

卒業後は，小学校教員等の教職につく者が大半であるが，教育関連の企業等就職や教育者としてのステップアップを目指し大学院に進学する者も多い。いずれにしろ早期に進路を考え，それに応じた学習を進めていくことが重要である。

5．4年間の標準的履修モデル(プログラム内の行事予定)

学年	1年		2年		3年		4年	
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
SE科目			他プログラム対象SE	授業実践の心理学		教授学習プロセスとその評価		
S科目	全学共通入門セミナー コース別入門セミナー							
	教育実践概論A，D	教育実践概論B，C						
SA科目	心理学概論	教育・学校心理学	実験・観察研究法	質問紙調査法	教育心理学実験	学校心理学応用研究	卒業研究	
	発達心理学		社会・集団・家族心理学	知覚・認知心理学				
	心理学統計法Ⅰ	心理学統計法Ⅱ		学校心理実践演習C	学校心理実践演習A	学校心理実践演習B		
SB科目		人間理解の心理学	教育・心理データ解析法		心理的アセスメントA	学習・言語心理学		
					感情・人格心理学	神経・生理心理学		
教育実習	自己創造のための教育体験活動A・B・C(Ⅰ～Ⅲ)(選択)		9月:授業観察演習【教育創成科目】		9月:教育実習Ⅰ		5～6月:教育実習Ⅱ(選択)	教職実践演習
教室行事	新入生オリエンテーション				研究室配属		卒論中間発表会	卒論発表会
その他				2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー	各自治体教師養成塾(埼玉県、千葉県等)募集	教師力養成特別講座(通称:万ゼミ)募集 新4年生対象教員就職セミナー	5月～:教員採用試験	

初等教育専攻（A類） 現代教育実践コース　国際教育プログラム

1. コース・プログラムの目的・目標

本プログラムは，国際社会の一員として生きていくための主体性を備え，グローバルな視野から初等教育を捉えるとともに，異なる文化や価値観を持つ人々を理解，受容し，共生を試みようとする日本の教員の育成を目的としている。

2. カリキュラムの特色と構造

国際教育プログラムでは，幅広く修得した学問を実践に生かし，実践から得た経験を学問に還元するという循環を促すカリキュラムを目指して構成されている。専門科目は，探究の方法と知識の構造を理解するとともに，学生自らが考え，自主的に探究を深めていけるような能力と態度の育成に配慮し，1年次より4年次へ，創成科目や小学校の教科に関する科目との連携をもって，学生が積み上げていけるように構造化されている。このため，各科目は標準開設学期に受講すること。

① 国際教育の基礎と基本的理論を理解するための科目：
1年次「全学共通入門セミナー」，「コース別入門セミナー」，「国際教育基本文献講読」，「比較教育学研究」，2年次「国際教育のカリキュラム」,「国際教育交流史」

② 国際教育の実践力や研究力を磨く科目：
2年次「国際教育臨床」，3年次「国際教育演習 A～D」，「国際教育フィールド研究Ⅰ」，4年次「国際教育フィールド研究Ⅱ」

③ 各自の興味・関心に対応した選択必修科目：
3年次，「帰国・外国人児童生徒のための日本語教育」,「異文化間心理学」，「海外・帰国児童生徒論」
この他，教育創成科目（EC）における1年次「現代の学校と外国人児童・生徒」，2年次「国際理解教育論」，「教育開発と教育協力」

3. 履修の方法

（1） 必修科目（S），教育内容科目（SE），国際教育プログラム選択科目 A（SA）

必修科目（S）として，「全学共通入門セミナー」，「コース別入門セミナー」2単位と「教育実践概論A～D」の4科目4単位の合計6単位を必ず修得する。
教育内容科目（SE）のうち，2年次「国際教育臨床」2単位の修得は必須である。この他，自プログラムの「国際教育のカリキュラム」，コース内の SE の区分より2科目4単位以上を修得する。
国際教育プログラム選択科目 A（SA）のうち，1年次「国際教育基本文献講読」・3，4年次「国際教育フィールド研究Ⅰ・Ⅱ」は必修である。この他3年次「国際教育演習A～D」より2科目を必ず含め，この区分（SA）の科目より16単位以上を修得する。

（2） 卒業研究（SZ）

3年次秋学期の「国際教育フィールド研究Ⅰ」・4年次春学期「国際教育フィールド研究Ⅱ」を通して各自の興味・関心や研究方法の学びを深めながら，4年間の集大成として，国際教育卒業研究（4単位必須）を4年次通年科目としてまとめあげる。

4. 4年間の標準的履修モデル(プログラム内の行事予定)

学　年	1		2		3		4	
学　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
EC 科目		現代の学校と外国人児童・生徒	教育開発と教育協力 授業観察演習	国際理解教育論				
SE科目			国際教育臨床	国際教育のカリキュラム				
S科目	全学共通入門セミナー コース別入門セミナー 教育実践概論 A/D	教育実践概論B/C						
ＳＡ科目		国際教育基本文献講読 比較教育学研究	国際教育交流史	異文化間心理学 海外・帰国児童生徒教育論	帰国・外国人児童生徒のための日本語教育 国際教育演習 A/C	国際教育フィールド研究Ⅰ 国際教育演習　B/D	国際教育フィールド研究Ⅱ	
SZ科目							卒業研究	卒業研究
EP 科目 (教育実践に関する科目)	自己創造のための教育体験活動A・B・C(Ⅰ～Ⅲ)(選択)				教育実習Ⅰ:事前・事後の指導 教育実地研究		(教育実習Ⅱ)	教職実践演習
教室行事	入門セミナーグループ調査発表		教育実地研究課題設定		卒業研究計画書提出		卒業研究構想発表会, 卒業研究中間発表会, 卒業研究発表会	
その他			2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー		各自治体教師養成塾(埼玉県、千葉県　等)募集 教師力養成特別講座（通称：万ゼミ）募集 新4年生対象教員就職セミナー		5月～:教員採用試験	

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

4年間の学習計画は, 卒業必須単位の履修に留まることなく, 各自の学問的な探究心と, 異文化コミュニケーション能力の向上のための学習意欲に基づいて, 1年次より将来のビジョンを見据えて立案していくことが望まれる。卒業後は, 初等教育機関における教育職として国際的な視野からの教育実践, 帰国・外国人児童教育の実践, また在外日本人児童生徒への教育や大学院における専門的研究等, いずれの進路においても, 常に幅広い視野から教育についての判断力を持ち貢献ができるように, 4年間の積極的な学習態度が期待される。なお, 大学での学びと両立させるかたちで, 教育実習や就職後にスムーズな教育実践ができるようにするための学校ボランティアへの参加等も視野に入れながら, 各自の学習計画を立ててほしい。

初等教育専攻（A類） 現代教育実践コース　環境教育プログラム

1. コース・プログラムの目的・目標

深刻化する環境問題に対応し，持続可能な社会を構築していくことは，現代社会において最も重要な課題である。環境問題は，その影響がおよぶ範囲や対象がますます多様で複雑なものになっている。この現状の中，小学校段階からこども達の自然環境や社会制度に対する関心や認識を深めることが必要である。

環境教育プログラムでは，自然科学・人文社会科学を横断する環境学に関する知識を学ぶだけでなく，持続可能な社会を実現しようという意志と実践力を涵養し，また，そのための智恵について小学校を主体とした学校教育においてどのように展開していくか考えていくことを目標とする。

2. カリキュラムの特色と構造

環境教育プログラムのカリキュラムは，(1) 我々の生活が，自然，社会・文化といったものが複雑に重なり合った「環境」のなかで成り立っていると考え，この我々にとっての「環境」を一つのシステムとして学んでいくこと，(2) そのために自然科学と人文社会科学の2分野にまたがって複眼的にものごとを見ていくことができるようにすること，(3) そして，「環境」を科学的に認識するだけでなく，「環境」を豊かに感じとり，よりよい「環境」を生み出していくための，感性・理性・実践力を身につけ学校教育で展開する力をつけることができるように組み立てられている。

専攻SE 科目とS科目は，「環境」を認識し環境教育を展開するための基礎的な知識を学ぶ授業である。調査法や実習の科目では，それぞれ自然と社会のあり方を把握するための技法・技術を身につける。これらの科目では自然科学と人文社会科学，そして教育学の分野をバランスよく学んでいく。SA科目，専攻SE 科目やS科目で学んだことを基礎として，より専門的な分野に分かれて発展的なことがらを学ぶとともに，授業によっては校外に出て実習的な活動も行う。

3. 履修の方法（履修指導内容）

(1) 教育基礎科目及びA類共通科目の履修

教育基礎科目では，定められた単位を修得すること。

SE・SA は環境教育を学ぶ上で特に重要な科目であり計画的に全般を履修するのが望ましい。

(2) 卒業研究

2年生秋学期に卒業研究を行なう研究室の志望調査がなされ，その結果に基づいて，3年生春学期より各研究室に所属する。各研究室では，ゼミなどを通じて卒業研究を行なう。例年7月に卒業研究の中間報告会を、2月上旬に，1～4年生が出席して卒業論文発表会を開催する。また，卒業研究を履修するまでに必要単位は取得しておくことが望ましい。

4. 4年間の標準的履修モデル(プログラムの行事予定)

学　年	1		2		3		4	
学　期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
SE 科目			環境教育カリキュラム論	環境教育教材論				
S科目	全学共通入門セミナー コース別入門セミナー 教育実践概論A 教育実践概論D	教育実践概論B 教育実践概論C						
SA科目	地球環境論	環境教育概論	環境教育野外実習 自然環境調査法 自然環境解析実験	植物進化生態学	河川環境論 環境教育演習AI（奇） 環境教育演習BI（偶）	環境教育演習AII（奇） 環境教育演習BII（偶）	環境教育演習AI（奇） 環境教育演習BI（偶）	環境教育演習AII（奇） 環境教育演習BII（偶）
教育実習	自己創造のための教育体験活動A･B･C(I～III)(選択)				教育実習I(A類)		教育実習II(A類) 教育実習(選択･中等)	教職実践演習
教室行事	4 月:新入生研修		11 月:研究室紹介 12～1 月:研究室志望調査		7 月･12 月:卒業研究中間報告会		2 月上旬：卒業論文発表会	
その他			2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー		各自治体教師養成塾(埼玉県、千葉県　等)募集 教師力養成特別講座(通称:万ゼミ)募集 新4年生対象教員就職セミナー		5月～:教員採用試験	

5. 4年間の学習計画や進路(進学･就職)について

必修科目(S, SE 科目)は, このプログラムで学ぶ上で基礎となる事柄を学ぶ授業であるので, 標準開設学期に履修し終えること。SE 科目は 2 科目を履修しなければならない。環境教育プログラムのSA科目の授業は, 可能な限りすべて履修すること。隔年で開講されるものや集中講義形式になっているものがあるので, 留意すること。選択科目については, 他コースが開設している授業であっても, 自分の学習テーマに沿ったものであれば, 積極的に受講することが望ましい。各人の履修計画について指導教員に個別に相談することも歓迎する。

進路については, 大学院進学者が1割, 教員･公務員 7 割, そのほか 2 割といったようになっている。

初等教育専攻（A類） ものづくり技術コース

1. コースの目的・目標

本コースは，すべての子どもたちが学ぶべき普通教育の視点に立ち，創造して新しい価値を生み出す，技術的で総合的な問題解決の力（ものづくり技術の力）を身につけた小学校教員を養成することをめざしています。これからの小学校には，子どもたちの健やかな成長・発達のために，技術の科学やSTEM/STEAM*の見方・考え方を積極的に活かすことができる小学校教員が不可欠です。本コースでは，ものづくり技術の力を通して，身のまわりの生活や学校，社会を友だちや周囲の人々と協同して切り開き，学校現場において，工夫・創造性に満ちたイノベーションを広く推し進めていくことができる教員を育成することを目的としています。

*【STEM/STEAM】S 科学・T 技術・E 工学（エンジニアリング）・A 芸術とリベラルアーツ・M 数学の見方・考え方を横断的・総合的に活用して，新たな価値を生み出すために創造的に問題を解決していこうとする教育が世界的にも重視されています。

2. カリキュラムの特色と構造

本コースは，エンジニアリングの活動を問題解決の教育に取り入れたものづくり技術の教育方法について学ぶとともに，ものづくり技術の力の基礎となる技術，技能，科学を結びつけた能力を身につけるため，中学校技術科につながる基礎の内容を学びます。その他，小学校教員免許状の取得に必要な内容も学びます。本コースでは，このような「ものづくり技術の力」を身につけるため，授業づくりに関する各種の授業科目のほか，電気や機械，情報，加工等のものづくり技術の専門授業科目を設けています。また，ものづくり技術の基礎となる技能を身につけるため，実習や演習を中心とした授業科目も多く開講されています。

社会では周囲の人々と協同して，身のまわりの生活や社会を切り開くため，工夫・創造性に満ちたイノベーションを広く推し進めていくことができるような力が求められています。このような要求に対応するため，「ものづくり技術の力」を基盤にした企画・創造力を高めることができるようなプロジェクト型・問題解決型の授業科目や，相手意識にたった「ものづくり力」を発揮するための授業科目が開講されています。

3. 履修の方法

(1)教育内容科目（SE）

「ものづくり・技術教育カリキュラム論」，「ものづくり・技術教育教材論」は必ず履修する必要があります。

(2)専攻科目

中学校技術科および高等学校(工業)の免許取得に必要となる「機械工学の基礎」および「電気回路」を学習するにあたり数学と物理学の修得は必須です。中学校技術科および高等学校(工業)の免許取得をする場合は，**工業数学Ⅰ・Ⅱ，工業物理学Ⅰ・Ⅱは1年生の間に必ず修得してください。**いずれも必修科目（S 科目）ではありませんが，積極的に履修するようにしてください。これらに限らず，自分に不足していると感じる内容は1～2年生の間に積極的に履修してください。さらに，履修するすべての科目について予習と復習を必ず行ってください。卒業時に取得する学位と教員免許にふさわしい専門性と思考力を身につけるように努力してください。

(3)卒業研究

卒業研究は究極の問題解決型学習です。積極的に研究に取り組んでください。卒業研究では，ものづくり技術教育の基礎となる専門分野に関して，指導教員の指導を受けながら特定のテーマについて研究を行います。

卒業研究のスケジュール(概略)
2年生1月～3年生4月:研究室を決定
3年生4月:卒業研究スタート
(3年生次の履修に関しては各研究室の教員による履修指導に基づいて履修内容を決めてください。)
4年生2月:卒業論文発表会

各研究室への配属は，配属学生の学業成績を勘案して取り決める予定です。卒業研究が実施される２年間には，３年生６月：附属学校における教育実習の準備開始，９月～１０月：教育実習，３年生次後半：教員採用試験準備・就職活動開始，４年生６月頃：協力校における教育実習（選択），７月以降：教員採用試験（１次試験・２次試験）があります。このため，時間を有効に使いながら，積極的に研究に取り組む姿勢が重要です。

(4)その他

副免(卒業要件に含まれない教員免許状)として，中学校技術科教員免許状および高等学校(工業)教員免許状の取得希望者は，できるだけ1年生次に「技術科教育法Ⅰ・Ⅱ」を履修するようにしてください。

4. 4年間の標準的履修モデル(コース内の行事予定)

学年	1		2		3		4	
学期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
SE 科目		ものづくり･技術教育カリキュラム論		ものづくり･技術教育教材論				
S 科目	全学共通入門セミナー コース別入門セミナー 金属加工概論 基礎製図木材加工の基礎		情報処理概論					
SA 科目	工業数学Ⅰ 工業物理学Ⅰ	工業数学Ⅱ 工業物理学Ⅱ 木材加工の応用Ⅰ	栽培 電気回路	ものづくりセミナー 機械工学の基礎 応用情報処理Ⅰ	ものづくり特別演習Ⅰ～Ⅵ 機械工学A 応用情報処理Ⅱ 青年期の職業指導	電子工学概論 工業技術 技術演習A(奇) B(偶) 機械工学Ｂ		

SB 科目			計算機ハードウェア			計測と制御		
中学校技術/高等学校(工業)教員免許取得時のST科目	技術科教育法Ⅰ	技術科教育法Ⅱ	技術科教育法Ⅲ	技術科教育法Ⅳ	工業科教育法Ⅰ	工業科教育法Ⅱ		
教育実習	自己創造のための教育体験活動A・B・C(Ⅰ～Ⅲ)(選択)				教育実習Ⅰ(事前・事後指導 9月: 教育実地研究)		5～6月: 教育実習Ⅱ(選択) 10月:教育実習(選択・中等)	教職実践演習
教室行事			1月:研究室説明会		4月:研究室配属		2月:卒業論文発表会	
その他			2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー		各自治体教師養成塾(埼玉県、千葉県 等)募集 教師力養成特別講座(通称:万ゼミ)募集 新4年生対象教員就職セミナー		5月～:教員採用試験	

(注)SB科目は,他コースでの開設が優先されます。履修時期は,各自で適宜設定してください。

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

本コースの所属学生は,４年間を通じて自ら主体的に小学校教育と常にかかわれるよう心掛け,準備・計画・実際の働きかけをしましょう。４年間の本コースの教育研究・実践活動をとおして,小学校教育のもつ奥深さと意義を感得し,卒業後は小学校教員となり,本コースで培った能力を発揮して,豊かで多様な教育活動を実現していくことを期待します。

選択科目(SB)の開講時間が必修科目の開講時間と重なっていることがあります。その場合は必修科目を優先して受講するようにしてください。

本コースは教職大学院への進学も推奨しています。教職大学院を修了することにより,専修教員免許状を取得することができ,より視野の広いスクール・リーダーとしての専門的力量を身につけることができます。なお１年生～２年生の間に教職大学院に進学することを決めている学生は,希望すれば２年生次に次世代学校リーダー養成コースへの登録,もしくは３年生次に教員養成高度化大学間連携コースへの登録をおこなうことにより,教職大学院へ特別に進学することができます(次世代学校リーダー養成コースは３年生次より開始;教員養成高度化大学間連携コースは４年生次より開始)。さらに,博士課程を修了し,博士号を取得した者には,大学教員などの研究職への道も開けます。

初等教育専攻（A類） 幼児教育コース

1. コースの目的・目標

幼児教育コースは質の高い幼稚園教員，保育士，その他幼児教育の専門家を養成することを設置の目的としています。本コースでは，幼児教育のニーズが多様化するなか，幼稚園教諭一種免許状の他，保育士資格を希望する者に必要な授業科目を整備しています。また，最新の幼稚園教育要領，保育所保育指針等にもとづき，乳児期，幼児期，児童期への発達や学びの連続性をふまえた教育や，園と家庭，地域との連携をふまえた教育を推進できる力量をもつ幼児教育の専門職の養成を目指しています。

2. カリキュラムの特色と構造

上記の目標を達成するためのカリキュラムは，一つに教育職員免許法に定められた幼稚園教諭一種免許状の取得に必要な授業科目を用意しているのが特色です。一方，保育士の資格取得に必要な授業科目には，幼稚園教諭免許の学習内容と重なる部分がありますが，保育士に特有の専門性を身につけるための科目を選択科目として多く用意しています。
本コースに固有の授業科目は，教育内容科目（SE），幼稚園の領域に関する専門的事項（SK），専攻に関する科目（必修 S，選択 SA）の他，教育実習，卒業研究などで構成され，保育者としての専門性を獲得してほしいと願っています。保育士の資格取得のためには，児童福祉関係の科目，社会的養護，乳児保育や小児栄養演習などに加え，保育所や福祉施設での実習を用意しています。

3. 履修の方法

この数年の学生の履修状況を見ると，卒業要件である幼稚園教諭一種免許状と，希望による保育士資格の取得をほぼ全員が達成しています。さらに，小学校教諭一種免許状もほとんどの学生が取得して卒業しています。慎重に計画を立てて着実に単位履修を進めてほしいと思います。

（1）教育内容科目（SE）

教育内容科目には「保育者論」と「幼児教育学」があり，幼児教育コースの専門的な内容を扱う必修科目になっています。

（2）卒業研究

幼児教育コースの卒業研究（卒論）は，指導教員の指導のもと，幼児の発達や教育等に関わる様々な内容のなかから自らテーマを決め，研究に取り組みます。これを通じて，多くの理論に触れたり，論理的な思考力や研究方法を学びます。

4. 4年間の学習計画や進路（進学・就職）について

幼児教育コースは少人数であることや，将来幼児教育に関わる仕事を目指すという具体的なイメージを共有していることなどから，クラスメイトが明るく活発で，大変親しい関係にあります。学習計画を立てることについても，支え合って4年間を過ごしている様子です。学年の上下の交流も盛んで，勉強の仕方を先輩から聞くこともあるようです。
卒業後の進路は，幼稚園や保育所等が7割以上で，その他は大学院，企業になっています。

5. 4年間の標準的履修モデル(コース内の行事予定)

学　年	1		2		3		4	
学　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
教育内容科目(SE)		幼児教育学				保育者論		
幼稚園の領域に関する専門的事項(SK)		幼児と健康(a) 幼児と言葉(a)	幼児と人間関係(a) 幼児と環境(a)	幼児と表現A(a) 幼児と表現B(a)				
必修科目(S)	全学共通入門セミナー コース別入門セミナー 乳児保育Ⅰ 乳幼児心理学			保育原理 保育内容総論(a)		子ども家庭支援の心理学	幼児の健康指導研究	
選択科目A(SA)	音楽表現 造形表現 基礎音楽Ⅰ	子ども家庭支援論 基礎音楽Ⅱ 乳児保育Ⅱ 社会的養護Ⅰ 小児栄養演習	幼児心理学演習 子どもの健康と安全 障害児保育 幼児音楽演習 社会的養護Ⅱ 保育実習指導Ⅰ	保育実習ⅠA	幼児体育特講 幼児教育演習AⅠ	保育実習ⅠB 幼児教育特論 幼児教育演習AⅡ	保育臨床相談 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 幼児教育演習BⅠ	幼児教育演習BⅡ
教育実習	自己創造のための教育体験活動AC(Ⅰ)(選択)	自己創造のための教育体験活動B(Ⅱ)(選択)	自己創造のための教育体験活動AC(Ⅲ)(選択)		事前・事後の指導 教育実習Ⅰ(附属幼稚園での実習)		教育実習Ⅱ(協力幼稚園での実習)	保育・教職実践演習(幼稚園)
行事	教員との顔合わせ 新入生歓迎会:学生行事				卒論構想発表会		卒論発表会 卒業生送別会:学生行事	
その他			特別区教員採用試験説明会 2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー		各自治体教師養成塾(埼玉県、千葉県 等)募集 教師力養成特別講座(通称:万ゼミ)募集 新4年生対象教員就職セミナー		5月～:教員採用試験	

中等教育専攻（B類） 国語コース

1. コースの目的・目標

B類国語コースは，基本的に中学校教員の養成を国語教育という立場から行っています。国語教育を成り立たせるものは基礎科学と教科教育学です。両者は車の両輪のようなものです。国語科は基礎科学の日本語学・日本文学（古典文学・近代文学）・中国古典学と，教科教育学の国語科教育学の四つの専門領域から成り立っています。自身の研究的関心と目指す教師像に基づき，重点を置いて学ぶ領域を決定して科目を履修することにより，教育に対する高い意識と国語科の優れた専門性を身につけることを目指しています。

2. カリキュラムの特色と構造

カリキュラムには，全学を対象とした教養科目があり，その上に立って教育基礎科目と国語コースの専攻科目があります。専攻科目は（1）各教科の指導法（ST），（2）専攻に関する科目（教育内容科目SE・必修S・選択SA）（3）卒業研究（SZ）の3種類の科目から成っています。

これらの専攻科目は，「各教科の指導法」は教科を指導するための方法や技術等について学びます。「教育内容科目」は教科教育学と教科専門とを横断した応用的科学です。「必修S・選択SA」は国語の専攻に関する専門性を深める科目を学びます。そして卒業研究は4年間の学習と研究の集大成として卒業論文を作成します。

3. 履修の方法

「教育内容科目 SE は3 年次に開講される「国語科カリキュラム論」「国語科教材論」が必修科目です。

「専攻に関する科目」は，必修科目の「全学共通入門セミナー」，「コース別入門セミナー」，「日本語学概論Ⅰ・Ⅱ」，「日本語文法」，「日本近代文学史」，「日本古典文学史」，「日本近代文学概論」，「日本古典文学概論」，「中国古典文基礎」，「中国古典文学概論」，「書写B」合計 22 単位は，必ず修得して下さい。

また選択科目 SA の中から 20 単位以上を選択し，修得します。選択にあたっては次のことを注意してください。

カリキュラムのB類国語，選択科目Aの中から計 20 単位以上を選択し，修得する必要があります。この場合基本的には「国語学」「国文学」「漢文学」をそれぞれ何単位修得してもかまいません。

ただし，選択科目の選定にあたっては必ず演習科目を6科目（12 単位）以上履修して下さい。演習科目は次のとおりです。これらの科目は上に述べた 20 単位の中に含まれます。

日本語学演習A　日本語学演習B　日本語学演習 C
古典文学演習A　古典文学演習B　古典文学演習 C　古典文学演習 D
近代文学演習A　近代文学演習B　近代文学演習C
中国古典演習A　中国古典演習B　中国古典演習C
近代文学特殊演習　古典文学特殊演習

卒業研究は必修 4 単位で，「卒業論文」の執筆を求めます。

卒業論文作成に向けて，3年次に開設されている各領域の研究法の授業（春学期 1 科目，秋学期 1 科目，計 2 科目 4 単位）を必ず履修し修得してください。

（春学期）研究法Ⅰ
日本語学研究法Ⅰ　古典文学研究法Ⅰ　近代文学研究法Ⅰ　中国古典研究法Ⅰ
国語科教育研究法Ⅰ　日本語教育研究法Ⅰ

（秋学期）研究法Ⅱ
日本語学研究法Ⅱ　古典文学研究法Ⅱ　近代文学研究法Ⅱ　中国古典研究法Ⅱ
国語科教育研究法Ⅱ　日本語教育研究法Ⅱ
なお卒業論文に関する詳しい説明は国語科「あなたのための履修ガイド」を参照してください。
専攻科目以外の履修等については，教育基礎科目として教育実習があります。3年生9月に教育実習Ⅰ，4年生の5～6月に教育実習Ⅱ（選択）があります。

4．4年間の標準的履修モデル

学　年	1		2		3		4	
学　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
教育内容科目 SE（必修）					**国語科カリキュラム論**	**国語科教材論**		
S科目（必修）	**全学共通入門セミナー** **コース別入門セミナー** **日本近代文学概論** **日本古典文学史** **日本語学概論Ⅰ** **中国古典文基礎** **中国古典文学概論**	**日本古典文学概論** **日本近代文学史** **日本語学概論Ⅱ**	**日本語文法**	**書写B**				
SA科目（選択）		**中国古典演習B** **中国古典演習C**	**中国古典演習A** **日本語学演習A** **日本語学演習B** 古典文学演習B 古典文学演習D 近代文学演習B	**日本語学演習C** 古典文学演習A 古典文学演習C 古典文学特殊演習 近代文学演習A 近代文学演習C 近代文学特殊演習	研究法Ⅰ 日本語学 古典文学 近代文学 中国古典学 国語科教育 日本語教育 のうちいずれか	研究法Ⅱ 日本語学 古典文学 近代文学 中国古典学 国語科教育 日本語教育 のうちいずれか		
			児童文学	**現代文化論** **言語科学と教育**	**近代文学と国語教育**	**日本語音声** **文献講読Ⅰ** **文献講読Ⅱ** **古典文学と国語教育** **漢字漢文教育論**		
SZ科目							卒業研究	
教育実習等	自己創造のための教育体験活動A・B・C（Ⅰ～Ⅲ）（選択）		介護等体験（社会福祉施設）		事前事後指導 9月：教育実習Ⅰ		6月：教育実習Ⅱ（選択） 教職実践演習	
教室行事	4月：オリエンテーション				1月：卒論発表会		12月：卒論提出 1月：卒論発表会	
その他			2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー		各自治体教師養成塾（埼玉県、千葉県　等）募集 9月：教師力養成特別講座（通称：万ゼミ）募集 新4年生対象教員就職セミナー		5月～：教員採用試験	

5．4年間の学習計画や進路（進学・就職）について

国語科を卒業した人の就職先を大別すると，教職と教職外に分けられます。また本学や他大学の大学院に進学する人もあります。ここ数年，小学校教員の採用数は増加の傾向にあります。3年生の春学期に募集のある東京教師養成塾に応募し，東京都の教員に採用された人もいます。中学校・高等学校も少しずつではありますが，採用数が増える傾向にあります。ただし高等学校の教員については最近大学院修了者を採用するところが増えていますので，そのことを念頭において進路を考えることが必要です。教職外では企業・公務員として就職する人もあります。

中等教育専攻（B類） 社会コース

1. コースの目的・目標

B類社会コースは，1学年25名，総数では100名に及ぶ学生が所属し，A類社会コースとともに社会科教室を構成しています。本コースは，主として中学校・高等学校の社会科教員をめざす学生が，社会のしくみと原理について確実で専門的な知識を習得し，社会について学問的に考える能力を養うこと，またそれをもとに生徒の社会への関心を高め，公民的資質の基礎を養成できる人材，いいかえれば「社会と社会科に強い中学・高等学校教員」になることができる人材を育成することを目的としています。

2. カリキュラムの特色と構造

社会科は人文科学，社会科学，社会科教育学の3つの領域にまたがり，範囲が非常に広い教科です。社会科の各専門領域について深く勉強し，また多面的な理解と視野を育て，かつ教科の指導方法や指導能力を身につけるために，社会科教室は歴史学，地理学，哲学・倫理学，法学・政治学，経済学，社会学，社会科教育学の7つの分野から構成されています。社会科教室には合わせて24名の教員が所属し，教育と研究に従事しています。

B類社会コースのカリキュラムの構造は，同じ社会科教室を構成しているA類社会コースのカリキュラムと似ています。まず１年次の春学期に「全学共通入門セミナー」，「コース別入門セミナー」（S）を履修し，高等学校までとは異なる大学での（そして学芸大社会科教室での）勉学の方法について学びます。あわせて1・2年次を中心に，必修の概論科目(S)を履修し，社会科の基礎的な概念や考え方を学びます。特に1年次には，2年からの本格的な分野分けにそなえ，卒業までにどういう領域やテーマを深く学びたいのかじっくり考えてください。2年以降は，7つの分野のいずれかに所属します。所属分野を基盤にして，大学院生や上級生と交流を図りつつ，各分野の特色ある「選択科目」(SA)を中心に履修するほか，ゼミナールでの活動，自主的な勉強会，卒業論文の作成などを進めます。この方式は学生が社会科の指導法や指導能力を身につけるだけでなく，専門知識を基礎とした実践的な応用力を獲得することを目的としています。これと並行して，社会科共通の「教育内容科目」（SE）を履修し，中等社会科・地理歴史科教育法、中等社会科・公民科教育法（専攻科目のなかの「教科の指導法」）とはまた別の観点から社会科独自の考え方や教育にかかわる方法論，技術などを学び，教員として将来応用できる実践力を養います。

本コースのカリキュラムの重要な特色は，演習を中心とする少人数教育です。毎週のゼミでは教員や仲間と議論しながら学問の楽しさを実感できるでしょう。分野によっては野外での実地調査を行います。2年では各分野の基礎的な演習，3～4年ではより高度なレベルの演習に参加し，卒業論文の準備をしながら研究を進めます。4年次には約1年かけて，学生生活の集大成となる質の高い卒業論文の完成をめざします。

B類の学生は中学・高校で特定の教科・科目を教える教員をめざすので，コースの教科および指導法について高度な専門性を求められています。それは卒業要件を満たす単位数の中に占める専門教科の比率が高いことにも表れています。皆さんは中学や高校時代の先生が「なんて博学で，深い見識をもっているのだろう！」と驚き，その先生に影響を受けて，「地理を勉強したい」「歴史学者になりたい」「倫理の先生になりたい」などと思ったことがあるかもしれません。そうした教科の専門性を育て，生徒の鋭い知的関心を大いに伸ばせるような指導力を養ってほしいと思います。

3. 履修の方法

B類社会コースは中学社会科，高校地理歴史科・公民科の教育職員免許状取得を中心にカリキュラムが構成されています。教員免許取得に必要な科目のアウトラインは教育職員免許法及び同法施行規則によって定められていますが，B類の卒業要件を満たすように履修していけば必要な単位が修得できるようになっています。なお「社会科カリキュラム論」「社会科教材論」の2つは，教科と教職の両方にかかわる本学独特の科目で必修になっています。

4. 社会科各分野の特色紹介

【歴史学分野】 歴史学には教員が 6 名います。日本史・外国史それぞれの様々な地域や時代を専門に研究することができます。学生・院生に教員が加わった自主ゼミが7作られており，ゼミでの活動を通じて，論文の読み方，卒論テーマの選択など正規のカリキュラムを補う様々な技術を学ぶほか，くずし字で書かれた古文書解読や何千年も前に書かれた文章にふれるなど，ふだん味わえない知的な体験ができます。さらに教員・学生・院生に卒業生も加わった「東京学芸大学史学会」という学会が組織されており，史跡・博物館などの見学や第一線で活躍されている研究者を招いての講演会・シンポジウムなどが行われています。

【地理学分野】 自然地理学・人文地理学・地誌学の三分野からなり，自然環境から経済・社会・文化・歴史など非常に幅広い領域を含みます。特に地域・社会における観察や実地調査などのフィールドワークを重視しています。3年次の「臨地研究演習」は自分の研究テーマに沿ってフィールドワークを行い，卒業研究につなげる実践的科目です。正規の授業のほかに学生・院生・教員による自主ゼミナールが毎週開かれ，活発な議論がかわされています。地理学を通じて得た経験は教育現場での教材開発や地域学習，行政や企業での企画調査にも生かすことができます。さらに教員・在校生・卒業生で構成する「東京学芸大学地理学会」が組織され，毎年講演会，談話会や巡検を実施し，その成果を機関誌「学芸地理」で発表しています。

【哲学・倫理学分野】 哲学は「人間いかに生きるべきか」という根源的な問題を考える学問です。本分野では社会科教室所属の教員のほか，他課程の教員の指導も含めて，日本・中国・インド・イスラム・ヨーロッパなど，古今東西の思想・哲学にわたって幅広い学習をすることができます。また倫理学・宗教学も含まれていますので，道徳教育や宗教教育の研究も可能です。教育の荒廃が大きな社会問題になっている今日，先哲の教えを参考にしながら教育の本質や理念を深く考えることは極めて重要といえましょう。環境倫理や生命倫理，比較文化・思想に関心のある学生も歓迎します。本分野では原典で学習をする機会があり，熱意さえあれば普通学習する機会の少ないサンスクリット語や古典中国語（漢文）などの学習もできます。

【法学・政治学分野】 法学・政治学は，大きく法律系と政治系に分かれています。法律学のうち，私法学は市民の財産関係と家族関係を律する法を，公法学は公共団体（国家・自治体など）と市民および公共団体相互の関係を律する法を対象にします。政治学は政治権力の獲得・行使に関するルールと活動，統治（ガバナンス）のシステムと市民の参加を対象にします。法律系の演習では，判例の研究を通じて紛争がどのように法的に解決されているかを学び，法解釈の技術を身につけます。政治系の演習では国内・国際政治の諸事象をテーマに，政治学の分析方法とセンスを養います。国民の権利意識が高まり，法教育が推進される今日，教員を志望する人が法学・政治学を学ぶ意義は高まっているといえるでしょう。

【経済学分野】 経済学は現代社会の経済・経営の側面を解明する学問です。日本経済は国際化，情報化，少子高齢化，雇用流動化など大きな構造変化を迎えています。私たちの日常生活，学生生活にも経済的な要因が中心的な作用を及ぼしているのはいうまでもありません。本分野では他課程の教員も含めて，財政学，金融，社会保障，国際経済，環境経済，労務管理などを学ぶことができます。経済学・経営学は対象が明確で，数量化されたデータを扱い，分析の論理と方法論を重視します。体系的な訓練によって分析手法を身につければ，それによって客観性のある確実な経済分析をすることができます。卒業後の進路は小中高の教員のほか，公務員，民間企業，大学院進学など多岐にわたっています。

【社会学分野】社会学の面白さは，様々な社会現象や社会問題に関して，人々が「なぜそのようなことをしているのか」，「他の人がそれをどのように受け止めているのか」を問い，理論研究とともに，フィールドワーク・インタビュー・アンケート調査・文献調査などから得た色々なタイプのデータを用いて，多面的に考えられる点にあります。具体的には，コミュニケーション・家族・地域といった小学校・中学校の社会や高校の現代社会の内容に密接に関わる領域に加え，アイデンティティ・グローバル社会・情報社会など今日の社会の先端的な動向や，まちづくり・景観・NPO・DV・逸脱といった実践的なテーマを深く学ぶとともに，このような幅広い視野から児童・生徒や教師，学校，教育制度のあり方を考えていくことができます。3 年生から始まる演習形式の授業や

分野行事などを通じて，学生どうしや教員と学生とのコミュニケーションを図ることを大切にし，教員や社会人として求められる自分自身のものの見方や考え方を構築することをめざします。

【社会科教育学分野】 社会科教育学は，専門科学の成果を基礎として，児童・生徒の社会認識を実際どのように養っていくかという教育的課題を追究します。具体的には社会科の学習指導法，教材の開発，授業分析など，教育実践と深くかかわる領域を研究しています。また小学校の生活科，高校の地理歴史科，公民科，さらに国際理解教育，多文化教育，環境教育，平和教育，人権教育などの新しい課題にも積極的に取り組んでいます。教員と学生，学生相互の交流が盛んで，きめ細かい指導，学生の主体的な共同学習と人間的啓発が行われています。毎年夏期には全学年が参加して特定地域の社会事象をテーマ別に調査し，それをもとに授業づくりの演習を行う「社会科地域教材論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を合宿集中授業で行い，社会科教師に不可欠な地域調査の方法を学び，授業づくりの応用力を養います。分野の性格から，学生のほとんどが教職志望で，毎年多くの学生が教師となって巣立っています。

5．4年間の標準的履修モデル（コース内の行事予定）

表ではB類社会コースの専攻科目を中心にして，4年間の標準的な履修の流れを示しました。卒業に必要な単位を修得し，卒業要件である中・高等学校教員免許を取得するには，これ以外に教養科目（22単位），教育基礎科目（教育実習を含む29単位）をそれぞれの履修基準に従って履修し，最終的に128単位以上を取得する必要があります。

「SE科目」から「その他」までの4項目は，B類社会コースの学生全員に共通の必修科目と主な教室行事です。必修のSE科目，S科目はできるだけ標準開設学期に，選択科目に優先して履修してください。

5番目の項目から下は，2年以降に所属する分野別に，主な選択科目と行事をあげています。自分の所属する分野の欄にある授業科目を中心に履修していきますが，選択科目は社会科共通なので，時間割の上で履修可能であればどの科目も履修できます。なお各分野で標準履修学期の厳守やその他の履修条件を定めている科目がありますので，分野のオリエンテーションには必ず出席し，その指示に従ってください。

学　年	1		2		3		4	
学　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
SE科目			社会科カリキュラム論			社会科教材論		
S科目	地理学概論Ⅰ・Ⅱ 日本史概論A～D 社会学概論 経済学概論 **全学共通入門セミナー** **コース別入門セミナー**	自然環境Ⅰ・Ⅱ 外国史概論A～D 哲学・倫理学・宗教学概論A・B 法学概論 政治学概論 社会科教育学概論（注1）		地誌学概論				
教育実習等	自己創造のための教育体験活動A・B・C（Ⅰ～Ⅲ）（選択）		介護等体験（社会福祉施設）		9月：教育実習Ⅰ（B類）		5～6月：教育実習Ⅱ（B類）（選択） 教職実践演習	
その他（コース共通）	（春学期） 4月：新入生研修 12月：分野分け説明会 1～2月：所属分野確定		（秋学期） 2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー		各自治体教師養成塾（埼玉県、千葉県　等）募集 （秋学期） 9月：教師力養成特別講座 （通称：万ゼミ）募集 新4年生対象教員就職セミナー		（春学期） 5月～：教員採用試験	

学　年	1		2		3		4	
学　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
歴史学分野 SA科目			歴史学概論 歴史学文献講読A･B･C 日本史研究A(隔年) 外国史研究B･C(隔年) 日本史研究と歴史教育A(隔年) 外国史研究と歴史教育B･C(隔年)	歴史学基礎演習A･B 日本史研究B･C(隔年) 外国史研究A(隔年) 日本史研究と歴史教育B･C(隔年) 外国史研究と歴史教育A(隔年)	日本史研究A(隔年) 外国史研究B･C(隔年) 日本史研究と歴史教育A(隔年) 外国史研究と歴史教育B･C(隔年) 日本史演習AⅠ,BⅠ,CⅠ,DⅠ,EⅠ,FⅠ(隔年) 外国史演習AⅠ,BⅠ,CⅠ,DⅠ,EⅠ,FⅠ(隔年)	日本史研究B･C(隔年) 外国史研究A(隔年) 日本史研究と歴史教育B･C(隔年) 外国史研究と歴史教育A(隔年) 日本史演習AⅡ,BⅡ,CⅡ,DⅡ,EⅡ,FⅡ(隔年) 外国史演習AⅡ,BⅡ,CⅡ,DⅡ,EⅡ,FⅡ(隔年)	(SZ)卒業研究 日本史演習AⅠ,BⅠ,CⅠ,DⅠ,EⅠ,FⅠ(隔年) 外国史演習AⅠ,BⅠ,CⅠ,DⅠ,EⅠ,FⅠ(隔年)	(SZ)卒業研究 日本史演習AⅡ,BⅡ,CⅡ,DⅡ,EⅡ,FⅡ(隔年) 外国史演習AⅡ,BⅡ,CⅡ,DⅡ,EⅡ,FⅡ(隔年)
歴史学分野 行事			4月各ゼミで歓迎会 東京学芸大学史学会		11月:東京学芸大学史学会 2月:卒業論文発表会への参加(全員参加)		11月:東京学芸大学史学会 2月:卒業論文発表会での発表(全員参加)	
地理学分野 SA科目		地理学研究法	地域調査法* 自然地理学実習Ⅰ･Ⅱ* 人文地理学研究 地誌学実習*	自然地理学研究 地理情報と地図**	臨地研究演習Ⅰ* 地誌学特論 人文地理学実習**	臨地研究演習Ⅱ* 地誌学研究 地理学特論	(SZ)卒業研究 地理学演習Ⅰ* ＊印は指定の学期に必ず履修する。**も指示があるので留意すること。	(SZ)卒業研究 地理学演習Ⅱ*
地理学分野 行事			4月:歓迎会 6月:学芸地理学会総会		4月:歓迎会 6月:学芸地理学会総会		4月:歓迎会 6月:学芸地理学会総会 2月:卒論発表会	
哲学･倫理学分野 SA科目			哲学基礎資料講読 宗教思想基礎資料講読	哲学史 宗教思想史	哲学･倫理学の諸問題 宗教思想の諸問題	哲学･倫理学基礎演習A･B(隔年) 宗教思想基礎演習A･B(隔年)	(SZ 卒業研究) 哲学･倫理学演習A･B(隔年) 宗教思想演習A･B(隔年)	(SZ 卒業研究)
哲学･倫理学分野行事			4月:歓迎会		1月:卒論構想発表会		11月:卒論中間報告 2月:卒論発表会	
法学･政治学分野 SA科目			国際関係論 民法A 刑法A	政治制度論 民法B 刑法B	法学政治学演習Ⅰ*	法学政治学演習Ⅱ*	(SZ 卒業研究)	(SZ 卒業研究)
			＊演習は卒業研究には必須･指定学期に履修					
法学･政治学分野行事			4月:歓迎会				7月:卒論中間報告 11月:卒論第2回中間報告 2月:卒論最終報告会	
経済学分野 SA科目			経済学基礎論	経済学基礎演習*	経済学演習AⅠ,BⅠ(隔年) 経済学応用論	経済学演習AⅡ,BⅡ(隔年)	(SZ 卒業研究) 経済学演習AⅠ,BⅠ(隔年)	(SZ 卒業研究) 経済学演習AⅡ,BⅡ(隔年)
			＊ 演習は卒業研究には必須					
経済学分野 行事			4月:歓迎会				卒論中間報告(7･11月)	卒論最終報告会(2月)

	1		2		3		4	
学　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
社会学分野SA科目			社会調査法Ⅰ 家族社会学* 都市社会学 *隔年開講	社会調査法Ⅱ ジェンダーの社会学*	社会学演習Ⅰ	社会学演習Ⅱ	(SZ)卒業研究	(SZ)卒業研究
社会学分野行事			4月:歓迎会		7月上旬:分野合宿			2月上旬:卒論発表会
社会科教育学分野SA科目			社会科地域教材論Ⅰ	社会科授業論	社会科地域教材論Ⅱ 多文化教育演習AⅠ,BⅠ(隔年) 地理教育演習AⅠ,BⅠ(隔年) 歴史教育演習AⅠ,BⅠ(隔年) 公民教育演習AⅠ,BⅠ,CⅠ,DⅠ(演習)	多文化教育演習AⅡ,BⅡ(隔年) 地理教育演習AⅡ,BⅡ(隔年) 歴史教育演習AⅡ,BⅡ(隔年) 公民教育演習AⅡ,BⅡ,CⅡ,DⅡ(隔年)	(SZ)卒業研究 社会科地域教材論Ⅲ 多文化教育演習AⅠ,BⅠ(隔年) 地理教育演習AⅠ,BⅠ(隔年) 歴史教育演習AⅠ,BⅠ(隔年) 公民教育演習AⅠ,BⅠ,CⅠ,DⅠ(演習)	(SZ)卒業研究 多文化教育演習AⅡ,BⅡ(隔年) 地理教育演習AⅡ,BⅡ(隔年) 歴史教育演習AⅡ,BⅡ(隔年) 公民教育演習AⅡ,BⅡ,CⅡ,DⅡ(隔年)
社会科教育学分野行事			東京学芸大学社会科教育学会例会(年3回)		東京学芸大学社会科教育学会例会(年3回)		東京学芸大学社会科教育学会例会(年3回)	

(注1)社会科教育学概論はカリキュラム上選択科目Aであるが、必修科目に准じて履修することが望ましい。

＊ 社会科必修科目(S)だけでは高等学校地理歴史科・公民科の免許取得に必要な条件を満たしていません。選択科目(SA)を利用して必要単位を履修してください。

＊ いわゆる「介護等体験特例法」により，小・中学校教諭の普通免許状を取得するには，7日間以上の介護等体験をする必要があります。学校教育教員養成課程では2年次に実施します。指定されたスケジュールに従って必ず介護等体験を行ってください。

＊ B類生が小学校教員免許を取得するには，「各教科の指導法」の科目をA類生と同様に履修し，小学校で教育実習を行う必要があります。小学校の「各教科の指導法」20単位分は，「自由選択」8単位に算入することができ、「自由選択」を超える分は卒業に必要な単位に上乗せで履修することになります。

6. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

B類社会コースでは東京都や各地の中学校教員や高等学校教員が一般的な進路です。中学校・高校教員は高度な専門知識と指導力を求められるので，本学の教職大学院や他大学の大学院へ進学してさらに研鑽を積む学生も数多くいます。

中等教育専攻(B類) 数学コース

1. コースの目的・目標

数学科教室は，学生の数学的能力の育成と，中学校・高等学校教員としての資質の養成を目的とし，以下の事項を教育の目標とする。

(1) 中学校・高等学校の数学の内容を考察し，数学教育の理論と実践についての素養を身につける。
(2) 数学に対する興味と理解を深める。
(3) 数学を学ぶことによって，自然や社会に対して自らの頭で論理的に考える態度を育てる。

2. カリキュラムの特色と構造

数学は，一歩一歩階段を上るように学習を積み重ねていく学問である。数学科における各科目は，このことを考慮して１・２年次に集合と論理，線形数学，微分・積分，代数学，幾何学，確率・統計等の数学の基礎となる科目，３・４年次に代数学特論，幾何学特論，解析学特論，確率論特論等のさらに高度な数学の科目とカリキュラムや指導法に関する数学教育の科目を，「教育内容科目(ＳＥ)」，「必修科目(Ｓ)」，「選択科目Ａ(ＳＡ)」に配置してある。４年次での卒業研究では，数学，数学教育から選択した分野内の１つのテーマについてより深い専門的な学習をする

3. 履修の方法

(1) 教育内容科目(SE)のうち，「数学カリキュラム論」「数学科教材論」の2つの授業科目は必修なので，4 単位を必ず修得する。
(2) 数学科の専攻科目はすべて標準履修学期に履修すること。上位学年の科目を履修する事はできない。
(3) 卒業研究を履修するためには必修科目(S科目)の「全学共通入門セミナー(1単位)」，「コース別入門セミナー(1単位)」，「線形数学Ⅰ(2 単位)」，「線形数学Ⅱ(2 単位)」，「微分・積分学Ⅰ(2 単位)」，「微分・積分学Ⅱ(2 単位)」，「解析学Ⅰ(2単位)」，「代数学Ⅰ(2単位)」，「幾何学Ⅰ(2単位)」，「確率・統計Ⅰ(2単位)」の合計18単位をすべて修得していなければならない。
(4) 小学校教員免許状の取得については，スタディガイドの**学校教育教員養成課程学生のための教員免許状の取得方法**を参照して下さい。
(5) 4年次(秋学期)には，教育基礎科目の必修科目として「教職実践演習」を履修する。

4. 4年間の標準的履修モデル

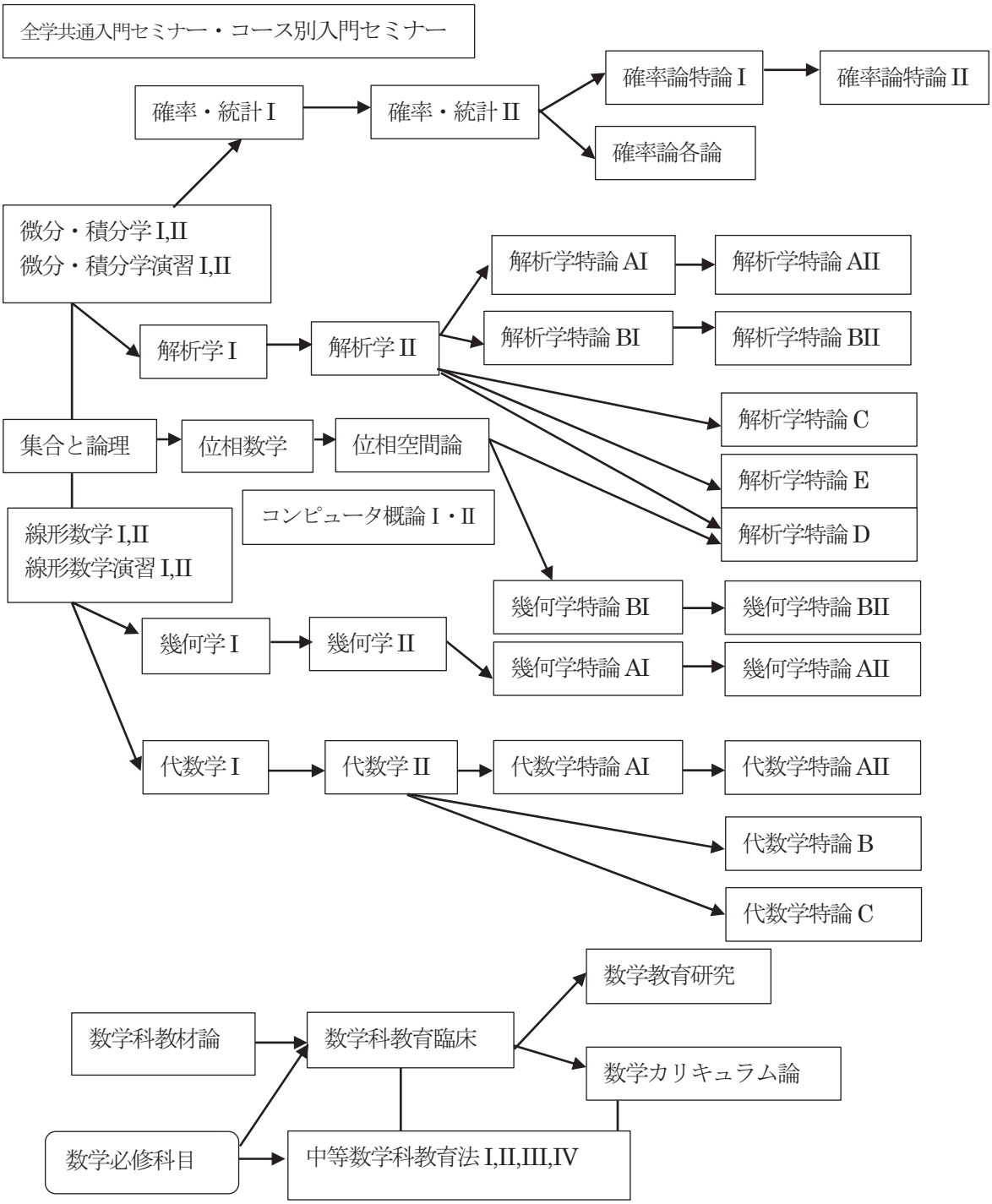
学年	1		2		3		4	
学期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
必修	微分・積分学Ⅰ 線形数学Ⅰ 全学共通入門セミナー コース別入門セミナー	微分・積分学Ⅱ 線形数学Ⅱ	代数学Ⅰ 幾何学Ⅰ 解析学Ⅰ 確率・統計Ⅰ	代数学Ⅱ 幾何学Ⅱ 解析学Ⅱ 確率・統計Ⅱ		コンピュータ概論Ⅰ・Ⅱ	卒業研究	
SE科目				数学科教材論		数学カリキュラム論		
SA科目	微分・積分学演習Ⅰ 線形数学演習Ⅰ 集合と論理	微分・積分学演習Ⅱ 線形数学演習Ⅱ 位相数学	位相空間論		代数学特論ＡⅠ 代数学特論Ｂ 幾何学特論ＡⅠ 幾何学特論ＢⅠ 解析学特論ＡⅠ 解析学特論ＢⅠ 解析学特論Ｃ 解析学特論Ｅ 確率論特論Ⅰ 数学科教育臨床	代数学特論ＡⅡ 代数学特論Ｃ 幾何学特論ＡⅡ 幾何学特論ＢⅡ 解析学特論ＡⅡ 解析学特論ＢⅡ 解析学特論Ｄ 確率論特論Ⅱ 確率論各論 数学教育研究		
					上記から専門に合わせて2～4科目		3年次のSA科目のうち未履修科目	
教育実習	自己創造のための教育体験活動Ａ・Ｂ・Ｃ（Ⅰ～Ⅲ）（選択）				9月:教育実習Ⅰ(事前・事後指導、教育実地研究)	2 月:教育実習(選択・初等)	5～6 月:教育実習Ⅱ(選択)	教職実践演習
ET			中等数学科教育法Ⅰ	中等数学科教育法Ⅱ	中等数学科教育法Ⅲ	中等数学科教育法Ⅳ		

その他		2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー	各自治体教師養成塾(埼玉県、千葉県 等)募集 教師力養成特別講座(通称:万ゼミ)募集 新4年生対象教員就職セミナー	5月～:教員採用試験

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

卒業要件をみたせば，中学校教諭一種免許状，高等学校教諭一種免許状を取得することができる。教育界のみならず一般社会において数学的能力をもった人が必要とされている。数学科で勉強したことを生かして，全国の公立および私立の小，中，高等学校教員になる卒業生が圧倒的に多いのはもちろんだが，大学院へ進学する人もいる。国家公務員，地方公務員になる人や，一般企業では情報・通信関連企業，銀行，各種メーカー等に進む人など多彩である。

中等教育専攻（B類）数学コース



中等教育専攻（B類） 理科コース

1. コースの目的・目標

本学中等教育専攻（B類）理科コースは，中学校，高等学校または中高一貫校の理科教員の養成を目的としている。カリキュラムの目標として，共通科目，教育基礎科目や自由選択科目の履修を通じ，幅広い教養を身につけ，現代的教育課題や教職への高い意識を養い，専攻科目の履修を通じ，深い専門性を身につけることを目指している。教員免許状としては，中学校教諭一種免許状（理科）と高等学校教諭一種免許状（理科）が取得できる。

2. カリキュラムの特色と構造

理科教室が開設する科目群は，理科に関わる全領域と理科教育学にわたり，「教育内容科目」と「専攻に関する科目」に分類される。自然科学を理解するための学習方法には特質ある取り組み方が知られている。その一般的な取り組み方は，高等学校までの学習を基盤とし，大学として基本的事項の整理から始め，段階を経て徐々に専門性を高めていき，高度な内容へと発展させていくものである。理科教室の科目群はこの特質を考慮して学期配列されている。

B類理科コースでは，1年次に物理学教室・化学教室・生物学教室・地学教室のいずれかに配属される。基本的事項として開設する物理学・化学・生物学・地学・理科教育学の全分野にわたる「専攻に関する科目」には，理科の4分野の名称（以降「～」）を冠する必修科目「～実験」4科目及び「～概論Ⅱ」4科目がある。また「全学共通入門セミナー」，「コース別入門セミナー」も1年次に履修する。これら基本的・基礎的内容の学びの上に，主に2年次以降，「教育内容科目」とともに，より専門的な内容の「専攻に関する科目」の選択科目が理科の4分野及び理科教育学分野に体系立てて用意されている。「教育内容科目」の単位数は4単位，「専攻に関する科目」の単位数は 42 単位以上であり，高度で豊かな自然科学の知識・技能を習得できる。「専攻に関する科目」には，講義以外に，実験・実習・演習という形態で開設される科目があることは理科のカリキュラムの特徴である。

3年次には研究室に配属される。必修である「卒業研究」は，配属された研究室の教員のもとで理科の各分野の専門的な研究を行い，大きく成長を遂げる。これまでの科目群での学びの上に「卒業研究」に取り組むというカリキュラムの全体が，専門性に基づいた教員養成課程を構成している。

3. 履修の方法

（1）教育内容科目（SE）

SE科目として 2 科目を開設する。「理科カリキュラム・教材開発基礎 A」，「理科カリキュラム・教材開発基礎 B」の 2 科目両方を必ず履修すること（必修）。

（2）卒業研究

（物理学教室）

卒業研究は3年次から配属される研究室毎に実施する。卒業研究には次の専門科目，すなわち「自然科学のための数学A・B」，「数理物理学Ⅰ・Ⅱ」，「力学Ⅰ・Ⅱ」，「電磁気学Ⅰ・Ⅱ」，「熱力学」，「統計力学」，及び「量子力学Ⅰ・Ⅱ」を履修しておくことが望ましい。特に，「自然科学のための数学A・B」を1年次に，「数理物理学Ⅰ・Ⅱ」を2年次に必修と思って必ず履修しておくことが非常に重要である。3年次には配属された研究室が開講している「専修物理学実験A・B」あるいは「専修物理学演習A・B」を履修し，4年次の卒業研究に備える。

（化学教室）

卒業研究には化学に対する幅広い知識と技能，深い理解が必要となるため，化学分野に開設されている専門科目は必修科目に準ずるものとして履修しておくことが重要であり，研究室配属においてはこれらの専門科目を全体に渡り履修しているかが考慮される。特に，Ⅳ期に開設される「物理化学実験」，Ⅴ期に開設される「無機分析化学実験」，「有機化学実験」を履修・単位を修得し，実験と安全に関する知識や技能を習得すること，「教職実践演習」の履修条件を満たしていることを卒業研究にとりかかるための要件としている。3年次に各研究室へ配属され，研究室のゼミに参加して研究内容に関連する基礎を学び，4年次に卒業研究を行う。

（生物学教室）

3年次から各研究室に配属されるが，そのためには必修科目の他に，選択科目（SA）に開設されている生物学分野の講義・演習・実験・実習を体系立て積極的に履修することが望まれる。Ⅲ期に開設される「生物科学方法論」は各研究室で行われている研究内容を解説しているので，卒業研究にとりかかるための参考になる。

（地学教室）

3年次に各研究室へ配属され，そこで卒業研究を行う。それぞれの研究室で行われるゼミや巡検とは別に，必修科目はもちろん，選択科目（SA）に開設されている地学分野の講義・演習・実験・実習を体系立って積極的に履修することが望ましい。なお，岩石鉱物学に興味のある学生は無機化学や物理化学などに関する科目を，地質古生物学に興味のある学生は生物学（系統学や生態学，分子生物学など）に関する科目を履修しておくことが重要である。また，天文学や地球物理学（気象学・地震学）に関心のある学生は，数学（「自然科学のための数学 A」「自然科学のための数学 B」「数理物理学 I」「数理物理学 II」）および物理学（力学，熱力学，電磁気学など）に関する科目を必修科目に準ずるものとして履修しておくことが重要である。

4．免許や進路について

〇取得する免許

中学校教諭一種免許状（理科），高等学校教諭一種免許状（理科）

〇単位修得を条件に取得可能な免許・資格（注）

幼稚園・小学校・特別支援学校教諭の一種免許状，司書教諭，司書，社会教育主事，学芸員など。

（注）履修方法によっては取得困難な場合もある。

◇進路

東京都他全国各地の公立および私立中学校あるいは高等学校，もしくは小学校，民間教育機関，博物館，民間企業への就職，もしくは大学院修士課程，教職大学院等への進学など。

5．4年間の標準的履修モデル（コース内の行事予定）

次頁以降の表を参照されたい。

4年間の標準的履修モデル

学年	1		2		3		4	
学期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
SE科目			理科カリキュラム・教材開発基礎A 理科カリキュラム・教材開発基礎B					
S科目	物理学概論Ⅰ 化学概論Ⅰ 生物学概論Ⅰ 地学概論Ⅰ 理科実験〔注1〕 全学共通入門セミナー コース別入門セミナー	物理学概論Ⅱ 化学概論Ⅱ 生物学概論Ⅱ 地学概論Ⅱ 理科実験〔注1〕						
選択SA	理科コースの選択科目については下に示す。							
教育実習等	自己創造のための教育体験活動A・B・C（Ⅰ～Ⅲ）（選択）				事前・事後指導 9月：教育実習Ⅰ		5～6月 教育実習Ⅱ（選択）	教職実践演習
			介護等体験（社会福祉施設） 授業観察演習（Ⅲ）					
教室行事	所属教室決定（予定）							
その他			（秋学期） 2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー		各自治体教師養成塾(埼玉県、千葉県　等)募集 (春学期) 教員採用試験(大学3年生受験)〔注2〕 (秋学期) 教師力養成特別講座（通称：万ゼミ）募集 新4年生対象教員就職セミナー		（春学期） 教員採用試験〔注2〕	

注1　理科実験：Ⅰ期とⅡ期に物理学実験，化学実験，生物学実験，地学実験の4実験をすべて履修しなければならない。

注2　教員採用試験：自治体によって試験の内容や日程は異なるので，希望する自治体の詳細を確認すること。

理科コースの選択科目（ＳＡ）

１．領域ごとの科目群を下記の表に示す。学生は所属する教室の科目群を系統的に履修する。

学　年	1		2		3		4	
学　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
物理学の科目群	自然科学のための数学A	自然科学のための数学B	力学Ⅰ 電磁気学Ⅰ 数理物理学Ⅰ	力学Ⅱ 電磁気学Ⅱ 数理物理学Ⅱ 熱力学	量子力学Ⅰ 専修物理学実験A〔注3〕 専修物理学演習A〔注3〕 相対性理論（奇）〔注4〕 統計力学（偶）〔注4〕	物性物理学 量子力学Ⅱ 専修物理学実験B〔注3〕 専修物理学演習B〔注3〕	相対性理論（偶）〔注4〕 統計力学（奇）〔注4〕	

学　　年	1		2		3		4	
学　　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
化学の科目群			物理化学Ⅰ 無機化学Ⅰ 有機化学Ⅰ	物理化学Ⅱ 無機化学Ⅱ 有機化学Ⅱ 物理化学実験	無機分析化学実験 有機化学実験 物理化学Ⅲ 無機化学Ⅲ 有化機学Ⅲ	化学演習Ｂ（奇） 化学演習Ｄ（偶）	化学演習Ａ（奇） 化学演習Ｃ（偶）	化学演習Ｂ（奇） 化学演習Ｄ（偶）
生物学の科目群			生物科学方法論 生態学 分子生物学 系統学	生物学野外実習（集中） 統合生命科学セミナー 現代生命科学AI	植物生理学 生物学特別演習AI（奇） 生物学特別演習BI（偶） 現代生命科学BI	動物生理学 生物学特別演習AII（奇） 生物学特別演習BII（偶） 現代生命科学AII	生物学特別演習AI（奇） 生物学特別演習BI（偶） 現代生命科学BII	生物学特別演習AII（奇） 生物学特別演習BII（偶）
地学の科目群	自然科学のための数学A	自然科学のための数学Ｂ	地球物理学概説A 地球科学Ａ	宇宙地球と生命 地球物理学概説Ｂ 地球科学Ｂ	宇宙物理学 地球物理学 地球科学実験 地学特別演習A	地球科学野外実習(集中) 天文学実験 地球物理学実験 地学特別演習Ｂ		

注３：専修物理学実験Ａ・Ｂあるいは専修物理学演習Ａ・ＢをⅤ期からⅥ期に履修することが望ましい。

注４： 統計力学（偶数年開講）と相対性理論（奇数年開講）は隔年開講。

２．理科教育学の科目群

学　　年	1		2		3		4	
学　　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
理科教育学の科目群	現代社会における理科教育		自然探究実践法 海洋科学教育	理科学習評価論	理科学習指導論 理科教育学概説			

中等教育専攻（B類） 音楽コース

1. コースの目的・目標

教員養成を主たる目的として設置されている専攻であり，基本的に中学校・高等学校の教員を養成するカリキュラムが組まれています。東京学芸大学のB類音楽コースは全国の教員養成系大学の中で最も多いスタッフを抱え，専門性の高い教師を目指すために，ふさわしい充実したカリキュラムが組まれています。これらを通じて音楽教育の理論と実践について高い素養を備えた人材の育成を目指しています。

2. カリキュラムの特色と構造

音楽コースのカリキュラムは，中等教育に関わる音楽全般の基礎的な知識と技能の習得と，各人の専門分野の深化という，ふたつの目的が達成できるように構成されています。

第1年次で，中等教育教員として必要な基礎的な知識と技能を幅広く習得します。第3年次からは，各自の専門領域を高めるために，6つの分野（声楽，ピアノ，管弦打，作曲，音楽学，音楽教育）から一つを選択し，各分野を中心に卒業研究を完成させます。

3. 履修の方法

○教育内容科目（SE）

「音楽科カリキュラム論 B」「音楽科教材論 B」は中等音楽教育の基礎的な科目であり，現代のニーズに応じた科目です。2科目4単位を必ず修得して下さい。

○専攻に関する科目（S，SA）

音楽科の必修科目（S）として19単位を必ず修得して下さい。

選択科目（SA）は，「邦楽歌唱法A」又は「邦楽歌唱法B」のいずれか1科目1単位，「吹奏楽」「オーケストラ」のいずれか1科目1単位，「和楽器A」「和楽器B」「和楽器C」「和楽器D」から1科目1単位を含めて23単位以上を修得して下さい。

○卒業研究（SZ）

音楽コースでは3年次から，6つの分野（声楽，ピアノ，管弦打，作曲，音楽学，音楽教育）よりひとつを選択し，卒業研究として継続的に研究を行います。選択した分野の以下の卒業研究に関する授業科目を履修して下さい。

声楽：声楽実技Ⅰ・Ⅱ，　ピアノ：ピアノ実技Ⅰ・Ⅱ，　管弦打：管弦打実技Ⅰ・Ⅱ，吹奏楽およびオーケストラのうちいずれか　作曲：作曲研究A・BまたはC・D，　音楽学：音楽学基礎研究A～C，音楽学研究A～C，　音楽教育：音楽教育特別研究A～Cより2科目以上。

4. 進路（就職・進学）について

音楽科教室では，授業に関連して様々な自主ゼミや研究発表会（演奏会），各種音楽教育セミナー，教員就職のための講習会等を実施しています。そのような行事等に主体的に参加して学習を深めることも，自身のキャリアを築いていくためには重要です。

進路としては，中・高等学校の音楽科教諭，小学校の音楽専科教諭，民間企業等の他，大学院，留学，研究生等，進学して研鑽を積む学生もいます。

5. 4年間の標準的履修モデル(コース内の行事予定)

中等教育専攻　音楽コース　(B類音楽　卒業研究にピアノを選択にした例)

学　年	1		2	
学　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
専攻SE科目				音楽科教材論Ｂ
S科目	基礎声楽実技Ⅰ 基礎ピアノ実技Ⅰ 基礎管弦打実技Ⅰ 作曲法Ⅰ 音楽学概論A 合唱 ソルフェージュⅠ 全学共通入門セミナー コース別入門セミナー	基礎声楽実技Ⅱ 基礎ピアノ実技Ⅱ 基礎管弦打実技Ⅱ 作曲法Ⅱ 音楽学概論B	指揮法	
SA科目		ソルフェージュⅡ	基礎声楽実技Ⅲ 基礎ピアノ実技Ⅲ 基礎管弦打実技Ⅲ 邦楽歌唱法または和楽器	基礎声楽実技Ⅳ 基礎ピアノ実技Ⅳ 基礎管弦打実技Ⅳ 和楽器または邦楽歌唱法
教育実習				
教室行事	教員志望者講演会		教員志望者講演会	
その他			2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー	

学　年	3		4	
学　期	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
専攻SE科目		音楽科カリキュラム論Ｂ		
S科目		音楽学概論CⅠ・CⅡ		
SA科目	ピアノ実技Ⅰ オーケストラまたは吹奏楽 音楽教育特別研究Ａ 民族音楽演習Ａ･Ｂ リトミック演習	ピアノ実技Ⅱ 音楽教育特別研究Ｂ･Ｃ ポピュラー音楽演習 音楽療法概説		
教育実習	事前事後指導 9月:教育実習Ⅰ(附属)		5～6月:教育実習Ⅱ(協力校)	教職実践演習
教室行事	教員志望者講演会		教員志望者講演会	
その他	オーケストラ, 吹奏楽の演奏会 各自治体教師養成塾(埼玉県、千葉県　等)募集 教師力養成特別講座(通称:万ゼミ)募集(9月) 新4年生対象教員就職セミナー		5月～:教員採用試験	

中等教育専攻（B類） 美術コース

1. コースの目的・目標

B類美術コースでは，中学校の美術や高等学校の美術・工芸の優れた教員の養成を目的にしています。大学生活の4年間に，中・高の美術や工芸の学習内容や指導法を習得しながら，美術や工芸の高度で専門的な実技や理論を学ぶことによって，中学校や高等学校の生徒たちに求められる豊かな感性と創造力を育むための表現力，鑑賞力，コミュニケーション能力を身につけることが目標です。

2. カリキュラムの特色と構造

美術科は，絵画，彫刻，デザイン，工芸，造形芸術学，美術科教育学の6つの領域から構成されています。その中心になる専攻科目の授業がS科目（必修科目）とSA科目（選択科目）です。S・SA科目の授業は，関心を持った領域を1つ選んで，段階的に知識と能力を伸ばしながら，美術と教育への理解を深めることができるよう工夫されています。

1年次は，まず，それぞれの領域の基礎力を養うため，春学期と秋学期に集中的にS科目を履修します。この間に，自分がどの領域に関心を持てるか，いろいろ試してみることがポイントです。

2年次から 3 年次にかけて，どれか1つの領域を選んでSA 科目「美術演習 ＡⅠ・AⅡ（偶数年）」及び「美術演習ＢⅠ・BⅡ（奇数年）」を履修します。専門的な知識と能力を段階的に身につけていくのが目的です。最後に，卒業研究に進みます。自分の関心を専門的な知識と能力に結びつけ，研究テーマを深めていくのが目的です。また，美術科教育学の学習をより深めたい人や美術科教育学の領域で卒業研究を行いたい人は，1年次にSA科目「美術科教育演習 Ⅰ・Ⅱ」を，2年次にSA科目「美術科教育演習Ⅲ・Ⅳ」を履修します。この他にもSA科目（選択科目）が開講されています。自分の実力の幅を広げるため，関心に応じて積極的に履修することを勧めます。

3. 履修の方法

（1）教育内容科目（SE）の履修

教育基礎科目と専攻科目の橋渡しをする大事な科目です。2 科目すべてを履修してください。

（2）教育基礎科目

教職に関する基本的な科目です。2～3年次に「中等美術科教育法Ⅰ～Ⅳ」を，4年次の秋学期に「教職実践演習」を履修します。また，高校工芸の免許取得には2年次に「中等工芸科教育法Ⅰ・Ⅱ」を履修します。

（3）卒業研究

卒業研究（必修4単位）は，最終年次に行なう4年間の学習成果の集大成です。6つの領域（絵画，彫刻，デザイン，工芸，造形芸術学，美術科教育学）のなかから領域を1つ選んで研究テーマを決め，教員の指導を受けながら作品を制作したり論文を作成したりします。成果は卒業制作展や論文発表会で公表します。できるだけ早めに自分に合った研究テーマを見つけることがポイントです。

4．4年間の標準的履修モデル（コース内の行事予定）

学　年	1		2	
学　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
SE科目 （必修）				美術科教材論
S科目 （必修）	絵画基礎Ⅰ 彫刻基礎Ⅰ デザイン基礎Ⅰ 工芸基礎Ⅰ 全学共通入門セミナー コース別入門セミナー	絵画基礎Ⅱ 彫刻基礎Ⅱ デザイン基礎Ⅱ 工芸基礎Ⅱ 西洋美術史概論	日本東洋美術史概論	
主な SA科目 （選択）	美術科教育演習Ⅰ	図法・製図 図画工作・美術科基礎 美術科教育演習Ⅱ	美術演習ＡⅠ（偶数年） 美術演習ＢⅠ（奇数年） 絵画演習A 彫刻演習A 工芸演習A・D 工芸・デザイン理論 美術科教育演習Ⅲ	美術演習ＡⅡ（偶数年） 美術演習ＢⅡ（奇数年） 絵画演習B・C 彫刻演習B デザイン演習Ａ 工芸演習C・E 美術史演習Ｃ 生産工芸実地研修（集中） 美術史実地研修（集中） 美術科教育演習Ⅳ 現代美術史概論
教育実習	自己創造のための教育体験活動A・B・C（Ⅰ～Ⅲ）（選択）			
教室行事	6・11月：「先輩に聞こう」		6・11月：「先輩に聞こう」	
その他			介護等体験（社会福祉施設） 2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー	

学　年	3		4	
学　期	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
SE科目		美術科カリキュラム論		
S科目		美学	（SZ　卒業研究）	（SZ　卒業研究）
主な SA科目 （選択）	美術演習ＡⅠ（偶数年） 美術演習ＢⅠ（奇数年） デザイン演習Ｂ 工芸演習Ｂ	美術演習ＡⅡ（偶数年） 美術演習ＢⅡ（奇数年）	美術史演習A（奇数年） 美術史演習B（偶数年）	
教育実習	9月：教育実習Ⅰ		5～6　月：教育実習Ⅱ（選択）	教職実践演習
教室行事	6・11月：「先輩に聞こう」		8月：教員採用試験面接・実技対策ゼミ	
その他	各自治体教師養成塾（埼玉県、千葉県　等）募集 9月：教師力養成特別講座（万ゼミ）募集 新4年生対象教員就職セミナー		5月～：教員採用試験 10月：大学院入試	

5．4年間の学習計画や進路（進学・就職）について

1・2年次は，学外の教育ボランティアや各種のボランティア活動に積極的に参加することを勧めます。見聞を広めることによって，自分なりの教育観を養うことができます。

3・4年次には教育実習が行なわれます。3年次は，9月に附属中学校で「教育実習Ⅰ」を経験します。実習を履修する前年度終了時までに決められた単位を修得しないと教育実習に参加できないので注意が必要です。4年次は，5〜6月に中学・高校で「教育実習Ⅱ」を経験します。実習を終えると7月には各都道府県の教員採用試験があります。3年次から計画的に準備をして，試験に臨むことが必要です。

「教育実習Ⅱ」は選択ですが，教員を目指す方は極力受講するようにしてください。

卒業後は，中学校の美術や高等学校の美術・工芸の教員になる人，教職大学院へ進学する人などがいます。この他の進路に民間企業や公務員などがありますが，どの場合も，美術の魅力を人に伝えられる真の実力を備えた，教育に強い専門家として活躍することが期待されています。

中等教育専攻（B類） 保健体育コース

1. コースの目的・目標

優れた中学校・高等学校の保健体育科教員を養成することを目指しています。そのために，中・高等学校に求められる基本的な資質に加え，特に保健体育の授業や運動の指導に関して高度な専門性を身につけることを大きな目標にしています。

2. カリキュラムの特性と構造

保健体育科の専門領域には，「運動学」「体育学」「健康科学」「体育科教育学」という大きく分けると４つの学問領域があります。カリキュラムに開設されている科目は，それぞれこれらの領域と深く関わっています。

皆さんは先ず，必修科目（S）や選択科目（SA）の1～2年次に開講されている講義や実技を履修しながら，運動・スポーツや体育に関わるどのような領域に特に関心が持てるかを探っていきましょう。そして，自分が興味を持てる領域が見えてきたら，その領域に関連する科目を積極的に加えながら，自ら学習を深めていってください。

また，B類コース生が小学校ほかの副免許取得を希望する場合は，取得に必要な指定科目を加えて履修する必要がありますので注意してください。

3. 履修の方法

（1）教科内容科目（SE）

「保健体育科教材研究 B」「保健体育科カリキュラム開発論 B」の2科目4単位を必ず修得してください。

（2）卒業研究（SZ）

4年次になると，大学での学習の言わば総まとめとなる必修の卒業研究があります。どの領域の先生に指導を受けて論文を書いていくかは，おおよそ2年次の終わりまでに決められるとよいでしょう。3年次に進む際に，卒業研究を行うために所属する研究室の希望を出すことになるからです。３年次に開講される「保健体育科研究法 A」「保健体育科研究法 B」は、SA に分類されますが卒業研究に向けた研究室単位のゼミになりますので、必ず全員が履修、修得する必要があります。

日頃の学習の中で見出された学問的な関心を，関連する科目の履修で深めながら，徐々に卒業研究へと発展させていくことが望まれます。

4. 4年間の標準履修モデル（コース内の行事予定）

１年次：履修ガイダンス，チューター配当

Ⅰ期（春学期）

全学共通入門セミナー(S) / コース別入門セミナー(S)
体育原理ＢⅠ・BⅡ（S） / 陸上Ｂ(S)
器械運動Ｂ （S） / 体つくり運動Ｂ(S)
水泳Ｂ(S)
解剖生理学（SA) / 体育史（SA） 他

→

Ⅱ期（秋学期）

学校保健学ＢⅠ・BⅡ(S) / ダンス （S) /
バレーボールＢ(S) / サッカーB (SA)
体育・スポーツ心理学(SA) / スキー（SA 集中）
学校安全・救急処置（SA)
他

研究室仮所属希望調査

２年次：履修ガイダンス，研究室仮所属

Ⅲ期（春学期）

運動生理学ＢⅠ・BⅡ(S) / 柔道Ｂ(S) / 剣道Ｂ(S)
衛生・公衆衛生学ＢⅠ・BⅡ(S) / ソフトボールＢ(S)
ｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞｽﾎﾟｰﾂ（SA 奇）/ ﾀﾞｲﾊﾞｰｼﾃｨとｽﾎﾟｰﾂ（SA 偶）
野外環境教育学（SA) / 野外環境教育学実習(SA 集中)
/ 体育・ｽﾎﾟｰﾂ統計学（SA）/ 体育科学習評価論（SA 偶）/ ｽﾎﾟｰﾂﾊﾞｲｵﾒｶﾆｸｽ（SA）教科教育・特活指導計画論（SA 奇） 他

→

Ⅳ期（秋学期）

保健体育科教材研究Ｂ(SE)
運動方法学総論ＢⅠ・BⅡ(S) / バスケットボールB(S)
ハンドボール（SA 奇）/ ラグビー（SA 偶）
体育・ｽﾎﾟｰﾂ社会学（SA）/ ｽﾎﾟｰﾂ動作分析法（SA）/
体育・ｽﾎﾟｰﾂ経営学（SA）/
保健体育科模擬授業演習Ｂ（SA） 他

研究室所属希望調査
2年生対象教員就職セミナー
新3年生対象教員就職セミナー

３年次：卒業研究室所属

Ⅴ期（春学期）

保健体育科カリキュラム開発論Ｂ(SE)
保健体育科研究法 A(SA)
保健体育・スポーツ専門英語演習（SA)
体育科指導演習（SA）/ 学校部活動総論（SA）
他

各自治体教師養成塾（埼玉県、千葉県 等）募集

→

Ⅵ期（秋学期）

保健体育科研究法Ｂ（SA）
体育理論（SA）／ ラケットスポーツ（SA）
他

教師力養成特別講座（通称：万ゼミ）募集
新4年生対象教員就職セミナー

実習事前の指導、**9～10 月：教育実地研究**、実習事後の指導

2 月：教育実習（選択・初等）

４年次

Ⅶ期（春学期）

卒業研究（SZ） 他

→

Ⅷ期（秋学期）

卒業研究（SZ）
教職実践演習 他

5～6 月：教育実習Ⅱ（選択）

5 月：教員採用試験

10 月：大学院（修士課程・教職大学院）入試

5. 4 年間の学習計画や進路（進学・就職）について

学習計画を立てるに当たり，大学での学習の重要な柱である教育実習をひとつの手がかりにするとよいでしょう。3年次の9～10月には，附属中学校・高等学校・国際中等教育学校で初めての「教育実地研究（教育実習）」が行われます。教育実地研究に参加するために必要な履修単位を確実に修得することは勿論，中・高等学校で教えることになる実技と保健に関する科目もできるだけ履修して実習に備える必要があります。また，3年次春学期開講の「教育実習の事前の指導」に合格しないと教育実地研究には参加できないことに特に注意してください。

3年次の2月には，小学校の副免許取得希望者の教育実習があります。4年次の5～6月には，公立中学校あるいは高等学校等での「教育実習Ⅱ」が行われます。この実習のすぐ後の7月には教員採用試験が実施されますので，3年次からの準備が欠かせません。10月には大学院（修士課程・教職大学院）入試があります。したがって，副免許や進学を希望する場合は，できるだけ早くから準備しておくことが望まれます。

中等教育専攻（B類） 家庭コース

1. コースの目的・目標

家庭コースの目的は，大きく分けて4つあります。
①家庭科は生活・文化を伝承し，社会や環境とのつながりを学び創る教科です。
②生活科学と家庭科教育を実践的・体験的に学びます。
③家庭科に強く，子どもの生活全般を支える教員を養成します。
④地域や社会と連携した主体的な学びを大切にします。
こうした内容を体系的に学ぶために，講義を受け基礎的な知識を身につけるとともに，実験や実習に積極的に参加してください。

2. カリキュラムの特色と構造

1，2年次には，衣食住・家族・保育，家庭経済学，家庭科教育法の基礎を学び，3年次から教育実習があります。3年次秋学期からは各研究室に所属し，自分の関心分野を卒業論文にまとめていきます。授業内容は，食品・栄養・繊維・洗剤の実験，調理・被服製作・住居設計の実習，家族についてのロールプレイやディベート，保育園訪問，パソコンを用いた生活設計シミュレーション，模擬授業の実践など，多彩に用意されています。

3. 履修の方法

共通科目や教職専門科目の他，家庭科の専門科目も１年次から順次開講され，授業によっては内容に系統性があり，前もって受講しておく必要のある授業があります。各学年で用意されている授業については，なるべくその学年でとるように心がけてください。特に実験・実習系の授業は，多人数を受け入れることはできませんので注意してください。

(1)教育内容科目（SE）

「家庭科教材論（B）」「家庭科カリキュラム論（B）」は，全てを必ず履修する必要があります。

(2)卒業研究

卒業論文を書くために所属する研究室は，２年次末に希望をとり，３年次春学期に決定します。3年次秋学期からは，ゼミに所属して各々の分野の研究を開始します。研究室によっては，履修を勧められる授業があります。

4. 4年間の学習計画や進路（進学・就職）について

4年間は，あっという間に過ぎてしまいます。学習に積極的に取り組み，大学でしか得られない様々な知見を身につけ，中学・高校の教員となるための学びを深めてください。卒業生は，全国の中学・高校，私学の教員になり，活躍しています。また，副免許として小学校教員免許を取得するための学びは，小中高の系統性を意識した家庭科教育や，東京都のように小中高家庭専科として小学校で指導する場合にも役に立ちます。ぜひ，小学校教員免許も取得してください。また，教職大学院への進学は，専門性を高めより家庭科に強い教員への道を拓くことにつながります。さらに博士課程に進学し，家庭科教育の研究者となり，家庭科を引っ張っていく人にもなる道があります。何事にも意欲的に取り組むことで，様々な道が拓けてくるでしょう。

5. 4年間の家庭科関連科目の標準的履修モデル(B類)

学年	1		2		3		4	
学期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
SE科目			家庭科教材論(B)			家庭科カリキュラム論(B)		
S科目	全学共通入門セミナー コース別入門セミナー 家庭経営学概論 被服学概論	被服構成学 調理学概論 住居学概論	栄養学概論 児童学概論	乳幼児と生活Ⅰ(集中)	住居計画学	家族関係学 家庭電気・機械・情報処理		
SA科目		食物学実験・実習A(集中)	生活経営学 衣生活論 被服管理学 生活環境論	被服学実験・実習A 食品学 住環境論	消費生活論 被服学実験・実習B 食物学 食物学実験・実習B 乳幼児と生活Ⅱ	看護・介護と生活 家庭科演習		
SB科目			児童福祉論 家族社会学(偶)	高齢者福祉論 ジェンダーの社会学(奇)				
教育実習	自己創造のための教育体験活動A・B・C(Ⅰ～Ⅲ)(選択)		授業観察演習(EC, 9月)		事前・事後の指導 9月:教育実習Ⅰ	2月:教育実習(選択・初等)	5～6月: 教育実習Ⅱ	教職実践演習
教室行事	交流会・履修相談会	卒業研究発表会(参加) 教員就職等対策相談会	交流会	卒業研究発表会(参加) 卒業研究説明会 教員就職等対策相談会	交流会	卒業研究発表会(参加) 教員就職等対策相談会	交流会	卒業研究発表会
その他					3年生キャリア支援セミナー(教員・企業・公務員等) 各自治体教師養成塾(埼玉県、千葉県等)募集 教師力養成特別講座(通称:万ゼミ)募集		(春学期) 4年生キャリア支援セミナー(教員志望) 7月～:教員採用試験	

中等教育専攻（B類） 英語コース

1. コースの目的・目標

世界中の人々との交流の機会が飛躍的に増えた今日，英語を学ぶ意義はなお一層高まっており，英語教員の責任とやりがいもそれだけ大きくなっています。優れた英語教員は，高い英語の技能を持つと同時に，英語とそれを取り巻く文化についての深い教養を身に付け，英語を学ぶ楽しさを生徒たちに伝えることができる卓越した指導力を持たねばなりません。中・高等学校の英語教員として，そのような優れた人材を育て世に送り出すことが，本コースの目的であり目標です。

2. カリキュラムの特色と構造

本コースのカリキュラムは，1）英語教育の理論や実践を学ぶための科目，2）英語力を高めるための科目，3）英語を科学的に分析する科目，4）英米の文学・文化について学ぶ科目，という4種類の科目から構成されていて，しっかりとした体系性と豊かな多様性を持っている点が特色です。1，2年次は，主として必修科目により，英語教員にとって必須の英語に関する知識と技能を学びます。3年次は，英語教育関係の科目が増え，また，各自が興味をもった分野を更に深く学べるよう，選択科目が多く用意されています。4年次は，4年間の勉学の集大成として英語で卒業論文を書きます。

3. 履修の方法

(1) 教育内容科目(SE)/専攻に関する科目：必修科目（S）選択科目A（SA）

教育内容科目（ＳＥ）を４単位以上，必修科目（Ｓ）を 22 単位，選択科目Ａ（ＳＡ）を 20 単位以上修得してください。科目の詳細は Study Guide【学校教育教員養成課程】の英語コースのページを参照してください。

(2) 卒業研究

必修です。卒業論文を英語で執筆します。3年次の11月末に，英語教育学・英語学・英米文学文化の3分野の中から，執筆希望領域を選び，希望する指導教員名と共に届け出ます。提出の締切りは４年次の 12 月 22 日です。

卒業論文のテーマを見つけるためには，普段から，自分が興味を持った点，疑問点などを大切にする必要があります。一見小さな問題も，掘り下げていくとしばしば興味深いテーマに繋がります。また，当該分野の英語論文を積極的に読んで，英語論文の構成法や表現に慣れ親しんでおくことも大変重要です。

(3) その他

教養科目の語学領域に関しては，必修の「英語コミュニケーションA・B」，選択の「メディア英語 A・B」「英語リーディング A・B」「英語リスニング＆スピーキング A・B」「英語集中演習 A・B・C」は語学技能検定で一定のスコアを取得した場合等に単位認定の申請が可能ですが，英語コースの学生として英語力を高める機会を確保するためにも，履修することを強く勧めます。なお，中学校・高校で実習を行うには，語学技能検定での一定のスコア取得，もしくは語学領域選択科目の一定の単位取得が必要となります。

4．4年間の標準的履修モデル（コース内の行事予定）

この表は，SE 科目とＳ科目以外は，ほんの数科目を例示したものです。他コースの科目にも十分注意を払って，自分自身にとって最も良い履修プランを工夫して下さい。

学年	1		2		3		4	
学期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
ＳＥ科目	英語科教材論	英語科カリキュラム論						
Ｓ科目	全学共通入門セミナー コース別入門セミナー 英語読解Ⅰ 英文法演習Ⅰ アメリカ文化概論Ⅰ・Ⅱ 英語音声学概論 英会話Ⅰ 英作文Ⅰ	英語読解Ⅱ 英文法演習Ⅱ イギリス文化概論Ⅰ・Ⅱ	英米文学概論ＡⅠ・ＡⅡ	英語史概論 英米文学概論ＢⅠ・ＢⅡ				
ＳＡ科目		英会話Ⅱ 英作文Ⅱ	英米文学基礎講読Ａ 英会話Ⅲ 英作文Ⅲ 現代英語学Ⅰ 英語圏文化演習Ａ	英米文学基礎講読Ｂ 英会話Ⅳ 現代英語学Ⅱ 英語圏文化演習Ｂ	イギリス文学ＡＢ アメリカ文学ＡＢ 文法理論 近現代英語研究ＡＢ 第二言語習得 英語科と異文化理解	英文法特論ＡＢ 英語教育学研究		
教育実習	自己創造のための教育体験活動Ａ・Ｂ・Ｃ（Ⅰ～Ⅲ）（選択）				前期：事前指導 9～10月：教育実習Ⅰ 11月：事後指導		5～6月：教育実習Ⅱ（選択）	教職実践演習
教室行事					11月卒論領域届け		11月卒論題目届け 12月卒論提出	
その他			介護等体験 （社会福祉施設） 2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー		各自治体教師養成塾（埼玉県、千葉県　等）募集 教師力養成特別講座（通称：万ゼミ）募集 新4年生対象教員就職セミナー		5月～：教員採用試験	

5．4年間の学習計画や進路（進学・就職）について

小学校教員免許も取得する場合には『スタディガイド』巻末の説明をよく読んで，早くから慎重に計画を立ててください。また，在学中に留学を考えている人は，一年間の留学の場合には通常卒業に5年かかりますので，特に慎重に履修計画を立ててください。

教員採用に当たっては，教育ボランティアやクラブ活動の経験が重視される傾向があります。また，最近は，大学院に進学して専修免許状を取る人も増えています。進路に関しては，指導教員に相談すると共に，大学が用意している各種の講習会なども積極的に利用するようにしましょう。

中等教育専攻（B類） 技術コース

1. コースの目的・目標

本コースは，技術に関する科学と教育学を学ぶことを通して，中学校の技術科教員や高等学校の工業科教員などの技術を教える教師として，あるいは技術者・科学者など広く実社会において科学・技術に関わる専門家として，活躍する人材を育成することを目的とします。本コースの学生には，中学校技術科と高等学校工業科の教員免許状の取得に必要な専門教育の他，科学・技術に関する種々な専門教育をしっかりと学ぶことが求められます。

2. カリキュラムの特色と構造

本コースでは，中学校技術科と高等学校工業科の教員免許状の取得に必要な専門教育として，電子工学，機械工学，加工学，情報工学，栽培学，技術・職業教育学等の「技術に関する科学」と「教育学」に関する各種の授業科目を設けています。技術の世界を教える教師は，生徒を魅了する授業を行うために，科学・技術に関する体系づけられた知識と深い洞察力を身につける必要があります。本コースではこのような観点から，科学的に考える力を養い，体系的な知識を十分学習できるように専門教育のカリキュラムが組まれています。さらに，中学校技術科および高等学校工業科では実習が重視されていることから，実習を中心にした授業科目も多く開講しています。

3. 履修の方法

（1）教育内容科目（SE）

「ものづくり・技術教育カリキュラム論」，「ものづくり・技術教育教材論」は必ず履修する必要があります。

（2）専攻科目

数学と物理学は専門科目である「機械工学の基礎」および「電気回路」の修得に必須となる内容です。**工業数学Ⅰ・Ⅱおよび工業物理学Ⅰ・Ⅱは1年生の間に必ず修得してください。**これらに限らず，自分に不足していると感じる内容は1～2年生の間に積極的に履修してください。さらに，すべての科目について予習と復習を必ず行ってください。卒業時に取得する学位と教員免許にふさわしい専門性と思考力を身につけるように努力してください。

（3）卒業研究

卒業研究は究極の問題解決型学習です。積極的に研究に取り組んでください。卒業研究では電子工学，機械工学，加工学，情報工学，技術・職業教育学等の専門分野の内容に関して，指導教員の指導を受けながら特定のテーマについて研究を行います。

卒業研究のスケジュール（概略）

2年生1月～3年生4月：研究室を決定
3年生4月：卒業研究スタート
（3年生次の履修に関しては各研究室の教員による履修指導に基づいて履修内容を決めてください。）
4年生2月：卒業論文発表会

各研究室への配属は，配属学生の学業成績を勘案して取り決める予定です。また卒業研究が実施される2年間には，3年生6月：附属学校における教育実習の準備開始，9月：教育実習，3年生次後半：教員採用試験準備・就職活動開始，4年生6月頃：協力校における教育実習（選択），7月以降：教

員採用試験(1次試験・2次試験)があります。このため，時間を有効に使いながら，積極的に研究に取り組む姿勢が重要です。

4．4年間の標準的履修モデル(コース内の行事予定)

学　年	1		2		3		4	
学　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
SE 科目		ものづくり・技術教育カリキュラム論		ものづくり・技術教育教材論				
ST 科目	技術科教育法Ⅰ	技術科教育法Ⅱ	技術科教育法Ⅲ	技術科教育法Ⅳ	工業科教育法Ⅰ	工業科教育法Ⅱ		
S 科目	全学共通入門セミナー コース別入門セミナー 基礎製図 金属加工概論 木材加工の基礎	木材加工の応用Ⅰ	栽培 電気回路 情報処理概論	機械工学の基礎	青年期の職業指導	工業技術		
SA 科目	工業数学Ⅰ 工業物理学Ⅰ	工業数学Ⅱ 工業物理学Ⅱ		応用情報処理Ⅰ	機械工学 A・C 応用情報処理Ⅱ 電子工学概論	電子工学 技術演習 A(奇) B(偶) 機械工学 B		
SB 科目			計算機ハードウェア			計測と制御		
教　育 実　習	自己創造のための教育体験活動A・B・C(Ⅰ～Ⅲ)(選択)				教育実習Ⅰ(事前・事後指導 ９月：教育実地研究)		５～６月：教育実習Ⅱ(選択)	教職実践演習
教　室 行　事			１月：研究室説明会		４月：研究室配属		２月：卒業論文発表会	
その他			2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー		各自治体教師養成塾（埼玉県、千葉県　等）募集 教師力養成特別講座（通称：万ゼミ）募集 新4年生対象教員就職セミナー		５月～：教員採用試験	

(注)SB科目は，他コースでの開設が優先されます。履修時期は，各自で適宜設定してください。

５．４年間の学習計画や進路（進学・就職）について

1年生の間に共通科目，数学（行列｛固有値，行列式など｝，高階微分方程式の解法，積分｛多重積分，積分｝，複素数など）や物理学（力学，電磁気学など）の十分な理解とともに履修を終わらせてください。

3年生次までには教育基礎科目の履修を終わらせてください。専攻科目は1年生次から開設されており，3年生次までに必修科目の履修を終わらせるのがよいでしょう。

2年生次の1月～3年次の4月にかけて卒業研究を行う研究室を決定し，3年生4月から卒業研究に取り組むことになります。3年生次には，卒業後に教職につくか，進学するか，企業等に就職するかを定め，必要な準備を行うようにしてください。何れの選択を行った学生も4年生次に東京都等の教員採用試験を受け，各自の実力を確認してください。

選択科目(SB)の開講時間が必修科目の開講時間と重なっていることがあります。その場合は必修科目を優先して受講するようにしてください。

本コースは教職大学院への進学も推奨しています。教職大学院を修了することにより，専修教員免許状を取得することができ，より視野の広いスクール・リーダーとしての専門的力量を身につけることができます。なお1年生～2年生の間に教職大学院に進学することを決めている学生は，希望すれば2年生次に次世代学校リーダー養成コースへの登録，もしくは3年生次に教員養成高度化大学間連携コースへの登録を行うことにより，教職大学院へ特別選抜で受験することができます（次世代学校リーダー養成コースは3年生次より開始；教員養成高度化大学間連携コースは4年生次より開始）。さらに，博士課程を修了し，博士号を取得した者には，大学教員などの研究職への道も開けます。

中等教育専攻（B類） 書道コース

1. コースの目的・目標

中等教育専攻（B類）書道コースは，高等学校芸術科書道の教員養成を主な目的としたコースです。4年間で高等学校教諭一種免許状及び中学校教諭一種免許状（国語）を取得するのに必要な授業科目を履修し，これらの科目の履修を通して，社会人として必要な知識や教養，また教員として求められる教育全般の知識，さらに高等学校芸術科「書道」及び中学校「国語」の教員として欠くことのできない専門的な知識や技能，指導法等を身につけることを目標としています。

2. カリキュラムの特色と構造

B類書道コースのカリキュラムは，教員としての十分な素養，学問に裏付けられた技能，教育法を修得し，さらには教育実践力を養うことができるよう，全学対象の「教養科目」，「教育創成科目」，学校教育系対象の「教育基礎科目（教育実習を含む）」，書道コースの「専攻科目」から構成されています。「専攻科目」には「教育内容科目（SE）」，「専攻に関する科目」＝「必修科目」「選択科目 A」「卒業研究」があり，書道実技，書道の歴史や理論，書写・書道教育の理論や指導法，国語の 4 つの領域についてバランスよく学んで行きます。さらに，中学校「国語」教員免許の取得のために，国語領域の科目が多く設定されており，国語科の基礎科学や教科教育学を履修できるようになっています。

3. 履修の方法

（1） 教育内容科目（SE）

「書道科教材論」「書道科カリキュラム論」はすべて履修してください。

（2）「専攻に関する科目」

書道コースの必修科目（S）は 32 単位すべて履修してください。選択科目A（SA）から14単位以上を各領域バランスよく履修しながら，書道や国語の能力を高めてください。

（3）教育実習

教育基礎科目に位置づけられる教育実習は3年次の「教育実習Ⅰ」（必修）と4年次の「教育実習Ⅱ」（選択）があります。「教育実習Ⅰ」は附属高校（書道），もしくは附属中学校（国語，書写を含む）で行いますので，国語の基礎科目や教科教育学についてもしっかり学んでおくことが重要です。また，「教育実習Ⅱ」（選択）は協力校で行い，自分で母校等の実習校を捜す必要がありますので，履修する場合は早いうちから母校の先生等と相談しておいてください。

（4）卒業研究

卒業研究は「作品制作研究」と「卒業論文」の両方を行います。「作品制作研究」は各担当教員の指導を定期的に受けるとともに，あらかじめ定められた曜日・時限に行う実技指導，批評会等を通じて制作を進めます。「卒業論文」は書写・書道教育や書学・書道史等についての実践・歴史・理論研究等を行います。卒業論文指導教員の指導を定期的に受けるとともに，中間報告会等における指導を通じて執筆します。

尚、選択科目に設定されている書学・書作品制作演習（Ⅴ期），書学Ⅱ（Ⅵ期），書作品制作研究（Ⅵ期）は，4 年次の卒業研究へとつながるオムニバスの授業です。これらの授業を通して「卒業研究」のための十分な準備をしておくことが大切です。

4. 4 年間の学習計画や進路（進学・就職）について

B類書道コースは高等学校芸術科書道の教員が一般的な進路ですが，近年では教員募集が極めて少数に限られるため，中・高等学校の国語の教員や小学校の教員となる人も増えています。このほか非教育職公務員や教育系出版社等の民間企業に就職し，4年間で習得した知識や技能を別の世界で発揮する人もいます。また，本学の教職大学院など，大学院へ進学して，書写・書道教育に関する実践・歴史・理論研究や書学・書道史における歴史・理論研究を継続する学生もいます。

５．４年間の標準的履修モデル

学　　年	1		2	
学　　期	**Ⅰ（春学期）**	**Ⅱ（秋学期）**	**Ⅲ（春学期）**	**Ⅳ（秋学期）**
SE 科目		書道科カリキュラム論		書道科教材論
Ｓ科目	全学共通入門セミナー コース別入門セミナー 漢字研究Ａ 仮名研究Ａ 漢字仮名交じり研究Ａ 日本語学概論Ⅰ 日本近代文学概論 日本古典文学概論 日本古典文学史 中国古典文基礎 中国古典文学概論	篆刻・刻字 書道史研究Ａ 日本語学概論Ⅱ 日本近代文学史	漢字研究Ｂ 書道史研究Ｂ 日本語文法	書論・鑑賞研究Ⅰ
ST 科目			書道科教育法Ⅰ 中等国語科教育法Ⅰ	書道科教育法Ⅱ 中等国語科教育法Ⅱ
ＳＡ科目		中国古典演習Ｂ	近代文学演習Ｂ 古典文学演習Ｂ 中国古典演習Ａ	漢字研究Ｃ 仮名研究Ｂ 漢字仮名交じり研究Ｂ 書写Ａ 書写Ｂ 書学Ⅰ 近代文学演習Ａ 近代文学演習Ｃ 古典文学演習Ａ 古典文学演習Ｃ
教室行事		11 月：コース書作展	第 2 学年書作展	11 月：コース書作展
そ の 他	11 月～　各都道府県市教員採用試験説明会		前年度 11 月～4 月　各都道府県市教員採用試験説明会 ２年生対象教員就職セミナー 新３年生対象教員就職セミナー	

学　　年	3		4	
学　　期	**Ⅴ（春学期）**	**Ⅵ（秋学期）**	**Ⅶ（春学期）**	**Ⅷ（秋学期）**
SE 科目				
S 科目				
ST 科目	中等国語科教育法Ⅲ	中等国語科教育法Ⅳ		
SA 科目	書学・書作品制作演習 書論・鑑賞研究Ⅱ 書論・鑑賞研究Ⅲ	書作品制作研究 書学Ⅱ		
教育実習	事前事後指導 ９月：教育実習Ⅰ（附属中学校・高校）		５～６月： 教育実習Ⅱ（協力校）	教職実践演習
教室行事	第 3 学年書作展	11 月：コース書作展		２月：卒論発表会／卒業制作展
その他	前年度 11 月～4 月　各都道府県市教員採用試験説明会 各自治体教師養成塾（埼玉県、千葉県　等）募集 9 月：教師力養成特別講座（通称：万ゼミ）募集 新４年生対象教員就職セミナー		５月～：教員採用試験	

中等教育専攻（B類） 情報コース

1. コースの目的・目標

学校教育教員養成課程中等教育専攻（B類）情報コースは，情報通信技術（ICT）の専門的知識に基づき，高校情報科の教育を先導できる教員の養成を目的としています。そこで，学校教育教員養成課程共通の目標である学校教員としての素養を身につけるとともに，情報科学と情報工学，高校情報科教育，及び高校情報科との結びつきが深い中高数学科に関する事項を学ぶことで，高校情報科の学びを計画・指導・評価できる力を養います。

2. カリキュラムの特色と構造

本コースのカリキュラムは，情報科学・情報工学の専門的事項を習得しながら，高校情報科と中高数学科の教員免許を取得できるようになっています（取得するための単位取得が卒業要件です）。

1年次には，情報科学・情報工学の基礎を，共通科目である「AI 時代の情報」を基本に，「コンピュータシステム概論」「プログラミングⅠ・Ⅱ」「プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ」「基本情報数学」で学びます。また，情報科学・情報工学を学ぶ上で基礎となる数学力を「基本解析学Ⅰ・Ⅱ」「基本代数学Ⅰ・Ⅱ」「数理・データサイエンスⅠ・Ⅱ」で習得します。

2年次からは，情報科学・情報工学の幅広い専門的事項を学ぶ専攻科目（1年次も含め19科目開設），高校情報科教育のための理論・方法論を学ぶ「情報科教育教材論」「情報科教育カリキュラム論」「情報科教育法Ⅰ・Ⅱ」，及び中高数学科教育のための理論・方法論を学ぶ「中等数学科教育法Ⅰ～Ⅳ」を履修します。

3年次からは，「情報科学教育演習A・B」「卒業研究」を含む研究室での活動に取り組むとともに，高校情報科に関する「事前・事後の指導」「教育実習Ⅰ・Ⅱ」「教職実践演習」を通して教員としての実践力を育んでいきます。

3. 履修の方法

(1) 専門系演習

「情報科学教育演習A・B」は卒業研究の準備にあたる専門系演習科目です。この演習科目を履修するためには，履修する年度の前年度末（標準では2年次終了時点）に総取得単位数が62単位以上，かつ本コースの専攻科目（SE，S，SA，SB科目）から30単位以上取得している必要があります。なお，両演習科目は複数クラス開講されますので，指導教員に指示されたクラスに出席してください。

(2) 卒業研究

本コースでは，3年次から研究室に所属し，研究室の枠組みの中で，より専門的な知識や卒業研究のスタイルを学ぶ上記専門系演習，4年次には卒業研究に取り組みます。研究室は教育支援課程教育支援専攻（E類）情報教育コースと合同です。どのような研究室があるかは，web サイト（https://joho.u-gakugei.ac.jp/）を閲覧してください。

この卒業研究の履修のためには，履修する年度の前年度末（標準では 3 年次終了時点）に上記専門系演習2科目4単位，必修の専攻科目（S科目）のうち，「コンピュータシステム概論」，「プログラミングⅠ・Ⅱ」，「プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得している必要があります。

なお，卒業研究の単位取得には，少なくとも月1回の研究報告，卒業論文の提出と卒業研究発表，及びそれぞれへの合格判定が必要です。また，卒業論文の提出と卒業研究発表を行うためには卒業までに同じ研究室に2年間所属することが条件となります。

(3) 専攻科目（情報系の専門科目）

高校情報科の教員免許を取得するための教科に関する科目の単位は必修の専攻科目（S科目）で満たすことができます。しかし，情報科の授業を計画・指導・評価するためには，幅広い専門的な知識・技能が必要になります。そのためには，選択科目（SA，SB科目）に開設されているすべての専攻科目，特にⅠ～Ⅳ期に開設されている科目は必ず履修することを推奨します。

(4) その他の情報系科目

E類情報教育コースの「教育情報化支援教材論A・B」「情報デザイン論」，創成科目の「教育の情報化基

礎」「学校におけるプログラミング教育」「Edtech と最先端技術の活用」は，本コース開設科目では学びきれない情報系の内容を扱う科目なので，履修することをお勧めします。

4．4年間の学習計画や進路（進学・就職）について

本コースは，中等教育専攻（B類）の学生として教職関連科目を履修しながら，授業時間外に取り組む学習を課すことが多い情報科学・情報工学の専攻科目を履修します。また，3，4年次には，E類情報教育コースの学生とともに卒業研究を実施しながら，教育実習や教員採用試験準備などをすることになりますので，学部4年間は相当に多忙であることが予想されます。そこで，計画的に無理をせず着実な学習を進めていくことが大切です。

卒業後の進路としては，高校情報科教員を第一に，教育者としてのステップアップを目指し教職大学院（情報教育サブプログラム）や，これからの教育を考えるために修士課程（教育 AI 研究プログラム）へ進学することを勧めます。いずれにしろ早期に進路を考え，それに応じた学習を進めていくことが重要です。

5．4年間の履修モデル

学　年	1		2	
開設学期	Ⅰ(28)	Ⅱ (29)	Ⅲ (27)	Ⅳ (29)
専攻科目	**全学共通入門セミナー** **コース別入門セミナー** **コンピュータシステム概論** **プログラミングⅠ** **プログラミング演習Ⅰ** **基本解析学Ⅰ** **基本代数学Ⅰ** **数理・データサイエンスⅠ**	**基本情報数学** **プログラミングⅡ** **プログラミング演習Ⅱ** オートマトンと形式言語 基本解析学Ⅱ 基本代数学Ⅱ 数理・データサイエンスⅡ	**情報科教育教材論** **情報社会と情報倫理** **基本幾何学Ⅰ** **マルチメディア情報解析** 計算機ハードウェア データベース 応用プログラミング	**情報社会と職業** **オペレーティングシステム** **基本幾何学Ⅱ** プログラム言語論とコンパイラ 情報メディア 数値計算 HCI
その他の情報系科目	**AI 時代の情報**	(創Ⅰ)教育の情報化基礎	(E)情報デザイン論 (E)教育情報化支援教材論 A **(創)教育のためのデータサイエンス** (創Ⅰ)学校におけるプログラミング教育	(E)教育情報化支援教材論 B (創Ⅱ)Edtech と最先端技術の活用 **教育の方法と ICT**
教職・指導法等			**(創)授業観察演習** **中等数学科教育法Ⅰ**	**情報科教育法Ⅰ** **中等数学科教育法Ⅱ**
	自己創造のための教育体験活動A・B・C			
その他	**日本国憲法** (CA 科目) (CA 科目) **英語コミュニケーション A** **初習語学Ⅰ** **スポーツ・フィットネス実習** **教育組織論** **特別支援教育の理解**	**人権教育** (CA 科目) (CA 科目) **英語コミュニケーション B** **初習語学Ⅱ** **ウェルネス概論** (創成科目) **教職入門** **教育の理念と歴史**	**初習語学Ⅲ** **教育心理学**	**初習語学Ⅳ** (創成科目) **教育課程の理論と実践** **道徳教育の指導法**
				2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー

学　年	3		4	
開設学期	Ⅴ (23)	Ⅵ (18)	Ⅶ (6)	Ⅷ (2)
専攻科目	データ分析とコンピュータ 知識処理と人工知能 情報システム 教育工学 **情報科学教育演習 A**	**情報科教育カリキュラム論** **ネットワークシステム** 計測と制御 システムプログラミング **情報科学教育演習 B**	**卒業研究**	
教職・指導法等	**情報科教育法Ⅱ** **中等数学科教育法Ⅲ**	**中等数学科教育法Ⅳ**		
	事前・事後の指導			**教職実践演習**
	教育実習Ⅰ（高校情報科）		教育実習Ⅱ（高校情報科）	
その他	**(創)社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン** **(創)学びを支えるファシリテーションの技法** **生徒指導・進路指導の理論と方法**	(創)チーム学校と多職種協働 **(創)教師のレジリエンスと自己管理能力の育成** **教育相談の理論と方法** **特別活動・総合的な学習の時間の指導法**		
	各自治体教師養成塾（埼玉県、千葉県　等）募集	教師力養成特別講座（通称：万ゼミ）募集 新4年生対象教員就職セミナー	5月～：教員採用試験	

注意：このモデルでの履修を強制するものではありません。また，時間割の都合上，このモデルの通り履修できないことがあります。

特別支援教育専攻（C類）

1．専攻の目的・目標

本専攻（C類）の目的は，第一に，教育の歴史，原理，制度，障害のある子どもの心理，生理，病理，特別支援学校における教育課程，指導法，教授法など，特別支援教育全般に関する豊かな専門的知識と実践力を兼ね備えた教員を養成することです。第二に，2年次から聴覚障害・言語障害系，発達障害・学習障害系の2つのコースに分かれ，それぞれのコースに対応する障害に関する豊かな専門的知識と実践力を兼ね備えた教育者を養成することです。

2．カリキュラムの特色と構造

本専攻（C類）の学生は，その進路に関わらず，特別支援学校教諭一種免許状（4領域：聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）と，その基礎免許となる小学校教諭一種免許状を取得しなければなりません。他の専攻やコースと比較して，C 類の学生は取得すべき単位数が多いため，4年間の履修計画を慎重に練る必要があります。基礎免許の上に特別支援学校の免許を取得しなければならない点がカリキュラムの第一の特徴です。

免許に関わる4領域に対応した教育学や心理・生理・病理学の共通専攻科目を学ぶほかに，2年次以降は各コースに分かれて，専門科目を積み上げていきます。障害ごとの専門性を育成することがカリキュラムの第二の特徴です。

2年次までに，各障害に関する授業を通じて，特別支援教育に係わる教員としての専門性を高めるための学修を行います。また，3年次には，「特別支援教育支援方法論」等の授業を通じて，障害理解や検査方法・支援方法を実験・演習を通して学修します。また，9月期には基礎免許取得のための附属小学校での教育実習があります。これらの授業や実習を通して身につけた知識を土台として，2月期に特別支援学校での教育実習を行うことになります。卒業論文については，関心あるテーマを，各指導教員の「特別支援教育演習」を通して理解を深め，一年をかけてまとめていくことになります。卒業論文の作成は4年間の大学での学習の集大成ともいえるでしょう。

3．履修の方法

（1）教育内容科目（SE），専攻に関する科目（S，SA）

特別支援教育専攻では，【教育内容科目】として，3年次に「特別支援教育支援方法論」が開設されています。また，【専攻科目】として，1年次に「全学共通入門セミナー」「コース別入門セミナー」「特別支援教育概論」「聴覚言語障害の心理・生理・病理 A」「聴覚言語障害の指導法 A」「知的障害の心理・生理・病理」「知的障害の指導法」，さらには「言語・情緒・発達障害教育総論」「視覚障害教育総論」の授業を必修科目として履修します。2年次では肢体不自由および病弱の心理・生理・病理学および指導法を学習するとともに，2つのコースに分かれて，各コースで指定する必修科目と選択科目を受講します。

（2）教職実践演習

教員免許状を取得するための必修科目です。教育実習等での実践や4年間の自己の学修について振り返りながら，教員としての資質を確認するための総括となる科目です。

（3）卒業研究

4年次に卒業論文を書くことが必修となります。3年次に開設される教育内容科目の「特別支援教育支援方法論」（必修科目）等の授業を通じては，卒業論文執筆に向けての基礎的な知識や技能を身につけていくことになります。

4．4年間の標準的履修モデル（専攻の行事予定）

C 類の卒業要件を満たす上での，最低限の履修モデル（参考）です。副免許状として，幼稚園教諭や中学校・高等学校教諭免許状の取得を目指す場合は，それぞれの免許状を取得するための授業・単位数が加わりますので，各授業の開設学期・曜日・時間などを考慮しながら，学生自身で履修モデルを組み立てていくことが必要となります。

学年	1年		2年	
学期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
教養科目（CA）・教育創成科目（EC）ほか	卒業要件ならびに教員免許状取得のために，全学共通で履修が必要な科目です。標準開設学期に必要な単位数を満たすこと。			
教育内容科目（SE）				
必修科目（S）・選択科目（SA）	8単位（S）	8単位（S）	6単位（S） 6単位（SA）	8単位（S） 6単位（SA）
教育実習等	自己創造のための教育体験活動A・B・C（Ⅰ～Ⅲ）（選択）			
教室行事・その他	オリエンテーション	特別支援学校・学級等の見学	コース決定	
			2年生対象教員就職セミナー 新3年生対象教員就職セミナー	

学年	3年		4年	
学期	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
教育内容科目（SE）	特別支援教育支援方法論 特別な教育的ニーズの理解と支援【教育基礎科目】			
必修科目（S）・選択科目（SA）	2単位（SA）	2単位（SA）	2単位（SA）	2単位（SA）
教育実習等 （事前・事後指導を含む）	教育実習Ⅰ	特別支援学校教育実習		教職実践演習
教室行事・その他	研究室説明会	研究室配属	卒業論文デザイン検討会	卒業論文中間・最終発表会
	各自治体教師養成塾（埼玉県、千葉県　等）募集	教師力養成特別講座（通称：万ゼミ）募集 新4年生対象教員就職セミナー	5月～：教員採用試験	

5．4年間の学習計画や進路（進学・就職）について

卒業要件を満たすための取得単位数が多く，コースに応じて受講すべき授業が一人ひとり異なるため，1年次から卒業までの見通しを持った綿密な学習計画が必要です。1．でも述べたように，本専攻は特別支援教育に関わる教員の養成を大きな目標として掲げています。そのため，卒業後の進路としては特別支援学校，小・中学校の特別支援学級や通級指導教室などの教師になる卒業生が多く，さらに通常の学級の教師として専門性を発揮する卒業生も増えています。さらに教職大学院や特別支援教育特別専攻科に進学して，特別支援学校教諭専修免許状を取得する学生もいます。近年は，学校教員が高い専門性を有することが求められており，大学院に進学して専門的な知識や技能，資質を高めていくことも進路選択の一つとなるでしょう。また，教職大学院での研究活動を踏まえ，連合大学院博士課程（発達支援講座）に進学して，研究者として教育系大学等の研究機関で活躍している先輩を数多く輩出していることも，C 類特別支援教育専攻の特色の一つです。

養護教育専攻（D類） 養護教育コース

1. コースの目的・目標

食生活の偏り，体力・運動能力の低下，睡眠不足，肥満，不定愁訴，慢性疾患，不登校，いじめ，薬物乱用，性的逸脱行為など，今日の子供たちの健康課題は，多様で複雑化しています。本コースでは，こうした健康課題のある子供たちをはじめ，すべての子供たちに対して，こころとからだの両面から健康支援ができる養護教諭の養成を目指します。さらに，子供の発達段階をふまえたうえで，子供のさまざまな健康課題に対応できる能力，従来の問題対処型から予防的対応ができる資質と能力，学校医・病院・保健所・児童相談所など地域の社会資源との連携をマネージメントできる能力の育成を目指します。

2. カリキュラムの特色と構造

養護教諭の職務は，健康診断、救急処置、感染症予防、環境衛生、健康相談・保健指導、保健室経営、保健組織活動、保健教育など多様です。そのためカリキュラムでは，養護教諭に必要な知識や技術を習得できるように，養護学，看護学，医学，健康教育学，保健学，心理学，栄養学など多岐にわたる学問領域の授業科目を展開しています。3年次には養護実習や臨床実習を履修し，実践力を高めます。このカリキュラムを通じ，子供の心身の健康を保持増進するとともに，健康課題を解決し，学校保健の推進者として活躍できる養護教諭の養成を目指しています。

3. 履修の方法

（1）教育内容科目（SE）

「健康教育教材論」「養護活動カリキュラム論」の2科目は，全員が履修して下さい。

（2）SA・SB科目の履修について

養護教諭の職務の特性から，幅広い知識が必要となります。そのため，SA・SB科目は可能な限り，数多く履修してください。

（3）看護学科目の履修について

臨床実習の履修条件として，臨床実習Ⅰは，学校看護学理論と演習Ⅰを，臨床実習Ⅱは，学校看護学理論と演習Ⅱ～Ⅳを履修していることが必須です。

（4）卒業研究

卒業研究は，全員が各研究室に所属し，担当教員と相談の上，卒業研究を進めていきます。

（5）教科（保健科）の免許科目について

養護教諭として保健の授業を行うために，できる限り教科（保健科）の免許科目を履修し，中・高（保健）の免許を取得して下さい。

4. 4年間の学習計画や進路（進学・就職）について

多岐にわたる学問領域から成る科目や、養護実習、臨床実習を履修することよって、養護教諭の専門性や養護実践を学びます。

卒業生の多くは、全国の学校で養護教諭として活躍しています。さらに実践力を培うために教職大学院の養護教育サブプログラムに進学する学生もいます。本コースの学生は，将来地域の養護教諭のリーダーとして活躍することが期待されます。そのため，教職大学院への進学も考えてください。

５．４年間の標準的履修モデル（コース内の行事予定）

学　年	1		2		3		4	
学　期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
SE科目			・養護活動カリキュラム論		・健康教育教材論			
S科目	・解剖学 ・養護教育 ・全学共通入門セミナー ・コース別入門セミナー	・生理学 ・養護概論 ・学校保健学 ・衛生・公衆衛生学	・養護活動論 ・薬理学 ・臨床医学Ⅰ ・学校看護学理論と演習Ⅰ ・学校看護学理論と演習Ⅱ	・保健行動科学 ・小児科学 ・健康と栄養 ・精神保健 ・臨床医学Ⅱ ・学校看護学理論と演習Ⅲ	・救急処置の理論と演習 ・臨床実習Ⅰ	・臨床実習Ⅱ ・健康相談活動の理論と方法		
SA科目			・学校安全と危機管理 ・感染免疫学		・病弱児障害児養護学 ・フィジカルアセスメント ・臨床医学Ⅲ ・臨床医学Ⅳ	・歯科保健 ・臨床医学Ⅴ ・学校看護学理論と演習Ⅳ ・健康調査の理論と演習Ⅰ，Ⅱ	・養護実践学	
養護実習	自己創造のための教育体験活動Ａ・Ｂ・Ｃ（Ⅰ～Ⅲ）（選択）				・養護実習Ⅰ（事前・事後指導 9月： 教育実地研究（附属学校）		5～6月 養護実習Ⅱ （選択） （公立学校）	教職実践演習（養護教諭）
保健科科目				・中等保健科教育法Ⅰ	・中等保健科教育法Ⅱ	・中等保健科教育法Ⅲ	・中等保健科教育法Ⅳ ・教育実習（保健） ・事前事後指導（保健）	教職実践演習
卒業研究							卒業研究発表	
その他					各自治体教師養成塾（埼玉県、千葉県　等）募集 3年生キャリア支援セミナー（教員・企業・公務員等） 教師力養成特別講座（通称：万ゼミ）募集		4年生キャリア支援セミナー（教員志望） 7月～教員採用試験	

学 生 番 号	氏　　名
—	

国立大学法人
東京学芸大学
Tokyo Gakugei University